

授業科目名	大学基礎セミナー		
担当教員氏名(助手氏名)	津森 登志子(主担当)、井上 誠、吉田 なよ子、加藤 洋司、沖 貞明、飯田 忠行、梅井 凡子、金指、土田 玲子、古山 千佳子、西田 征治、森 大志、伊集院 睦雄、土師 知行、矢守 麻奈、吐師 道子、中谷 隆、都留 民子、吉田 倫子、湯川 順子、中村 梧		
研究室の場所	学生便覧を参照のこと		
オフィスアワー	グループ演習の担当教員の指示に従ってください。		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業とし、合同授業とグループ演習の併用形式で実施する。</li> <li>・グループ演習は、5つの各学科から数名が参加して構成される9～10名の学科横断的小グループに分かれ、各グループの担当教員が個別に実施する。</li> <li>・合同授業は、受講者全員が大講義室で、同時に講義や講演を受講する。</li> <li>・第1回の授業(大講義室で実施)で、各グループの名簿、担当教員や演習室について連絡する。</li> </ul>		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	主体的学習, 討論, 学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目の受講者は、大学生活における基礎知識を学び、大学生としての学習方法の修得し、加えて県立広島大学への理解を深めることを目指す。</li> <li>・本科目は全学共通教育科目に位置づけられており、県立広島大学の1年次生の必修科目である。</li> <li>・受講者は、大学における勉学の進め方の基本となる主体的、能動的学修に必要な技能の修得と、課題解決に向けた能力の涵養をはかる。</li> <li>・少人数形態での授業の実施を基本として、各グループ内で共同作業や討論をすることにより、県立広島大学保健福祉学部で学ぶために必要な基礎能力を獲得できるように努力する。</li> </ul>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者は、大学生活の基礎知識および大学生としての学習方法の修得、県立広島大学についての理解などをもとにして、大学において主体的に学ぶことができる能力を培う。</li> <li>・受講者全員で講義や講演を受講する合同授業および少人数クラスに分かれ実施するグループ演習が適宜併用される。</li> <li>・合同授業では、講義や講演の内容に対し適切で有効なノートテイキングの方法について学ぶ。</li> <li>・合同授業の受講者全員に講義・講演内容に関するレポート課題が提示されるので、次回のグループ演習において担当教員の指示する方法に従い、内容の理解を深めたうえで、レポートの作成、提出を行う。</li> <li>・グループ演習では、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集などの基本的な学習方法について、具体的な教材をもとにして、少人数クラスでの実践的な授業に基づき、能動的なスタディスキルについて学ぶ。</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は、授業参加(出席状況と授業への取り組み態度)50%、プレゼンテーション技能及びレポート課題等50%の割合で評価する。</li> <li>・授業参加とは、出席状況に加え、特にグループ演習における積極的な授業への参加状況を加味するもので、その評価基準等については、各グループの担当教員に必要であれば問い合わせること。</li> <li>・プレゼンテーション技能とレポート課題等とは、グループ演習において実施されたプレゼンテーションやレポートの活動状況について総合評価するが、その他の要素が加味される場合もあるので、評価基準の詳細については、各グループの担当教員に問い合わせること。</li> </ul>		
テキスト	学習技術研究会編著『知へのステップ(第4版):大学生からのスタディ・スキルズ』くろしお出版(2015年)		
参考文献	グループ演習の担当教員に問い合わせること		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>【重要】本科目では授業参加の状況が重視されますので、原則として授業への欠席・遅刻・早退は認めません。とくにグループ演習での欠席等は、本人に不利が生じるばかりでなく、グループで行う共同作業や討論に対しても多大の迷惑をかけることを自覚してください。どうしてもやむを得ない事情が生じた場合は、事前に担当教員にその旨を連絡するとともに、欠席等に対する補講や代償措置について、よく担当教員と相談してください。</p> <p>(教科書)を利用しない場合もありますが、テキストの内容を十分に理解していることを前提に授業進行していますので、普段からテキストを予習や復習のために活用するようにしてください。</p>		

授業科目名	大学生活と心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	金山 健一		
研究室の場所	広島キャンパス 2246研究室		
オフィスアワー	いつでも来てください。		
授業の形式・方式	とにかく、楽しくて、わかりやすく、ためになる授業を行います。授業は、座学ばかりでなく、教師と学生の双方向のコミュニケーションを取り入れます。また、グループ学習・プレゼンテーション・共同学習を用いたアクティブ・ラーニングを実施します。そのため、授業の中で友達ができ、学生同士がつながることができます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生 ・学生生活 ・人間関係づくり ・心の病 ・ストレス対策 ・心理テスト</li> <li>・カウンセリング ・ピアサポート ・生き方発見 ・引きこもり ・ニート ・ネット依存</li> <li>・家族問題 ・やる気の出し方 ・コミュニケーション向上 ・リーダーシップ育成</li> </ul>		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>心理学を、自分たちの大学生活に役立て、自己や他者の理解を深め、人間としての成長につながる内容を習得することが目標です。</p> <p>大学1年生は、「新しい環境での不安がある」「友達ができるだろうか」「自分の進路はどうしたらいいのだろうか」「性格を変えたい」「コミュニケーションが苦手」など、不安も希望もあるでしょう。こんな悩みや課題を、心理学を活用して解決し、大学生の皆さんを応援することを目指しています。</p> <p>授業では、ピア・サポートという、仲間づくりのプログラムも学びます。是非、受講してみてください。</p>		
授業の内容	<p>授業は、臨床心理士で専任カウンセラーの講師が担当します。新入生が、大学に入学した時に抱える、人間関係や勉強の不安・悩みの解決方法をわかりやすく解説します。うつ病・不安障害・リストカット・摂食障害・発達障害などの精神的な悩みはどのように解決していけばいいのかを、「臨床心理学」の視点から解説します。</p> <p>さらに、人間関係づくり・仲間づくりのプログラム(ピア・サポート)を実施し、学生同士の友だちづくりができる、体験的活動を行います。授業の中で、学部・学年の枠を超えた良好な人間関係づくりができる、楽しいプログラムです。</p> <p>また、自分の性格を知る「心理テスト」、ストレスに負けない方法を学ぶ「ストレス心理学」、やる気をだす「動機づけの心理学」、家族の問題を考える「家族心理学」、コミュニケーションを向上させる「コミュニケーション心理学」、カウンセリングを学ぶ「カウンセリング心理学」など、日常の生活に役に立つ授業を予定しています。</p>		
成績評価の方法	<p>①試験 40%、②授業 30%、③課題・レポート 30%</p> <p>成績評価は、①～③を合計し、総合的に評価します。</p>		
テキスト	テキスト・参考文献は、授業で随時紹介します。資料は、毎回配布します。		
参考文献	チャートでわかる カウンセリングテクニックで高める「教師力」2 ISBN978-4-324-09241-5C3037		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本授業は、新入生には必ず受講してほしい。授業を通して、友人ができ、悩みも解決でき、大学生活が、より良好なものになると思います。		

授業科目名	資格英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	本岡 直子		
研究室の場所	三原キャンパス 3506研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	単位認定科目		
単位数(時間数)	1単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度以降入学生】保健福祉学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, TOEFL, 自学自習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	実用的なコミュニケーション能力を習得し、TOEICまたはTOEFL等でスコアを取得する。 本科目は、全学共通教育科目の外国語科目の選択科目である。		
授業の内容	単位認定科目		
成績評価の方法	TOEIC-IPもしくはTOEIC公開試験で550点以上、またはそれに相当するTOEFLスコアで単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	図書館に多数関連図書あり。eラーニングも積極的に活用すること。		

授業科目名	資格英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	本岡 直子		
研究室の場所	三原キャンパス 3506研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	単位認定科目		
単位数(時間数)	1単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度以降入学生】保健福祉学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, TOEFL, 自学自習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	実用的なコミュニケーション能力を習得し、TOEICまたはTOEFL等でスコアを取得する。 本科目は、全学共通教育科目の外国語科目の選択科目である。		
授業の内容	単位認定科目		
成績評価の方法	TOEIC-IPまたはTOEIC公開試験で700点以上、またはそれに相当するTOEFLスコアで単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	図書館に多数関連図書あり。eラーニングも積極的に活用すること。		

授業科目名	英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	本岡 直子		
研究室の場所	三原キャンパス 3506研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。主に下記の教科書の各章を演習形式で実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科・人間福祉学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	vocabulary, structure, paragraph, organization		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>この科目では、語彙力・文法力を高め、さまざまな分野の英文を正確に理解できることを目標とする。文章の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り、異なる文化に対する知識を深めることができる。</p> <p>本科目は、全学共通教育科目の外国語科目に区分されており、県立広島大学の1年生として必要な基本的な語学能力を養う科目として位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>さまざまな分野の英文に触れることにより、語彙および熟語・慣用句等に関する知識のつみあげを行う。未知語の推測や背景知識の活用など、リーディングに必要なスキルを用いて、文章の概要や要点を正確に読み取る読解演習を行う。単に文字を目で追うだけでなく、音声を伴う活動への展開や、読んだ内容に基づいて意見をまとめるなど「書く」「話す」「聞く」技能とも関連付ける。</p>		
成績評価の方法	<p>期末試験60%，小テストおよび課題40%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。</p>		
テキスト	<p>テキスト 寺内正典ほか『Phoenix From the Flames』(センゲージラーニング)2015</p>		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>予習をして授業に臨むこと。</p>		

授業科目名	英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	高島 裕臣		
研究室の場所	三原キャンパス 2515研究室		
オフィスアワー	在室時は可能な限り対応。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって教科書各章の題材をもとに講義および語学演習を行う。毎回の授業に集中して臨み、小テストや課題をこなし、期末試験を受験して、総合的評価において成績判定基準に達することが求められる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科 1 年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	語彙力増強, 文法・語法・構文の理解, 精読・速読		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	語彙力・文法力を高め, さまざまな分野の英文を正確に理解できることを目標とする。文章の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り, 異なる文化に対する知識を深めることができる。		
授業の内容	さまざまな分野の英文に触れることにより, 語彙および語法や文法などに関する知識の積み上げを行う。リーディングに必要なスキルを用いて文章の概要や要点を読み取る読解演習を行う。		
成績評価の方法	英語の基本構造に対する理解度、読んだ英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションへの積極的態度、等により総合評価する。 期末試験60%、小テスト20%、課題20%の割合で評価する。欠席時の小テスト得点は0、提出遅れの課題は通常の0.8倍の得点、未提出課題得点は0とする。小テストの再試はしない。期末試験は持ち込み不可。E-learningの学習成果が良好な場合加点を得られる可能性がある(5%以内)。授業中の態度などに関し注意を受けた場合には減点する可能性がある(5%以内)。小テスト実施時に不正が発覚した場合はその回およびそれ以前に受験した小テストの点は無効とする。期末試験における不正行為に対しては本学の定めによって対処する。		
テキスト	山崎達朗ほか。(2015). What's on Japan 9: NHK English News Stories. 金星堂.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習・復習をしよう(第1回授業時も)。遅刻をなくそう。課題、小テスト、試験等、あらゆる局面において不正行為をしないこと。		

授業科目名	英語表現 I		
担当教員氏名(助手氏名)	Brian Haws [非常勤講師]		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Practical language class		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科A, 理学療法学科, コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英会話, 表現力, 語用論, conversation, pragmatics, expression		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice. The goal of this course is to increase communicative ability in English. This course will challenge students to improve their ability to use English in a variety of conversational settings. Students will discover that learning and using English is not a hurdle but rather a tool which will allow for growth academically, professionally and socially. It is the instructor's hope that through this class students will realize the potential of acquiring a second language. This class belongs to the foreign language curriculum, and is a basic course for the freshmen of the Prefectural University of Hiroshima.		
授業の内容	The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn positive strategies for developing their communication skills. 1) Self Introduction, 2) Describing People, 3) Daily Activities, 4) Prepositions of location, 5) Ask for and giving directions, 6) Past activities using regular and irregular verbs, 7) Jobs and abilities, 8) Asking for and giving information, 9) Future plans, 10) Shopping, 11) Expressing opinions, 12) Giving and following instructions, 13) Review, 14) Evaluation: Interview and listening exam, 15) Evaluation: Interview and listening exam		
成績評価の方法	Class participation 30%, Interview test 40%, Listening test 30%		
テキスト	English Firsthand 1		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	Language learning can be very challenging yet very rewarding. I encourage all students to adopt the mentality that learning English is a practical skill that will be very useful with future endeavors. I will assist with this challenge both in and out of the classroom in any way possible. Lastly, I would encourage all students to try using English without fear of making mistakes.		

授業科目名	英語表現 I		
担当教員氏名(助手氏名)	Amir Feroze [非常勤講師]		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Practical language class		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科B 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	General English Expression(s) , Basic Listening/Speaking Skills for lifestyle & socializing,		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>Students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Understand spoken English via basic listening and speaking skills/drills.</li> <li>2. Get used to the sounds and rhythms characteristic of English.</li> <li>3. Speak English in a variety of interaction contexts and daily life situations.</li> </ol> <p>This class belongs to the foreign language curriculum, and is a basic course for the freshmen of the Prefectural University of Hiroshima.</p>		
授業の内容	<p>The students will: • learn basic English conversation (strategies/ skills) in this course. • learn useful phrases, sentences patterns and practice how to actually use them. • have conversations in English using previously learned English by means of review and "performance checks."</p> <p>Notes: 'Review plus' includes briefings, refreshers, conversation tasks, mini-quizzes, and Q &amp; A etc. Supplementary materials may be provided depending on the progress of the class.</p>		
成績評価の方法	Grades are based on punctuality, attendance, active participation, quizzes.		
テキスト	English Firsthand 1		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>Students are expected: to come prepared with reading materials (text books, dictionaries) and writing tools (pencils etc.) to review the text, reference material and/or any further readings. to participate actively in class.</p>		



授業科目名	英語表現 I		
担当教員氏名(助手氏名)	Timothy Buthod		
研究室の場所	三原キャンパス 3414研究室		
オフィスアワー	By appointment		
授業の形式・方式	Practical language class		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科, 人間福祉学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	pair conversations, basic writing, presentation, interview test, stretch		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	In this class students will learn both to understand and to produce natural conversation patterns in English. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice. This class belongs to the foreign language curriculum and is a basic course for the freshmen of the Prefectural University of Hiroshima.		
授業の内容	The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn positive strategies for developing their communication skills. Every lesson will involve pair and group work, and students are expected to stretch their conversation as much as possible. There are also basic writing exercises.		
成績評価の方法	Participation: 30% Written assignments 20% Presentation: 20% Test (spoken and written): 30%		
テキスト	English Firsthand 1		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	The more you speak English, the better your grade will be.		

授業科目名	検定英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	高島 裕臣		
研究室の場所	三原キャンパス 2515研究室		
オフィスアワー	在室時は可能な限り対応します。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって教科書各章の題材をもとに講義および語学演習を行う。毎回の授業に集中して臨み、小テストや課題をこなし、期末試験を受験して、総合的評価において成績判定基準に達することが求められる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, 聴解, 読解		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) においてスコアを取得するため、聴解・読解の能力を発展させる。		
授業の内容	聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習をTOEIC形式での演習を含めて行う。速読速解。速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行う。		
成績評価の方法	TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的態、等で評価する。TOEIC受験を求める。 期末試験60%、小テスト・課題30%、TOEICスコアに応じたポイント10%で総合的に評価点を算出する。		
テキスト	塚野壽一ほか. (2007). Successful Steps for the TOEIC(R) Test Revised Edition. 成美堂.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回出席しよう。TOEICの問題形式に習熟し、たくさん問題演習をしてTOEIC・TOEIC IPに備えよう。		

授業科目名	検定英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	本岡 直子, 高島 裕臣		
研究室の場所	三原キャンパス 3506研究室 (本岡) , 2515研究室 (高島)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	(本岡) 演習形式 (週 1 コマ (90分) x 15回) (高島) 対面授業。授業日程にしたがって教科書各章の題材をもとに講義および語学演習を行う。毎回の授業に集中して臨み、小テストや課題をこなし、期末試験を受験して、総合的評価において成績判定基準に達することが求められる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, 聴解, 読解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) においてスコアを取得するため、聴解・読解の能力を発展させる。TOEICのスコアで自分の英語力を客観的に把握し、また具体的な目標を設定することができる。 本科目は、全学共通教育科目の外国語科目の選択科目であり、選択した学生が目標を持って主体的に学習していくことが求められる。		
授業の内容	聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習をTOEIC形式での演習を含めて行う。速読速解。速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行う。 習熟度や内容に応じたクラス編成を行ない、学習者に応じた能力の向上をはかる。		
成績評価の方法	(本岡) TOEIC IPまたはTOEIC公開試験の受験を求める。 期末試験 (60%) , 小テスト・課題 (30%) , TOEICスコアに応じたポイント (10%) (高島) TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的態度、等で評価する。TOEIC受験を求める。 期末試験60%、小テスト・課題30%、TOEICスコアに応じたポイント10%で総合的に評価点を算出する。		
テキスト	(本岡) Miled Cravenほか (2014) Valuable Clues for the TOEIC(R) Test (成美堂) (高島) 塚野壽一ほか. (2007). Successful Steps for the TOEIC(R) Test Revised Edition. 成美堂.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	(高島) 毎回出席しよう。TOEICの問題形式に習熟し、たくさん問題演習をしてTOEIC・TOEIC IPに備えよう。		

授業科目名	中国語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	張 健[非常勤講師]		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	日本と異なるの中国の文化を知って，簡単な日常会話が話せるよう。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	中国語の基本的な文法を学び，初歩の読本を通して初歩的な読解力を養成するとともに，簡単な会話が理解できる能力を養成する。		
授業の内容	中国語の基礎を身につける。言語を音声として理解する初歩的段階に重点を置いて発音の習得から始める。続いて，発音表記や漢字表記の特徴を踏まえながら，単語の音（読み）と意味と漢字表記とがそれぞれ結びつくように練習する。さらに簡単な会話文を用いて，基本的な語彙・語法の習得を目指す。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく習得できるよう，練習を繰り返し，あいさつや自己紹介程度の会話ができるようにする。		
成績評価の方法	出席，学習態度と期末試験により総合的評価する。（欠席は4回まで一回は5点。計20点；学習態度は私語や居眠り，宿題を無視するなど一回は5点。計20点；期末試験は計60点。合計100点）		
テキスト	テキストは最初の授業で指定する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	自分でこまめに辞書を引くことで，たくさんの言い回しにふれる。こうして見つけた表現を積極的に口に出し会話をしてみるという，目と耳と口とを総合させた学習方法を採る姿勢が欲しい。		

授業科目名	ドイツ語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	大草 輝政		
研究室の場所	庄原キャンパス 2408研究室		
オフィスアワー	①授業前後, 教室で ②水曜10:50-11:50 (講師控室)		
授業の形式・方式	対面演習型授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	「性・数・格」, 人称変化		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>[到達目標]</p> <p>(1) ドイツ語の単語や簡単な文を発音できる。</p> <p>(2) 冠詞や名詞などについて「性・数・格」を判断できる。</p> <p>(3) 現在形で書かれた簡単な文を和訳できる。</p> <p>[位置づけ]</p> <p>全学共通教育科目(基盤)の外国語科目である。</p>		
授業の内容	ドイツ語のアルファベートを覚え, 発音, 人称変化, 格変化の基本を習得する。		
成績評価の方法	基本的なドイツ語(語彙, 文法, 音声等)に対する理解度, 平易な文章の理解度等で総合的に評価する。毎回の課題提出(45%)および学期末テスト(55%)		
テキスト	Wera und Werner, 朝日出版社 (¥2400+税)		
参考文献	『初級者に優しい独和辞典』(¥2600+税), 『アクセス独和辞典』第3版(¥4100+税)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	各回, 1-2時間に相当する授業外自主学修を確保するつもりで授業に臨むこと。		

授業科目名	日本語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	中石ゆうこ		
研究室の場所	広島キャンパス 1132研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。毎週宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科 1年次		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 文法 聞く 話す		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②文法力を高めること、③日常生活で良く見られる対話場面での表現力を高めることである。		
授業の内容	生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要となる抽象的な語彙や表現を学ぶ。 日本語の文法に関する知識を確認し、それを運用に結び付ける。 他の人の意見や感想を理解し、自己の考えを聞き手に分かりやすく正確に表明する練習を行う。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 課題(宿題) (30%) 期末テスト (50%)		
テキスト	『聞いて覚える話し方日本語生中継初中級編1』(くろしお出版)を予定。 ※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	第1回目の授業に必ず出席すること。 日本語レベルによって内容を変更する。		

授業科目名	日本語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	中石ゆうこ		
研究室の場所	広島キャンパス 1132研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。毎週宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科 1年次		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 聞く 話す 発表		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②日常生活で良く見られる対話場面での表現力を高めること、③大学生活で必要とされる日本語力のうち主に聞き・話しの活動(講義やゼミ発表を聞く、課題について情報を集める、ゼミで発表するなど)の日本語力を高めることである。この「日本語Ⅱ」では、「日本語Ⅰ」の日本語力より、上のレベルに対応した活動を行う。		
授業の内容	生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要な抽象的な語彙や表現を学ぶ。 講義やゼミ発表を正確に聴き取り、その内容を的確な表現と方法を用いて報告する。 他の人の意見や感想を理解し、自己の意見を聞き手に分かりやすく表明する練習をする。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 課題(宿題) (30%) 期末テスト (50%)		
テキスト	『聞いて覚える話し方日本語生中継中～上級編』(くろしお出版)、 『聴解発表ワークブック』(スリーエーネットワーク)の2冊を予定。 ※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	第1回目の授業に必ず出席すること。 日本語レベルによって内容を変更する。		

授業科目名	海外研修 I		
担当教員氏名(助手氏名)	Timothy Buthod		
研究室の場所	三原キャンパス 3414研究室		
オフィスアワー	By appointment		
授業の形式・方式	本科目は、認定科目であり、授業は開設しない。		
単位数(時間数)	2単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度以降入学生】保健福祉学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し、その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合、この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で、語学研修やその他の活動に自主的に参加した後、所定の書類と研修や活動に関する報告(A4用紙1～2枚、1200字以上)を提出し、所属学部の教授会で、その内容が、90時間の学修(2単位分)に相当すると判断されれば、単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については、各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。		



授業科目名	海外研修Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	Timothy Buthod		
研究室の場所	三原キャンパス 3414研究室		
オフィスアワー	By appointment		
授業の形式・方式	本科目は、認定科目であり、授業は開設しない。		
単位数(時間数)	2単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度以降入学生】保健福祉学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し、その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合、この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で、語学研修やその他の活動に自主的に参加した後、所定の書類と研修や活動に関する報告(A4用紙1～2枚、1200字以上)を提出し、所属学部の教授会で、その内容が、90時間の学修(2単位分)に相当すると判断されれば、単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については、各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。		

授業科目名	情報リテラシー		
担当教員氏名(助手氏名)	飯田 忠行		
研究室の場所	三原キャンパス 2520研究室		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。</p> <p>具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力</li> <li>情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力</li> <li>分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力</li> </ul>		
授業の内容	<p>情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。</p> <p>インターネット等を使った情報検索について学習する。</p> <p>情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。</p> <p>文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。</p> <p>プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。</p>		
成績評価の方法	<p>3回以上の欠席は評価の対象外とする。</p> <p>情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。</p>		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。</p> <p>情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。</p> <p><a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a></p>		

授業科目名	情報リテラシー		
担当教員氏名(助手氏名)	川原田 淳		
研究室の場所	三原キャンパス 4424研究室 (4号館4階)		
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に時間帯を定めない。</li> <li>・可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。</li> </ul>		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業とする。</li> <li>・授業日程に従って、講義・演習併用形式で実施する。</li> <li>・毎回の授業毎にレポート課題を課す。</li> <li>・受講者は、授業への参加、課題の提出、期末試験の受験が義務付けられる。※成績評価の方法も参照してください。</li> </ul>		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科・作業療法学科・コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は全学共通教育科目中の基盤・情報に区分される。</li> <li>・受講者は情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。</li> <li>・具体的には、適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力を身に付けることを目標とする。</li> <li>・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力を身に付けることを目標とする。</li> <li>・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力を身に付けることを目標とする。</li> </ul>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教材等を活用し、授業を行う。</li> <li>・インターネット等を使った情報検索について学習する。</li> <li>・情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。</li> <li>・文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。</li> <li>・プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4回以上の欠席をした場合は成績評価の対象外とする。</li> <li>・レポート課題は各授業の終了時に提出する課題の内容により評価する。</li> <li>・課題の提出方法等については授業時間内に指示する。</li> <li>・期末試験では主に講義で教示した内容から問題を作成し試問する。</li> <li>・期末試験は指定された試験の日時に、指定された教室(試験室)内で、ノート、参考書、PC、電卓などの持ち込み不可で実施する。</li> <li>・成績評価は、授業参加(出席状況と授業への取り組み態度)およびレポート課題70%、期末試験30%の割合で判定する。</li> </ul>		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト(教科書)は特に指定しない。</li> <li>・別途資料をシラバス情報の添付ファイルまたは他の方法によって提示する。</li> </ul>		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下記の他、授業の進行に応じて適宜紹介する。</li> <li>・noa出版『考える伝える分かちあう 情報活用力 [第3版]』ワークアカデミー、2011年</li> </ul>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータやネットワーク技術を有効に利用するための基礎知識を習得する上で、情報リテラシーは重要な科目です。</li> <li>・予習・復習も非常に大切ですが、授業中に疑問を生じた場合はそのまませずに、積極的に質問を行うなど、なるべくその場で解決するようにしてください。</li> <li>・また、演習は通常の受け身の講義とは異なり、能動的に手足と頭脳を働かせ、積極的に授業に参加する態度が必要です。</li> </ul>		

授業科目名	情報リテラシー		
担当教員氏名(助手氏名)	中村 悟		
研究室の場所	2507研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度入学生】人間福祉学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修		
キーワード	情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。</p> <p>具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力</li> <li>・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力</li> <li>・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力。</li> </ul>		
授業の内容	<p>情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。</p> <p>インターネット等を使った情報検索について学習する。</p> <p>情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。</p> <p>文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。</p> <p>プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。</p>		
成績評価の方法	<p>3回以上の欠席は評価の対象外とする。</p> <p>情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。</p>		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。</p> <p>情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習しておくこと。</p> <p><a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a></p>		

授業科目名	I Tパスポート検定		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って『ITパスポート試験』の学習カリキュラムに準拠したテキストを用いて講義を実施する。 また、自習についてはeラーニング教材を使用する。 学生は、授業への出席、期末試験の受験が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度入学生】全学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	国家試験, ITパスポート試験, ストラテジ系基礎知識, マネジメント系基礎知識, テクノロジ系基礎知識		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 ITに関する知識にとどまらず、企業活動、経営戦略、会計や法務など、ITを活用する上で前提となる幅広い知識をバランス良く習得することを目的として、国家試験である『ITパスポート試験』の学習内容を身に付ける。		
授業の内容	本講義では、『ITパスポート試験』の合格に必要なストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系基礎知識について学習する。これらの学習を通して、以下にあげることが身に付く。 ・企業活動と法務の基本について理解し、経営科学の各手法についての基礎知識を備え、企業や組織の経営に資する情報システムの戦略立案に活かすことができる。 ・情報システムの開発技術およびソフトウェア開発管理手法の基礎について理解し、プロジェクトマネジメントおよびサービスマネジメントの基礎知識を備え、情報システムの開発および運用に活かすことができる。 ・情報科学を支える基礎理論について理解し、コンピュータシステムの構成要素の仕組みについての基礎知識を備えている。さらに、データベース、ネットワーク、セキュリティに活用されている技術の要諦を踏まえ、適切なコンピュータシステムの運用ができる。		
成績評価の方法	集中講義を受講し、期末試験に合格した者については、得点に応じ、評定値C以上A未満の評定値を与える。履修期間中、LMS上のeラーニング教材で学習し、集中講義が始まる前までに『ITパスポート試験』に合格した者については、その得点に応じ、評定値を上方修正する。また、LMS上のeラーニング教材への取組状況が良好な者に対しても評定値を上方修正する。		
テキスト	FOM出版「よくわかるマスター ITパスポート試験対策テキスト 平成26-27年度版」富士通エフ・オー・エム(株)		
参考文献	LMS上のeラーニング教材については、講義の際に指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	LMS上のeラーニング教材を用いて予習と復習をしっかりと行うこと。 ITパスポート試験の受験案内も行うので、積極的に受験し取得して欲しい。		

授業科目名	体育実技 I		
担当教員氏名(助手氏名)	塩川 満久		
研究室の場所	三原キャンパス 4420研究室		
オフィスアワー	水曜日12:00-13:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業 日程に従って、各種のスポーツ技能の習得にむけた集団学習活動の中核にした授業を実施する。初回の授業は、着替えずに体育館に集合(土足厳禁)。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	開かれたからだ コミュニケーション スポーツ技術 戦略・戦術 異質共同 チームワーク リーダーシップ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、機械化された環境と受験勉強で硬直化した心と身体の開放を図りつつ、身体運動・スポーツの合理的・組織的方法を習得することによって、地域のリーダーに相応しい活動性と社会性の習得と生涯にわたって健康で文化的な生活を営む能力の向上を目指している。本科目は、専門科目の枠を超えて共通に求められる知識や思考法などの知的技法の修得をめざした全学共通教育科目(保健体育領域)の一つである。自身の健やかで・豊かな「こころ」と「からだ」を育む方法を習得することはもちろんのこと、国際化を考える上でも、経営を考える上でも、「開かれた身体」の獲得は、必須の教養である。		
授業の内容	上記の目的を達成するため、本授業においては、15回の授業を、三つの段階に分け、チーム(集団)で行う、ボールゲームに取り組む。第1段階:アイスブレイク、第2段階:ともにうまくなる、第3段階:ともに競う、をキーワードに、チーム編成及び種目選択を行い、チームで親睦を深めつつ技術・戦術学習に取り組む。ただ単に体を動かし汗をかくだけではなく、チームで技術向上のためのプログラムや、勝負に勝つために必要な知識やルールを学習し、チームの方針や動き方等の約束事(戦術・戦略)を創意工夫することを大事にしながら学習をすすめる。従って、ゲーム記録やミーティング等も重要な活動となる。扱うゲームは、体育館で実施可能なもの(バレーボール、バドミントン、卓球、バスケットボール等)を中心に行なうが、楠那グラウンドでの活動(フットボール、テニス等)も予定している。		
成績評価の方法	成績評価は、12回以上の出席を必要最低条件とし、日頃の学習活動状況を勘案しつつ、課題レポートによって総合的に行う。		
テキスト	教科書はなし。適宜、資料プリント配布。体育授業とは何か?を深く掘り下げたい方には以下の参考文献を参照されたし。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	何らかの理由により大筋群を使用する身体運動活動への参加が困難な場合は、別途成績評価の方法を考慮する。		

授業科目名	日本語表現		
担当教員氏名(助手氏名)	中石ゆうこ		
研究室の場所	広島キャンパス 1132研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。毎週宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科 1・2年次		
免許等指定科目			
キーワード	日本語 技術 書く 分かりやすさ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目の目標は、大学生活で必要とされる日本語力（日常生活に必要な情報を伝達する、レポートや論文を書くなど）を高めることである。大学生はレポートや論文などで、自らの考えを明確に述べ、論理的で分かりやすい文章を書く機会が多々ある。さらに、情報化社会と言われる現代の生活では、文章によって自己発信をする機会が爆発的に増えている。このような背景から、この授業では大学生活で必要になる実用的な日本語力を問い直す講義と実践トレーニングを行う。</p>		
授業の内容	<p>大学生活の様々な局面で必要な実用的な日本語力、およびレポート作成ができる作文力を身に付けることを目標にして、教科書の文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて書く力を高める。授業では受け手に情報が伝わりやすい構成、誤解を与えない内容という観点から、様々な文章を材料にした議論を行い、正確に、かつ効果的に、必要な情報を伝達する演習を行う。</p>		
成績評価の方法	<p>授業時の課題 (30%)          期末テスト(またはレポート) (60%)          授業への貢献度 (10%)</p>		
テキスト	野田尚史・森口稔著 『日本語を書くトレーニング第2版』 (ひつじ書房)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	哲学		
担当教員氏名(助手氏名)	大草 輝政		
研究室の場所	庄原キャンパス 2408研究室		
オフィスアワー	①授業前後, 教室で ②水曜10:50-11:50 (講師控室)		
授業の形式・方式	対面授業。毎回小レポートを課す。適宜ディスカッションをおこなう。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	科学, 心, 身体, 他者, 自由, 正しさ, 功利主義, 定言命法, 知識		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>[到達目標]</p> <p>(1) 哲学の基本問題を理解する。  (2) ひとつの問題に対して複数の視点を持ち, 分析的・論理的に考えを展開できる。  (3) 問題の解決方法はどのようなものでありうるかについて, 自分なりの考えを文章にすることができる。</p> <p>[位置づけ]</p> <p>全学共通教育科目(教養)の一つである。</p>		
授業の内容	<p>テキストを読み, 議論の構成の把握に努めながら, 哲学的な考え方を学ぶ。</p> <p>第1-5回: philosophia, 科学, 因果  第6-8回: 心, 身体, 他者  第9-11回: 自由, 正しさ, 功利主義, 定言命法  第12-15回: 知識</p>		
成績評価の方法	学んだ知識や技術の習得度の評価は, 毎回の小レポート(45%)と期末レポート(55%)による。		
テキスト	ブレンダン・ウィルソン『自分で考えてみる哲学』, 東京大学出版会(¥2400+税)		
参考文献	Simply Philosophy		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	各回, 3-4時間の授業外自主学修を確保するつもりで授業に臨むこと。授業では受講者の積極的な参加(発言, 質問等)を期待しています。		



授業科目名	心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	古屋 泉		
研究室の場所	三原キャンパス 4418研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業, 講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	人福のみ選択必須, ほか選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験(心理学, 社会学から1科目選択必修)		
キーワード	認知科学, 感覚・知覚, 学習心理学, 実験心理学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人間の心的機能の科学的な研究の方法論について学習する。心理学は多様な方法論と領域を持つ分野ではあるが, その本質は一般性と妥当性を追求する他の科学と同じである。講義を通して直接観測不可能な心的過程をどのように科学的に測定, 研究するかを研究例を挙げて説明可能となる。		
授業の内容	人間の心的機能について, 基礎心理学あるいは実験心理学といわれる方法論で研究されたことならについて, 日常場面と研究例を比較しながら講義を行う。内容は以下の3分野。1) 感覚・知覚, 2) 学習(条件付け), 3) 認知科学(注意, 記憶, 推論など)。個々の研究トピックを学習することより, 心的過程の科学的な研究の方法論についてを理解してほしい。		
成績評価の方法	試験(記述式)90%, 授業への積極的参加10%		
テキスト	教科書は特に指定しないが, 知覚心理学, 認知心理学, 学習心理学の入門書は随時読んでおくこと。		
参考文献	森ら, グラフィック認知心理学, サイエンス社。実森・中島, 学習の心理学, サイエンス社。浅野, オペラント心理学入門, サイエンス社。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業の目的はノートをとることではない。研究例の詳細については, 参考書をあたってほしい。		

授業科目名	文学		
担当教員氏名(助手氏名)	五條小枝子		
研究室の場所	広島キャンパス 2218研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主として講義形式で実施するが、随時、ディスカッションや口頭発表を組み込む。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	日記文学の特質，和歌による感情表現		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、古典文学作品を読み解くことで、現代に生きる我々と約千年前に生きていた人々に通底する人間としての感情を知ることが第一の目標とする。さらに、作品中の数々の和歌に込められた作者の思いを深く味わうことで、分析力、洞察力を身につけることも目指す。</p> <p>本科目は、全学共通教育科目に位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>第一に、日記と日記文学との違いを解説する。第二に、本科目で対象とする『和泉式部日記』について、文学史上の位置を確認するために、女流日記文学作品を、推定される成立順に紹介する。第三に、作品の理解に必要な基礎的事項として、作者和泉式部の家庭環境や恋人の為尊親王、敦道親王の立場、作品の成立時期、当時の和泉式部評などについて確認する。以上をふまえて、作品本文を解釈し、理解する。最後に、『和泉式部日記』が現代を生きる人々に何を語るのか、各自の意見を交換し、考察結果を発表する。</p>		
成績評価の方法	<p>講義内容に関する小レポート(随時)60%、授業への参加度40%の割合で評価する。授業への参加度は、どれだけ真剣に対象作品を読み込み、作者の思いに迫ろうとしたか、どれだけ積極的にディスカッションや発表に取り組んだかという観点で評定する。</p>		
テキスト	必要に応じてプリント資料を配布する。参考文献は、適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>古典文学はわからない、難しいという先入観を捨て、素直な気持ちで作品に向き合い、作者の創り上げた世界を楽しんでほしい。</p>		

授業科目名	文化人類学		
担当教員氏名(助手氏名)	上水流 久彦		
研究室の場所	庄原キャンパス 地域連携センター		
オフィスアワー	随時 事前に連絡がある方が好ましい。		
授業の形式・方式	講義		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	フィールドワーク、文化相対主義		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	私たちの身近な事柄について、人類学の方法論と人類学的思考を提示します。世界各地の多様な文化との出会いを通じて、私たちが「当たり前」と思っている考えや習慣の特殊性を理解するとともに、結婚や宗教などの意義への理解を深めます。		
授業の内容	「日本に生まれてよかった」と感じる時、そこに文化の優劣はないでしょうか。文化人類学では、文化に優劣はないという考えを基本としていますが、それは理想として語る「あるべき姿」なのでしょうか。それとも裏付けがあつてのことでしょうか。どうして文化に優劣はないと言えるのか、この問いを考えるために、第三の性の存在、一妻多夫等の多様な婚姻方法、迷信と思われがちな呪術などを事例として、文化を論じます。		
成績評価の方法	原則、期末試験で評価します。出席回数は加点の対象とします。		
テキスト	指定しません。参考図書は適宜授業で紹介します。		
参考文献	授業で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	私語には厳しく対処します。		

授業科目名	社会学		
担当教員氏名(助手氏名)	澤田 千恵		
研究室の場所	三原キャンパス 3419研究室		
オフィスアワー	特に定めない。可能な限りいつでも対応する。		
授業の形式・方式	対面授業。主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。教科書による学習以外に、課題図書を指定し、グループごとの発表を実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	人福のみ選択必須, ほか選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験(心理学, 社会学から1科目選択必修)		
キーワード	社会システム、流動化、第二の個人化、現代社会の捉え方、再帰性、文化、社会、排除、貧困、自殺、社会問題		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	現代は流動化し、個人化する社会である。雇用の不安定化、家族形態の多様化と家族形成の困難など、社会の不確実性が増大し、生活がリスクに満ちたものとなっている。成功者の陰で弱者が社会からはじかれ、その結果、社会秩序が不安定化している。メディアの事件報道では、個人病理が強調されることも多いが、不確実性を増した社会の中で必然的に引き起こされている点を理解する必要がある。そのために、「後期近代」(論者によっては「ポストモダン」)社会におけるコミュニケーション、アイデンティティ、家族、仕事(労働)、文化等のありようを理解するための社会学の見方を学ぶ。社会学の見方を学ぶことで、人と人との関係性や社会を読み解く力を養うことが、この授業の目標である。		
授業の内容	1. 社会学の視点、社会学を学ぶことの意義、2. 「私」という存在に対する社会学の見方、3. 「人間関係」に対する社会学の見方、4. 「家族」に対する社会学の見方、5. 「会社と仕事」に対する社会学の見方、6. 「文化・流行」に対する社会学の見方、7. 自殺問題への社会学の見方、8. 消費税に対する社会学の見方、9. 『ルポ貧困大国アメリカ』に見るアメリカ社会の病理、10. グローバリズムと多国籍企業、11. TPP問題、12. ブラック企業、13. 子どもの貧困、14. ひとり親家庭をめぐる問題		
成績評価の方法	成績評価は、授業への参加態度(50%)とレポート(50%)で評価する。		
テキスト	浅野智彦編著『考える力が見につく社会学入門』中経出版、2014年。現代位相研究所編『フシギなくらい見えてくる!本当にわかる社会学』日本実業出版社、2010年。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	(1)教科書は必ず読んでくること。(2)課題図書の中から一冊を選び、読書レポートを書くこと。締め切りは最終日とする。レポートは他からのアドバイスを得てもいいが、最終的には自分で考え、自力で作成すること。(3)授業中の私語を慎むこと。		

授業科目名	基礎数学		
担当教員氏名(助手氏名)	川原田 淳		
研究室の場所	三原キャンパス 4424研究室 (4号館4階)		
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に時間帯を定めない。</li> <li>・可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。</li> </ul>		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業とする。</li> <li>・授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。</li> <li>・毎回の授業毎にレポート課題を課す。</li> <li>・受講者は、授業への参加と課題の提出が義務付けられる。※成績評価の方法も参照してください。</li> </ul>		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	数学, 微積分, 微分方程式, 複素数, 指数・対数関数, ブール代数		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は、平成27年度入学者には全学共通教育科目の教養・自然系, 平成26年度以前入学者には全学共通教育科目の基幹科目・理学系の一つとして位置付けられており, 複素数, 微積分学などについてこれまでほとんど知識のない受講者を対象に「微分, 積分などをはじめとする基礎数学に関する基本的な概念の理解」を目的として授業を実施する。</li> <li>・受講者は, 微積分の基礎についての講義を理解するとともに, それに関する簡単な演習を行い, 各自が問題解決能力を発揮させ, より一層の理解を深めていくことを目標とする。</li> <li>・その他, 微分方程式, 複素数, 指数・対数関数, ブール代数などの単元についても, 同様の到達目標を設定する。</li> </ul>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・微積分の「仕組み」について, 無限小, 極限概念の重要性を提示し, その上で, 微分及び積分の基礎から応用について講義と演習を行う。</li> <li>・微分方程式, 複素数, 指数・対数関数, ブール代数などの単元についても, 同様に授業を展開する。</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参加(出席状況と授業への取り組み態度)及びレポート課題による総合評価を行う。</li> <li>・レポート課題は毎回の授業において実施した演習の内容や必要に応じて提示した宿題である。</li> <li>・各課題の提出期限・提出方法等については授業時間内に指示する。</li> </ul>		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト(教科書)は特に指定しない。</li> <li>・別途資料を提示・配布する。</li> </ul>		
参考文献	参考文献については授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療福祉分野で定量的なものの方や理解を行う上で, あるいはそのための道具として基礎数学は重要な科目です。</li> <li>・予習・復習も非常に大切ですが, 授業中に疑問を生じた場合はそのまませず, 積極的に質問を行うように努め, なるべくその場で解決するようにしてください。</li> <li>・また演習形式の授業は通常の受け身の講義とは異なり, 能動的に手足と頭脳を働かせ, 積極的に授業に参加する態度が必要となります。</li> </ul>		

授業科目名	物質科学		
担当教員氏名(助手氏名)	藤田 健一		
研究室の場所	広島キャンパス 1542研究室		
オフィスアワー	随時（原則として、メールなどで受付）		
授業の形式・方式	遠隔授業。授業日程に従って、主に講義形式で実施する。1回の講義につき授業時間2時間（1回）と学生の自習4時間を想定した授業を行う。授業はプリントを配布して、その内容について講義する。なお、授業内容は物理学、化学の両方の学問分野に亘る。また、授業内容の理解を深めるために、適宜、練習問題を配布する。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	基礎粒子，マクロ構造，物性，金属，無機，有機，結晶，アモルファス，物理事象		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、物理についてこれまでほとんど学習していない学生も対象にして、物質を構成する要素と物質のマクロな物性との関係について講述する。本科目の目標は、履修学生が、物質のミクロ構造が日常生活にどのように反映されているのかを理解できるようになることである。これによって、物理的・化学的教養を身に付け、更に、物理的専門科目の内容を理解するための素地を身に付けることができる。		
授業の内容	物質を構成する基礎粒子の階層的構造とそれぞれの性質について論じ、次に物質のマクロな構造の発現および複雑化の仕組みについて解説し、それらの構造的知識を基礎として、物質の構成要素である基礎粒子の物性とその物質のマクロな物性にどのように反映するかを、物質の構造との関連で論じる。また、生活の中で使用されている具体的な物質（金属・無機・有機，導体・不導体，結晶・アモルファス）について、その機能性と構造との関係およびその物質にまつわる物理的事象を講述する。		
成績評価の方法	期末試験で評価する。期末試験は指定された教室（試験室）内で、指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。		
テキスト	適宜、プリント配布。		
参考文献	参考書：杉森 彰著『化学と物質の機能性』（丸善株式会社） 参考書：渡邊正義・米屋勝利著『物質科学入門』（化学同人）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	生活化学		
担当教員氏名(助手氏名)	藤田 健一		
研究室の場所	広島キャンパス 1542研究室		
オフィスアワー	随時(原則として、メールなどで予約)		
授業の形式・方式	遠隔授業。授業日程に従って、主に講義形式で実施する。1回の講義につき授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。授業は教科書の内容に沿って行うので、スクリーンの内容と教科書を比較しながらノートを取ることを勧める。なお、教科書に記載のない内容はプリントを配布する。また、授業内容の理解を深めるための練習問題を、適宜、配布する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	化学, 衣生活・食生活・住生活, 健康, 薬品, 産業, エネルギー, 環境, 反応, 化学的事象		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、化学についてこれまでほとんど学習していない学生も対象にして、生活における化学との関わりについて講述する。本科目の目標は、履修学生が、生活の様々な分野において化学の原理がより良い生活を実現するためにどのように反映されているのかを理解することである。これによって、化学的教養を身に付け、化学的専門科目の内容を理解するための素地を身に付けることができる。		
授業の内容	我々の生活は我々の関知せぬまま、多数の化学的事象および反応によって成り立っている。そのような生活の中において発現している生活と化学との関わりについて理解するために化学の基礎的原理を分かりやすく解説して理解させ、それらの知識を応用して、生体、食品、薬品、工業、エネルギー、環境などの分野において具体的な生活と化学との関わりについて化学的に講述し、より良い生活の実現のために必要な化学的な視点を身に付けられるようにする。		
成績評価の方法	期末試験で評価する。期末試験は指定された教室(試験室)内で、指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。		
テキスト	教科書: 井上祥平 著 『はじめての化学 生活を支える基礎知識』化学同人		
参考文献	参考書: 齋藤勝裕 著 『楽しくわかる化学』東京化学同人		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	生命科学		
担当教員氏名(助手氏名)	加藤 洋司		
研究室の場所	三原キャンパス 2400研究室 (加藤)		
オフィスアワー	木曜 5限		
授業の形式・方式	対面授業。授業日数に従って、各回の授業開始時に配布する複写資料教材に基づき、講義形式で実施する。学生は、授業に出席し、試験を受けることが義務づけられる。原則として、大学生として必須である自律的な自学自習を行なうことを前提とする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	細胞生物学、分子生物学、生物の共通性、生物の多様性		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、保健福祉学部全学科を対象にする基幹科目である。本学部の学生は主に医療、福祉の分野を通してヒトを学ぶが、その理解を深めるためには、生物の一種としてのヒトを見ることも大事である。本科目の目標は、生物の多様性や、生物界全体に共通する特徴の基本的内容を学び、それを通してより深いヒトの理解の手がかりを見つけることである。後期に生化学や微生物学を受講する者でこれまでに生物学になじんでない者は受講することが望ましい。大学での講義形式の受講法習熟や自律的学習の訓練も兼ねる。		
授業の内容	最初は「生命科学」の学問的な位置づけ、目的について触れる。次に生命科学を理解する上で必要な化学的用語の説明や、細胞の構造を概観する。その上で、一般的な「生命科学」の範疇から外れるが、あえて分類学を絡めながら進化系統樹を概観し、様々な分類群を見て行きながら生物界全体の構成、多様性、その中でヒトの位置を確認する。次いで生命現象について、ミクロからマクロへ視点を移しつつ概観する。まず細胞を構成する元素や生体高分子、次に細胞の基本的構造とその機能を論述し、さらにそれらがどのように協調しあっているかを、情報伝達や細胞分裂を中心に見ていく。これらのことから生命全体に共通する現象を示す。また、染色体、遺伝、生殖を通じて生命の連続性について論述する。さらに、遺伝情報を取り扱った研究技術が、どのように我々の生活に関わってきているか解説する。		
成績評価の方法	期末試験によって評価する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。期末試験は講義中の配布物と各自のノートを持ち込むことを前提とするがその他の資料持ち込みは禁止する。課題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		
テキスト	教科書は使用せず、複写資料教材を配布する。配布物は毎回全てを持参すること。		
参考文献	細胞の分子生物学, キャンベル生物学など		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。一年次前期の講義であるから、大学生としての自律的学習の訓練を本講義で行なうこと。疑問の解決や知識の深化のために積極的に図書館や教員を用いること。		



授業科目名	県大生として学ぶ広島と世界		
担当教員氏名(助手氏名)	上水流 久彦, 木本 尚美		
研究室の場所	上水流 (庄原キャンパス地域連携センター) 木本 (広島キャンパス 2117)		
オフィスアワー	上水流 随時 木本 随時		
授業の形式・方式	講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次生対象		
免許等指定科目	選択		
キーワード	県立広島大学 留学 国外事情		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	県立広島大学の基本理念「地域に根差した、県民から信頼される大学」に基づいて、本学が立脚する広島県という地域、及び本学が協定を結んでいる大学のある国や地域について、基本的な事項を学びながら、自身に関わりを持つ広島と世界の概要を知ることが目標とする。		
授業の内容	地域の諸問題への取り組みや国際交流活動において中心的な役割を果たしている教員の講義、及び留学経験者等の話を聴くことを通して、地域に立脚した県立広島大学の歴史と現状、協定校のある中国、韓国、ハワイ、イギリス、インドネシア、タイ、台湾、ドイツ、フィンランドなどの社会や文化について基本的な知識を修得し、地域での活動や、留学への関心を高める。		
成績評価の方法	広島県という地域や本学、本学が関わりを持っている世界各地の社会や文化について、どれほど関心と理解度を深めたか、論述式の定期試験によって評価する。		
テキスト	ありません。		
参考文献	授業時に必要に応じて提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	迷惑行為について厳しく対処する。		

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名(助手氏名)	亀川和典(中国新聞社 教育と新聞推進担当部長) 他(学内担当) 五條 小枝子, 塩川 満久, 馬本 勉		
研究室の場所	三原キャンパス 4420研究室(塩川)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。前期集中講義(8月31日～4日, 3コマ×5日間)。 サテライトキャンパスひろしまで実施。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。</p> <p>本科目は, 中国新聞社の寄付講義であり, 全学共通教育に位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>本科目では, 新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。</p> <p>今年度は, 「原爆ドームの過去・現在・未来」をメインテーマとし, 被爆70周年を迎えた広島の“これまで”と“これから”をめぐる議論を題材として取り上げる。記事を読み, 現地へ出向いて取材を行った上で, 口頭で意見を述べたり, 記事として文章にまとめるなどの発信方法を学ぶ。さらに, グループで問題解決への提案をまとめ, プレゼンテーションを行う。</p>		
成績評価の方法	①授業レポート(50%) ②ディベート, ディスカッション, プレゼンテーションを含む, 授業への参加度(50%)		
テキスト	必要な資料をプリントで配布する。		
参考文献	適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。		

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 淳, 坊岡 峰子, 手島 洋		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。		
授業の形式・方式	対面形式。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎にレポート課題を課す。受講者は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	進路・職業選択, ライフキャリア形成, アイデンティティ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目の複合科目として位置づけられている。本科目の目標は、自分自身のライフキャリアを形成してゆく見識と力を身につけると同時に、大学生活の中で行う研究や専門性向上について自らのビジョンを形成することにおく。その上で、人生、職業、やりがいや生きがいについて考えると同時に、労働や雇用・職業の現状理解も促進し、卒業後に各自が望むライフキャリア形成を行う一助とする。		
授業の内容	社会人としての第一歩に向け、社会の現状と自己の特性を把握し、自らの職業の選択や社会貢献への関わり方など、自己の目指す道を考えると同時に、生涯にわたり安定的なキャリアを形成する力を養成する。この過程において、学内外からの有識者による講話やライフキャリア形成に関するVTR視聴を数回実施する予定である。また自己実現のビジョンとシナリオを少人数グループの演習形式で製作するとともに、グループ内で相互に発表し討論する。以上から、自己の価値観を創造し、社会で役立つ論理的思考力やプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などの「社会人基礎力」の習得と向上を目指す。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講者には、積極的な参加と自らの専門性や各種スキルを高めたいという強い姿勢をもつことを期待します。また、本科目は「職業観」に対する意識形成を目指しており、就職活動の支援や就職試験の対策を行う科目ではありませんので、誤解のないようにして下さい。なお、全回の授業への出席および積極的な授業参加と討論が望まれます。		

授業科目名	科学と医学		
担当教員氏名(助手氏名)	沖 貞明, 住居広士, 林 優子, 藤巻康一郎, 安武 繁, 原田俊英, 土師知行		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	沖 貞明: 水曜日の昼休み		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	理学必修
履修要件	理学療法学科1年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	医学史, 小児医療, 精神医療, 感染症, 脳科学, 神経変性疾患, 福祉, 医療倫理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は, 専門領域理解の基礎となる科目で, 当該学科では必修科目として位置づけられている授業です。今後, 医学系の専門科目を学んでいく上で, その成り立ちと現代における課題を知っておくことはとても重要です。この講義では, いくつかのトピックスに焦点をあてながら, それらの事項を学んでいきます。これらの学習を通して, 医学における様々な課題に対して, 問題意識が持てる態度が持てるようにすることを目標とします。		
授業の内容	医学の歴史に加え, 現代医療の課題を, 多面的な立場で科学的側面から解説します。(沖 貞明)「医学の歴史」, 「人工関節の歴史と現状」をテーマとして講義します。(住居広士)「科学と医学のめざす保健医療福祉」をテーマとして講義します。(林 優子)「小児科医からみた生殖補助医療」をテーマとして講義します。(藤巻康一郎)「精神医学序論」をテーマとして講義します。(安武 繁)人類と感染症との関係について歴史的な観点から論じ, 新型インフルエンザなど新しい感染症への科学的な対応のあり方について考察します。(原田俊英)「アルツハイマー病の病態や治療に関する新知見」をテーマとして講義します。(土師知行)「声と聴こえの障害とその治療: 最近の進歩」をテーマとして講義します。		
成績評価の方法	各教員の課すレポートを総合して評価します。		
テキスト	特に指定はありませんが, 必要に応じて講義中に別途指示します。		
参考文献	特に指定はありませんが, 必要に応じて講義中に別途指示します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 正式には教学課の掲示で行いますが, レポートの課題については授業内での通知によって行います。		

授業科目名	解剖学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	津森 登志子		
研究室の場所	三原キャンパス 4523研究室		
オフィスアワー	特に設けない。		
授業の形式・方式	対面授業で行う。使用する教科書の(必要に応じて別に準備することもある)図・写真などを提示して説明を進める。授業中に随時質問を提示し、理解度の整理や興味を引く事柄について学生の意識を高める。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科、理学療法学科、作業療法学科、コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目	看護師, 理学療法士, 作業療法士, 言語聴覚士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	肉眼解剖学、系統解剖学、組織学、発生学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>人体を対象とする分野に携わる者にとっては、解剖学はもっとも基本的な学問であり、体のことを学ぶ上での入り口でもある。ほとんどの学生が解剖学として系統的に人体を学ぶのは初めてのことと思われるので、ゼロからのスタートであることを認識して丁寧に一つ一つ理解を進めていって欲しい。この科目では、人体を構成する基本的構造(組織や器官)について概略を解説し、それらが如何に器官系として巧妙に統合されて人体が成り立ち、機能しているかを考える場とする。ここで学ぶ内容は、今後、各学科で専門科目を学ぶ際の土台となることをしっかり認識した上で学修に励んで欲しい。</p>		
授業の内容	<p>解剖学で学ぶ内容は多岐にわたっているため、今後の自学自習を進める上で必要な解剖学の学問分野を最初に確認する。次いで、人体を構成する構成要素、すなわち細胞や組織について総論的に概観する。その後、系統解剖学的な展開で、骨格系、筋系、循環系、神経系、感覚器系、呼吸器系、消化器系、泌尿・生殖器系、内分泌系などを順次学ぶ。この過程で肉眼解剖学的領域については体表から触れたり位置を確認できる骨、筋肉、器官、血管、神経などについては日常生活の中で意識できるような理解を求める。また、顕微解剖学的な内容も随所で触れて生理機能をはたすための巧妙な形態の工夫についても考える。一方、主要な項目については発生学的内容にも触れ、生体の連続性についても考える。</p>		
成績評価の方法	中間試験と期末試験の2回で評価する。両試験の平均得点が60点以上を合格とする。		
テキスト	教科書：F. H. マティーニ、M. J. テイモンズ、M. P. マッキンリ著、井上貴央監訳「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」(西村書店)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業ではテキストの図や写真を中心に進めていくので、テキストの該当部分の記述内容も含めて必ず講義前には一読し、講義後にも講義内容に即して再読するなど、予習復習を怠らないように。		

授業科目名	生理学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	森 大志		
研究室の場所	三原キャンパス 4428研究室		
オフィスアワー	特に定めないが、事前にメール等で訪室希望の連絡をすることが望ましい。		
授業の形式・方式	授業形式は対面授業。 テキストの各章に関する講義形式で実施する。 講義時間中に各章のすべての部分について話をするのは不可能であるので、事前にテキストや講義資料を確認し、受講すること。また授業後には復習を必ず行い、正確な知識を身につける努力が必要となる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科・理学療法学科・作業療法学科・コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目	看護師, 理学療法士, 作業療法士, 言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修単位		
キーワード	生理学の基礎, 神経, 筋肉, 感覚, 栄養と代謝, 消化と吸収, 血液, 循環, 呼吸, 体液とその調節, 体温とその調節		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では, 人が有する様々な生理機能の基本的内容を講述する。 生理学的機能の発現は解剖学的裏付けがあって初めて成される。受講生は解剖学概論で人体構造を学び, 本科目から人体機能に関する基本的な概念と基礎的内容を学ぶ。これによって各学科の専門科目の専門的内容を理解するための素地を身に付けることができる。 本科目は, 看護・理学・作業及びコミュニケーション障害の各学科の「人間と社会生活の理解に関する科目」に区分されている。また, 看護師・理学・作業療法士の各養成施設におけるカリキュラムの専門基礎分野における教育内容の一つであり, 本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置付けられている。		
授業の内容	生体が発現する正常な機能を概説する。一見複雑に見える細胞や器官の営みも化学や物理の法則の上に成立していること, 個別に観察される生理機能も全体の統合化された機能のなかで巧妙に調節されていることなどを学ぶ。生体の構造を解明するのが解剖学であるが, 形あるものは無意味に存在するものではなく, 全て機能を効率的に発揮する形態をしていることから, 本科目は解剖学と関連付けて学修すべきである。 毎回の講義終了時に, 当該講義の内容理解確認テストを実施し, 次講義冒頭で確認する。		
成績評価の方法	中間試験および期末試験の結果等で評価する。 能動的に学修していると認められる学生に対しては適切な評価をする。 各回の試験は試験までの授業出席が3分の2以上の学生のみが受験資格を有する(要厳守)。 試験は指定された教室で, 資料・教科書等の持ち込みは不可である。 補充試験は期末試験後に1度実施する。その際の試験範囲は全講義範囲となる。		
テキスト	木邑富久子 著『シンプル生理学(改定第6版)』(南江堂)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は, 講義資料・教科書の章を精読し, 各回の授業に臨むこと。 毎回の授業に関する連絡方法は, 学内ホームページ(教学ポータル)または授業内での連絡によって行うため, 当初からシラバス等からのダウンロード方法を習熟しておくこと。 各試験では, 問題用紙を回収する。		

授業科目名	発達心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	古屋 泉		
研究室の場所	三原キャンパス 4418研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業. 講義形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	理学必修, ほか選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格必修		
キーワード	乳幼児, 発達段階, 知覚発達, 認知発達		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人間の心的過程の発達についての基礎を, 誕生から学童期までを中心に講義する. 人間の発達過程の特徴, その研究法などについても学習し, 発達心理学特有の研究方法について他の心理学分野と比較し記述できることが可能となる. これは, 以後の人間の発達を扱う科目全ての基礎となるものでもある.		
授業の内容	人間は生涯を通じて, 心身ともに量的にも質的にも変化する. 個体が環境との相互作用でどのように発達するかを, 知覚の発達, 認知発達の原理などとともに講義する. また言語の理解・表出などに制約のある乳幼児における研究法, 乳幼児の認知に関するトピックについても紹介する.		
成績評価の方法	期末試験(論述式) 90%, 積極的な授業への参加10%.		
テキスト	特になし		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	心理学の一分野であるため, 十分な理解には心理学も併せて履修することがのぞましい.		

授業科目名	対人関係論		
担当教員氏名(助手氏名)	中谷 隆		
研究室の場所	三原キャンパス 4528研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式で行なう。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	青年期の対人態度と対人関係, 人格, 集団内における個人の心理と行動, 印象形成, 同調と排斥, 偏見, 社会的認知と感情, 社会的スキル		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	人間が生活していく上で, 人間関係や対人関係がなぜ大事なのか理論的に理解し, それに関わる心理社会的要因を学び, 日常生活において人間関係を円滑に結ぶためのポイントを習得させる。より専門的な心理・対人援助科目を学ぶための基礎となる科目である。		
授業の内容	個人と社会の関係性に関する様々な意識のあり方を解説し, 対人関係を規定している印象形成の心理的要因を詳しく解説する。そして, 対人関係の基盤となっている養育者との愛着の問題と青年期の基本的対人態度との関係について, 最近の若者の対人態度の特徴を引き合いに出しながら解説する。最後に, 円滑な人間関係を結ぶためのポイントを社会的スキルの視点から解説する。		
成績評価の方法	期末試験80%, 講義への積極的参加10%, 課題の提出状況10%の割合で評価する。期末試験は持ち込み可で実施する。		
テキスト	テキストは使用しない。資料を配布する。講義の中で参考文献を示す。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	講義内容を綿密にノートすることが肝要である。		



授業科目名	チーム医療福祉論		
担当教員氏名(助手氏名)	吉川 ひろみ ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3404研究室		
オフィスアワー	月曜日4時限		
授業の形式・方式	対面授業。小グループでの演習を含む。授業日程に従って、講義形式及び学生による意見発表を併用して実施。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。学生は該当分野について調べたり、自分の意見をまとめ、次回授業内での意見発表に備える。学生は、授業に出席し、宿題を行い、自らの授業参加状況をモニターすることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより、お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。		
授業の内容	医療福祉に関わる各専門職について、歴史、学問体系、役割、機能についての基本的知識を学ぶ。学科横断的に編成するチームによる事例検討を通して、チームによる問題解決プロセスを経験する。よりよいチームアプローチのために必要な要因について学習する。学生は保健福祉専門職を含むチームアプローチに関するテーマを選定してグループ発表を行う。		
成績評価の方法	参加30%, 発表20%, 試験50%の割合で評価する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業中の迷惑行為(途中入退室, 私語, 騒音など)を慎むこと。各専門領域の教員がオムニバスで講義を行うので、欠席するとその内容を学習できない。小グループによる演習には積極的に参加し、グループダイナミクスを直接体験することが期待される。		

授業科目名	生活環境科学		
担当教員氏名(助手氏名)	吉田 倫子		
研究室の場所	三原キャンパス 3518研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。 講義資料は別途、配布あるいはパソコン等を用いて表示します。 グループ学習、住宅設計など参加型の講義も実施します。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	看護・作業・コミュニケーション障害・人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	居住環境、都市環境、住まいの快適性、まちづくり		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、生活環境という広範な領域の中から、特に住宅、都市における環境の諸課題を、社会・文化的側面、空間的側面、計画論的側面について論じ、私たちを取り巻く環境について理解を深めます。我が国の居住環境の現状を理解し、高齢者や障害者等が快適に住むための住まいや都市の要件について考えます。		
授業の内容	私たちをとりまく生活環境は広範な分野に及んでいる。本科目では、特に住宅、地域、都市における環境の諸問題について論じます。住宅と人間の関係性、地域におけるまちづくり、住宅・都市における法制度などについて学びます。 授業内ではグループ学習や住宅設計を通し、生活環境の課題について参加する学生同士で理解を深めていきます。		
成績評価の方法	授業への参加態度(40%)、レポート課題(60%)にて評価をします。		
テキスト	使用せず、適宜資料を配布します。		
参考文献	授業で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本科目は、高齢者、障害者等の住環境に関する基礎的な内容となります。後期開講の福祉住環境論と合わせて履修することをお勧めします。		

授業科目名	地域リハビリテーション論		
担当教員氏名(助手氏名)	金井 秀作, 高宮 尚美, 積山 和加子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	毎週水曜日12時から13時 これ以外の面談は要予約		
授業の形式・方式	対面授業。オムニバス方式で講義を行う。後半には事例を通じて地域リハビリテーションの実際を学ぶ。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	理学必修, ほか選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	地域リハビリテーション, 地域包括ケアシステム, 介護保険, 介護予防, 障害者自立支援法, 施設・在宅リハビリテーション, 終末期リハビリテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	保健・医療・福祉の連携と発展を担う基盤として, 保健・医療・福祉の仕組みや在り方を学ぶとともに, 各専門職の社会の中での役割を認識し, 連携を図ることができる資質を養う。		
授業の内容	地域リハビリテーションは文字通り地域におけるリハビリテーションである。医学・科学の発展に伴うニーズが「ヒト⇒臓器⇒細胞⇒遺伝子」のようにマイクロ化してきたことに対して, リハビリテーションでは「疾患⇒患者⇒個人⇒家族⇒社会」のようにそのニーズはマクロ化している。障害の大小や種類に関わらずリハビリテーションを必要としている者にとって社会復帰または尊厳あるヒトとしての生活を得ることが最大の目的である。そのためには前述したマクロな視点とマイクロな視点が必要である。それらの視点を持ち, 各職種の得意な点を生かしたボーダーレスなリハビリテーションを地域で実践できるための知識を得ることを目的に本講義は構成されている。		
成績評価の方法	出席状況および授業最終回に実施するレポート内容で評価する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	家族支援論		
担当教員氏名(助手氏名)	大下 由美		
研究室の場所	三原キャンパス 4529研究室		
オフィスアワー	メール等で事前にご連絡ください		
授業の形式・方式	対面講義。受講生の人数により演習形式も採用する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	家族療法、家族ソーシャルワーク、		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	家族へのアプローチの方法を理解する。そのうえで、一連の家族の問題の評定法、介入法、介入技術そして、測定法の概略を学ぶ。		
授業の内容	医療福祉領域の専門家には、働きかける目的は異なっても、基本的な家族支援の知識と技術の修得が求められる。患者を支える家族としての家族理解にとどまらず、患者と家族をクライアントととらえ、患者への支援をきっかけに、家族全体の機能回復を支援する知識と技術の修得をめざす。家族とその背景というエコロジカルな生活場面を考察の焦点として、現代社会における家族の機能や構造に関する特徴と、その諸問題を分析するための理論について講義する。そして、ファミリーソーシャルワーク、家族療法、さらに、家族とコミュニティ間におけるネットワーク療法等、家族支援法の基礎理論と評定法ならびに介入の技法群について講義し、臨床的家族支援法を体験的に学ぶ。		
成績評価の方法	期末試験100%で評価		
テキスト	『ファミリーソーシャルワークの理論と技法』2014		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	講義内容は臨床的な話が中心になります。それゆえ、家族療法等、家族臨床に関心を有する学生の受講を求めます。また教科書は必要です。		

授業科目名	中枢神経機能学		
担当教員氏名(助手氏名)	津森 登志子, 森 大志, 藤巻 康一郎		
研究室の場所	三原キャンパス 4523研究室(津森), 4428研究室(森) 4427研究室(藤巻)		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 3人の担当者によるオムニバス講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	理学・作業必修, ほか選択
履修要件	看護学科・理学療法学科・作業療法学科・コミュニケーション障害学科の3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	脊髄, 延髄, 橋, 中脳, 小脳, 間脳, 大脳, 伝道路, 脳循環, シナプス伝達, 情動, 記憶, 学習, 知覚, 発育, 老化, 神経生理学, 神経科学, 神経精神医学, 前頭葉症候群, 失語, 視覚障害, 視空間障害		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	最近のリハビリテーションは脳機能の理解なくしては成り立たない。本講義では, 関連する末梢の構造と機能も視野に入れながら, 脳・脊髄を中心にその構造と生理機能について教授する。更に, 臨床的な中枢神経機能障害の具体例を通して理解を深める。		
授業の内容	本講は, 1年次に履修した解剖学および生理学の基礎的な学習をふまえて, 中枢神経機能について解剖学的, 生理学および精神医学的な見地より更に詳細に学習する。(津森担当: 5回) 脳と脊髄および脳血管の構造を肉眼解剖レベルで概観した後, 神経系の基本的構成要素について教授する。その後, 中枢神経各部の神経核や伝導路について各論的に学習をする。(森担当: 5回) 中枢神経系の機能を再考するとともに, 中枢神経破綻に伴う様々な臨床症状発現メカニズムの理解を深める。今年度は「痴呆症」についても概説する。(藤巻担当: 4回) 神経生理学と神経科学, 神経精神医学的症状と症候群, 前頭葉症候群, 失語とその関連症候群, 視覚障害と視空間障害, 記憶とその障害などについて具体例を通して理解を深める。		
成績評価の方法	中間試験(津森担当範囲)と期末試験(森・藤巻担当範囲)で評価する。試験は指定された教室で, 持ち込み不可で実施する。		
テキスト			
参考文献	参考図書【津森分】マーティン「神経解剖学」(西村書店)【森分】馬場元毅著「絵でみる脳と神経」(医学書院), 養老孟司監訳「ブレインブック みえる脳」(南江堂)【藤巻分】J.Cummings, M.Trible著松浦雅人訳「精神医学・行動神経学コンサイスガイド」(メディカル・サイエンス・インターナショナル), リタ・カーター著 藤井留美訳「脳と心の地図帳」		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	各教員担当の講義で無断欠席2回以上はその講義範囲の試験の受験を認めない。		

授業科目名	国際保健福祉活動論		
担当教員氏名(助手氏名)	三原 博光, 岡光 京子、金井秀作、島谷康司		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。オムニバス方式。授業日程に従い、講義形式を主体とする。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	国際保健活動、国際社会福祉、ドイツと日本、国際比較、NGO		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本講義は、国際保健活動について、国際保健福祉の視点から、その意義、重要性などについて述べて行くことにする。そして、具体的な実践活動の紹介としては、日本と欧米諸国の保健福祉活動を紹介しながら、国際比較を行い、国際保健福祉の活動意義を考える。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際保健福祉の重要性及び意義 (三原博光 担当)</li> <li>2. 国際保健活動の実践について (看護学科：岡光京子)</li> <li>3. イタリアの理学療法 (理学療法学科：島谷康司)</li> <li>4. ドイツの理学療法 (理学療法学科：金井秀作)</li> <li>5. ドイツの社会福祉 (人間福祉学科：三原博光)</li> <li>6. オーストラリアの作業療法 (作業療法学科：高木雅之)</li> <li>7. アメリカの看護事情について (看護学科：日高陵好)</li> <li>8～15. 国際保健の基本となる理念と取り組み、まとめ</li> </ol>		
成績評価の方法	出席、レポート課題		
テキスト	教科書：三原博光著『介護の国際化』 (学苑社)		
参考文献	参考文献：菅波茂著『医療和平—多国籍医師団アムダの人道支援—』 (集英社)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	保健医療福祉行政論		
担当教員氏名(助手氏名)	安武 繁, 水馬 朋子		
研究室の場所	三原キャンパス 3510研究室 (安武), 3417研究室 (水馬)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面方式の授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	看護・理学必修, ほか選択
履修要件	全学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師, 保健師, 理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	多職種連携 保健福祉行政 地方分権 健康日本21		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	1 保健福祉行政の仕組みと課題について理解する。2 多職種連携による地域医療と保健福祉の連携システムについて理解する。3 在宅医療に必要とされる要件について学ぶ。		
授業の内容	1 地方分権の推進に伴う地域保健福祉の課題 2 地域保健福祉行政 3 多職種連携による在宅医療 4 地域リハビリテーションの実践 5 健康日本21の推進と保健福祉計画 6 精神保健福祉と行政 7 母子保健福祉と行政 8 地域医療と保健福祉との連携		
成績評価の方法	課題レポートの提出 (予定)		
テキスト	教科書: 「保健所研修ノート」、医歯薬出版、安武繁(担当教員)著(2年生の時に使用したテキスト「保健所研修ノート」をそのまま利用してください。新たに購入する場合は、「保健所研修ノート 第3版(2014年発行、医歯薬出版、安武繁 著)」を購入してください。		
参考文献	参考文献: 野村陽子『最新 保健学講座 7 保健医療福祉行政論』		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	・外部講師による特別講義も予定しています。・教科書「保健所研修ノート」は、安武が担当する授業で使用します。		

授業科目名	ケアマネジメント		
担当教員氏名(助手氏名)	金子 努, 坊岡 峰子		
研究室の場所	三原キャンパス 2514研究室(坊岡), 4423研究室(金子)		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面式授業(講義)、事例検討については小グループに分かれて演習		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科3年次対象		
免許等指定科目	なし		
キーワード	ケアマネジメント、ストレングスモデル、ブローカーモデル、プログラムの普及、バイスティックの7原則、多職種間連携。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	ケアマネジメントの概念及び適応範囲とプロセスを理解する。 また、複数のモデルを通して、ケアプランを作成することにより、ケアマネジメントの方法と重要となるポイントを習得する。 さらに、ケアマネジメントの基礎をなすコミュニケーションスキルについても、自分のスキルの見直しおよび向上を目指し、他職種とのコミュニケーションに生かせるようにする。		
授業の内容	ケアマネジメントの概念、海外の動向を、歴史をみながら理解を促す。 日本におけるケアマネジメント導入の経緯と現状について、高齢者の分野、障害者の分野に焦点を当て理解を促す。 ケアマネジメントのプロセスと実際を、事例を題材に体験的に理解することを促す。 学部共通科目であるため、複数学科での演習を取り入れ、チームアプローチの重要性の認識を高める。		
成績評価の方法	演習の参加状況30%、授業後の質問・感想文の内容20%、最終試験50%を総合的に評価する。全体で、60%以上のポイント取得で単位を認定します。		
テキスト	なし		
参考文献	・太田貞司、國光登志子編集『対人援助職をめざす人のケアマネジメント Learning 10』(株)みらい、2007年。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業中の私語、携帯電話の使用、飲食、無断退席を禁止します。		



授業科目名	医療福祉システム論		
担当教員氏名(助手氏名)	安武 繁, 林田 賢史[非常勤講師]		
研究室の場所	三原キャンパス 3510研究室 (安武) , 産業医科大学 産業保健学部 (林田)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面方式の授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	看護必修, ほか選択
履修要件	全学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	医療法, 医療安全, 地域医療医療提供体制, 医療・福祉システム, 医療安全対策		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療連携システムについて理解する。</li> <li>2 地域医療の確保対策について理解する。</li> <li>3 医療安全対策の取り組みについて理解する。</li> </ol>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療法</li> <li>2 医療安全</li> <li>3 地域医療の確保対策</li> <li>4 へき地・救急医療</li> <li>5 災害医療</li> <li>6 医療経済</li> <li>7 医療計画</li> </ol>		
成績評価の方法	課題レポート (予定)。林田先生担当分については林田先生の指示に従ってください。		
テキスト	教科書指定:「保健所研修ノート」、医歯薬出版、安武繁(担当教員)著(2年生の時に使用したテキスト「保健所研修ノート」をそのまま利用してください。新たに購入する場合は「保健所研修ノート3版」(2014年発行, 医歯薬出版, 安武 繁 著)を購入してください。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	・教科書「保健所研修ノート」は、安武が担当する授業で使用します。		

授業科目名	医学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	住居 広士		
研究室の場所	三原キャンパス 2505研究室		
オフィスアワー	水曜日お昼休み，場所は担当教員室と2405演習室等とする。面談は事前に要予約とする。		
授業の形式・方式	対面講義ならびに講義型式とする。授業日程に従い，適宜にプリント、PPT、VTR、DVD等により講義演習実習形式もする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科1年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	基礎医学・臨床医学・医療・保健・公衆衛生・医療ソーシャルワーク等		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	人体の構造と機能及び疾病について、人間の基本的な構造および機能、発育・発達ならびに加齢・老化、人体の構造と機能及び疾病、医学・医療・医療ソーシャルワーク等の歴史と現状ならびにその体制と保健医療福祉の連携について学ぶ。		
授業の内容	人体の構造と機能及び疾病について、人間の基本的な構造と機能及び疾病について修得することを目的にする。各器官系について説明を加え、個体の構成についての理解を目指す。発育・発達ならびに加齢・老化について説明する。医学・医療・医療ソーシャルワーク等の歴史と現状ならびにその体制と連携について学ぶ。		
成績評価の方法	出席，レポート，口頭試問，筆記試験，実習演習形式等で評価する。		
テキスト	社会福祉士養成テキストブック『人体の機能と構造及び疾病』ミネルヴァ書房、2009年。随時、プリントを配付する。		
参考文献	『こころとからだのしくみ』ミネルヴァ書房、2009年。『人体の機能と構造及び疾病』久美出版、2009年。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	医学概論は、医学から保健・医療・福祉・医療ソーシャルワーク・福祉・介護等に至るまで幅広い分野の基礎となる。		

授業科目名	関係法規		
担当教員氏名(助手氏名)	笠置恵子、安武繁、細川淳嗣、越智あゆみ、西田征治		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	細川淳嗣(月曜16:30-17:30), 安武 繁(火曜10:40-11:30) ほかは要予約		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	看護・コミュ必修, ほか選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目	看護師, 保健師, 言語聴覚士の国家試験受験資格に必要な単位となる		
キーワード	看護師, 保健師, 助産師, 理学療法士, 作業療法士, 言語聴覚士, 精神保健福祉士, 社会福祉士, 介護福祉士, 医師, 医事法制, 業務独占, 名称独占, 特別支援教育, ノーマライゼーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	1. 自分のめざす資格を定めた身分法がいつ成立したのか言える. 2. 自分のめざす資格の定義を家族や友人に言える. 3. 自分のめざす資格を定めた身分法の全文を手に入れ一読する. 4. 自分がめざす資格をもつ人達がつくった職能団体(学術団体)について, インターネットでアクセスしてみる. 5. 保健や医療, 福祉の仕事を行うために必要な法規を5つ挙げる事ができる.		
授業の内容	保健医療福祉の従事者として必要な我が国の保健・医療・福祉に関する諸制度の概要を教授する。法規は、患者・利用者を守るだけでなく、自分を守るためにも不可欠な役割を果たすものであり、この授業で得た知識は、保健や医療・福祉に関する報道をより理解する上で役立つと思います。以下の内容で講義を進めていきます。(身分法として) 1. 保健師助産師看護師法, 2. 理学療法士及び作業療法士法, 3. 言語聴覚士法, 4. 精神保健福祉士法, 5. 社会福祉士及び介護福祉士法, 6. 医師法。(コメディカルの業務と関連する法律として) 7. 医療法, 8. 精神保健法, 9. 予防接種法, 10. 医療保険制度・診療報酬, 11. 障害者の雇用の促進等に関する法律, 12. 高齢者の医療の確保に関する法律, 13. 介護保険法, 14. 学校教育法, 15. 発達障害者支援法, 16. 福祉六法		
成績評価の方法	講義時間内に毎回, 出欠のチェックを兼ねた簡単なテストを行い成績評価とする。		
テキスト	随時紹介する		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	卒業後, 保健医療福祉に従事する際に重要となるので積極的に授業に参加すること。		

授業科目名	統計処理演習		
担当教員氏名(助手氏名)	飯田 忠行		
研究室の場所	三原キャンパス 2520研究室		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義・演習併用形式で実施する。授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。毎週宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科2年次対象(統計学を履修済みのこと)		
免許等指定科目			
キーワード	統計学, 統計処理, 表計算, 数値計算, データ処理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、看護学科2年次生を対象にし、統計学で学んだ事項の理解を深めるために演習を中心として学習する。さらに、多変量解析などのより進んだ統計手法を学ぶことにより医療統計データを解析するための基本的統計処理技術の習得を目標としている。		
授業の内容	表計算ソフトであるExcelを使用して、統計学で学んだ推定と検定を中心に更なる理解を深めるために、実際の例題を使い、演習を中心として学習する。さらに、分散分析、クロス集計表と適合度検定を学習した後、重回帰分析、判別分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析などの多変量解析の基礎を学習する。また、グループワークによって自ら研究を考え、アンケート調査等を行い、実際に統計解析によって検討する。		
成績評価の方法	5回以上の欠席は評価の対象外とする。演習課題(宿題および授業時間内の課題も含む)により評価する。演習課題(宿題)は毎回の授業の最後に提示する。各課題の提出期限は、通常、次回授業時間の開始時とする。課題の提出方法等については、授業時間内に指示する。		
テキスト	教科書：指定しない。プリントを配布する。		
参考文献	岸 学 著：SPSSによるやさしい統計学 小田 利勝：ウルトラビギナーのためのSPSSによる統計解析入門		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業科目は、実技でもあるので、出来るだけ休まないようにしていただきたい。授業時間以外にもコンピュータに触れ、知識・技術の習得に努めてください。		

授業科目名	医療行動科学		
担当教員氏名(助手氏名)	細羽 竜也		
研究室の場所	三原キャンパス 4527研究室		
オフィスアワー	水曜日2限		
授業の形式・方式	対面授業。資料を例示しながら講義を行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目	なし		
キーワード	ストレス, 生活習慣病, 心身症, 生物・心理・社会モデル, 接遇, 傾聴, コーチング, 健康教育		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】 以下のことを授業の目標に設定する。(1) 医療行動科学に関する基礎的な知識を理解する。(2) 疾病や障害, 援助への行動論的な解釈ができるようになる。(3) 医療上や生活上における健康問題に意識を向けることができるようになる。(4) 得られた知識を活用し, 問題解決に活用することができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 専門領域理解の基礎となる科目</p>		
授業の内容	<p>本講義では, 行動理論, 健康心理学, 社会心理学を基盤に, 患者・当事者の心理状態と行動特性, ストレスと対処行動, 医療福祉場面や生活場面での人間関係の影響などを理解するための基礎理論について講義する。具体的には, 以下のテーマを扱う。</p> <p>①心理社会的ストレスの疾患・障害への影響。 ②健康に影響を与える行動問題と対策。 ③国民に健康増進の意識を育成するための包括的な取り組み。</p>		
成績評価の方法	レポート作成 (10%) , 毎回の小テスト (40%) , 試験 (50%)		
テキスト	テキスト: 使用しない。随時資料を配付する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	病態生理学		
担当教員氏名(助手氏名)	安武 繁, 日山 亨【非常勤講師】		
研究室の場所	三原キャンパス 3510研究室(安武), 広島大学保健管理センター(日山)		
オフィスアワー	(随時)		
授業の形式・方式	対面形式の授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	循環器心電図呼吸器メタボリックシンドローム		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	疾病の成り立ちを理解することで正常の形態・機能について一層理解を深める。この科目では主に循環器、心電図、呼吸器、メタボリックシンドロームを中心に授業を行う予定です。「内科学Ⅰ・Ⅱ」でも各疾患の病態生理について学びます。		
授業の内容	1 虚血性心疾患 2 心不全 3 不整脈 4 心電図の学習 5 呼吸機能検査 6 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 7 呼吸不全 8 メタボリックシンドローム など		
成績評価の方法	レポート提出状況等 (30%程度) および筆記試験 (70%程度) 予定		
テキスト	・教科書指定:「保健所研修ノート 第3版(2014年発行)」、医歯薬出版、安武繁(担当教員)著(この本は他の担当科目でも使用します。この本は安武の担当講義で使用します。)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	・教材用のDVD・VHS・パワーポイント画像なども活用します。		

授業科目名	解剖学実習		
担当教員氏名(助手氏名)	津森 登志子, 加藤 洋司, 武本 秀徳ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 4523研究室(津森), 2400研究室(加藤), 2320研究室(武本)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	6～7名で構成する班単位で学習する。		
単位数(時間数)	2単位 (90時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科・作業療法学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士・作業療法士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	肉眼解剖学、組織学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	一年次に履修した解剖学概論と解剖学運動特論での知識をもとにして、模型や標本の観察を通して人体の構造について理解を深める。特に骨・筋・神経系など運動器に関連する構造については、肉眼解剖から顕微解剖にいたるまで十分な知識と理解が求められる。この実習は、今後展開される臨床的な学習の基礎となる内容であるので、繰り返し知識の整理と理解につとめること。		
授業の内容	第1～5回：交連骨格と分離骨の観察 第6回：中間試験（骨格系に関する範囲） 第7～12回： 肉眼解剖標本の観察：主要な筋の位置および起始と停止部位、心血管系、 主要な末梢神経の走行、脊柱管と脊髄、胸腹部臓器など 顕微鏡による組織標本の観察：筋と神経系 第13回：期末試験（筋・神経・内臓に関する範囲） 第14, 15回：広島大学医学部にて人体解剖見学実習		
成績評価の方法	出席することが前提である。 中間試験と期末試験および提出物などを総合して評価する。		
テキスト	カラー人体解剖学—構造と機能—マイクロからマクロで（西村書店）、骨学実習の手びき（南山堂）、標準理学療法学・作業療法学—解剖学—第3版（医学書院）一、広川書店解剖学、		
参考文献	解剖実習の手びき 第11版（南山堂）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白衣(実験着)と名札(もしくは、白衣の胸ポケットに記名)を着用のこと。</li> <li>・やむなく病欠する場合は予め必ず連絡すること。欠席した場合は、相当分を後日補習することを義務づける。</li> <li>・広島大学医学部にて行う人体解剖見学実習は、中間試験と期末試験による成績評価結果が基準に達した場合のみ受講を許可する。</li> <li>・すべての実習が班単位でのグループ学習となるので、協力してお互いの学習効果を高めるように務めて欲しい。当日の実習内容、観察項目はあらかじめ各自で確認し、必要な予習を行ってから実習に取り組むことが必須である。</li> </ul>		

授業科目名	生理学実習		
担当教員氏名(助手氏名)	森 大志, 加藤 洋司, 武本 秀徳, 積山和加子, 高宮 尚美, 小池好久, 山西 葉子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に定めないが, 担当教員に事前にメール等で訪室希望の連絡をすることが望ましい。		
授業の形式・方式	生理学実習は全て解剖生理学実習室で行う。 学生は実習に出席し, レポート提出あるいは試験を受けることが義務付けられる。 6名前後のグループ編成を行うが, ここで行う実習項目とグループ全体として行う実習項目がある。		
単位数(時間数)	1単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科・作業療法学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士・作業療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	心電図 (electrocardiogram, ECG), 心筋伝導, アイントローベンの三角形, 電気軸, 血圧, 肺活量, 残気量, スパイロメータ, 脊髄反射, 全か無の法則, 閾値, 活動電位, 興奮の伝導, 伝導速度, 骨格筋, 筋収縮, 電気刺激, 単縮, 強縮, クレアチニン・クリアランス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は, 基本的な実験や観察を通して人体の正常な生理学的な機能の基本的な概念と基礎的内容を理解することである。これにより各学科の専門科目の専門的内容を理解するための素地を身に付けることができる。また理学・作業療法士の各養成施設におけるカリキュラムの専門基礎分野における教育内容の一つであり, 本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置付けられている。		
授業の内容	講義で学修した生理学の知識をもとに, 基本的な実験や観察を通して生体の機能の理解を深めるために, 授業計画に記した実習項目を実施する。 本実習科目では一部の实習項目に動物(ウシガエル)を対象としたものがあるため, 冒頭(ガイダンス時)に動物実験に関する教育訓練(講義)を実施する。この訓練を終了していない学生は動物を扱う実習を行うことができないので, 必ず受講すること。 実習については翌週に行う実習項目について事前にその内容を理解していなければならない。 実習項目は, 基礎医学的な項目から臨床現場でも行われている項目まで多岐にわたる。 学生自身が被験者となってデータを計測するものがあるので, 担当教員の指導に従って実施すること。 基本的には個々で実習を行うが, グループ員間で協力し実習を進めることが望ましい。		
成績評価の方法	成績評価は, 基本的に実習レポートの評価で行われる。ただし, 実習そのものへの取り組み態度・姿勢も評価に加味されるので真剣に取り組んでほしい。 実習後おおむね1週間後の同時刻までにレポートを提出すること。提出が遅れる場合には, 担当教員にその理由等を説明し, 了解を得ること。事前連絡がない場合には, 欠席扱いとする。 欠席は原則的に認めない。やむを得ない理由で欠席する場合には, 事前に連絡すること。 感染症等で欠席する場合には事前連絡とともに事後に診断書を提出すること。		
テキスト	木邑富久子 著『シンプル生理学(改定第6版)』(南江堂)。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	次週の実習項目については事前に教科書の章を精読し, 実習に臨んでほしい。 更に生命科学, 物質科学, 生活科学等の基礎的な教科の修得が望ましい。 毎回の実習資料は学内ホームページ(教学ポータル)にアップロードするので, 各自でダウンロードすること。 レポートに「コピーペスト」があることが明らかになった場合には, 期末試験時のカンニングと同様の扱いをし, 大学に通知する。その際の処分は大学の判断による。		



授業科目名	運動学		
担当教員氏名(助手氏名)	島谷 康司, 長谷川 正哉		
研究室の場所	三原キャンパス 4429研究室 (島谷) , 2501研究室 (長谷川)		
オフィスアワー	水曜日12-13時		
授業の形式・方式	対面授業, 人体模型, ビデオ, 配布資料等を用いて講義を行う。学生は授業に出席し, 課題や試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必須科目		
キーワード	運動学, 運動力学, 運動生理学, 運動分析, 歩行		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	四肢・体幹の機能解剖を習得し, それに基づいてヒトの身体運動や動作が説明できることを目標とする。本科目は理学療法の専門領域のための基礎となる。		
授業の内容	解剖学や基礎運動学を基盤として, まず身体各部位の機能解剖を教授する。そのうえでヒトの各身体運動や歩行などの動作を運動学的・運動力学的・運動生理学的, 神経生理学的視点から教授する。		
成績評価の方法	授業態度, 期末試験を併せて評価する		
テキスト	基礎運動学第6版補訂 (医歯薬出版)		
参考文献	プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系 (医学書院) 運動学テキスト (南江堂)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	解剖学, 生理学, 基礎運動学の復習と予習をしておくこと。 授業の予習と復習をしておくこと。		

授業科目名	運動学		
担当教員氏名(助手氏名)	高木 雅之		
研究室の場所	三原キャンパス 2521研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日15時から18時		
授業の形式・方式	対面授業. 人体模型、配布資料を用いて講義する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科2年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	上肢、手の把握、体幹、頸部、下肢、歩行、立位、運動処方、運動学習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>位置づけ： 作業療法の専門領域理解の基礎となる科目として位置づけられ、1年次の解剖学や運動学概論を基盤とし、2年次後期の運動学実習に引き継がれる科目である</p> <p>目標： 1. 上肢、下肢、頸部、体幹の構造と機能を説明できる 2. 人の立位、歩行の特徴を説明できる 3. 運動処方、運動学習の原理を説明できる</p>		
授業の内容	<p>人の随意運動のメカニズムを機能解剖学的に教授する。上肢、頸部、体幹、下肢における各関節の構造と機能を解説した後、運動の力源である各筋の作用、起始停止、さらに靭帯との関連性を説明する。また、起立・歩行、リーチ動作、手の把握機能およびその障害に対する運動学的な分析の視点を教授する。</p>		
成績評価の方法	小テスト40%、中間テスト30%、期末テスト30%		
テキスト	中村隆一，齋藤宏，長崎浩著：基礎運動学 第6版第4刷（補訂）．医歯薬出版，2003		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業を欠席した場合、その日の小テストの得点は0点となる。		

授業科目名	公衆衛生学		
担当教員氏名(助手氏名)	安武 繁		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	(随時)		
授業の形式・方式	対面方式の授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	看護必修, ほか選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	地域保健 産業保健 健康危機管理 感染症対策		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	1 地域保健、産業保健、学校保健などいろいろな分野における実践事例について検討する。2 健康危機管理の事例について検討する。		
授業の内容	1 地域保健・母子保健サービス 2 産業保健 3 精神保健福祉サービス 4 学校保健 5 結核対策 6 食中毒対策 7 エイズ予防対策 8 鳥インフルエンザ対策		
成績評価の方法	筆記試験		
テキスト	教科書指定:「保健所研修ノート 第3版(2014年発行)」、医歯薬出版, 安武繁(担当教員)著(この本は、他の担当科目でも使用します。)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	テキストを通読することが望ましい。		

授業科目名	内科学		
担当教員氏名(助手氏名)	奥崎 健【非常勤講師】		
研究室の場所	三原市医師会病院 医局		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面方式の授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科 2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士, 作業療法士, 言語聴覚士の国家試験受験資格にかかる必修科目		
キーワード	相手の気持ちになって考える		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	内科疾患の成因・症状・診断・治療・予後について, 考えながら理解できるように配慮します。知識量よりも柔軟な思考力を伸ばすことを目標とします。 リハビリテーションや保健指導の視点も考慮します。		
授業の内容	内科学の各領域について, テキストにそって, 基本的事項を概説します。 講義の始めに毎回小テストを行い, 前回講義の内容を確認します。		
成績評価の方法	小テスト 期末試験		
テキスト	「北村論編集『コメディカルのための専門基礎分野テキスト』《5版》2014」		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	神経内科学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 俊英		
研究室の場所	三原キャンパス 3524研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日・金曜日12時から13時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面討論形式。あらかじめ与えられた課題について討論する。		
単位数(時間数)	1単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	コミュ必修, 看護選択
履修要件	看護学科, コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	神経症候学, 脳機能局在, 神経学的検査法, 神経内科疾患		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	脳機能の局在と神経症候学についての基本的内容を理解することを促し, 神経症候学, 神経学的検査, 代表的な神経疾患について学ぶ。		
授業の内容	神経症候とその評価法について教授し, 高次脳機能, 脳神経系, 運動系, 感覚系, 自律神経系と脳機能局在との関連を把握できるようにする。脳神経機能障害を評価するための神経学的検査法一画像検査, 神経生理学的検査についても概説し, 代表的な神経疾患については具体的な臨床像を把握できるようにする。授業はあらかじめ与えられた課題の発表。討論形式とする。		
成績評価の方法	出席, 課題の発表, レポート, 授業への参加, 最終テストなど総合的に評価		
テキスト	テキスト: 古川哲雄、三笥博著『臨床神経内科学《第2版》』(医学評論社)2007		
参考文献	参考文献: 江藤文夫、飯島節編『神経内科学テキスト《改訂第3版》』(南江堂)2011、岩田誠、岩田淳訳『簡要神経学《第4版》』(MEDSI)2006、平山恵造著『臨床神経内科学《第5版》』(南山堂)2006		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	発表, 討論を通じて全員が積極的に授業に参加する。神経解剖学, 神経生理学, 内科学の基礎的知識が必要である。		

授業科目名	神経内科学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 俊英		
研究室の場所	三原キャンパス 3524研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日・金曜日 12時から13時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面討論形式。あらかじめ与えられた課題について発表し討論する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科, 作業療法学科 2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士・作業療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	神経症候学, 神経機能局在, 神経生理, 神経画像		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	脳・神経機能を様々な角度から検討して脳・神経機能の局在と神経症候学についての基本的内容を理解することを促し, 症候学を基盤とする評価法を学ぶ。		
授業の内容	高次脳機能, 脳神経, 運動系, 感覚系, 自律神経系を中心とした神経解剖学, 神経生理学を基盤として神経症候学ならびにその評価法について学ぶ。また代表的な神経疾患についてその症候から病態の把握, 診断と鑑別診断, 検査を選択する考察法についても学ぶ。		
成績評価の方法	出席, 発表・討論の評価, レポート, 最終試験による。		
テキスト	テキスト: 古川哲雄、三笥博著『臨床神経内科学《第2版》』(医学評論社) 2007		
参考文献	参考文献: 江藤文夫、飯島節編『神経内科学テキスト《改訂第3版》』(南江堂) 2011、岩田誠、岩田淳訳『簡要神経学《第4版》』(MEDSI) 2006、平山恵造著『臨床神経内科学《第5版》』(南山堂) 2006		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	発表, 討論を通じて全員が積極的に授業に参加する。神経解剖学, 神経生理学の基本的知識を必要とする。		

授業科目名	精神医学		
担当教員氏名(助手氏名)	藤巻 康一郎		
研究室の場所	三原キャンパス 4427研究室		
オフィスアワー	講義時に連絡。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式にて実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科・理学療法学科・コミュニケーション学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	精神疾患, 発症要因, 病態生理, 診断, 治療, 生物学的研究		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、おもに発生頻度が高い精神疾患の発症要因, 病態生理, 診断, 治療について理解することを目標とする。その上で患者の精神の問題を理解することができるように患者の行動観察, 心理の把握, 患者-治療者関係について理解する。また精神疾患の成因論や治療仮説への理解を深めるため, 生物学的研究についての知見を得ることも目標とする。		
授業の内容	精神障害は身体疾患患者にも高い頻度で発生し, 精神科に限らず全ての医療保健福祉に関わる者が理解しておく必要がある。ここでは, 精神医学の系統講義(総論・各論)によって, 臨床場面で見られる精神障害について教授する。総論では, 精神医学の方法論, 症状論, 検査法とともに, 患者の心理行動面の問題を多元的にとらえていけるよう精神医学の基礎に基づいた患者の行動観察や心理面の把握, 患者と治療者との関係についての考え方などを教授する。各論では, 個々の精神障害の成因, 症状, 病態, 治療について理解を深める。		
成績評価の方法	筆記試験, 出席状況(出席時の態様も含む)及び課題レポートにより総合的に評価する。		
テキスト	野村総一郎, 樋口輝彦, 尾崎紀夫, 朝田隆 編『標準精神医学』(医学書院)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 教学課の掲示または授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	精神医学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	藤巻 康一郎		
研究室の場所	三原キャンパス 4427研究室		
オフィスアワー	講義時に連絡。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式にて実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	作業必修, 人間福祉選択必修
履修要件	作業療法学科・人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	作業療法士・精神保健福祉士 国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	精神疾患, 発症要因, 病態生理, 診断, 治療, 生物学的研究		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では, おもに発生頻度が高い精神疾患の発症要因, 病態生理, 診断, 治療について理解することを目標とする。その上で患者の精神の問題を理解することができるように患者の行動観察, 心理の把握, 患者-治療者関係について理解する。また精神疾患の成因論や治療仮説への理解を深めるため, 生物学的研究についての知見を得ることも目標とする。		
授業の内容	精神障害は身体疾患患者にも高い頻度で発生し, 精神科に限らず全ての医療保健福祉に関わる者が理解しておく必要がある。ここでは, 精神医学の系統講義(総論・各論)によって, 臨床場面で見られる精神障害について教授する。総論では, 精神医学の方法論, 症状論, 検査法とともに, 患者の心理行動面の問題を多元的にとらえていけるよう精神医学の基礎に基づいた患者の行動観察や心理面の把握, 患者と治療者との関係についての考え方などを教授する。各論では, 個々の精神障害の成因, 症状, 病態, 治療について理解を深める。		
成績評価の方法	筆記試験, 出席状況(出席時の態様も含む)及び課題レポートにより総合的に評価する。		
テキスト	野村総一郎, 樋口輝彦, 尾崎紀夫, 朝田隆 編『標準精神医学』(医学書院)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 教学課の掲示または授業内での連絡によって行う。		



授業科目名	整形外科学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	沖 貞明		
研究室の場所	三原キャンパス 3523研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日昼休み、場所は研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	授業日程に従って、対面授業で講義を実施します。講義の受講にあたり、事前配布資料や参考図書および文献を読んでおくことが授業の理解を深める上で有効です。必要に応じてレポート課題を課し、指定した日に提出させることがあります。学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられます。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	理学・作業必修, 看護選択
履修要件	看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科 2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士・作業療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	整形外科 骨 関節 筋 診断 治療		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	臨床現場に直結する医学的事項のうち、整形外科に関する分野を教授します。この講義を通して、専門領域特有の科目を理解するための基礎となる部分を学びます。最終的には、理学療法学科と作業療法学科の学生が、臨床実習で困らない程度の知識を習得する事を目標とします。		
授業の内容	整形外科学は運動器の疾患に対する学問です。運動器には、骨、筋肉、関節とそれらを支配する神経、血管が含まれています。運動器の障害を起こす原因としては、先天性疾患、発育障害、代謝障害、感染症、腫瘍、外傷などがあり、広範な対象領域を含んでいます。整形外科学Iとして、その基礎医学、診断、治療の総論を学びます。		
成績評価の方法	第1～15回の講義の最初に行う小テストと定期試験の試験結果で評価します。試験は指定された教室で、プリント、ノート、教科書等の持ち込み不可で行います。出席は、試験時の受験資格の確認に用いますが、いわゆる出席点なるものは考慮しません。		
テキスト	テキスト：標準整形外科学（医学書院）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	プリントを中心に授業を進めます。プリントに自ら書き込むことで理解が深まるので、授業中にしっかり書き込む事が重要です。参考となるビデオも使用します。小テストの試験範囲は、前回までの講義の内容に関するものとしますので、毎回しっかり復習してください。		

授業科目名	耳鼻咽喉科学		
担当教員氏名(助手氏名)	土師 知行		
研究室の場所	三原キャンパス4425		
オフィスアワー	随時可。 あらかじめ連絡を下さい。		
授業の形式・方式	対面授業。テキストを中心に進めていくが、適宜、ビデオやスライド・プリントによる説明を行う。		
単位数(時間数)	1単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	コミュ必修, ほか選択
履修要件	理学療法学科・コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	耳の解剖, 聴力検査, 聴覚・平衡機能検査, 外耳・中耳・内耳疾患, 補聴器・人工内耳, めまい・平衡障害, 顔面神経, 鼻の疾患, 唇顎口蓋裂, 口腔咽頭疾患, 喉頭・音声疾患, 頸部疾患, 頭頸部腫瘍		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は, 「専門領域理解の基礎となる科目」として位置付けられており, 特に言語聴覚士の養成施設指定規則に定める教育内容においては, 「専門基礎分野」のうち, 「臨床医学」として位置付けられている。		
授業の内容	本講義では, 言語聴覚障害に関連が深い耳鼻咽喉科的主要疾患について, その病因, 症状, 検査法, 鑑別診断, 治療法, 転帰などについて教授する。双方向の授業になるように, 討論や質疑応答などを授業内容に反映する。		
成績評価の方法	出席, レポート及び期末試験により総合的に評価する。質問などの積極的な授業への参加は加点評価する。		
テキスト	鳥山稔 編『言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学』(医学書院)		
参考文献	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学に関する教科書はどれも参考になります。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	講義の資料はpdfファイルで渡すので, 各自前もってプリントアウトし, ファイリングの上予習しておく。また紙ベースでの資料やレポートの整理のため, 専用のファイルを用意する。		

授業科目名	社会病理学		
担当教員氏名(助手氏名)	澤田 千恵		
研究室の場所	三原キャンパス 3419研究室		
オフィスアワー	特に定めない。可能な限りいつでも対応する。		
授業の形式・方式	対面授業。講義には、教科書以外に必要なに応じて資料を配布する。また、各講義内容に関連するビデオ視聴も行う。教科書や参考資料を用いた講義形式に加えて、受講生自身に積極的に取り組んでもらうために課題図書を指定し、グループごとの発表を実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	逸脱、社会問題、デフレ、自殺(自死)、ひきこもり、ワーキングプア、基本的な帰属のエラー、生活保護、薬害、過剰診断、医療化、社会的排除		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	日本はバブル崩壊後、正しいデフレ対策をとらず、新自由主義の経済政策を推進した。そのことにより、雇用が不安定化し、年間3万人超の自死者を生み出し続けた(1998~2011年)。ワーキング・プア層が増えている中で、個人責任を強調する風潮や生活保護受給者へのバッシングも強まっている。有効な雇用対策や社会保障政策を実施せず社会的弱者を生み出し、排除する社会のありかた自体が社会病理として捉えるべき現象である。この授業では、山田昌弘『希望格差社会』をテキストにして、現代日本の社会状況を社会的に把握していく。さらに、社会状況を構造的・理論的に把握したうえで、メンタルヘルス対策の問題点についても取り上げる。授業を通じて、社会問題に対する社会的な視点を獲得することが目標である。		
授業の内容	1. 授業の目標ならびに授業計画の説明、3. 二極化する日本社会、4. 職業・家族の不安定化、5. 教育の不安定化、6. グループ発表① ニートについて、7. グループ発表② 増税・公共事業について、8. グループ発表③ 生活保護、9. グループ発表④ 自殺/自死について、10. グループ発表⑤ ひきこもりについて、11. 薬物依存・処方薬乱用と医療、12. グループ発表⑤ 製薬会社のマーケティングと医療化、13. 精神医療サイバーの描く薬害、14. 外部講師の講演、15. グループ発表⑥ 嶋田和子『精神医療の現実: 処方薬依存からの再生の物語』蔓書房、2014年。		
成績評価の方法	成績評価は、授業への参加態度(50%)とレポート(50%)で評価する。		
テキスト	山田昌弘『希望格差社会—「負け組」の絶望感が日本を引き裂く』筑摩書房、2004年。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	(1) 教科書は必ず読んでくること。(2) 課題図書の中から一冊を選び、読書レポートを書くこと。締め切りは最終日とする。レポートは他からのアドバイスを得てもいいが、最終的には自分で考え、自力で作成すること。(3) 授業中の私語を慎むこと。		

授業科目名	リハビリテーション医学		
担当教員氏名(助手氏名)	沖 貞明		
研究室の場所	三原キャンパス 3523研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日昼休み、場所は研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	授業日程に従って、対面授業で講義を実施します。講義の受講にあたり、事前配布資料や参考図書および文献を読んでおくことが授業の理解を深める上で有効です。必要に応じてレポート課題を課し、指定した日に提出させることがあります。学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられます。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科・作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士・作業療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	リハビリテーション医学 臨床医学 診断 評価 治療 障害		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	臨床現場に直結する医学的事項のうち、リハビリテーション医療に関する分野を教授します。この講義を通して、専門領域特有の科目を理解するための基礎となる部分を学びます。最終的には、理学療法学科と作業療法学科の学生が、臨床実習で困らない程度の知識を習得する事を目標とします。		
授業の内容	リハビリテーション医学では、まず、基礎となる学問体系を概説し、次に、対象となる脳や脊髄の損傷・障害、神経・筋疾患、発達障害、切断、関節リウマチを含む骨・関節疾患、各種内部障害などに対する評価やリハビリテーションの進め方を解説します。		
成績評価の方法	第1～15回の講義の最初に行う小テストと定期試験の試験結果で評価します。試験は指定された教室で、プリント、ノート、教科書等の持ち込み不可で行います。出席は、試験時の受験資格の確認に用いますが、いわゆる出席点なるものは考慮しません。		
テキスト	テキスト：わかりやすいリハビリテーション（中山書店）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	プリントを中心に授業を進めます。プリントに自ら書き込むことで理解が深まるので、授業中にしっかり書き込む事が重要です。参考となるビデオも使用します。小テストの試験範囲は、原則として前回までの講義の内容に関するものとしますので、毎回しっかり復習してください。		

授業科目名	終末期医療		
担当教員氏名(助手氏名)	岡光 京子, 田中 聡		
研究室の場所	三原キャンパス 3512研究室 (岡光)	2513研究室 (田中)	
オフィスアワー	特に指定しないが、研究室在室中は対応		
授業の形式・方式	対面授業。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	看護・理学・作業・コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	終末期医療 緩和ケア がんリハビリテーション チームアプローチ 倫理的課題		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	慢性疾患や悪性腫瘍の終末期状態をいかに治療して、高いQOL(生活の質)を維持しつつ死の瞬間を迎えさせるかが、終末期医療(エンドオブライフ)の課題である。本授業においては、がん患者の緩和ケアを中心に、医療従事者として終末期医療にいかに関わるべきかを考察させる。		
授業の内容	次の視点から、担当教員および特別講師により授業を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期医療の概要</li> <li>・緩和ケアの実際(1)(2)</li> <li>・がん患者の心のケア-サイコオンコロジーについて-</li> <li>・がんのリハビリテーションの基本的な知識・がんのリハビリテーションの実際</li> <li>・終末期医療における倫理的課題</li> <li>・チームアプローチの重要性</li> <li>・生や死に関する考えをもつことの重要性</li> </ul>		
成績評価の方法	出席を重視するとともに、課題レポートの達成状況を中心に評価する。		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	随時紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	医療者従事者になる者として、人の生と死を考える機会にしてほしい。そのため、生や死に関する著書を読んで臨んでほしい。私語を禁止する。		

授業科目名	看護学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	折山 早苗		
研究室の場所	三原キャンパス 3522研究室		
オフィスアワー	随時(要予約)		
授業の形式・方式	授業日程に従って、テキスト・資料を用い講義・演習(グループワーク)の形式で行う。小レポートも課す。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科1年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	看護の概念、看護の対象、健康の概念、看護の目的と機能、看護活動、看護の専門性と看護倫理、保健医療システム、看護の歴史、看護管理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	看護学概論はどの看護学にとっても共通となる点を抜き出したもので、看護学の導入にあたる科目である。専門職としての看護、看護学とは何かをメインに学習する。また看護の概念とともに看護の対象である人間、健康、環境(社会)の諸概念を理解し、さらに看護の位置づけと役割、看護の歴史の変遷、保健医療システムと看護、看護活動、看護の専門職者としての倫理などについて理解する。		
授業の内容	授業の目標を達成するため、以下の内容について、テキストや配布資料、ビデオなどを用いて学習する。1.看護とは2.看護の歴史の変遷3.看護の対象である人間4.看護と健康5.看護と環境6.看護の機能と業務7.看護活動8.看護と管理9.保健医療システムと看護10.看護と倫理11.これからの看護		
成績評価の方法	評価は筆記試験とレポート、出席状況とする。		
テキスト	・松木光子ほか「看護学概論 看護とは・看護学とは」ヌーヴェルヒロカワ・V.ヘンダーソン「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会・F.ナイティンゲール「看護覚え書」現代社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業の出席に際しては、予定されている単元について、テキストを前もって読んで臨むこと。配布資料も同様である。		

授業科目名	日常生活援助方法論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	折山早苗, 青井聡美, 吉田なよこ, 池田ひろみ, 三宅由希子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、各单元ごとに講義と看護技術演習の形式で実施する。演習は、学生同士が患者役と看護師役を体験し、その関係性の中で看護技術の方法を実際に修得する。演習には、毎回レポート課題を課す。学生は、授業に出席し、課題レポートの提出、試験(筆記・技術)を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科1年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	看護技術, 日常生活行動, 日常生活援助, 環境, ベッドメイキング, 観察・記録・報告, ボディメカニクス, 体位変換, 移乗・移送, 活動・休息, コミュニケーション, 食事, 排泄, バイタルサイン		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	看護の対象を理解し、適切な看護ケアを実践するための基礎的な看護の方法を学ぶ。看護の方法は、全ての看護領域の基盤となる科学的根拠のもとに行われる看護技術である。ここでは、健康な人間にとっての日常生活行動の意味を看護の視点から理解し、日常生活行動に関する援助技術が科学的根拠を理解した上で実践できるように学習する。		
授業の内容	本授業では、看護技術とは、環境、観察・記録・報告、体位変換、移乗・移送、活動・休息、コミュニケーション、食事、排泄、バイタルサインの測定などを学習する。演習では、学生間において看護師役と患者役を体験しながら、援助を受ける患者の気持ちを理解するとともに、援助技術の基礎的な行動が形成されることを目的に学習する。		
成績評価の方法	評価対象は、期末試験(筆記試験と実技試験)、レポートとする。評価割合は、筆記試験45%、実技試験50%、レポート5%とする。期末試験は、テキストやノートなどの持込不可。筆記試験は、90分で実施する。実質試験時間は15分で実施する。		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深井 喜代子：基礎看護テキスト，南江堂</li> <li>・基礎看護技術Ⅱ，医学書院</li> </ul>		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	講義、演習前には、テキストを精読し、授業に臨むこと。演習は、看護師役や患者役を体験して学ぶことに重点を置いているので、欠席した場合には、他の時間をとって補習をすること。また、看護技術修得のためには、一つ一つの行動の根拠を考えながら看護技術を繰り返し練習すること。		

授業科目名	<b>基礎看護実習 I</b>		
担当教員氏名(助手氏名)	折山 早苗, 青井 聡美, 吉田 なよこ, 池田 ひろみ, 三宅 由希子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時 (要予約)		
授業の形式・方式	臨地実習 (県立広島病院、三原赤十字病院) にて行う		
単位数(時間数)	1単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科 1 年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	看護の役割・機能, 医療施設の役割, コミュニケーション, 健康障害, 社会生活		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この実習は「患者およびその家族の受診行動につき添うことや入院し治療を受けている患者・家族と接することによって、それぞれのおかれた状況を知り、健康障害がどのように心理状態や社会生活に影響を及ぼしているのかを学ぶ。また、医療施設の役割および看護専門職者の機能を学ぶ。」ことを目的としている。1年次の早い時期に学生が看護の様々な活動を見たり体験することによって、看護の役割を知ると同時に、看護職の魅力を感じることで後期の授業に対する意欲へと繋がるように位置づけられている。		
授業の内容	1) 通院・入院患者, およびその家族とコミュニケーションがとれる。2) 通院・入院患者, およびその家族と接し, 健康障害によって生じた社会生活の変化がわかる。3) 通院・入院患者, およびその家族と接し, 健康障害によって生じた気持ちの変化がわかる。4) 通院・入院患者, およびその家族に対する看護援助, 特に日常生活行動の援助の見学をとおして, 看護の必要性がわかる。5) 通院患者・家族の受診行動および入院患者の治療・看護の見学をとおして, 病院の持つ役割・機能の概要がわかる。以上の5項目を実習を通して理解させる。		
成績評価の方法	目標への到達度 (70%) , レポート (15%) , 実習態度 (15%) とする。		
テキスト	「臨地実習要綱」, 「基礎看護実習 I」の実習要綱を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	看護学概論, 日常生活援助方法論 I で学習した内容を復習して実習に臨むこと。また, 実習日数が不足した場合は記録の提出にかかわらず再履修となるので, 健康管理には十分留意すること。		



授業科目名	診療に伴う看護方法論		
担当教員氏名(助手氏名)	折山 早苗, 青井 聡美, 吉田 なよ子, 池田 ひろみ, 三宅 由希子, ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、各单元ごとに講義と看護技術演習の形式で実施する。演習は、学生同士が患者役と看護師役を体験し、その関係性の中で看護技術の方法を実際に修得する。演習には、毎回レポート課題を課す。学生は、授業に出席し、課題レポートの提出、試験(筆記・技術)を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	看護技術, 診療の補助, 診察と看護, 薬物と看護, 注射法(皮内注射, 皮下注射, 筋肉内注射, 静脈注射, 点滴, 留置針), 吸入法(酸素吸入, 酸素ポンベの取り扱い, ネブライザーによる薬液吸入), 浣腸, 導尿, 検査と看護, 静脈血採血, ME機器, 吸引法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	診療(診察, 治療, 検査, 処置)を受ける患者を理解し, 治療・検査・処置が「安全」かつ「適確」に行われるための基礎的な看護の方法を学ぶ。ここで学ぶ看護の方法は, 診察・治療・検査・処置が人間の心身にどのような影響を及ぼすかという科学的根拠のもとに行われる看護技術である。成人看護学, 老年看護学, 小児看護学, 母性看護学, 地域看護学, 精神看護学の全ての看護活動の基盤となる看護技術である。		
授業の内容	本授業では, 診察と看護, 薬物と看護, 注射法(皮内注射, 皮下注射, 筋肉内注射, 静脈注射, 点滴, 留置針), 吸入法(酸素吸入, 酸素ポンベの取り扱い, ネブライザーによる薬液吸入), 浣腸, 導尿, 検査と看護, 静脈血採血, 吸引法などを学習する。演習では, 学生間において看護師役と患者役を体験することにより, 診察・治療・検査・処置を受ける患者の気持ちを理解するとともに, 診療が身体に及ぼす影響を十分理解した上で「安全」かつ「適確」な看護技術の習得を目的に学習する。		
成績評価の方法	評価対象は, 期末試験(筆記試験と実技試験), レポートとする。評価割合は, 筆記試験45%, 実技試験50%, レポート5%とする。期末試験は, テキストやノートなどの持込不可。筆記試験は, 90分で実施する。実質試験時間は15分で実施する。		
テキスト	茂野香おる 他: 系統看護学講座基礎看護技術Ⅱ基礎看護学3, 医学書院 深井喜代子 他: 基礎看護学テキスト, 南江堂		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	講義, 演習前には, テキストを精読し, 授業に臨むこと。演習は, 看護師役や患者役を体験して学ぶことに重点を置いているので, 欠席した場合には, 他の時間をとって補習をすること。また, 看護技術修得のためには, 一つ一つの行動の根拠を考えながら看護技術を繰り返し練習すること。		

授業科目名	急性期看護論		
担当教員氏名(助手氏名)	今井多樹子 永井庸央 中垣和子		
研究室の場所	三原キャンパス 3508 (今井) , 3409 (永井) , 3407 (中垣)		
オフィスアワー	随時 (要予約) 場所は担当教員の研究室		
授業の形式・方式	授業日程に従った対面授業で、講義を基本とする。単元によっては演習とグループワークを組み入れて実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	成人期にある患者とその家族、急性期看護、救急看護、クリティカルケア看護、災害看護、周手術期、回復期、手術療法、身体侵襲、主要疾患、病態、主要症状、合併症、検査、治療、健康回復と適応を促進するための看護援助、患者の心理、意思決定、ストレス・危機理論		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>[授業の目標]成人期にあり、健康に急激な破綻を来したり、あるいは手術を受ける患者・家族に対して、健康回復および適応を促進するための、看護の基本となる概念や理論、援助方法を学習する。</p> <p>1. 急性期・周手術期にある患者および家族の特徴を理解する。 2. 急性期・周手術期にある患者および家族の看護を理解する。</p> <p>[カリキュラムの位置づけ]成人看護学概論を基盤とし、成人看護方法論と急性期看護実習に発展させるように位置づけている。</p>		
授業の内容	<p>総論および各論に分けて授業を進める。</p> <p>総論では、健康に急激な破綻を来したり、あるいは手術を受ける急性期にある患者および家族を理解し、健康回復および適応の促進に関わる看護援助を行うための基本的な概念と理論を学習する。各論では、代表的な疾患の急性期にある患者および手術を受ける患者を取り上げ、患者および家族の身体的、心理的、社会的状況のアセスメント方法および回復を促す援助の方法について学習する。</p> <p>以上の学習過程では、手術療法に必要な麻酔法の種類やその特徴、手術侵襲に伴う生体反応など、手術療法についても教授する。特に、発生頻度の高い手術療法を必要とする主要疾患を取り上げ、病態、主要症状、合併症、検査、治療など、周手術期における看護実践の根拠となる内容を学習する。</p>		
成績評価の方法	中間試験および期末試験で評価する。		
テキスト	<p>テキスト：・矢水克彦、小路美喜子編『系統看護学講座 臨床外科看護総論』（医学書院）・川村雅文、他著『系統看護学講座 成人看護学[2] 呼吸器』（医学書院）・吉田俊子、他著『系統看護学講座 成人看護学[3] 循環器』（医学書院）・松田明子、他著『系統看護学講座 成人看護学[5] 消化器』（医学書院）・吉岡成人、他著『系統看護学講座 成人看護学[6] 内分泌・代謝』（医学書院）・竹村信彦、他著『系統看護学講座 成人看護学[7] 脳・神経』（医学書院）・村井勝、他著『系統看護学講座 成人看護学[8] 腎・泌尿器』（医学書院）・池田正、他著『系統看護学講座 成人看護学[9] 女性生殖器』（医学書院）</p>		
参考文献	随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	当該授業は、成人看護学概論が基盤となる。また、看護援助においては、病態や主要疾患を理解した上で、根拠に基づく実践が求められる。したがって、当該科目においては、成人看護学概論はもとより、解剖学、病態生理学、ヘルスアセスメント、日常生活援助方法論、診療に伴う看護方法論など、既習の学習内容を復習して臨んでほしい。そして、既習の学習内容と講義内容と統合させ、知識・理解を深めることを期待する。		

授業科目名	老年看護学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	狩谷 明美		
研究室の場所	三原キャンパス 3505研究室 (狩谷)		
オフィスアワー	火曜日 午前中		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> <li>・グループワーク</li> <li>・演習</li> <li>・体験型学外演習形式をとる。</li> </ul>		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	高齢者, QOL, エイジング, 再適応, 高齢者の権利擁護と倫理的課題, 高齢者包括ケアシステム		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>超高齢社会の進展とともに、老年看護学を学ぶ意義と重要性が高まっています。高齢者のより良い人生を支援するための理論と方法論を学ぶことを目標にしています。</p> <p>この科目では、高齢者を身体的、心理・精神的、社会的、スピリチュアルな側面から全人的に捉え、加齢現象への再適応のプロセスと生活支援について考察します。また高齢者を支えるケアシステムと他職種連携について学習します。</p>		
授業の内容	<p>高齢者の特徴を理解し、生活支援と健康課題を統合しながら老人保健の動向、健康の維持増進、疾病の予防、高齢者を取り巻く家族や地域の支援システムについて考察し学習を深める。</p> <p>①老年看護の概念 ②老年看護学の歴史  ③エイジングとは(高齢者疑似体験演習を含む) ④高齢者のQOL  ⑤高齢者看護に活用する理論 ⑥超高齢社会の課題  ⑦高齢者保健の動向 ⑧高齢者包括ケアシステム  ⑨高齢者と家族⑩高齢者の権利擁護と倫理問題  ⑩課題発表</p>		
成績評価の方法	期末試験, グループワーク・レポート課題, ポートフォリオ, 授業への参加状況の割合で総合的に評価する。		
テキスト	テキスト: メディカ出版 ナーシング・グラフィカ老年看護学 <+9784840411165+>		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	学生の皆さんの主体的・積極的な授業参加を期待しています。皆さんと共に超高齢社会のデザインに参画し地域貢献できればと考えています。		

授業科目名	地域看護学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	笠置 恵子		
研究室の場所	三原キャンパス 3422研究室		
オフィスアワー	特に指定しない(面談は要予約)		
授業の形式・方式	対面授業が基本となる。必要に応じてグループワーク等を行う。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	保健師・看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	健康の概念、地域看護、歴史的変遷、個人、家族、地域		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	個人・家族が生活していく基盤となる地域について、その概念、健康レベルの考え方について学習し、地域における健康問題の理解を深める。地域看護の概念、活動分野、地域看護の歴史的変遷、地域看護の機能と役割などについて理解し後期に展開される地域看護活動論への導入をはかるとい目標をもつものである。		
授業の内容	生活の場における保健・医療・福祉活動と地域看護、地域看護活動の実践―機関・場所・対象、諸外国の公衆衛生と地域看護、保健・医療の歴史、地域看護に求められる役割、他職種との連携と協働、行政施策と健康問題について学習する。また問題点を明確化するために必要に応じてグループワーク演習をとり入れる。		
成績評価の方法	課題レポート、プレゼンテーション、授業への積極的参加などで総合的に行う。なお授業の進度によっては小テストを実施することもある。最終評価は課題レポートかテスト形式で実施するか最後の授業の2週間前までに提示する。		
テキスト	公衆衛生看護学概論 (医学書院)		
参考文献	厚生労働統計協会編集：国民衛生の動向 2014 (厚生統計協会)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康に関する事柄や社会の動きに関心を持つこと。特に関連法律の改正などには注意を払うこと。</li> <li>授業中は私語厳禁、授業中の内職厳禁、授業中の態度・理解度により途中で小テストを課す場合もある。</li> </ul>		

授業科目名	成人看護方法論		
担当教員氏名(助手氏名)	黒田 寿美恵, 今井多樹子, 永井 庸央, 中垣 和子, 船橋 眞子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(要予約) 場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業。グループワーク・ロールプレイ・技術演習を主体とし、必要時講義を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	成人期にある人, 急性期看護, 慢性期看護, 看護過程, 看護技術, フィジカルアセスメント, コミュニケーション技術, シミュレーション教育, TBL(チーム基盤型学習), 模擬患者演習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>[授業の目標] 既修の学修を統合し、看護実践に向けて看護過程展開能力を高めるとともに、看護実践に必要な援助技術を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事例展開を通して、患者・家族が生涯にわたりコントロールが必要な慢性疾患および治療による生活習慣の変化に心身ともうまく適応するための援助を実践できる。</li> <li>事例展開を通して、手術侵襲による心身の変化への適応を促す援助を実践できる。</li> <li>急性期・慢性期看護に必要な援助技術を修得する。</li> </ol> <p>[カリキュラム上の位置づけ] 成人看護学概論および急性期看護論、慢性期看護論を基盤とし、急性期看護実習、慢性期看護実習に発展させるように位置づけている。</p>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>成人期にある健康障がいをもった対象の事例を取りあげ、グループワークおよびロールプレイにより看護過程の展開をするとともに援助方法を学習する。具体的には、慢性疾患をもつ患者・家族の看護過程、および周手術期にある患者・家族の看護過程をTBLやグループ学習を通して展開し、援助方法の一部をロールプレイにより実施し、評価を行う。</li> <li>急性期・慢性期看護の実践に必要な援助技術についてシミュレータやロールプレイなどを用いた演習を行う。</li> <li>上記1. 2. に関して必要な知識については適宜講義を行う。</li> </ol>		
成績評価の方法	TBL(15%)、慢性期看護過程演習の課題レポート(35%)、周手術期看護過程の課題レポート(15%)、看護技術演習に関する課題レポートまたは試験(35%)で評価する。		
テキスト	Joan M. Seo-Cho著, 野呂レナルド, 柴田理恵訳『ロイ適応モデルにもとづく看護アセスメントツール』(医学書院), 日本糖尿病学会編『糖尿病治療ガイド』(文光堂)		
参考文献	日本糖尿病学会編『糖尿病療養指導の手びき 改訂第5版』南江堂(2015年5月発刊) 鎌倉やよい他『周術期の臨床判断を磨く—手術侵襲と生体反応から導く看護』医学書院		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	既修の学修を活用して理解を深めること。少なくとも急性期看護論、慢性期看護論、看護理論と実践、ヘルスアセスメント、診療に伴う看護方法論の内容を復習して本科目に臨むことを期待する。本科目はグループワーク・ロールプレイ・技術演習を主体としており、学習効果を高めるために提示された事前課題を行った上で演習に臨むこと、遅刻・欠席をしないことが前提となる。		

授業科目名	老年看護方法論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	狩谷 明美, 山中 道代, 渡辺 陽子		
研究室の場所	三原キャンパス 3505研究室(狩谷), 3412研究室(山中), 3410研究室(渡辺)		
オフィスアワー	水曜日のお昼休み		
授業の形式・方式	参加型授業及び演習		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	高齢者ケア, 高齢者ヘルスアセスメント, 高齢者高度実践看護方法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	老年看護学概論で学んだ理論的基礎を土台として、対象論(高齢者の理解)と方法論を学ぶ。老年看護学方法論 I は、高齢者のあらゆる健康レベルの対象に必要な基礎的老年看護技術を学ぶ。		
授業の内容	認知症高齢者とのコミュニケーション 高齢者ヘルスアセスメント 高齢者の薬物療法 高齢者回復期リハビリテーション 高齢者緩和ケア 老年看護学OSCE		
成績評価の方法	演習のプロセスとOSCE評価を総合的に評価する		
テキスト	ナーシング・グラフィカ26 老年看護学 高齢者の健康と障害		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	学生のみなさんの積極的な参加を希望します		

授業科目名	老年看護方法論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	山中 道代, 狩谷 明美, 渡辺 陽子		
研究室の場所	三原キャンパス 3412研究室(山中), 3505研究室(狩谷) 3410(渡辺)		
オフィスアワー	山中: 毎週月曜日, 昼休み(不在のこともあるので, 事前に連絡をください)。場所は3412研究室		
授業の形式・方式	対面授業。単元によってグループワーク, 技術演習を行う。グループワークでは, 高齢者によく見られる健康障害を事例に看護過程を展開し, レポートを提出する。技術演習では, 高齢者のケアに必要な技術を中心に演習し, レポートを提出する。学生は授業に出席し, 課題を遂行するとともに筆記試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係わる必修科目		
キーワード	高齢者, 日常生活の支援, 目標志向型, 加齢変化, 高齢者の主要徴候, アセスメント, 看護		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目の目標は, 高齢者の身体的変化や健康障害を学び, 生活者としての高齢者や健康障害のある高齢者のアセスメントおよび具体的な看護方法を身につける事である。これによって, 後期から始まる老年看護実習での理解を深めることができる。		
授業の内容	老年期の加齢変化とそれによる日常生活上の問題や, 健康障害をもった対象者とその家族に対する看護方法(生活支援の方法)を学習する。講義では事例等を用いて, 高齢者を生活者としてとらえるための視点を学ぶことで, 問題解決型の思考だけではなく, 目標志向型の思考についても学習する。 授業は, 講義の他, 演習・実技を中心に展開するため, 関係領域の教員が複数で担当する。		
成績評価の方法	期末試験(約70%), 課題レポート及び演習(約30%)で評価する。期末試験は指定された教室で, 持ち込み不可で実施する。		
テキスト	堀内ふき他: ナーシング・グラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害 堀内ふき他: ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践 メディカ出版		
参考文献	山田律子, 井出訓「生活機能からみた老年看護過程」医学書院。 高木永子編「看護過程に沿った対症看護 第4版一病態生理と看護のポイント」学研。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	健康障害のある高齢者の療養や日常生活に関心を持ち, 人生の先輩としての高齢者に対して尊厳ある生き方をサポートできるような知識や援助技術を身につけて欲しい。ここで学んだことが, 後期の実習や国家試験に直接関係していることを意識して学んでいただきたい。		

授業科目名	小児看護方法論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	松森 直美, 土路生 明美, 鴨下 加代		
研究室の場所	三原キャンパス 3520 (松森), 3407 (土路生), 3409 (鴨下)		
オフィスアワー	随時 (メール等での質問・連絡可)		
授業の形式・方式	対面授業、講義形式を中心に講義内容に応じてグループワーク、発表、技術演習を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	小児看護、子ども、家族、成長・発達、小児期特有の疾患・症状・障害、急性期、慢性期、終末期、小児看護技術、フィジカルアセスメント、検査・処置、治療、子どもの権利保護		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	看護の対象として健康問題をもつ小児とその家族の心身の状態や生活、成長発達について理解を深め、対象の個別性に応じた看護援助を行うための理論と援助技術を学習する。		
授業の内容	小児期特有の疾患や障害など健康問題を有する状況における子どもや家族に及ぼす心身への影響を理解し、それらをアセスメントする方法や発達段階に応じた具体的な小児看護技術を習得する。既習事項を統合しながら、子どもを取り巻く社会的な環境の変化や小児保健の動向に応じた小児看護の役割と課題について考える機会とし、実践に応用するための基礎を学ぶ。		
成績評価の方法	筆記試験、授業態度(講義、演習への参加態度)、課題レポート(提出は必須)を総合して評価する。		
テキスト	南江堂 小児看護学概論、小児看護技術		
参考文献	小児看護過程+病態関連図(医学書院) 小児看護学 I, 2 (医学書院)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	小児看護学概論、小児科学、人間発達学、発達心理学など既習科目で学習した内容を活用し理解を深めてほしい。特に、私的なことに活かす視点ではなく、看護の対象にどう活かすかという職業意識をもって講義に臨むこと、積極的な討論と技術練習を行うなど、講義全般を通じて専門職業人としての主体的な学習態度を評価する。		



授業科目名	母性看護方法論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	日高 陵好		
研究室の場所	三原キャンパス 3521研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業を主とするが、授業シラバスに従って、講義・グループ学習とプレゼン、技術演習を組み合わせで行う。必要に応じて事前課題・レポート課題を課す。学生は授業に出席し、課題を提出すること、積極的に授業・演習に臨むこと、そして試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	母性、周産期、妊娠、分娩、産褥、新生児、母子、家族、ウェルネス、不妊症		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は専門領域特有の必修科目である。母性看護学概論の単位を履修していることを前提とする。①周産期における生理的変化が理解できる。②周産期におけるアセスメント方法が理解できる。③周産期における看護ケア(援助方法)が理解できる。④周産期における逸脱がわかる。⑤周産期特有の基礎的な看護技術ができる。⑥周産期の看護過程を展開できる。⑦不妊症の最近の動向と看護ケアがわかる。⑧母性看護特有のケアを行う際の倫理的配慮がわかる。		
授業の内容	母性看護の基礎となる概念をもとに、母性看護の対象の特徴および健康問題を学習する。女性のライフサイクルの中でも大きな変化が起こる周産期に焦点を当て、妊産褥婦とその家族および新生児への健康の保持・増進、疾病予防を目的とした健康促進支援について講義する。母性看護の対象を理解するための身体的・社会心理的知識、看護過程の展開方法周産期の看護技術など、看護実践のための基礎を学ぶ。		
成績評価の方法	無断欠席は減点となる。定期試験、学内演習の取組み状況、グループ学習や課題の状況で評価する。試験は、テキストやノートの持込不可とし、時間は60分で実施する。		
テキスト	編集：村本淳子ら 周産期ナーシング 第2版 (ヌーベルヒロカワ)		
参考文献	1. 立岡弓子著 周産期ケアマニュアル (医学芸術社) 2. 太田操編 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第2版 (医歯薬出版) その他適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	テキストを精読・事前課題を行って授業・演習に臨むこと。授業は妊娠・分娩・産褥・新生児と一連の生理的変化に沿って進める。基礎的な内容ではあるが、講義内容は広範に及ぶため、しっかり予習をしてその都度理解を深めながら学習を進めて欲しい。技術演習は事前学習が必須である。		

授業科目名	<b>精神看護方法論 I</b>		
担当教員氏名(助手氏名)	宮本 奈美子, 井上 誠, 近藤 美也子, 木村 幸生		
研究室の場所	三原キャンパス 3515研究室(宮本), 3501研究室(井上), 3410研究室(近藤, 木村)		
オフィスアワー	面接希望は事前にメールでお知らせ下さい。日時を調整いたします。また、在室時は可能な限り対応いたします。		
授業の形式・方式	対面授業。指定テキストをもとに講義形式で実施し、授業内容によっては演習(グループワークなど)を適宜加える。開講中に専門用語や専門的知識の習得を目的として2回程度(中間・期末)の試験を実施する。学生は授業に出席し、課題レポートの作成・発表・提出と、試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係わる必修科目		
キーワード	精神科看護師・精神疾患患者・リスクマネジメント・精神疾患の病態生理・検査と治療・患者-看護師関係・自己理解と他者理解・コミュニケーション技術・精神科リハビリテーション・セルフケア援助・看護過程・関連法規・行動制限と倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	精神疾患患者の抱える困難さと精神科看護師の役割を関連付けて説明できる。精神疾患の病態生理と検査・治療を説明できる。患者の入院から退院までの各病期に必要な看護援助を説明できる。精神科看護の特殊性とリスクマネジメントを関連付けて説明できる。患者-看護師関係の発展過程・対人援助における自己理解と他者理解の必要性を説明でき、プロセスレコードを使って対人交流の場面を振り返ることができる。精神疾患患者とのコミュニケーションの取り方や集団力動が個人に与える影響について説明できる。精神看護の活用技法を説明でき、基礎的なコミュニケーション技法を使うことができる。さまざまな精神症状のアセスメントとケアプランを説明でき、紙上事例において、セルフケア援助に基づく看護過程を展開できる。 本科目は精神看護実習に直結する重要な科目として位置づけられる。		
授業の内容	臨床看護師から精神科病院・精神疾患患者の在り様や精神科看護の実際を聴き、演習を通じて精神科看護・精神科看護師の役割についての考えを深める。主な精神疾患の発症要因・病態生理・検査と治療を学び、精神疾患患者への理解を深める。精神疾患の病期に合わせた看護援助の在り方・暴力への対応や行動制限など精神科に特徴的なリスクマネジメントを学ぶ。患者-看護師関係の発展過程と対人援助での自己理解と他者理解の必要性を学び、日常場面のプロセスレコードを通して自らを振り返る。精神看護で活用されるさまざまな技法について学ぶ。セルフケア援助に基づく日常生活援助の考え方や精神症状別の看護援助方法を学ぶとともに、紙上事例を用いたグループワークを通して看護過程の展開技術を学ぶ。授業を通して、看護師として精神疾患をもつ人への倫理的な在り方を学ぶ。		
成績評価の方法	試験(中間・期末の2回程度を予定)70%, レポート(内容と提出状況)30% 授業中の積極的な態度・グループワークへの意欲的な姿勢や貢献に関する評価は上記に追加し最終評価とします。		
テキスト	川野雅資編著「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学」(ヌーヴェルヒロカワ)		
参考文献	出口禎子編著「精神看護学—生活障害と看護の実践」(メディカ出版) その他、必要に応じて授業の中で提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*テキストを通読して授業に臨みましょう。</li> <li>*講義内容に関する疑問は、教員に質問し文献を調べることで解消しておきましょう。</li> <li>*グループワークでは積極的に役割をとり、討論・発表などを通して授業に参加しましょう。</li> <li>*新聞やテレビの報道などの、精神医療・精神看護に関わる情報に関心を持ち、授業での学びと関連させて考えましょう。</li> <li>*出席確認を兼ねて授業の後に振り返り表を提出してもらうことがありますので、ご承知おきください。</li> <li>*レポートは提出期限を過ぎても諦めず提出してください。提出されることで評価できます。</li> <li>*書籍やその他の視聴覚媒体を通して様々な文学作品や体験記などに親しみ、人間の心の動きやあり様について理解を深めましょう。</li> <li>*授業は皆さんと一緒に創るものだと考えています。皆さんにとって良い学びができるよう、積極的に意見交換いたしましょう。</li> </ul>		

授業科目名	看護教育論		
担当教員氏名(助手氏名)	松森 直美		
研究室の場所	三原キャンパス 3520研究室		
オフィスアワー	随時（事前にメール等で連絡）		
授業の形式・方式	講義・グループワーク		
単位数(時間数)	1単位（15時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	看護教育、看護教育制度、カリキュラム、職業的アイデンティティ、社会人基礎力、人間、環境、健康、看護、卒後教育		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	基本的な教育の考え方の中でも特に看護教育とは何かを考え、看護教育の歴史的展開を理解し、看護教育の成り立ちを体系的にとらえる。幅広い見識を背景に看護を実践し、将来看護学の発展に寄与する基礎的能力を身につける。看護教育に関する法的根拠を踏まえ、看護教育および看護の現状と今日的課題について理解を深める。		
授業の内容	講義形式で看護教育に関する基礎的知識を学習し、看護教育制度、看護教育の基本的パラダイム（人間、環境、健康、看護）、カリキュラムデザイン、臨地実習で直面しやすい問題等についてグループ討議を行う。		
成績評価の方法	講義への参加度と授業態度、毎回の課題提出を総合し評価する。		
テキスト	南江堂 看護教育学		
参考文献	看護教育学（医学書院）、看護職としての社会人基礎力の育て方（日本看護協会出版会）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本学科のカリキュラムや看護教育制度について社会的な動向と合わせて関心を持ち情報を得ること。看護専門科目や既習事項から看護職のアイデンティティ、基本的パラダイム（人間、環境、健康、看護）について考えておくこと。グループ討議に主体的に参加する姿勢をもつこと。		

授業科目名	家族保健指導論		
担当教員氏名(助手氏名)	笠置 恵子 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3422研究室 (笠置)		
オフィスアワー	メールで日程等を決定する		
授業の形式・方式	講義と演習を行う。授業過程に沿って、家族保健指導の価値、展開方法、地域とのつながりを学ぶ。各講義では、知識と技術の統合を行うため、グループワーク、演習を入れている。多くの学生の意見を聞くことで自分の考え方を深め、同時に発表することで自分の考えを簡潔に伝達できる力を養う		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択 (保健師選択課程は必修)
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係わる必修科目		
キーワード	地域 家族 保健指導		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>家族という対象の特性を踏まえながら、専門的知識と技術を用いて地域の健康問題に取り組むことを目標とする。地域に生活する人々の保健行動の特性を理解し、小集団としての家族の支援方法を学ぶ。このため、家族の機能、役割を理解したうえで、家族を視点とした保健指導展開論を理解する。</p> <p>なお、家族支援の基本となる考え方や技術を理解することで、公衆衛生看護実習に発展させていくよう位置づける。</p>		
授業の内容	<p>わが国の現状である少子・高齢化という社会的な影響が小集団としての家族にどのように影響を与えているかを学習する。家族の変化が地域全体に与える影響の分析、地域の見守り機能の向上に対する関わりを事例を使って展開する。</p>		
成績評価の方法	定期試験の成績だけでなく、演習などの提出物、出席日数、講義での発言なども成績に考慮する		
テキスト	使用しない。随時、資料を配布する。家族保健指導論で参考にできるテキストの紹介は行う。		
参考文献	新しい家族看護学—理論・実践・研究 法橋 尚宏 メヂカルフレンド社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	講義と演習を参考に、家族保健指導の理解を深めてほしい。定期試験の成績だけでなく、演習などの提出物、出席日数、発言なども成績に考慮する		

授業科目名	家族看護論		
担当教員氏名(助手氏名)	松森 直美		
研究室の場所	三原キャンパス 3520研究室		
オフィスアワー	随時対応 (メールでの連絡可)		
授業の形式・方式	対面授業、グループワーク		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択 (保健師選択課程は必修)
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係わる必修科目		
キーワード	家族(祖父母、親、子ども、きょうだい、親戚)、家族看護過程、家族発達理論、家族システム論、家族ストレス理論		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	看護の対象として家族の理解を深めながら、出産、発達、疾病、入院等による個々の家族成員の変化が家族全体にもたらす影響を考え、柔軟で多様な価値観のもとに行う家族看護のプロセスや基本的な理論と研究、具体的な実践方法について学習する。		
授業の内容	家族看護に関する基本的知識を学習し、既習事項を活用しながら家族の看護問題を解決するための家族看護過程を展開する。事例検討のグループワークと発表を行う。		
成績評価の方法	授業態度、講義で提示したレポート提出は必須		
テキスト	メヂカルフレンド社 家族看護学入門		
参考文献	南江堂 家族看護学		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	看護専門科目に関する既習事項を想起し、家族看護過程に活用すること。個人的なことだけに活用するのではなく看護の専門職としての視点で講義に臨むこと。		

授業科目名	公衆衛生看護活動論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	水馬 朋子, 他		
研究室の場所	三原キャンパス 3417研究室 (水馬)		
オフィスアワー	面談は随時(要予約) 場所は教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業及びグループワーク・演習。 講義を行った後に演習を行い、知識と技術の統合を図る。 必要に応じて、事例検討等グループで検討を行い、グループごとの発表をする。 学生は、講義及び演習に積極的に参加することが望まれる。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択 (保健師選択課程は必修)
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	地域の健康課題, 保健計画と保健事業との関連性, 健康教育, 保健師の役割, ライフサイクルにおける保健指導		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域に生活する人々の保健行動の特性を基に、地域における個人・集団活動や組織的取り組みを通じて、地域の健康課題を組織的に解決する能力を修得する。このため、地域診断結果を反映した保健計画の策定及び評価について実践方法を理解する。また、集団指導の活動方法として健康教育の考え方と方法を理解する。 集団と共に個別指導の重要性を理解する。障がい児及び障がい者・難病・精神保健・高齢者保健・成人保健におけるライフサイクルの特性を踏まえながら専門的知識と技術を用いて地域の健康課題解決に向けて取り組む専門的支援技術・方法を理解する。		
授業の内容	公衆衛生看護活動を実践するに当たり、地域の看護職として公衆衛生看護活動の実践方法の基本を学ぶ。その活動方法として、地域診断の方法を公衆衛生看護活動論Ⅰで学習しているの、地域診断結果を基に保健計画策定及び評価について具体的な方法を学ぶ。 次に、保健計画の事業の1つである健康教育の考え方と実施方法を学ぶ。 さらに、地域の健康問題の解決のために、ライフサイクル別(母子・障がい児及び障がい者・難病・精神保健・高齢者保健・成人保健)の支援技術並びに活動方法を学ぶ。 特に、知識と技術の統合を図るために、個人・集団の保健指導の活動方法について演習を通して方法・技術を学ぶ。 公衆衛生看護活動の理念と活動方法を修得し、保健福祉政策との関連を考え、社会資源を活用した支援方法を理解する。		
成績評価の方法	出席回数・態度、演習、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。		
テキスト	最新保健学講座2 公衆衛生看護支援技術, 村嶋幸代 最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論①, 金川克子 最新保健学講座4 公衆衛生看護活動論②, 金川克子 最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論, 平野かよ子 メヂカルフレンド社2013, 国民衛生の動向2014/2015, 厚生統計協会		
参考文献	参考文献: 中村 裕美子『標準保健師講座2 地域看護技術 第2版』医学書院 鳩野洋子訳『ヘルスプロモーションの評価』医学書院 最新保健学講座別巻1 健康教育論メヂカルフレンド社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	講義には、関連書籍を読み、自らの考えや意見が述べられるようにして講義に取り組むこと。事例検討などを行った場合、レポート提出が義務付けられるが、参考にした文献は、著者名・題名・出版社名・発行年・引用ページを明記すること。 定期試験は、本学において規定された不正行為を禁止する。 なお、インターネットや表計算ソフトを使用することが望ましい。		

授業科目名	公衆衛生看護活動論Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	笠置恵子 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3422研究室(笠置)		
オフィスアワー	面接は随時(要予約) 場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業である。講義と演習を組み合わせで行う。学生は授業に出席し、課題レポートを作成、提出すること、到達度により小テストを課すこともある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択 (保健師選択課程は必修)
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	産業保健:労働と健康、産業保健活動、産業保健師 学校保健:学校保健安全法、養護教諭、学校教育と健康管理、ライフスキル		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	公衆衛生看護の大きな柱である産業保健と学校保健について、基本的な知識や技術を理解する。授業の目標として、産業保健および学校保健における看護活動を学ぶ。産業保健・学校保健に関連する制度・法的基盤を理解するとともに看護の理念と活動を理解する。		
授業の内容	産業保健は産業と保健・看護の発展と歴史的経緯、産業保健・看護の対象の特性、産業保健・看護の制度とシステム、労働衛生の現状、産業看護職の役割(産業保健・看護における主な健康課題と対策、作業性起因性健康障害の予防、一般的な健康対策、地域保健や学校保健との連携)等について学習する。 学校保健は、学校保健の歴史と現状、制度(法体系、学校保健、保健室の機能、運営、安全管理、安全教育、学校給食)について学ぶ。なお、健康課題である発達段階別健康課題、不登校、障がい児、特別支援教育について理解する。養護教諭の職務である学校保健計画、健康診断と事後処置、健康教育、学校安全管理などについて学習する。		
成績評価の方法	講義や演習の参加態度、課題レポート、小テスト等により総合的に評価する。課題レポートの提出方法に関しては、授業時間内に指示する		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	金井克子編集:最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論Ⅰ メヂカルフレンド社 平成25年		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	地域の中での産業や学校という集団に属する人々のニーズや保健指導にかかわる諸制度は、社会とともに変化するものであるため、新聞を読み、対象の健康課題や制度の課題、保健指導の内容などを考える習慣をつけるよう努める		

授業科目名	在宅看護論		
担当教員氏名(助手氏名)	岡田 麻里 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3416研究室 (岡田)		
オフィスアワー	面接は随時(要予約) 場所は研究室		
授業の形式・方式	講義日程に従った対面授業(主に講義形式)で行う。学生は積極的に参加すること,課題を提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	在宅看護、QOLの向上、生活と医療の統合、多職種連携、地域包括ケアシステム、継続看護		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	在宅看護論は、基礎看護教育の中で統合分野として位置づけられている。すなわち、基礎看護学および他の専門領域で学んだ看護の知識と技術を、その人が暮らしている生活(の場)にあわせて提供するために、看護の応用力を学ぶ科目である。社会の高齢化、病院から地域完結型医療の流れ、人々の価値観の多様化など、社会が求める看護へのニーズは多様化・複雑化している。そのため在宅看護論の目標は、どのような場(状況)においても、当事者とその家族の主体性と意思決定を支え、多職種と連携し地域の資源を活用しながら、その人がその人らしく地域で生活することを支援していくための、基本的な知識と思考過程、概念と理論を学ぶこととする。		
授業の内容	在宅看護論の授業の内容は、主に、「在宅看護概論」「在宅援助論」「在宅看護過程」「倫理的課題」「継続看護マネジメントとチームケア」「在宅看護のこれから」というテーマに沿って行う。講義形式が中心であるが、ワークシートを用いてグループワークや演習も行う。「健康問題を抱えて暮らす人への支援の実際」というテーマで、現場で働く訪問看護師による講義も取り入れる。		
成績評価の方法	出席回数・意欲・提出物の状態・定期試験などで総合的に行う。		
テキスト	渡辺裕子. 家族看護を基盤とした在宅看護論Ⅰ概論編. 日本看護協会出版会, 2014. 渡辺裕子. 家族看護を基盤とした在宅看護論Ⅱ実践編. 日本看護協会出版会, 2014.		
参考文献	継続看護マネジメントー生活と医療を統合する看護学ー医歯薬出版		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	対話形式で講義は進められるので関連書籍を読み、自らの考えが述べられるようにして講義にのぞむこと。定期試験は本学に規定された不正行為を禁止する。		



授業科目名	看護管理論		
担当教員氏名(助手氏名)	折山 早苗, 吉田 なよこ, 原田 仁美[非常勤講師]		
研究室の場所	三原キャンパス 3522研究室 (折山) , 3418研究室 (吉田)		
オフィスアワー	随時 (要予約)		
授業の形式・方式	対面授業 (主に講義形式) で行う		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	看護管理、マネジメント、教育		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	医療チームのメンバーの一員として、質の高い看護を効果的に提供するための、マネジメントに関するスキルを学び、実践できるようになるための基礎的知識、態度を学ぶ。統合実習および卒後の看護実践に応用できる基礎的能力を養う。		
授業の内容	マネジメント理論の歴史を学び、看護提供方式や病院・看護組織について理解を深める。また、管理のプロセスを学ぶことで、効果的な看護管理について理解を深める。また、病院・看護管理に関する政策や動向について学び、現在ある課題についても学ぶ。		
成績評価の方法	評価は筆記試験とレポート、出席状況とする。		
テキスト	看護管理学 南江堂		
参考文献	講義で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業の出席に際しては、予定されている単元について、テキストを前もって読んで臨むこと。配布資料も同様である。		

授業科目名	災害看護		
担当教員氏名(助手氏名)	宮本 奈美子・日高 陵好・山中 道代・永井 庸央		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時対応		
授業の形式・方式	対面式授業。講義および演習（グループワーク）を組み合わせる。		
単位数(時間数)	1単位（15時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修（保健師選択課程は選択）
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	災害医療・防災・DMAT・避難所・被災者・要援護者・看護支援・救援者		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>これまで学んだ看護の知識と技術を基にし、災害という危機的状況下での看護支援を理解する基礎となる学習を行う。具体的には災害の定義と災害の種類・サイクル、災害時の制度と支援システム、被災者に起こりうる看護上の問題、災害各期の看護、救援者支援に関する基本的知識を学ぶ。様々な課題設定での演習（グループワーク）を通して、災害時に看護学生としてどう行動するかを自ら考える機会とし、同時に看護支援に向けての基礎理解を目標とする。</p> <p>本科目は統合分野の中の「看護の統合と実践」の一つに位置付けられる。</p>		
授業の内容	<p>授業では以下の内容を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①災害および災害看護の概要</li> <li>②地域の防災対策の把握と災害時の行動</li> <li>③対象者に応じた支援</li> <li>④災害医療支援チーム(DMAT)の活動の実際</li> <li>⑤避難所における支援の実際</li> </ol>		
成績評価の方法	授業への参加度・課題レポート・グループワークへの参加度		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>* ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護（メディカ出版）</li> <li>* 授業時の配布資料</li> </ul>		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 災害看護学習テキスト 概論編・実践編（日本看護協会出版会）他</li> </ul>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	一部のグループワークには事前課題があります。積極的に授業に参加しましょう。互いに話し合っ考える時間です。		

授業科目名	看護倫理		
担当教員氏名(助手氏名)	松森 直美 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3520研究室 (松森)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修 (保健師選択過程は選択)
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	基本的人権、個人の尊厳、医療の倫理原則、ケアリング、患者の権利、倫理綱領、権利擁護、看護の役割、安全確保、抑制・拘束、インフォームドコンセント、自己決定、代理意思決定、個人情報保護		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	看護倫理にかかわる基本的内容を学習し、患者家族の意向確認と権利の尊重など臨床における看護倫理の実際と課題、解決法を学習する。		
授業の内容	看護倫理に関する基礎的知識の講義と看護倫理の場面や事例検討を行う。		
成績評価の方法	授業態度、毎回のレポート提出(必須)を総合的に評価する		
テキスト	南江堂 看護倫理		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	既習事項を統合しグループ間での意見交換を積極的に行う姿勢をもつこと。解決策に至るまでの討議課程を重視する。		

授業科目名	小児看護実習		
担当教員氏名(助手氏名)	松森 直美, 土路生 明美, 鴨下 加代		
研究室の場所	三原キャンパス 3520 (松森), 3407 (土路生), 3409 (鴨下)		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	1週目に保育所実習、2~3週目に医療施設実習を行う。日程により学内にてオリエンテーション、技術演習、カンファレンス、まとめを行う。		
単位数(時間数)	3単位 (135時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科4年生対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	小児看護、子ども、家族、成長・発達、小児期特有の疾患・症状・障害、保育活動、遊び、小児看護技術、フィジカルアセスメント、検査・処置、治療、子どもの権利保護、倫理的ジレンマ、主体性		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	成長発達が著しい時期にある小児とその家族を総合的に理解し、健康の保持・増進・回復に向け看護を実践する基礎的能力を養う。・保育所では、保育活動への参加を通して、地域で暮らす子どもと家族の様子や乳幼児の成長発達の特徴を理解し、日常生活の援助の方法、育児支援の在り方を学び、看護に広く応用する。・医療施設では、発達・健康障害をもつ小児とその家族に必要な看護を判断し、個別的な看護援助の方法を学ぶ。		
授業の内容	1週目の保育所実習では、クラスに入り成長発達に応じた日常生活の援助の実践や保育活動への参加を通して、講義で学んだ乳幼児の成長発達の特徴や関わり方について実際の場面からより深く理解し、乳幼児を取り巻く環境、育児支援の場に対する社会的ニーズと看護に必要な役割・機能について考察する。2~3週目の医療施設実習は、総合病院の小児病棟および医療センターと養護学校を併設する障害児施設のいずれかで行う。入院または入所している小児を受け持ち、健康上のニーズをもつ小児とその家族の理解を深め、看護過程の展開を通して小児とその家族の人格を尊重した関わりや関係職種の活動内容、チーム医療の実践を学び、小児看護の役割について考える。3週目の木曜日は、多様な小児看護の場を知ることが目的として、もう一方の施設において見学実習を行う。最終日は学内で各実習を統合するカンファレンスを行い個々の学びを共有する。		
成績評価の方法	保育所実習と医療施設実習における提出物、実習状況(出席状況、態度、目標の到達度)を総合して評価する。(臨地実習要綱および小児看護実習要綱を参照)		
テキスト	講義で紹介した文献、教科書この他に随時紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	小児各期における発達段階の特徴とそれに適した看護の要点や実習要綱に示した事前学習の内容を参考に既習事項を実践に活用できるようまとめておくこと。(講義・演習・グループワークで作成した課題を活用すること) 小児感染症の自己の抗体価の把握は必須である。感染症に罹患した場合は臨地実習ができなくなる場合があるので、手洗い・含嗽を習慣づけ、健康管理に十分留意すること 感染症に罹患した場合や体調不良の場合は担当教員および臨床指導者と相談の上実習を進めるので必ず申し出ること。 担当教員の許可なく医療や看護行為を単独で実施したり患者・家族に接触したりしないこと。		

授業科目名	精神看護方法論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	井上誠 宮本奈美子 近藤美也子 木村幸生		
研究室の場所	三原キャンパス 3501研究室(井上), 3515研究室(宮本), 3410研究室(近藤, 木村)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義・グループワーク・課題発表		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係わる必修科目		
キーワード	・精神疾患患者・病態生理・検査と治療・患者-看護師関係・自己理解と他者理解・コミュニケーション技術・精神科リハビリテーション・セルフケア援助・看護過程・行動制限と倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	精神看護概論と精神看護方法論Ⅰの総まとめである。精神看護実習直前の講義である。主な精神疾患(統合失調症・躁鬱症状など)について看護展開ができる。精神科看護の特殊性とリスクマネジメントを関連付けて説明できる。患者-看護師関係の発展過程・対人援助における自己理解と他者理解について考え説明できる。精神疾患患者とのコミュニケーションの取り方・集団と個をみる視点を深めることができる。精神看護の活用技法を説明できる。精神症状のアセスメントとケアプランを立てることができ説明できる。セルフケア援助に基づく看護過程を展開できる。本科目は精神看護実習に直結する重要な科目として位置づけられる。		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員をはじめ、臨床看護師によるアドバイス、助言を受けながら精神疾患患者の在り様や精神科看護師による看護援助の実際を聴き、グループワークを通して精神科看護学のまとめを行う。</li> <li>・課題学習・課題によるグループワークによって主な精神疾患の発症要因(特に統合失調症)・病態生理や検査や治療を総合的に考え、精神疾患患者への理解を深める。</li> <li>・グループワークによって精神看護実習前の総まとめをこの講義で行う。</li> </ul>		
成績評価の方法	出席 演習での積極性 課題発表によって成績をつけます		
テキスト	特にありませんが 予めプリントを配布致します		
参考文献	精神看護概論 精神看護方法論Ⅰのテキスト		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	2日間の集中講義である。講義⇒演習⇒課題発表 何か不安なことなどありましたら精神看護教員までお知らせください。		

授業科目名	精神看護実習		
担当教員氏名(助手氏名)	井上 誠, 宮本 奈美子, 近藤 美也子, 木村 幸生		
研究室の場所	三原キャンパス 3501研究室(井上), 3515研究室(宮本), 3410研究室(近藤, 木村)		
オフィスアワー	特になし		
授業の形式・方式	臨地実習: 急性期(閉鎖病棟)・慢性期(開放病棟) 施設見学・体験: 精神科病院・通所授産施設・生活訓練施設・福祉ホーム		
単位数(時間数)	3単位 (135時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	精神疾患患者, 患者-看護師関係, 看護過程, セルフケア援助, 社会復帰支援, 社会資源, 精神保健福祉法, 精神看護の倫理性, チーム医療		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	精神に障がいを持つ対象とその家族を総合的に理解し, 日常生活の自立に向けて, 個別性に応じた看護を実践できる基礎的な能力を身につけるとともに, 対象の社会復帰を支える社会資源の実際について学ぶ。患者-学生(看護師)関係を発展させる過程を通して, 看護師の治療的自己活用のあり方について理解を深める。臨地実習を通じて, 自らのメンタルヘルスを保つ能力を養う。「精神看護学特論」「精神看護方法論Ⅰ」「精神看護方法論Ⅱ」で学んだ知識・技術・態度を臨床での実践を通じて統合する科目として位置づけられる。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対人関係技術を活用し, 患者-学生(看護師)関係を発展させる。</li> <li>2. 精神疾患を持つ対象と家族について総合的(身体的, 心理的, 社会的)な観点から理解を深める。</li> <li>3. 精神疾患を持つ患者の看護過程(精神症状とセルフケア状態のアセスメント・看護計画の立案, 実施, 評価)を展開する。</li> <li>4. 精神看護の倫理性について考えを深める。</li> <li>5. 社会復帰を支える社会資源の実際と地域社会の現状を学ぶ。</li> <li>6. 精神保健医療福祉における看護職の役割と他職種との連携の実際を学ぶ。</li> <li>7. 精神科看護師の役割・リーダーの役割を学ぶ。</li> </ol>		
成績評価の方法	出席・実習状況(態度・意欲・看護実践)・実習記録・課題レポートを総合して評価する。		
テキスト	ナーシング・グラフィカ 精神看護学(2): 精神障害と看護の実際 第3版 北里大学 看護学部教授 出口 禎子		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>精神看護実習要綱に示した事前学習の内容を参考にし, 既習事項を実践に活用できるよう整理しておくこと。実習では対象を分かるよう, 理解しようとする姿勢が大切である。 また, 実習態度・接遇は看護師になる以上必要不可欠である為, 重要とする。</p> <p>感染・発熱・体調不良がある場合は必ず教員に病棟に入る前に知らせること。 携帯など病院内持ち込み禁止とする。病院敷地内で写メールなど禁止する。車での実習乗り入れはできません。詳細は実習前オリエンテーションにて説明致します。</p>		

授業科目名	公衆衛生看護活動論Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	水馬 朋子 他		
研究室の場所	三原キャンパス 3417研究室		
オフィスアワー	随時（事前にメール等で要予約）		
授業の形式・方式	対面授業 授業内容に応じて課題に対するレポート作成、プレゼンテーション		
単位数(時間数)	2単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択（保健師選択過程は必修）
履修要件	看護学科4年次生対象		
免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	地域診断，家庭訪問，健康教育，保健指導，住民主体の活動		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>公衆衛生看護学における行政・学校・産業保健の活動方法について理解を深める。特に、ライフステージの特性及び活動の場の特性に対応した実践的活動方法を具体的に理解する。</p> <p>公衆衛生看護活動の基本的技術をマスターしたうえで、公衆衛生看護実習に臨む。</p>		
授業の内容	<p>公衆衛生看護活動を実践するにあたり、保健師の地域活動の実践方法の基本を実習事例を用いて具体的に学び、地域活動の展開方法を学習する。特に、公衆衛生看護実習において担当する地域または実習施設の概要について情報収集し、地域における具体的展開方法を考える。さらに、担当地域の地域診断を実施し、地域課題の構造化を行う。その過程を通して健康課題を特定し、それを基に健康教育の実施に向けた準備を行う。また、家庭訪問の技法の基本について理解を深め、訪問計画を事前に作成する。また、学校保健・産業保健のケアシステムを理解し、保健活動の実践方法のポイントをつかむ。</p>		
成績評価の方法	課題レポートと授業参加状況から総合的に行う。		
テキスト	最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論，平野かよ子，メヂカルフレンド社，2013		
参考文献	標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論，標美奈子他，医学書院，2015		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>自分の生活している地域の、人々の生活状況を把握し、人間理解や地域の生活を具体的に理解する努力をしましょう。</p> <p>新聞等メディアで、話題になっている健康情報を知り、住民のニーズをリサーチしましょう。</p>		

授業科目名	公衆衛生看護実習 I (県・市町)		
担当教員氏名(助手氏名)	笠置恵子 水馬朋子 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3422研究室 (笠置) , 3417研究室 (水馬)		
オフィスアワー	特に指定しない		
授業の形式・方式	臨地実習保健所・市町村 (保健センター等) において実習を行う。		
単位数(時間数)	3単位 (135時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択 (保健師選択過程は必修)
履修要件	看護学科4年次対象		
免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	公衆衛生看護、保健所、市町村		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域における看護活動への参加を通じて地域看護の基礎的な実践能力を身につける。本実習においては、保健所および市町村 (保健センター等) における公衆衛生看護活動について学習する。		
授業の内容	<p>&lt;保健所&gt; 1 公衆衛生看護活動の展開、2 地域で生活する人々の社会資源の活用、3 保健所の機能と役割、4 地域看護活動とその関連領域との連携、5 保健所の危機管理体制、6 公衆衛生行政における看護職の倫理</p> <p>&lt;市町村 (保健センター等)&gt; 1 地域で生活する人々の発達段階に応じた健康状態の把握と健康支援、2 地域で生活する人々のニーズに応じた看護の提供、3 地域看護活動における関連機関との連携、4 地域看護活動の実践機関である市町村の機能と役割、5 看護職の倫理、6 事故や災害時の対応</p> <p>具体的な実習計画については、実習要綱に示す。</p>		
成績評価の方法	臨地実習への積極的な取り組む態度、実習日誌、健康教育指導案、家庭訪問記録、課題レポート等で総合的に行う		
テキスト	講義で使用したテキストおよび配布資料、国民衛生の動向		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実習計画に沿って自主的に事前学習を行うこと。新聞など健康に関する情報等についても関心を持つこと。実習中は睡眠不足、食欲不振にならないように生活リズムを整え、健康管理に留意すること。		



授業科目名	公衆衛生看護実習Ⅱ（産業・学校）		
担当教員氏名(助手氏名)	笠置恵子 水馬朋子 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3422研究室（笠置），3417研究室（水馬）		
オフィスアワー	特に指定しない		
授業の形式・方式	臨地実習 小学校・中学校および事業所にて実習を行う		
単位数(時間数)	2単位（90時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択（保健師選択過程は必修）
履修要件	看護学科4年次対象		
免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	学校保健、産業保健、養護教諭、労働安全衛生		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域における看護活動への参加を通じて地域看護の基礎的な実践能力を身につける。本実習においては、小学校・中学校および事業所における保健活動について学習する。		
授業の内容	<p>&lt;小学校・中学校&gt; 1 小学校の保健安全計画の立案・運営、2 児童・生徒の健康実態と問題解決の方法・技術、3 校内と学校周辺の環境における衛生や安全の問題解決方法、4 学校教育活動における養護教諭の役割と校内関係職員との協働および保護者への指導、5 学校保健と地域保健との連携、6 事故や災害時の対応、7 教職員の倫理</p> <p>&lt;事業所&gt; 1 働く人々の健康課題について、2 健康管理部門の機能と役割について、3 健康管理における看護職の役割について、4 健康支援の意義と役割について、5 産業看護と地域看護の連携について、6 産業活動における看護職の倫理について、7 事業グループの一員としての役割について</p> <p>具体的な実習計画については、実習要綱に示す。</p>		
成績評価の方法	臨地実習への積極的な取り組み、実習日誌、課題レポート等で総合的に行う		
テキスト	今までの講義で使用したテキストおよび配布資料、国民衛生の動向		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	実習計画に沿って自主的に事前学習を行うこと。新聞など健康に関する情報等についても関心を持つこと。実習中は睡眠不足、食欲不振にならないように生活リズムを整え、健康管理に留意すること。		

授業科目名	在宅看護実習（訪問）		
担当教員氏名(助手氏名)	岡田麻里 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3416研究室（岡田）		
オフィスアワー	特に指定しない		
授業の形式・方式	臨地実習・訪問看護ステーションにおいて実習を行う		
単位数(時間数)	1単位（45時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	継続看護、訪問看護、社会資源、地域ケアシステム、連携		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	在宅看護の対象となる人々と家族を理解し、生活の場における看護実践の特性と看護過程および看護技術の専門性を理解し、健康課題の予防・対処をしながら地域を基盤としたケアシステムの重要性と関係職種間の連携・協働を学ぶ。		
授業の内容	①オリエンテーション（事例展開演習）、②訪問看護ステーションでの臨地実習（訪問看護師との同行訪問）、③学内カンファレンスでの学びの振り返りと共有		
成績評価の方法	事前学習、出席状況、実習日誌、訪問看護記録、成果発表資料等で総合的に行う		
テキスト	講義で使用したテキストおよび配布資料、教科書など		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実習計画に沿って自主的に事前学習を行うこと。新聞など健康に関する情報等についても関心をもつこと。実習中は睡眠不足、食欲不振にならないように生活リズムを整え、健康管理に留意すること。		

授業科目名	理学療法学概論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	田中聡, 小野武也, 沖田一彦, 金井秀作, 梅井凡子, 島谷康司, 長谷川正哉, 武本秀徳, 高宮尚美, 積山和加子, 金指美帆		
研究室の場所	三原キャンパス 2513田中研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日の12時から13時, 場所は2513研究室. (これ以外の面談は要予約)		
授業の形式・方式	授業は対面方式で展開します。講義の受講の際には, 事前に教科書や参考図書などを読んでから望むと授業の理解を深める上で有効です。今後の理学療法専門科目の基礎となる入門科目となりますので, 緊張感を持って授業に望んで下さい。学生は, 授業に出席し試験を受けることが義務付けられます。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科1年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	リハビリテーション, リハビリテーション医学, チーム医療, 理学療法士法, 運動療法, 物理療法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	授業では, ①理学療法(士)の総合リハビリテーションとくにリハビリテーション医学の中での位置付けに理解, ②基礎的知識として理学療法の対象となる障害の階層性について理解する, ③理学療法士法などの法規理解と理学療法倫理規定などの理解, の3点を大項目としての目標とします。本科目は, 厚生労働省が定める理学療法士養成のための指定規則の基礎理学療法に位置付けられています。		
授業の内容	理学療法の定義と歴史, リハビリテーションチームにおける理学療法の位置付け, および基本的な理学療法の実践について教授します。とくに, 発症から社会復帰までの過程における理学療法(士)の役割と責任を法規の上からも明確にし, 保健・医療・福祉を統合的に考察する基礎能力を身に付けさせます。また, 理学療法の学問体系と技術体系を説明し理学療法(士)に対する興味と理解を促します。さらに, 職能団体である理学療法士協会の活動に触れることで, 理学療法士倫理および生涯教育などについても紹介します。加えて各教員の研究紹介を行い, 幅広く理学療法(士)の理解を深めます。		
成績評価の方法	成績評価は, 期末試験80%, 課題レポート20%の割合で評価します。試験は指定された日に, 指定された試験室(教室)にて, 資料の持込不可で実施します。課題に関しては, 講義の展開に応じて別途指示をします。		
テキスト	細田多穂監修『シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト 改訂第2版』南江堂		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	これからの理学療法学関連授業の基礎となりますので, 真剣に取り組むことを希望します。		

授業科目名	理学療法評価学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	小野 武也		
研究室の場所	三原キャンパス 4431研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日昼休み, 場所は研究室. これ以外の面談は要予約.		
授業の形式・方式	対面授業. 授業日程に従って, 講義と演習形式で実施します. 講義の受講にあたり, 事前配布資料や参考図書を読んでおくことが授業の理解を深める上で有効です. 必要に応じてレポート課題を課し, 指定した日に提出させます. 学生は, 授業に出席し, 課題レポートを作成・提出すること, 試験を受けることが義務付けられます.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	量育測定, 幅育測定, 姿勢評価, 関節可動域検査		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業では, 運動器疾患の基本的評価について理解することが目標です. 本講義は厚生労働省が定める理学療法士養成のための指摘規則の理学療法評価学に位置づけられています.		
授業の内容	運動器疾患に関わる各種の検査について教授します. 具体的には, 量育測定, 幅育測定, 姿勢の評価, 脊柱の評価, 下肢アライメント, 関節可動域検査などをとりあげ, それらの理論と方法論について講義と演習を通して理解します. また, 得られた情報としての検査測定結果を統合解釈して問題点を抽出し治療目標設定および治療計画立案を行うという一連の理学療法実施手順について概説します.		
成績評価の方法	成績評価は, およそ期末試験45%, 実技試験45%, 出席および出席態度10%の割合で評価します. 試験は指定された教室(試験室)内で, 持ち込み不可で実施します. 期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施します. レポートの課題および提出期限は別途指示します.		
テキスト	テキスト: 細田多穂 「理学療法評価学テキスト」 南江堂		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 正式には教務課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行います. 試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止します. 不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応します. 実習時には実習のできる服装を着用のうえ参加してください. また大学のバスタオルを準備してください.		

授業科目名	理学療法評価学Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	金井 秀作		
研究室の場所	三原キャンパス 4421研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日12時から13時 これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業および実習形式で行う。学生は授業および実習に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	徒手筋力検査法, 筋力, 運動麻痺		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	筋力と運動麻痺に関する評価手法を学ぶ。筋力については徒手評価を学習し、運動麻痺については理学療法を実施する上で重要な神経生理学的評価を学習する。		
授業の内容	1 ①検査と測定と評価について(復習) ②基礎知識としての「筋と筋力」「筋力低下」 2 ①徒手筋力評価実技:頭部体幹 ②徒手筋力評価実技:上肢 3 ①徒手筋力評価実技:上肢 ②徒手筋力評価実技:手指 4 ①-②徒手筋力評価実技:下肢 5 ①徒手筋力評価実技:下肢 ②徒手筋力評価実技:その他・変法 6 ①基礎知識としての「中枢神経評価」と「運動麻痺」 ②神経学的評価実技:運動機能 7 ①-②神経学的評価実技:反射,筋緊張,感覚,錐体路系,錐体外路系 8 ①補習		
成績評価の方法	筆記試験(100%)を行う。さらに毎日実施する小テストの平均点(10%)を筆記試験が60%未満の者に限りこの点数加えて評価する。60%以上を合格歳とし、再試験等は一切行わない。		
テキスト	教科書:細田多穂監修『シンプル理学療法学シリーズ:理学療法評価学テキスト』(南江堂),津山直一(訳)『新・徒手筋力検査法《原著第8版》』(協同医書)		
参考文献	Florence P. Kendall, Elizabeth K. McCreary『Muscles: Testing and Function《4th》』		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実技ができる(動きやすい)服装で望むこと。必要に応じてTシャツ短パンに着替えてもらいます。		

授業科目名	理学療法学研究法 I		
担当教員氏名(助手氏名)	梅井 凡子 ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	教員研究室にて実施，面談は要予約のため事前にメールにて日程を予約すること。		
授業の形式・方式	対面授業を中心とし，主担当教員による講義およびオムニバス形式にて各教員の専門分野の提示（スライドを用いたプレゼンテーション）を行う。		
単位数(時間数)	1単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	研究法，研究計画，卒業研究ゼミ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	理学療法学における研究の必要性を理解し，各教員からの実際の研究方法や成果の報告を聞くことで卒業研究を遂行するための基本を学ぶ。		
授業の内容	理学療法研究法 I では，研究法の基本を学び，各担当教員の実際の研究に触れることによって，理学療法の研究的側面について理解を深める。なお研究論文の読み合わせや講義，簡単な実験などを通じて，研究計画の立案，目的の明確化，対象の選択，研究法の検討，結果の出し方と解釈の方法，考察の進め方，さらには文献収集の方法などについて学ぶ。		
成績評価の方法	各教員プレゼンテーションに対する感想レポート（書式指定）および知識確認テストにより評価を行う。		
テキスト	指定なし		
参考文献	必要に応じ配布		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	提出物の期限を厳守すること。 この授業にて卒業研究担当教員を決定する。研究法の内容を学習するのはもちろんのこと，各教員の研究内容をよく聞いて積極的に質問を行い，以後の卒業研究のテーマを吟味すること。なお，卒業研究の担当教員の選考はGPAに加え，3年次の専門科目の内容からテストを実施するため，それまでの講義内容について復習をしておくこと。		

授業科目名	臨床運動学		
担当教員氏名(助手氏名)	長谷川 正哉		
研究室の場所	三原キャンパス 2501研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日12時～13時. 場所は担当教員(長谷川)研究室。これ以外の面談は要予約		
授業の形式・方式	対面授業および演習形式で行う。学生は授業および実習に出席し、期末試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	臨床運動学、運動学、運動解析、動作分析、機能障害		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	運動・動作機能の障害について、‘運動学’視点で構造を理解できる知識・考察力を習得する。		
授業の内容	臨床運動学では、運動学や運動学実習で学んだ正常な身体運動を基にして、動作の捉え方について学ぶ。		
成績評価の方法	筆記試験にて評価を行う。再試験は行わない。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	臨床運動学の修得のためには、まず解剖学、生理学、運動学の基礎科目の理解が重要となります。そのため、2年次までの基礎医学領域(特に解剖学、運動学)および歩行について復習しておいてください。適宜、小テストを実施しますので講義内容について復習をするようにしてください。 また、実技が出来る服装で臨むこと。		

授業科目名	骨関節障害理学療法学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	沖田 一彦, 積山 和加子		
研究室の場所	三原キャンパス 2510研究室 (沖田) , 2320研究室 (積山)		
オフィスアワー	場所は担当教員研究室。面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。テキストに基づいて講義を実施する。講義では実際の症例のスライドやVTR等の情報も提示する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	筋・骨格系運動障害, 四肢, 体幹, 運動療法, 運動機能再教育		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	運動療法は, 筋・骨格系の運動障害に対し整形外科の保存療法として実施されることから始まった歴史的経緯がある。現在においても, 整形外科領域における運動療法が理学療法において大きな比重を占めていることに変わりはない。本授業は, その理論と実際とを具体的な疾患・障害を題材にして学習することを目標としている。		
授業の内容	筋・骨格系運動療法学では, 四肢・体幹の運動器障害に対する運動療法の理論と実際について論ずる。具体的には, 骨折, 変形性関節症, 関節リウマチ, 靭帯損傷といった筋・骨格系に起因する代表的な疾患を取り上げ, 特に整形外科術後の運動機能再教育に重点を置いて講義する。具体的には以下の内容で授業を進める。1) 整形外科領域における運動療法の役割と位置付け, 2) 骨折に対する運動療法 [その1], 3) 骨折に対する運動療法 [その2], 4) 骨折に対する運動療法 [その3], 5) 骨折に対する運動療法 [その4], 6) 骨折に対する運動療法 [その5], 7) 変形性関節症に対する運動療法 [その1], 8) 変形性関節症に対する運動療法 [その2], 9) 変形性関節症に対する運動療法 [その3], 10) 関節リウマチに対する運動療法 [その1], 11) 関節リウマチに対する運動療法 [その2], 12) 靭帯損傷に対する運動療法 [その1], 13) 靭帯損傷に対する運動療法 [その2], 14) 靭帯損傷に対する運動療法 [その3], 15) まとめ, 16) 期末試験		
成績評価の方法	期末試験の成績で評価する。試験は指定された教室(試験室)内において持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。		
テキスト	1) 奈良勲監修『標準理学療法学シリーズ: 運動療法学各論 [第3版]』医学書院)		
参考文献	参考文献: 適時紹介・配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実技を交えて講義を行うので, 実技ができる(動きやすい)服装で臨むこと。		



授業科目名	神経障害理学療法学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡, 高宮 尚美		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	田中：水曜日の12時10分から13時		
授業の形式・方式	対面授業と一部実習形式で行う		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科 3 年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	脳血管障害, 急性期理学療法, 回復期リハビリテーション, 運動麻痺, 運動学習, 高次脳機能障害,		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本講義では, 成人期及び老年期に出現する脳神経疾患の中で, 最も遭遇することの多い脳卒中片麻痺の運動障害について, その特徴と病態を理解します。合わせて脳神経系運動障害に対する運動療法の基本原理と治療プログラムを理解し実践ができるようにします。</p> <p>また, 脳神経疾患患者の生活復帰を支援するための日常生活動作トレーニングについても実技を交え理解を深めます。</p>		
授業の内容	<p>脳血管障害の基礎知識, 脳血管障害の疫学と治療, 脳の機能解剖の理解, 急性期から回復期に至る理学療法の展開とその実践, 高次脳機能障害について, 歩行障害と装具療法。</p> <p>上記の内容について実習, グループワークを通して学ぶ。</p>		
成績評価の方法	筆記試験を行う		
テキスト	石川朗総編集 『理学療法テキスト：神経障害理学療法 I』 中山書店		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実習形式の講義もあるので積極的に参加してほしい		

授業科目名	小児発達障害理学療法学		
担当教員氏名(助手氏名)	島谷 康司		
研究室の場所	三原キャンパス 4429研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日の昼休み, 場所は4429研究室. これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	授業日程に従い, 講義と実習形式で実施する。学生は, 授業に出席し, 試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	発達, 評価, 運動療法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>脳性麻痺やその他小児疾患の多彩な臨床症状を含めた運動障害像を理解し, それに対する評価法, 早期発達指導と運動療法の治療体系について説明できることを目標とする。具体的には, 原始反射や姿勢反射, 知覚や粗大運動などの正常発達と異常発達について説明ができ, これらの基礎知識と検査方法について関連付けることができる。さらに, 理学療法評価結果をもとに, 治療方法が選択できる。</p>		
授業の内容	<p>まず, 正常運動発達と異常運動発達について教科書, 資料, ビデオ教材等を用いて講義を実施する。次に, 教科書, 資料を用いて発達評価の概要と評価方法について教授する。さらに, 治療原理を理解したうえで発達や障害に応じた運動療法について知識を深める。最後に, 模擬症例を用いた発達評価と治療の立案を行う。注)授業の進展状況に応じて内容を変更する場合がある。</p>		
成績評価の方法	授業態度, 中間試験, 期末試験の成績で評価する。		
テキスト	イラストでわかる小児理学療法 (医歯薬出版)		
参考文献	脳性麻痺リハビリテーションガイドライン(医学書院) 脳性麻痺ハンドブック (医歯薬出版) 脳性麻痺と機能訓練 運動障害の本質と訓練の実際 (南江堂)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	人間発達学・発達心理学・小児科学を復習しておくこと。 毎回の授業の予習と復習をしておくこと。		

授業科目名	内部障害理学療法学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	長谷川 正哉, 田坂 厚志[非常勤講師], 金指 美帆		
研究室の場所	三原キャンパス 2501研究室 (長谷川)		
オフィスアワー	毎週水曜日12時~13時. 場所は担当教員 (長谷川) 研究室. これ以外の面談は要予約		
授業の形式・方式	対面授業。オムニバス方式。スライド、資料、ビデオを活用しながら教授する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	運動療法、呼吸器系疾患、循環器系疾患、代謝系疾患。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、理学療法学科「専門領域特有の科目」の障害・治療系理学療法学の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	<p>(概要) 内部障害系運動療法学では、呼吸器系疾患、循環器系疾患、代謝系疾患に対する運動療法の基礎原理と実際について教授する。講義では、運動療法を行う上で重要な生理機能の測定や運動負荷試験などの評価・測定方法を解説し、それらの評価・測定結果に基づいた運動処方作成過程についても理解を深める。</p> <p>【オムニバス形式】  (長谷川, 新任) リンパ浮腫に関する複合的理学療法および吸引について教授する。  (田坂) 循環器系疾患に対する運動療法について教授する。</p>		
成績評価の方法	授業への参加態度, レポート, 期末試験の結果より評価する。		
テキスト			
参考文献	参考文献 (田坂) 齋藤宗靖・他編『狭心症・心筋梗塞のリハビリテーション 改訂第4版』 (南江堂) 2009		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実技ができる (動きやすい) 服装で臨むこと。必要に応じてTシャツ、短パンに着替える場合があります。		

授業科目名	物理療法学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡, 長谷川 正哉		
研究室の場所	三原キャンパス 2513研究室(田中), 2501研究室(長谷川)		
オフィスアワー	田中: 毎週水曜日12時から13時。長谷川: 毎週月曜日12時から13時。これ以外の面談は要予約		
授業の形式・方式	講義ならびに演習形式で講義を行います。5グループに分けて実習を行います。各療法毎に実習課題を提示するのでレポートを作成し提出してください。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	光線療法, 牽引療法, 振動刺激, 水治療法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	物理療法学は、水、熱、光、電気、徒手などの物理的手段を用いた治療手段であり、患部の疼痛や循環障害を改善することを目的としています。 本講義では、実際の物理療法機器を用いて、温度や出力の適正値の設定や適応、禁忌などリスク管理の学習を重点に理解します。また、各種物理的刺激に対する生体の反応の実験も同時に行います。さらに、物理療法と運動療法、日常生活活動指導、義肢装具療法などと組み合わせた治療ができるよう具体的に教授します。 本講義を受けることにより、医師から処方される各種物理療法の内容を理解したうえで安全に治療の実践できることをめざします。		
授業の内容	1) オリエンテーション, 2) 光線療法, 3) 電磁波療法, 4) レーザー療法, 5) 超音波療法, 6) 牽引療法およびマッサージ療法, 7) バイオフィードバック療法, 8) 水治療法, 9) 振動刺激療法, 10) 各種疾患を想定した各療法の実践演習を行う。		
成績評価の方法	課題レポートと筆記(80点)及び実技試験(20点)の成績で評価を行う。		
テキスト	教科書: シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト改訂第2版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	短パン, Tシャツを用意してもらい実習があります。 レポートは指定された書式で提出すること。		

授業科目名	義肢装具学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	長谷川 正哉, 田中聡		
研究室の場所	三原キャンパス 2501研究室(長谷川), 2513研究室(田中)		
オフィスアワー	毎週水曜日12時~13時. 場所は2501研究室(長谷川)。これ以外の面談は要予約		
授業の形式・方式	対面形式・実習方式で授業を展開します。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	切断者、義足、義手、下肢装具、上肢装具、体幹装具、頸椎装具		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	義肢装具学実習では、前期の義肢装具学で学んだところの義肢・装具に関して、その構造・材料・機能・チェックアウトなどにつき、実物を用いて確認していきます。		
授業の内容	義肢装具学実習では、切断者の理学療法実習として、義肢・装具装着前練習、装着練習、応用動作練習の理学療法の実際について教授します。		
成績評価の方法	講義への参加態度, 筆記試験により評価します。		
テキスト	テキスト: 川村次郎編『義肢装具学』(医学書院)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	2年次後期で学んだ義肢装具学Ⅰの再確認をしておいて下さい。		

授業科目名	日常生活活動学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	島谷 康司		
研究室の場所	三原キャンパス 4429研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日の昼休み、場所は4429研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	授業日程に従い、講義と実習形式で実施する。学生は、授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	日常生活活動, 生活関連活動, quality of life		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	食事, 排泄, 整容, 更衣, 移動などの人間の日常生活の基本として遂行される動作遂行に必要な条件を理解することを目標とする。具体的には, 日常生活活動の概念, 疾病を有する患者や障害者の生活自立をめざした指導方法, さらに, 日常生活活動の代表的な評価方法と動作分析について障害像と関連付けて説明できることを目標とする。		
授業の内容	脳血管障害, 整形外科疾患, 神経難病など, 各障害の疾患別に日常生活の特徴を概説する。そして, 解剖学・運動学・生理学の知識から日常生活活動および生活関連活動の分析・評価およびその支援と指導方法について教授する。具体的には, 食事・整容・排泄・更衣・入浴・移動(移乗)や階段などの応用動作について講義の後に実習を行う。 注)必要に応じて授業の内容を変更する場合があります。		
成績評価の方法	授業態度, 期末試験の成績で評価する。		
テキスト	日常生活活動学 (ADL) (医歯薬出版)		
参考文献	日常生活活動のキネシオロジー (医歯薬出版) 標準理学療法「日常生活活動学・生活環境学」 (医学書院)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	解剖学, 運動学, 生理学等の基本を理解しておくこと。また, 脳血管障害, 関節リウマチ, 脊髄損傷, 筋萎縮性側索硬化症などの疾患を復習しておくこと。 授業の予習と復習をしておくこと。		

授業科目名	地域理学療法学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	梅井 凡子, 金指 美帆		
研究室の場所	三原キャンパス 2504研究室(梅井), 2320研究室(金指)		
オフィスアワー	教員研究室にて行う。面談は要予約のためメールにて日程を確認すること。		
授業の形式・方式	対面形式と一部実習方式で授業を展開します。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	地域包括ケアシステム、介護保険制度、社会保障制度、建築基準、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、ノーマライゼーション、住宅改修、福祉用具と関連機器。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>地域理学療法学 I では地域包括ケアシステムのあり方を学び、理学療法士としての関わりを学修します。また、障害を持つ人の自立生活に必要な環境整備の理論と実際について学びます。</p> <p>福祉住環境コーディネーター2級検定試験の受験希望者を支援し合格を目指します。</p>		
授業の内容	<p>障害を持つ人の生活環境整備の方法としてのソフト面は、障害を有する人の生涯を通して関係してくる法制度を学びます。ハード面としては、福祉用具やユニバーサル・デザイン住宅の実際を教授します。以上に加えて、障害を持つ人や高齢の人および妊産婦などの障害の階層性を知り、問題点を探っていくことで、障害を持つ人の安心した生活を営むための援助を考えていきます。共に地域で暮らしていくための生活環境を追求し、今後の理学療法士としての地域活動に生かせるように学んでいきます。</p>		
成績評価の方法	出席と筆記試験で評価します。		
テキスト	テキスト：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 東京商工会議所編 新版		
参考文献	必要に応じ配布		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>地域包括ケアシステムが構築され今後理学療法士は、地域で活動する機会が多くなります。日頃から関連する情報には、目を向けて、関心を持って授業に取り組んで下さい。</p> <p>(福祉住環境コーディネーター2級検定試験の受験希望者を支援し、合格を目指します。)</p>		

授業科目名	地域理学療法学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡, 金井 秀作		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	田中・金井：毎週水曜日12時から13時，場所は教員研究室，これ以外の面談は要予約		
授業の形式・方式	主として対面授業。テキスト及び講師作成資料に基づいて講義を実施します。スライド，DVDなどの教材も使用します。必要に応じてレポートを作成，提出すること，試験を受けることが義務付けられます。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	身体の変齢変化・脳血管障害・骨関節疾患・廃用症候群・高齢者の理学療法・介護保険制度		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業では，老人の社会性，身体的・精神的特徴をとらえ，高齢社会における理学療法の役割などを学習し，実際の理学療法評価と治療のあり方についても教授します。さらには老人の生活を支援するシステムとそれに関わる理学療法について解説し，介護保険制度，社会福祉制度などの関連性についても論じます。本科目は，厚生労働省が定める理学療法士養成のための指定規則の地域理学療法学に位置付けられています。		
授業の内容	老人の身体的・精神的特徴を解説した後，理学療法の対象者となる頻度が高い疾患について学習します。具体的には，脳血管障害，骨折・変形性関節症を中心とした骨関節疾患，神経筋疾患，廃用症候群については解説します。多くの画像，ビデオなどの教材を使用し理解を深めます。さらに，老人を支える社会システムについて介護保険制度（機能訓練事業，療養型病床群，老人保健施設，特別養護老人ホーム，訪問理学療法など）の中での理学療法の実際について説明します。		
成績評価の方法	期末試験の成績で評価します。 期末試験は持ち込み不可で指定された試験日の授業時間（90分）内で実施します。		
テキスト			
参考文献	講義内で紹介します		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	事前に整形外科学，神経内科学，介護保険法などを学習しておくことで授業の理解が深まります。		



授業科目名	臨床理学療法学		
担当教員氏名(助手氏名)	小野 武也 ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	毎週水曜日昼休み, 場所は研究室. これ以外の面談は要予約.		
授業の形式・方式	対面授業. 授業日程に従って, 講義と演習形式で実施します. 講義の受講にあたり, 事前配布資料や参考図書を読んでおくことが授業の理解を深める上で有効です. 必要に応じてレポート課題を課し, 指定した日に提出させます. 学生は, 授業に出席し, 課題レポートを作成・提出することが義務付けられます.		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科4年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	臨床実習, PTプロセス, ケース発表		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	臨床実習が円滑に実施できることを目標として, ①関節運動学を基礎とした関節可動域訓練, ②障害構造の理解について, 講義および演習を行う. 本講義は厚生労働省が定める理学療法士養成のための指摘規則の理学療法治療学に位置づけられています.		
授業の内容	理学療法特論IVでは, 障害構造について理解を深めます. そのために, 障害構造を明らかにする一つの方法として理学療法の実施手順について講義と演習を行ないます. 本講義は厚生労働省が定める理学療法士養成のための指摘規則の理学療法治療学に位置づけられています.		
成績評価の方法	成績評価は, およそ出席60%, 出席態度20%, 課題レポート20%の割合で評価します. レポートの課題および提出期限は別途指示します.		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 正式には教学課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行います. 実習時には実習のできる服装を着用のうえ参加してください. また大学のバスタオルを準備してください. 授業ではディスカッションの時間を設けます. 積極的に参加し自らの意見を述べるように心がけてください. 臨床実習直前の授業です. 実習の準備として活用して欲しいと思います.		

授業科目名	理学療法総合演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	沖田一彦, 田中聡, 小野武也, 金井秀作, 島谷康司, 長谷川正哉, 梅井凡子, 金指美帆, 高宮尚美, 武本秀徳, 積山和加子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員に事前に要予約		
授業の形式・方式	学生が展開してきた総合臨床実習での症例を, ケースカンファレンス形式でプレゼンテーションを行う。これを受け学生間で討議する。教員は各症例発表の内容についてコメントをする。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科4年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	理学療法, 理学療法評価, 運動療法, 症例検討, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	理学療法総合演習 I では, 適切なケーススタディの作成とプレゼンテーションができることを目標とする。		
授業の内容	理学療法総合演習 I では, 学生が総合臨床実習において担当した症例の理学療法に考察を加え, 治療の問題点や具体的な改善方法について実習場면을再現した状態で討論を行うことで, 各種の障害に対する理学療法の科学的な思考方法を教授する。		
成績評価の方法	症例報告の内容, 態度など, 検討事項に対する質疑応答の内容, 態度等について総合的に評定する。		
テキスト	鶴見隆正・編『標準理学療法学 臨床実習とケーススタディ』(医学書院)2001		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本講義は, 学内および臨床実習での学習成果の総まとめ的な位置付けににある。学生諸君の綿密な準備と積極的な参加を望む。		

授業科目名	総合臨床実習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	沖田一彦, 田中聡, 小野武也, 金井秀作, 島谷康司, 長谷川正哉, 梅井凡子, 金指美帆, 高宮尚美, 武本秀徳, 積山和加子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	面談は共に要予約。		
授業の形式・方式	実習施設の臨床実習指導者の下での臨床実習。		
単位数(時間数)	6単位 (270時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科4年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	総合リハビリテーション, 医学的リハビリテーション, リハビリテーション医学, チーム医療, 理学療法士, 運動療法, 物理療法。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	総合臨床実習 I では, 実習指導者の指導・監督の下, 症例担当制により理学療法過程全般を体験させる。同一の患者で, 評価から理学療法実践までの一連の過程を体験することで, 理学療法の実践に関する理解を深めるとともに, 自己の学習上の不足している点を把握する。		
授業の内容	実習は, 同一の臨床実習施設において6週間行なわれる。内容は, 各施設における実習指導者の指導・監督の下, 実際の症例に対して理学療法評価を行い, その結果の解釈・統合をもとに治療計画を立案したのち, 実際に理学療法を施行する。学内においては, 実習前にオリエンテーションを, また実習終了後には反省会を行う。		
成績評価の方法	出席と実習指導者による報告書, および実習中に評価を行った症例のケース・レポート等により総合的に評定する。無断欠席を行うとその時点で実習が中止になることがある。正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は, 評価の対象とみなさない。		
テキスト	鶴見隆正編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー』(医学書院) ※(購入済)。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本実習は, 理学療法評価と治療を総合的に体験する重要な機会であるため, 事前学習や実習中の自己学習に励んで欲しい。また, 実習は大学を離れて6週間にわたり行われるため, 自己の健康管理にも十分気をつけて欲しい。		

授業科目名	総合臨床実習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	沖田一彦, 田中聡, 小野武也, 金井秀作, 島谷康司, 長谷川正哉, 梅井凡子, 金指美帆, 高宮尚美, 武本秀徳, 積山和加子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	面談はともに要予約。		
授業の形式・方式	実習施設の臨床実習指導者の下での臨床実習。		
単位数(時間数)	6単位 (270時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科4年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	総合リハビリテーション, 医学的リハビリテーション, リハビリテーション医学, チーム医療, 理学療法士, 運動療法, 物理療法。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	総合臨床実習Ⅱでは, 学生の卒後の進路あるいは学問領域の志向性を考慮した施設特色別の総合実習を行う。		
授業の内容	実習は, 同一の臨床実習施設において6週間行なわれる。内容は, 各施設における実習指導者の指導・監督の下, 実際の症例に対して理学療法評価を行い, その結果の解釈・統合をもとに治療計画を立案したのち, 実際に理学療法を施行する。学内においては, 実習前にオリエンテーションを, また実習終了後には反省会を行う。		
成績評価の方法	出席と実習指導者による報告書, および実習中に評価を行った症例のケース・レポート等により総合的に評定する。無断欠席を行うとその時点で実習が中止になることがある。正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は, 評価の対象とみなさない。		
テキスト	鶴見隆正編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー』(医学書院)嶋田智明編(購入済)。実習地で担当した症例に応じ, 各自が他の教科の教科書や参考文献を用意すること。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本実習は, 理学療法に関わる学習の“仕上げ”とも言える最終的な実習である。これまでに学内・学外において獲得した知識や技術を十分に生かし, 有意義な実習を行って欲しい。また, 実習は大学を離れて6週間にわたり行われるため, 自己の健康管理にも十分気をつけて欲しい。		

授業科目名	作業療法学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	田端 幸枝		
研究室の場所	三原キャンパス 2503研究室		
オフィスアワー	火曜日12:10-13:00 これ以外は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施される。学生は授業に出席し、積極的に参加することと課題を提出し、試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療学科1年次必修科目		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	作業療法, 作業療法学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	カリキュラム上の位置付け: 「専門領域特有の科目」の中の「基礎作業療法学」に位置する。授業の目標: 1. 医療専門職としての基本的態度(挨拶, 返事, 報告, 相談等)及び生涯学習についての基本的考え方と技能を実践できる。2. 作業療法学についての基礎知識(歴史, 対象, 治療理論等)と基礎技術(記録・報告等)の概要について説明できる。		
授業の内容	作業療法は身体と精神の両面を重視すると共に、生活者としての人間を尊重するユニークな治療法である。本授業では作業療法の全体像を把握できるように、まず作業療法の体系や機能を歴史的過程の中で捉え、次に現時点における医療や保健福祉における役割と今後の展望について講義を受ける。その後基礎知識(活動領域, 治療理論等)と基礎技法(記録・報告等)について講義を受ける。		
成績評価の方法	中間試験40%, 期末試験40%, 授業への参加態度及び課題20%の割合で評価される。中間及び期末試験はいずれも筆記試験で、指定された試験日の授業時間内で実施される。		
テキスト	使用しない。必要な資料は授業時に配布される。		
参考文献	必要な参考資料は授業時に提示される。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	知識を記憶するだけでなく、豊かな理解と発展のために自主的に学び考える習慣を養いましょう。		

授業科目名	作業療法倫理学		
担当教員氏名(助手氏名)	土田 玲子		
研究室の場所	三原キャンパス 2512研究室		
オフィスアワー	随時（事前にメールにて予約のこと）		
授業の形式・方式	講義および討議を通して、学んだ内容をレポートにする。		
単位数(時間数)	1単位（15時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科2年次必修科目		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	作業療法、倫理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	作業療法士としての専門職に必要な倫理感について、洞察する力とそれを実践する力を身につける。		
授業の内容	作業療法士に必要とされる倫理について、資料から学び、グループ討議を通してさらにそれを自己洞察につなげる。そのために毎回レポートを作成する。		
成績評価の方法	授業参加（30%）、積極的姿勢、発言（20%）、レポート（50%）		
テキスト	砂屋敷忠他編集、医療・保健専門職の倫理テキスト、医療科学社、ISBN978-4-86003-374-3		
参考文献	随時提示する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業の中で、討議に積極的に参加し、そこから得た内容を深く考察しレポート作成にあたること。積極的に参考文献を読むこと。		

授業科目名	作業科学実習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	永吉美香 高木雅之		
研究室の場所	三原キャンパス 3406研究室		
オフィスアワー	月曜日5時限		
授業の形式・方式	実習形式		
単位数(時間数)	1単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科2年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	作業、意味、成果		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>①作業を経験することの意味と人や生活に及ぼす影響を理解する。  ②新たな作業に取り組む際の、情報収集、資源へのアクセスができる。  ③作業の可能性を拡大するために自ら考え行動できる。</p>		
授業の内容	<p>作業に、出会い、従事し、成果を発表するまでを、前期を通して取り組む。そのプロセスで起こる自己の経験を記録し分析を行う。最終的に発表会で発表する。</p>		
成績評価の方法	参加態度10%、中間発表20%、最終発表20%、記録分析レポート50%		
テキスト	1. 吉川ひろみ：「作業」ってなんだろう-作業科学入門-。医歯薬出版，2008		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は動きやすい服装で授業に臨むこと。		

授業科目名	作業療法研究法		
担当教員氏名(助手氏名)	吉川 ひろみ		
研究室の場所	三原キャンパス 3404研究室		
オフィスアワー	月曜日4限		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義と演習を行う。授業時間1時間(1回)と学生の自習2時間を想定した授業を行う。手引きの課題は各自で行い、ポートフォリオを作成する。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次必修科目		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	作業療法研究、文献検索、批判的吟味、抄録作成と管理、文献レビュー、研究計画、倫理的配慮		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	作業療法研究論文を検索し、理解し、批判的吟味する能力を習得する。常に最新の知見にアクセスし、作業療法の最高水準を保つための自己研鑽を続ける習慣を身につけることにより、他科目の学習にも意欲的に取り組む姿勢を培う。		
授業の内容	根拠に基づく作業療法を実践するための基礎知識と技能を教授する。自らの研究疑問を定式化し、ハンドサーチ及びコンピュータによる文献検索を経験する。選択した研究論文を読み込み、批判的吟味を加える。小グループによる文献抄読会に参加し、自ら作成した文献抄録を発表し、討論する。特定のテーマについて文献レビューを作成し、研究計画書を作成する。		
成績評価の方法	参加30%、抄読会参加15%、研究計画書25%、ポートフォリオ面接試験30%。ポートフォリオ面接試験では、自らの学習プロセスについて評価する。		
テキスト	山田孝編：標準作業療法学 専門分野 作業療法研究法 第2版，医学書院，タウンゼント他著，吉川ひろみ他訳：続・作業療法の視点．大学教育出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、手引きの課題を行い、ポートフォリオを作成すること。文献の検索と理解に時間がかかる学生がいる。授業開始前に関心のある領域の書籍や研究論文を読み、理解を深めておくことを勧める。授業予定の詳細は第1回の授業日に提示する。欠席する場合は直接あるいは間接的に、事前にあるいは当日連絡する。		



授業科目名	作業療法評価学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	永吉美香		
研究室の場所	三原キャンパス 3406研究室		
オフィスアワー	月曜日5時限		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次必修科目		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	作業療法プロセス、作業遂行の観察、成果評価、協働、事例報告、批判的吟味		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法のプロセスを進められる</li> <li>2. 観察を用いて作業遂行を評価できる</li> <li>3. 作業療法で行ったことを文書化できる</li> <li>4. 実践を批判的に見ることができる</li> </ol>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クライアントに対して作業療法を実施し、記録を書き、事例報告をする</li> <li>2. AMPSについて学習し、AMPSの視点で作業遂行を観察し、観察記録を書く</li> <li>3. 他者の事例報告を聞いて実践を批判的に吟味する</li> </ol>		
成績評価の方法	授業参加10%、ケースノート30%、中間事例報告20%、最終事例報告20%、観察記録10%、ポートフォリオ10%		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 吉川ひろみ：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド. 医学書院, 2008</li> <li>2. Townsend EA他編著(吉川ひろみ他監訳)：続・作業療法の視点. 大学教育出版, 2011</li> </ol>		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、毎回の予習と課題を行い、その記録を残す。何をどのように学んだかがわかるようにポートフォリオを作成する。欠席する場合は事前に連絡する。		

授業科目名	発達障害評価学		
担当教員氏名(助手氏名)	山西 葉子		
研究室の場所	3406研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	講義形式の授業に加え、演習、実習、課題発表を交えて授業を行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次必修科目 (発達障害治療学の講義と連動して行う)		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	発達障害、評価、知能、視知覚機能、運動、発達		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	①発達障害領域における評価の目的、種類、およびその手順を理解する。 ②発達障害領域でよく用いられる評価方法およびその名称をあげることができる。 ③発達障害領域でよく用いられる検査のいくつかを行うことができる。		
授業の内容	①発達障害領域の評価の目的と種類②情報収集、面接、観察の特性について③行動特性の観察④行動特性の観察演習⑤姿勢、運動の観察⑥姿勢、運動の観察演習⑦スクリーニング評価の目的と種類⑧スクリーニング評価演習 (VMI, DAM, PVT) ⑨診断的評価の種類と目的⑩診断的評価演習⑪評価法課題発表 (WISC-IV、K-ABC2、DTVP) ⑫評価法課題発表 (Vinland II、K式、遠城寺、津守) ⑬評価法課題発表 (ITPA、こころの理論、PEP-III、JSI-R) ⑭評価法課題発表評価法課題発表 (JMAP, JSI-R) ⑮まとめ		
成績評価の方法	参加態度20%、レポート30%、期末テスト50%		
テキスト	岩崎テル子他編集、作業療法評価学、医学書院、ISBN4-26713-2 C3347		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	随時資料配付		

授業科目名	身体障害評価学		
担当教員氏名(助手氏名)	山西 葉子, 高木 雅之		
研究室の場所	三原キャンパス 3406研究室		
オフィスアワー	毎週金曜 9:00~10:30 場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	身体・運動機能に関する評価技法を実技実習を通して学ぶ。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	評価技法, 生理機能評価, 形態計測, 関節可動域検査 (ROM-T), 徒手筋力検査法 (MMT), 感覚検査, 上肢機能検査, バランス検査		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業の目標は、人が作業する際に用いる身体・運動機能を適切に評価し、記録できるようになることである。具体的には、関節可動域、筋力、感覚、上肢機能などの評価技法を修得すると共に、作業遂行の問題と身体運動機能の問題の関連性を分析・解釈し、記録できるようになることを目指す。		
授業の内容	形態計測, 関節可動域検査, 徒手筋力検査法, 感覚検査, 上肢機能検査など, クライエントの身体・運動機能を評価するために用いる各種の評価技法を実技実習を中心に学ぶ。		
成績評価の方法	授業参加, 実技試験, レポート, 期末試験を総合して評価する。		
テキスト	作業療法ジャーナル編集委員会編『EBOT時代の評価法厳選25』(三輪書店)2004. Hislop H. J, Mintgomery J 著, 津山直一訳『新・徒手筋力検査法 原書第9版 DVD付』(協同医書出版社)2008. 岩崎テル子他編『標準作業療法学 作業療法評価学』(医学書院)2005.		
参考文献	中村隆一他『基礎運動学 第6版』(医歯薬出版)2003.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	この授業は実技実習が中心であり、評価技法を学生同士で実際に体験しながら学んでもらう。学生の主体的な参加を望む。		

授業科目名	精神障害評価学		
担当教員氏名(助手氏名)	田端 幸枝		
研究室の場所	三原キャンパス 2503研究室		
オフィスアワー	火曜日12:10-13:00 これ以外は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義及び演習形式で実施される。授業に積極的に参加すること、課題を作成し提出すること、試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次必修科目		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	評価, 精神疾患, 精神障害, 精神症状, 治療計画立案		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	カリキュラム上の位置付け: 「専門領域特有の科目」の中の「作業療法評価学」に位置する。授業の目標: 1. 精神科領域における評価概念について説明できる。2. 医療専門職として対象者の評価に必要な基本的な行動(挨拶, 対象者の確認, インフォームドコンセント等)を実践できる。3. 主たる精神障害(統合失調症, 気分障害, アルコール使用による精神及び行動の障害, 知的障害, 心理的発達の障害, 神経症性障害, パーソナリティ障害, 症状性を含む器質性精神障害等)の標準的評価について説明できる。4. 評価基本技術(面接, 観察等)について実施できる。5. 評価に必要な医療倫理事項について説明できる。		
授業の内容	精神障害領域における作業療法評価とは, 各種評価法により対象者の障害を総合的に把握し, 健常者の資料との比較を行い, それらを対象者の背景や予後環境の情報と統合することにより, 作業療法のニーズを明確にすることである。そして, 対象者に関する適切な情報を収集分析し, 統合構成することが評価過程である。精神障害を持つ者に対して適切な評価を実施できるように, 各精神障害に対する代表的評価法の基礎知識と基礎技法について講義を受ける。同時に, 医療専門職として対象者の評価に必要な基本的な行動(挨拶, 対象者の確認, 評価についてのインフォームドコンセント等)を実習する。		
成績評価の方法	中間試験40%, 期末試験40%, 課題及び授業参加態度20%の割合で評価される。中間及び期末試験はいずれも筆記試験であり, 指定された試験日の授業時間内で実施される。		
テキスト	標準作業療法学 作業療法評価学 第2版, 医学書院, 2011. 標準作業療法学 精神機能作業療法学 第2版, 医学書院, 2014.		
参考文献	図解作業療法ガイド第3版, 文光堂, 2011.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	既に学んだ精神医学の知識と作業療法の知識を基に対象者を評価するので, これらの知識について自信のない学生は復習をしましょう。また, 授業時に関連の参考書を持参し疾患知識を確実にする努力をしましょう。評価においては, まず対象者を理解しようとする姿勢, 考えようとする意欲, そして基礎知識が必要です。		

授業科目名	身体障害治療学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	西田 征治		
研究室の場所	三原キャンパス 3420研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日 16:20-17:50		
授業の形式・方式	授業は講義形式および実技形式による演習を行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	クライアント中心の実践, 作業遂行, 記憶障害, 誤りなし学習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	身体障害領域の代表的な疾患を有するクライアントに対する評価および介入の基礎的知識と技術を修得する。本科目は人-作業-環境の関係とそれらの健康との関係を理解することにつながる。		
授業の内容	身体障害を呈する代表的な疾患を持つクライアントへの作業療法について講義および演習を行う。具体的には、脳卒中、脊髄損傷、上肢切断、手の外傷、関節リウマチ、進行性難病、頭部外傷などなどの疾患を有するクライアントに対する評価や介入計画について討議し、介入のいくつかを実技形式で演習を行う。クライアント中心、作業中心の実践をベースとしながら、必要に応じて医学モデルの活用により介入計画を立案することの重要性を教授する。		
成績評価の方法	授業への参加態度, レポート, 試験を総合して評価する。特に, 参加態度を重視する。		
テキスト	1. 岩崎テル子: 身体機能作業療法学. 医学書院, 2011 2. 原寛美: 高次脳機能障害ポケットマニュアル, 医歯薬出版, 2013		
参考文献	1. Heidi Mchugh: Pedretti's Occupational Therapy: Mosby-Year Book; 7th-edi, 2013		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	精神障害治療学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	西村 玲子		
研究室の場所	三原キャンパス 3406研究室		
オフィスアワー	火曜日12:10 - 13:00		
授業の形式・方式	対面授業. 講義と演習. 授業日程に従って, 講義形式で実施される. 学生は授業に出席し課題を作成・提出すること, 試験を受けることが義務づけられる.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次必修科目		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	精神科作業療法, 精神科リハビリテーション, 各種療法・技法, 作業分析, レクリエーション等		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	カリキュラム上の位置付け: 「専門領域特有の科目」の中の「精神障害作業療法学」に位置する. 授業の目標 1. 精神科リハビリテーションの理念, キーワード, 各種療法・技法の特性, 作業分析, 治療的レクリエーションについて説明できる 2. 討議, グループワークに参加し, 考え・意見を述べるができる 3. 課題達成に向けて協調することができる		
授業の内容	精神医学, 精神障害治療学Ⅰの知識を基に, 精神科リハビリテーション, 精神領域における作業療法の治療的介入, 各種療法・技法と実施方法について学ぶ. 詳細は第1回講義にて説明する.		
成績評価の方法	参加態度 (10%), 課題・レポート(40%), 試験 (50%) の割合で評価する.		
テキスト	資料は講義の際に配布される.		
参考文献	講義にて紹介する.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	グループワークを含め, 主体的な参加が求められ, 事前学習・復習が必要です.		

授業科目名	認知障害治療学		
担当教員氏名(助手氏名)	小池 好久		
研究室の場所	三原キャンパス 2506研究室		
オフィスアワー	最初の授業時に報告。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。学生は授業に出席し、試験(90分)を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	高次脳機能障害・認知障害		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	(狭義の)高次脳機能障害及び認知症についての知識と、その障害から生じる様々な問題点・病態の理解に主眼を置いて教授する。		
授業の内容	(狭義の)高次脳機能障害や認知症に関する概念を概説し、それらの障害によって生じる様々な症状・病態について教授する。さらに、身体および精神を包括した観点から対象者を理解し、作業療法を計画・実施するための基本的知識を教授する。		
成績評価の方法	試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。また併せて、授業中における積極的姿勢を加点対象として評価する。		
テキスト	テキストなし。授業前に資料配布。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	認知障害治療学演習の基礎となる講義であるため、当講義内容を十分に理解しておく必要がある。		

授業科目名	老年期障害治療学		
担当教員氏名(助手氏名)	西田 征治		
研究室の場所	三原キャンパス 3420研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日 16:20-17:50		
授業の形式・方式	対面授業。配布資料とビデオをもとに講義，演習形式で実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科2年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	認知症，地域ケア，認知症カフェ，初期集中支援，訪問作業療法，作業遂行		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	1. 我が国における高齢化の現状および認知症施策について説明できる。2. 認知症高齢者の作業遂行の特徴および作業遂行を促進するための支援技術について説明できる。 3. 認知症高齢者に対する意味ある作業の探索および作業遂行の分析方法を説明できる。 4. 在宅認知症高齢者に対する作業を基盤とした作業療法について説明できる。この科目は，作業療法領域特有の科目として位置付けられている。		
授業の内容	老年期の人を対象とした作業療法を理解するために，日本における高齢化の現状および認知症施策といった社会背景について教授する。また，新オレンジプランが推進されている現状に対応し，在宅認知症高齢者に対する認知症カフェや認知症初期集中支援，訪問作業療法について教授する。更に，認知症の症状，作業遂行の特徴と支援技術および作業を基盤にした作業療法の実践を理解するために事例を通したグループ演習を行う。		
成績評価の方法	課題レポート，出席，演習態度を総合して評価する。		
テキスト	小川真寛編：認知症をもつ人への作業療法アプローチ—視点・プロセス・理論—。メジカルビュー		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	配布資料はすべて保管（ファイル）し，必ず持参して授業に臨むこと		



授業科目名	地域作業療法学		
担当教員氏名(助手氏名)	高木 雅之		
研究室の場所	三原キャンパス 2521研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日15時から18時		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク, 学外演習を組み合わせる		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	クライアント中心の作業療法, 作業の可能化, 可能化の基盤, 可能化の技能, 作業的公正, ヘルスプロモーション, 社会の変化		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域におけるクライアント中心の作業療法について学ぶことを目標とする。具体的には、地域作業療法の対象, 作業の可能化, 可能化の基盤, 可能化の技能, 作業的公正, ヘルスプロモーション等の概念を学び, これらの概念を用いて地域の福祉関連施設が実施するプロジェクトに参画する。		
授業の内容	地域作業療法の対象, 作業の可能化, 可能化の基盤, 可能化の技能, 作業的公正, ヘルスプロモーションなど, 地域作業療法に必要な概念についてテキストを用いて学ぶ。同時に、地域の福祉関連施設が実施する地域の活性化を目的としたプロジェクトに参画し, そのプロセスや成果を報告する。		
成績評価の方法	プロジェクトへの参加, ポートフォリオ, 発表会でのプレゼンテーションなどを総合して成績を評価する		
テキスト	エリザベス・タウンゼント, ヘレン・ポラタイコ著, 吉川ひろみ, 吉野英子監訳: 続・作業療法の視点ー作業を通しての健康と公正, 大学教育出版, 2011. 日本作業療法士協会: 作業療法マニュアル35ヘルスプロモーション, 2009.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日常生活援助論		
担当教員氏名(助手氏名)	古山千佳子		
研究室の場所	三原キャンパス 3405研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日10時～12時, 場所は3405研究室		
授業の形式・方式	対面授業. 配布資料とビデオをもとに講義と演習形式で実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	日常生活関連活動、セルフケア、手段的ADL、ADL/IADL評価、人-環境-作業、意味のある作業、治療モデル(代償モデル、回復モデル、習得モデル、教育モデル) 自助具、繰り返し練習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この講義では、1.人の日常生活関連活動について理解すること、2. ADL/IADL評価について理解し、必要に応じて評価を選択し、実施できるようになること、3. 評価結果に基づき、日常生活をより楽に、効率よく、安全に、自立して行えるようになるための援助方法について、各治療モデル(代償モデル、回復モデル、習得モデル)を用いて具体的に考えられるようになること、4. 自助具について理解すると共に、自らのアイディアに基づいて作成できるようになること、を目標とする。		
授業の内容	日常生活関連活動、ADL/IADL評価、日常生活の援助方法、治療モデル(代償モデル、回復モデル、習得モデル)等の基本的知識について講義する。その後、実際の事例を通してADL/IADL評価の方法論や評価結果に基づいて日常生活をより楽に、効率よく、安全に、自立して行えるようになるための援助方法について、各治療モデル(代償モデル、回復モデル、習得モデル)を用いて具体的に考える(グループディスカッションと個別学習による)。また、事例に必要な自助具を考え、製作し、発表する。		
成績評価の方法	授業への参加、試験、課題等を総合して判断する		
テキスト	酒井ひとみ編、日本作業療法士協会監修：作業療法学全書 改訂3版 日常生活活動、協同医書出版。 作業療法がわかるCOPM・AMPS実践ガイド, 医学書院, 2014		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	福祉機器論		
担当教員氏名(助手氏名)	西田 征治		
研究室の場所	三原キャンパス 3420研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日 16:20-17:50		
授業の形式・方式	対面授業。講義および演習形式で行う。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	福祉機器適応プロセス、福祉機器適合判定、車いすシーティング、介護保険、障害者総合支援法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	1. 代表的な福祉機器について特徴や使用方法を理解し、クライアントに適した福祉機器の選定ができるようになること、2. 福祉機器の適合を評価できるようになること、3. 福祉機器の貸与や給付に関する制度を理解することを目標とする。この科目は、福祉機器論演習を学習する上で基礎となる科目である。		
授業の内容	クライアントの作業遂行の生活障害を軽減する一つ的手段として福祉機器の適応をどのようにすすめるかを講義する。カタログ、ビデオなどの副教材を利用して様々な福祉機器の特徴を理解するよう演習を行う。福祉機器供給および貸与の制度について講義を行う。		
成績評価の方法	レポートおよび演習態度、出席を総合して評価する。		
テキスト	東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト，東京商工会議所		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	作業療法理論		
担当教員氏名(助手氏名)	吉川 ひろみ		
研究室の場所	三原キャンパス 3404研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日4限		
授業の形式・方式	対面授業. 授業日程に従って講義と演習を行う.		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	人と環境と作業, オープンシステム, トップダウンアプローチ, クリニカルリーズニング, 省察		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	1. 作業療法の哲学を説明できる。2. 複数の作業療法理論を説明し, 比較できる。3. 理論と実践の関係を具体的に説明できる。		
授業の内容	世界作業療法士連盟が発行する重要文書を読む。カナダ作業遂行モデル, 人間作業モデルなど代表的な作業療法理論を学ぶ。作業療法の哲学と関連する考えや理論を学ぶ。		
成績評価の方法	プレゼンテーション20%, レポート20%, 試験20%, ディスカッション参加40%		
テキスト	「続・作業療法の視点」(タウンゼント, ポラタイコ編著, 大学教育出版, 2011年) <+978-4-88730-999-9+>		
参考文献	「作業療法の理論 原著第4版」(Kielhofner著, 医学書院, 2014年) <+978-4-260-01975-0+>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	感覚統合療法特論		
担当教員氏名(助手氏名)	土田 玲子		
研究室の場所	三原キャンパス 2512研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	講義および演習		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	感覚統合、発達障害、遊び		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	感覚統合理論の概要を理解する。		
授業の内容	①感覚統合理論の特性および背景②発達と豊環境効果③感覚統合と作業療法の実践④前庭系の発達の役割⑤固有系の発達の役割⑥触覚系の発達に於ける役割⑦感覚統合理論からみた行動理解⑧感覚統合の評価⑨感覚統合理論を生かした作業療法の考え方⑩感覚統合理論と療育⑪演習		
成績評価の方法	出席50%、レポート30%、期末テスト20%		
テキスト	日本感覚統合学会、感覚統合療法入門講習会資料集		
参考文献	随時紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本授業の履修は日本感覚統合学会主催「他職種感覚統合療法入門講習会」参加の認定となる。		

授業科目名	音楽療法概論		
担当教員氏名(助手氏名)	木村 敦子 [非常勤講師], 阪田 智尋 [非常勤講師]		
研究室の場所	広島文教女子大学人間科学部 (木村), 株式会社 介護の扉 (阪田)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。オムニバス方式。ワークショップを交えながらの講義。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	作業療法学科3年次対象, コミュニケーション障害学科4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	音楽の機能 音楽療法の歴史 音楽療法の展開過程 音楽療法の対象と実際		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は, 作業療法学科「専門領域特有の科目」の統合総合科目, コミュニケーション障害学科「専門領域特有の科目」専門選択科目の一つとして位置付けられている。		
授業の内容	<p>音楽の持つ生理的, 心理的, 社会的機能を活用して, 心身の発達を促進し, 障害や疾病の改善を助け, 精神調和や活力を与えることを目指す音楽療法の理論と実際について概説し, 臨床現場への適応について教授する。</p> <p>授業内容は大まかに</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①治療者としての資質を高めるための基礎的部分</li> <li>②音楽の技術面についての基礎的部分</li> <li>③音楽療法の歴史と現状に分かれ, ワークショップを交えながらの講義を行っていく。</li> </ol>		
成績評価の方法	授業への参加状況およびレポートにより評価する。 レポートの課題は, 授業者ごとに出題する。		
テキスト	教科書: 村井 靖児著『音楽療法の基礎』(音楽之友社) 1995		
参考文献	参考文献: 若尾 裕著『音楽療法を考える』(音楽之友社) 2006		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	クリニカルリーズニング		
担当教員氏名(助手氏名)	吉川 ひろみ 他		
研究室の場所	三原キャンパス 3404研究室		
オフィスアワー	月曜日4時限		
授業の形式・方式	対面授業, 演習, 事例についてのディスカッション		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	作業療法学科4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	作業療法プログラム, 手続き的リーズニング, 叙述的リーズニング, 状況的(条件的)リーズニング, 実践的リーズニング, 倫理的リーズニング, 理論と実践, 省察		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>目標: 作業療法士としての行動を振り返って考えることができる。実践で生じる現象を理論を使って説明する。専門家の行為のリーズニングを推察し, リーズニングの種類を特定する。リーズニングの種類による行為の選択肢を列挙する。異なる理論により, 作業療法プロセスがどのように異なるかを説明できる。事例報告を書くことができる。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ: 最終学年の専門選択科目</p>		
授業の内容	<p>臨床実習前に, 作業療法士のクリニカル・リーズニングについて学習する。          作業療法事例報告の書き方を学ぶ。          臨床実習中の作業療法で生じた現象の中で印象的な場面を記述し, リーズニングを記載する。          臨床実習後の授業では, 学生が経験した作業療法場面の出来事を, プレイバックシアターのストーリーの技法を使って振り返り, 他者と共有する。          作業療法士としての行動のリーズニングをディスカッションする。</p>		
成績評価の方法	参加50%, 課題50%の割合で成績評価する。		
テキスト	吉川ひろみ: 作業療法士としての成長の仕方. OTジャーナル39(4), 280-284, 2005, 吉川ひろみ: COPM・AMPSスターティングガイド, 医学書院		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	ある作業療法場面において, 作業療法士がなぜそのような行動をとったのか, クライエントはなぜそのような反応をしたのか, 注意深く振り返り, 考えることが期待される。		

授業科目名	聴覚系障害学演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	長谷川 純, 佐藤 紀代子, 吐師 道子, 古屋 泉		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	アポイントメント方式		
授業の形式・方式	演習形式。聴覚系障害学概論 I の講義と連動して進める。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科 2 年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	聴覚検査, 気導・骨導純音聴力検査, マスキング, 語音聴力検査, インピーダンス・オージオメトリー, 閾値上聴力検査, 補充現象, S I S I 検査, 自記オージオメトリー, ABR, OAE		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	聴覚障害の評価と(リ)ハビリテーション計画作成のために必要な聴覚検査の正確な実施方法と, 検査結果の解釈の方法を身につけることを目標とする。3 年次で学ぶ聴覚障害者の(リ)ハビリテーションの方法について理解し, 自ら考えられるようになるための基盤となる科目である。		
授業の内容	気導・骨導純音聴力検査, マスキング, 語音聴力検査, インピーダンス・オージオメトリー, 自記オージオメトリー, ABR, OAE など, 聴覚諸検査の理論的根拠, 正確な結果を得るための実施方法, 結果の解釈方法について, 検査実施と検査レポート作成の演習を通して学ぶ。		
成績評価の方法	毎回演習後に課すレポートについて評価する(60%)。グループ演習形式で行うため, 演習への積極的参加態度・事前の準備状況も重視する(40%)。		
テキスト	日本聴覚医学会「聴覚検査の実際 改訂 3 版」 立木 孝「よくわかるオージオグラム」) 【購入済】		
参考文献	小川 郁「よくわかる聴覚障害」 Gelfand「Essentials of Audiology 3rd ed.」ほか(授業で紹介する)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	聴覚系障害学概論 I の講義と連動して演習を進めるので, 講義の内容を復習して確実に理解したうえで演習に臨むこと。		



授業科目名	発声発語・嚥下系障害学概論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	小澤 由嗣, 城本 修		
研究室の場所	三原キャンパス 4432研究室 (小澤), 2509研究室 (城本)		
オフィスアワー	随時メール等にて予約を取ること.		
授業の形式・方式	対面授業で基本的知識の学習を行いつつ, 症状の理解を深め, 基礎的臨床技術を習得する目的で, 障害音声の聴取実習等を行う。そのため, 学生は, 授業に出席し, 課題を実施し, 提出する必要がある。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	発声発語器官(呼吸・発声・構音器官)の構造と機能, 音声障害, 構音障害(器質性, 機能的, 運動障害性(dysarthria)), 評価, 訓練		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この講義の目標は, (1)発声発語の正常メカニズムと障害の発現機序について学ぶこと, (2)障害の有無を鑑別し, 症状を把握する力をつけることと, (3)言語聴覚士による支援の基本的方法を身につけることである。カリキュラム上, 特に, 1年次に履修した解剖生理学, 音声学, 音声情報処理, 2年次の神経内科学, 耳鼻咽喉科学, 形成外科学, 歯科口腔外科学の学習内容と密接な関連を持つ。		
授業の内容	本講義で学ぶ話し言葉と声の障害は, 小児から高齢者まで幅広い年齢層で, 高頻度にみられる。これらは, 発声発語器官の各レベルで様々な問題が原因となって生じる。専門的な支援を行うにあたっては, まず, どのレベルで, どのような問題が起きているかを把握し, 原因疾患・重症度に応じたアプローチを立案していく。本講義では, 発声と発話産生のプロセスを発達的, 分析的, 統合的な視点から捉える方法と言語聴覚士による支援方法の基本的な考え方を学ぶ。		
成績評価の方法	試験80%, レポートほか20%, の割合で評価する。		
テキスト	阿部雅子著『構音障害の臨床』(金原出版)2008, 熊倉勇実他編『発声発語障害学』(医学書院)2010, 日本音声言語医学会『新編声の検査法』(医歯薬出版)2008		
参考文献	加藤正子ほか編著『構音障害のある子どもの理解と支援』(学苑社)2012, 苅安・城本編「改訂 音声障害」(建帛社)2012		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡事項は, 教務課掲示板, 講義時の連絡によって行う。		

授業科目名	グループダイナミクス		
担当教員氏名(助手氏名)	辻村 徳治[非常勤講師]		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	教室でできる構造化された体験学習を中心に、小講義を交えながら、実践に役立つ授業としたい。集中講義は、9月下旬を予定している。 授業内容の実践として、自発的に学び合う集団を形成したい。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	コミュニケーション障害学科2年次対象。「対人コミュニケーション論」を履修済みであることが前提。		
免許等指定科目			
キーワード	ラボラトリー方式の体験学習, グループ・プロセス, 体験学習の循環過程, ふりかえり, シェアリング, 相互影響関係		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、社会の様々な場面で他者との適切なコミュニケーションを図って、効果的な共同作業（チームワーク）ができる素地を形成することである。合宿が終わった段階で「グループ活動は楽しい。」と体感してもらえれば目標は達成されたと考えている。カリキュラム上は、コミュニケーション障害学科「専門領域特有の科目」の専門選択科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	我々は、家族、友達、学校、職場など様々なグループの中で、お互いに影響を与えあい、態度や行動を変化させながら生活しているが、そこにはグループがもつ独自の影響力が作用している。本講義では、グループの中で効果的なコミュニケーションを行うのに不可欠な、グループの心理学的特性や、グループがメンバーに及ぼす影響などについて体験的に習得する。 構造化された体験学習を用いて、理論と応用が統一的に学習できる工夫がされている。授業ではグループ活動を楽しみながら、集団の様々な面を体験できる。		
成績評価の方法	まとめのレポートを中心に、合宿中の学習態度等を加味して総合的に評価する。ポイントは参加度と理解度である。 さらに、講義内容を自分自身の課題としてどれだけリアルに捉えることができているかも評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	津村俊充・山口真人編『人間関係トレーニング第2版』（ナカニシヤ出版）2005 桑原知子・辻村徳治編『家裁調査官レポート』（日本評論社）2001		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「対人コミュニケーション論」と共通する部分があり、合宿で併せて講義することがあるので、「対人コミュニケーション論」を履修済みであることを前提とする。主体的に授業に参加することが期待されている。お互いが学習の「素材」となって、授業を展開するので、遅刻や欠席は厳禁である。体調を整えて参加すること。		

授業科目名	発達系障害学演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	玉井ふみ, 堀江真由美, 細川淳嗣		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
授業の形式・方式	対面授業、授業日程にしたがって、講義および演習形式で実施する。毎回授業に出席し、レポートを提出する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	言語発達障害、発達検査、知能検査、言語発達検査		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	2年次の発達系障害学概論で学んだ言語発達障害の臨床の流れについて、演習を通して学習する。各種検査方法の手続き、結果の記録、集計、解釈について習熟することを目標とする。		
授業の内容	言語発達障害の有無、言語発達障害に関連する要因、言語発達障害の様相について評価を行うために必要な各種検査法について演習する。本科目で取り上げる検査は、新版K式発達検査、WISC-IV知能検査、K-ABC II 心理・教育アセスメントバッテリー、S-S法言語発達遅滞検査などである。学生同士の模擬演習を通して各検査の実施手続き、結果の解釈、報告書の書き方などについて学習する。		
成績評価の方法	授業への参加状況、レポートにより評価する。		
テキスト	講義時に資料を配布する。		
参考文献	上野一彦ほか編『日本版WISC-IVによる発達障害のアセスメント』（日本文化科学社）2015、松原達哉編著『最新 心理テスト法入門 第4版』（日本文化科学社）2002		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	発達系障害学概論 I、コミュニケーション障害診断法を復習しておくこと。		

授業科目名	認知系障害学演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	坊岡 峰子, 渡辺 眞澄, 中村 あや, 津田 哲也		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
授業の形式・方式	講義および演習形式で実施する。 主に各種検査に関する理解と手順の習得を目的に、グループワークを行う。 また、症例や検査結果から障害の診断、訓練計画などの考え方を講義する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	失語症, 高次脳機能障害, 認知症, 検査, 評価, 言語訓練		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>「認知系障害学概論 I」から引き続き、失語症に関する検査を正確に実施し、評価から診断できる力をつける。また、評価に基づき、根拠のある訓練を立案できるようになる。</p> <p>さらに、失語症以外の高次脳機能障害、認知症の評価方法を学び、障害の特徴の把握および支援方法や支援者への助言の視点を身につける。</p> <p>本科目は、「認知系障害学概論 II」とあわせ、学内・学外での臨床実習に不可欠な知識・技術を習得する。</p>		
授業の内容	<p>失語症検査、言語の掘り下げ検査、認知機能検査のうち言語臨床で頻繁に使われるものについて講義の他、症例の提示やグループでの演習を行う。</p> <p>検査結果に基づく評価方法の講義を行い、症例の評価報告や演習の内容について、適宜課題レポートでまとめさせる。</p> <p>また、評価に基づく言語訓練（個別・グループ訓練）を個人・グループで立案し、発表させる。</p> <p>さらに、失行・失認、記憶障害、精神活動低下、脳外傷による高次脳機能障害、認知症の評価と症状についても症例提示し、評価方法や支援内容などの視点を講義する。</p>		
成績評価の方法	<p>課題レポートなど提出物60%、演習など取り組み姿勢20%、講義外の予習や準備状況20%。</p> <p>欠席は減点。</p>		
テキスト	<p>テキスト： 認知系障害学概論 I から引き続き 『脳卒中後のコミュニケーション障害』『失語症学』『新編 言語治療マニュアル』【購入済】など。</p>		
参考文献	<p>参考文献： 鈴木勉・綿森淑子編『失語症の訓練教材』（三輪書店） 江藤文夫他編『臨床リハ別冊 高次脳機能障害のリハビリテーションVer. 2』（医歯薬出版）石合純夫著『高次脳機能障害学』（医歯薬出版）2003小嶋知幸編著『失語症の評価と治療』（金原出版）2010</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>遅刻厳禁。提出物期限厳守：期限以降は原則受け付けません。</p> <p>演習形式であるため、遅刻は講義内容の理解だけでなく他者の迷惑にもなります。5分前着席を心掛けて下さい。2年生での「認知系障害学概論 I」の内容をしっかり復習して臨むこと。授業時間外での補習が難しいビデオによる症例提示やグループでの演習が多く、さらに「認知系障害学概論 II」と連動して行うため、欠席することのないよう、体調およびスケジュール管理をしっかり行って下さい。また、授業中に検査の内容を全て実施することは困難なため、授業時間外での予習・復習を前提に講義をすすめます。授業時間外にも、課題にしっかり取り組んで下さい。講義のまとめ・ノートを適宜確認するため、自主的に復習・まとめをすすめておいて下さい。</p>		

授業科目名	聴覚系障害学演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	長谷川 純, 佐藤 紀代子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	アポイントメント方式		
授業の形式・方式	演習形式で実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	遊聴力検査, 補聴器のフィッティング, その他の聴力検査		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>聴覚障害をもつ乳幼児のハビリテーションに重要な, 聴覚の評価および補聴器適合の実際について理解できるようになる。</p> <p>1) 評価のうち, 自覚的検査である遊聴力検査の実際について習熟し, 適切な聴覚の評価が実施できることが目標となる。</p> <p>2) 聴覚ハビリテーションの基本である「補聴」のうち, 補聴器適合の基礎を学ぶ。補聴器の構造を知り, 補聴器の基本的特性の測定方法を学習し, 補聴器適合の基礎を習得する。</p> <p>本科目は専門領域特有の科目に位置づけられ, 必修である。</p>		
授業の内容	<p>少人数の演習形式で, 種々の乳幼児聴覚検査を行う。学生同士の模擬検査, 保育園児を対象とした検査実習を行なう。</p> <p>乳幼児期の聴覚の評価には, 検査手順だけでなく, 聴覚の発達過程, 乳幼児期の発達全般についての理解が求められる。2年次までに学習してきた発達に関する知識を, 聴覚の評価にどのように活用するかについて, 演習を通して理解を深める。</p> <p>さらに聴覚障害のハビリテーションにとって重要な補聴について, 実際の補聴器特性測定機器を操作し, 基本的な電気音響的特性の測定および補聴器適合について演習する。</p>		
成績評価の方法	<p>毎回演習後に課すレポートについて評価する(60%)。グループ学習が多いため演習への積極的参加態度も評価する(40%)。</p>		
テキスト	<p>日本聴覚医学会「聴覚検査の実際 改訂3版」 【2年次に購入済】</p>		
参考文献	<p>加我君孝「新生児聴覚スクリーニング」 JOHNS11「特集 新生児難聴の発見と対応」(東京医学社, 2000)</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	発声発語・嚥下系障害学演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	小澤 由嗣, 中村 文		
研究室の場所	三原キャンパス 4432研究室(小澤), 1321研究室(中村)		
オフィスアワー	特になし(できるだけ事前に, メール・来室等により予約してください)		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	発声発語の困難(いわゆる機能性、器質性、運動障害性構音障害)、検査法、評価、支援		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本演習の目標は、発声発語に困難を持つ人に対する言語聴覚士としての対応方法の基礎を身につけることです。到達目標：①発声発語系障害学概論Ⅰ、Ⅱで学習した発声発語の諸症状と、その発現機序についての知識、臨床評価の視点、支援方法についての知識を再度確認し、②実際に運用していく方法を学びます。		
授業の内容	運動障害性構音障害(dysarthria)、機能性構音障害、器質性構音障害について、障害の有無と種類を鑑別し、問題点を把握する力をつけること、報告の仕方、支援計画の立案などを通して、言語聴覚士による支援の基本的方法を獲得することを目指します。		
成績評価の方法	授業内で行う基本事項の小テスト、期末テスト、演習への取り組み姿勢、提出課題等をもとに総合的に行ないます。		
テキスト	発声発語・嚥下系障害学概論Ⅰ、Ⅱの配布資料、教科書を基本文献とし、必要に応じて、授業の際に追加提示、配布します。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	演習形式のため、上記目標の達成のためには積極的な参加、取り組みが必要です。やむを得ず、遅刻や欠席をする場合には、<事前もしくは事後に必ず連絡し、補習方法について相談>してください。 発声発語・嚥下系障害学概論Ⅰ、Ⅱの配布資料、教科書の関連部分を忘れずに持参してください。		

授業科目名	言語情報科学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	矢守 麻奈		
研究室の場所	三原キャンパス 3423研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	講義形式、演習形式及び学生による課題発表形式を併用する。学生は、講義と演習に出席し、課題のレポートを作成・発表することが義務である。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ノンバーバル・コミュニケーション、コミュニケーション様式、コミュニケーション手段、プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 客観的事実とそれに基づいた論理的推測の正確な記述を習得する。</li> <li>2. 適切な発声方法、表現方法を習得する。</li> <li>3. 種々のコミュニケーション様式について、言語聴覚リハビリテーションとの共通点・相違点を分析し、学外臨床実習や将来の言語聴覚臨床に活かす。</li> </ol>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論理問題の解答・記述を通して、正確・簡潔で解りやすい記述を習得する。</li> <li>2. セリフの無い短編映画を鑑賞し、脚本再現を通して、動作・行為・表情・声調などノンバーバル・コミュニケーションへの注目・分析とその言語化を体験する。</li> <li>3. 落語、漫才、演劇等における表現方法の分析を通して、多様なコミュニケーション様式の存在に注目する。</li> <li>4. 対人コミュニケーションの比重が大きい様々な職業の分析を通して、言語聴覚士に必要なコミュニケーションについて考察する。習得した各種知識や理論、技法等の言語聴覚リハビリテーションへの応用を考える。</li> </ol>		
成績評価の方法	出席を含む受講態度、レポート、課題発表を総合的に評価する。		
テキスト	配布資料、都度紹介		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	放送等において、語学教師、俳優、アナウンサー、落語などの専門家の活動に注目し、その専門的技術と表現方法の実際に触れ、自らも実践してコミュニケーションの本質を追求する努力を継続してください。 欠席する際はメール等で必ず事前連絡してください。		

授業科目名	認知系障害学演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	渡辺 眞澄・坊岡 峰子・中村 文・津田 哲也		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
授業の形式・方式	授業日程にしたがって、講義および演習形式で実施する。 グループ発表，ディスカッションを取り入れるため，授業に積極的に参加することが義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科4年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	失語症，高次脳機能障害の検査法，高次脳機能障害のリハビリテーション，認知症，単一事例実験計画法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>「認知系障害学概論Ⅱ・演習Ⅰ」から引き続き，より広く認知障害・高次脳機能障害の評価とリハビリテーションを扱い，言語聴覚士として必要な知識・技能および考え方を身に付けることを目標とする。</p> <p>これまでの認知系障害学の講義を積極的にまとめ，検査・評価・解釈・訓練・その効果の評価など，一連の流れを習得する。</p>		
授業の内容	<p>(1) 失語症に関する知識，評価，訓練の総まとめを行う。</p> <p>(2) 失語症以外の高次脳機能障害の評価・検査法と支援・リハビリテーションの方法を検討する。</p> <p>(3) 認知症などによる高齢者のコミュニケーション障害や，高齢者施設等における言語聴覚士の役割を考え，実際に学ぶ機会を設ける。</p> <p>(4) 単一事例実験計画法について学習する。</p> <p>以上の内容を通して，これまでの認知系障害学の専門知識，技法などの習得度を確認していく。</p>		
成績評価の方法	授業への参加（グループワーク，発表，ディスカッションを含む）50%，課題レポート50%の割合で評価する。レポート課題，および提出期限は，授業時間中に提示する。		
テキスト	講義時に資料を配布する。		
参考文献	石合純夫著『高次脳機能障害学 第2版』（医歯薬出版）2012，鹿島晴雄他編『よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション』（永井書店）2008，笹沼澄子編『言語コミュニケーション障害の新しい視点と介入理論』（医学書院）2005，鹿島晴雄他編『よくわかる失語症と高次脳機能障害』（永井書店）2003。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	遅刻厳禁。 グループワーク，ディスカッションの機会が多くなるが，積極的に参加すること。 検査手順の理解など講義時間以外の課題を遂行していることを前提に講義をすすめるため，計画的にしっかり実施しておくこと。また，自分で参考文献を探して調べることも必要となる。		



授業科目名	拡大・代替コミュニケーション特論		
担当教員氏名(助手氏名)	坊岡 峰子		
研究室の場所	三原キャンパス 2514研究室		
オフィスアワー	坊岡：予約制		
授業の形式・方式	講義形式を主に、演習形式及び学生による課題発表形式を併用する。 学生は、講義と演習に参加し、課題について発表・レポートを作成・提出する。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	コミュニケーション障害学科4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	拡大・代替コミュニケーション (AAC) 手段、ローテク、ハイテク、ノンテク、コミュニケーション機器、閉じ込め症候群 (LIS)、筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、脳性麻痺、知的障害、失語症、認知症、会話相手支援、AAC国際学会		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	音声言語によるコミュニケーションが困難な言語障害児・者に対して、根拠に基づき、拡大・代替コミュニケーション (AAC) の選択、導入、活用ができる基礎的な知識と技術を習得する。 各種AAC手段 (ノンテクからハイテクまで) に関する理解を深める。		
授業の内容	<p>拡大・代替コミュニケーション (AAC) に関する概要や動向、実践例などを、国内だけでなく、AAC国際学会で入手した情報をはじめ、論文などから国際的な動向もなるべく多く提供する。</p> <p>また、閉じ込め症候群、筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、脳性麻痺、知的障害、さらに失語症、認知症など様々なコミュニケーション障害をもつ人に対するAACの適応とその有効性について紹介する。</p> <p>本授業では言語聴覚療法臨床場面での活用を念頭に置き、ビデオ等で実際の使用例を多く提示しながら、導入から活用までに重要となる視点を具体的に示す。さらに、演習形式で、できる限り実際に多彩な拡大・代替コミュニケーション用具や機器に触れて、使用方法や機器の操作、特性について学べる機会を提供する。</p>		
成績評価の方法	毎時間後のまとめ・感想30%、指定課題20%、最終発表50%で評価する。		
テキスト			
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ K. M. Yorkston著『拡大・代替コミュニケーション入門』(協同医書) 1996.</li> <li>・ 久保健彦編著『AAC』(建帛社) 2000.</li> <li>・ 高橋ヒロ子他編『拡大代替コミュニケーション(AAC)(シリーズ言語臨床事例集第13巻)』(学苑社) 2006.</li> <li>・ 坊岡峰子. 介護士のコミュニケーションスキルアップとAAC活用の効果. 地域リハ4 (10), 829-832, 2009</li> </ul>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遅刻厳禁.</li> <li>・ 提出期限厳守： 原則期限以降は受け付けない。日時、提出内容をしっかり確認して下さい。</li> <li>・ ころろWeb 「ISSAC」等のAAC関連ホームページ等を閲覧して、多数の拡大・代替コミュニケーション用具や機器についての情報収集を心がけること。</li> </ul>		

授業科目名	コミュニケーション福祉工学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	大西 英雄、伊集院 睦雄、吐師 道子、古谷 泉、細川 淳嗣		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	毎週月曜日18:00-19:00		
授業の形式・方式	講義と演習		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	コミュニケーション障害学科4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	保健福祉と情報技術 (IT)、コミュニケーション障害、情報ネットワーク、社会参加、福祉機器、バリアフリー社会、ユニバーサル社会		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	コミュニケーション障害があるとどのような情報バリアーに直面し社会参加がどのように制約される可能性があるのか、制約の可能性を最小限にしてバリアフリー社会、ユニバーサル社会を建設するために科学技術はどんな貢献をしてきたか、しようとしているかを紹介する。STにとって将来大切になってくるIT活用遠隔医療等の実際など、ITと保健福祉の関係を学び、実際に活用するための知識を習得する。		
授業の内容	コミュニケーション福祉工学：遠隔医療の基本と実際：STにとって将来大切になってくるIT活用遠隔医療の実際（細川）心の機能とIT（伊集院）、音声録音・解析の基本と実際：ITの基本知識、雑音に悩まないたまえに（古屋）、ITを介した音声・聴覚・言語障害データベースの活用法（吐師）、画像処理の基本と実際：ITを駆使した医療画像的な観点から（大西）、		
成績評価の方法	出席、講義への参加・講義演習への貢献度を加味して総合的に評価する。		
テキスト	必要に応じて配付する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	コミュニケーション障害があるとどのような情報バリアーに直面し社会参加がどのように制約される可能性があるのか、情報科学技術を活用するとどのような解決法があるのか、各自、主体的に調査し提案しよう。		

授業科目名	ヘルス・コミュニケーション論		
担当教員氏名(助手氏名)	矢守 麻奈		
研究室の場所	三原キャンパス 3423研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	学生は、講義と演習に出席し、課題のレポートを作成・発表することが義務である。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	コミュニケーション障害学科4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルス・カウンセリング, 医療面接, インフォームド・コンセント, コーチング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	医療や保健福祉の場における健康問題をめぐる関係者の交流について考察し、医療者と患者・家族間、専門家同士、行政関係者などとの円滑なコミュニケーションの重要性を認識し、問題点を分析して、演習を通して円滑かつ有効なコミュニケーションのための理論的知識と基礎的な技能・態度を見に付けることができる。		
授業の内容	1. 医療現場を描いた映画・テレビドラマの場面分析等を通して、医療従事者として適切なコミュニケーションの基盤に注目する。2. ヘルスコミュニケーションにおける理論を解説し、小グループによる演習形式の実践を通して、ヘルス・カウンセリングの理論と技法の基礎を身に付ける。3. コーチングの理論を学び、演習を通して、医療面接の特殊性について考察し、保健医療福祉の場面における効果的なコミュニケーション技法と態度を学ぶ。		
成績評価の方法	出席を含む受講態度とレポートを総合的に評価する。		
テキスト	教科書：柳澤厚生編著『ナースのためのコーチング活用術』（医学書院）2004		
参考文献	参考書：『ヘルス・コミュニケーション. これからの医療者の必須技術』（九州大学出版会）2000, 斎藤清二『はじめての医療面接 コミュニケーション技法とその学び方』（医学書院）2002		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日常から放送等における医療・福祉職のコミュニケーションの内容・スタイルに注目してください。 欠席する際は必ず事前にメール等で連絡してください。		

授業科目名	社会福祉原論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	手島 洋		
研究室の場所	三原キャンパス 4525研究室		
オフィスアワー	要予約、最初の授業時に連絡		
授業の形式・方式	対面講義。授業日程に従い、講義形式を主体とし、演習実習形式も考慮する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科1年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、社会福祉の基礎		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>(目標) 1. 現代社会における社会福祉の理念と意義について理解させる。2. 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解させる。3. 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解させる。4. 社会福祉の専門性について理解させる。5. 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。6. 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。(カリキュラム上の位置づけ) 社会福祉士受験資格取得における必修科目</p>		
授業の内容	<p>現代社会における社会福祉の理念と意義、対象と援助の形態及び方法について、事例や演習形式等を活用し理解させる。社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要、そして社会福祉サービスの体系と利用者保護制度の仕組みの概要を理解させると共に、社会福祉の専門性について理解させる。社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。</p>		
成績評価の方法	出席状況、課題レポート、期末試験等の結果をもとに総合的に評価する。		
テキスト	<p>*社会福祉小六法 平成25年版 *講義ごとにプリントを配付する</p>		
参考文献	*随時、授業の中で提示する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	特になし		

授業科目名	相談援助の基盤と専門職 I		
担当教員氏名(助手氏名)	三原 博光		
研究室の場所	三原キャンパス 4526研究室		
オフィスアワー	授業時に伝達		
授業の形式・方式	三原キャンパス対面講義		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科1年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、相談援助、ソーシャルワーク、高齢社会		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日本の社会福祉の現状を認識しながら、社会福祉士の役割と意義、相談援助の基盤について理解をすることを目標とする。		
授業の内容	社会福祉士の専門職としての相談援助の定義、意義、理念などについて学ぶ。また、現在の高齢社会の老後問題について、健康、介護などの側面からも学ぶ。		
成績評価の方法	出席、授業への参加態度、期末試験の結果を総合的に評価する。		
テキスト	テキスト1. 社会福祉士養成講座編集委員会「相談援助の基盤と専門職」中央法規。 2. 「日本の社会福祉の現状と展望」(岩崎学術出版社:三原博編)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	高齢者福祉論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	住居 広士		
研究室の場所	三原キャンパス 2505研究室		
オフィスアワー	水曜日お昼休み、場所は担当研究室と2405演習室等にて、面談等は事前に要予約とする。		
授業の形式・方式	講義形式を主体として、演習や実習型式も取り入れて実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科1年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	介護保険制度、老年学、高齢者に対する支援、老人福祉法、少子高齢社会、老年生活機能学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	1. 老人の精神的・身体的特徴や障害を理解する。老人福祉と介護保険の社会的背景を理解する。2. 現代社会の高齢者福祉と介護保険の理念と意義を理解する。3. 高齢者の福祉需要の把握方法を理解する。4. 高齢者福祉と介護保険制度と介護サービスの体系を理解する。5. 介護サービスの社会的意義と現状を理解する。6. 高齢者福祉及び介護保険の関連分野の専門職と連携を理解する。7. 高齢者のための地域及び住環境の整備と福祉用具を理解する。8. 高齢者に対する相談援助活動と権利擁護と理解す。		
授業の内容	1) オリエンテーション 2. 老人福祉と介護保険に関する法とその内容 3) 老人福祉法等 4) 老人保健法等 5) 介護保険法等 6) 高齢者虐待防止法等 7) 関連法規 8) 高齢者に対する福祉サービスと介護サービスの体系 9) 高齢者福祉サービスと介護サービスの内容 2) 居宅介護サービスと地域密着型サービスの内容 10) 施設サービスと居住系サービスの内容 11) 民間シルバーサービス、住民参加型の在宅福祉活動の役割と現状 12) 老人福祉及び介護保険の関連分野の組織、福祉専門職とその連携のあり方 13) 高齢者に対する相談援助活動の実際と権利擁護 14) 高齢者に対するソーシャルワーク 15) 総括		
成績評価の方法	期末試験、授業の出席状況および課題レポート等で評価する。試験の実施方法については、授業の中で具体的に提示する。課題レポートは、随時授業の中で提示する。		
テキスト	教科書 『高齢者に対する支援と介護保険制度』 ミネルヴァ書房、2014年。		
参考文献	参考文献 『高齢者に対する支援と介護保険制度』 中央法規、2012年。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	高齢者福祉と介護保険の課題は、日本の少子高齢社会における社会保障とソーシャルワークにとって極めて重要な課題であり、地域包括ケアにおける保健・医療・福祉に関するソーシャルワークを理解する。日頃から、文献等で関連記事を読んで、自分なりの考えを持つようにすること。授業でも必要に応じてプリント等を配布し、最新福祉・介護・ソーシャルワーク等の情報の理解と収集に努める。		

授業科目名	地域福祉論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡子		
研究室の場所	三原キャンパス 2517研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面式授業、内容によってグループディスカッションを取り入れる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科 2 年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	福祉コミュニティ、コミュニティソーシャルワーク、住民主体、地域ケアシステム、ボランティア組織とNPO		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域福祉の主流化と言われ、今日、地域福祉が注目されています。授業では、なぜ今地域福祉なのかを考えるため、実際に地域で起こっている様々な具体的な問題を取り上げます。地域福祉論を学ぶことによって現代社会の様々な不適応現象に対応できる技術や知識の習得を目指します。授業の目標①イギリス、アメリカ、日本の地域福祉の歴史が理解できる。②地域福祉の理念と概念について理解できる。③地域福祉の担い手について社会福祉基礎構造改革以降の規制緩和、福祉サービス供給体制の多元化論を背景に現状と課題について熟考できる。		
授業の内容	<p>地域で具体的に起こっている事例を取り上げながら、伝統的な地域福祉の理論と今日的な議論や動向について考えていきます</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 災害福祉</li> <li>2 社会福祉基礎構造改革以降の地域福祉</li> <li>3 「新たな支えあい」で求められているもの</li> <li>4 地域福祉の歴史 セツルメントとCOSを中心に</li> <li>5 日本における地域福祉の萌芽 - 賀川豊彦を中心に</li> <li>6 戦後日本における地域福祉の展開 社会福祉協議会、民生委員</li> <li>7 イギリスのコミュニティケア改革やパートナーシップ体制、自治体評価の導入とパブリック機能の評価</li> <li>8 NPOとボランティア</li> <li>9 事例研究とブレインストーミング</li> <li>10 外部講師による講演、フィールドワークの方法論</li> </ol>		
成績評価の方法	授業の積極的参加、課題への取り組み状況、小レポートの提出、期末試験によって総合的に評価します。		
テキスト	『地域福祉の理論と方法第2版』坪井真、木下聖編 (株みらい)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	レポートの提出期限を厳守する。特別な理由のない限り、授業には出席するように努める。グループディスカッションには積極的に取り組む。毎回授業開始時に出席確認。		

授業科目名	社会保障論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	都留 民子		
研究室の場所	三原キャンパス 3503研究室		
オフィスアワー	金曜日 10時～14時半		
授業の形式・方式	講義		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科2年生対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	貧困 生活 福祉国家		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	社会保障制度の土台となる、生活・貧困の実態、社会制度についての社会科学的見方を享受する。		
授業の内容	近代的貧困とは何か社会保障とは何か救貧制度から社会保障・福祉国家体制への道（イギリス・フランスなどのヨーロッパの歴史から）		
成績評価の方法	適宜のレポートおよび試験		
テキスト	テキストは特になし参考資料は授業で配布		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	社会福祉援助技術論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	江本 純子		
研究室の場所	三原キャンパス 2516研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	主として講義を行うが、グループワークも取り入れる。またレポートを課することがある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	相談援助、ソーシャルワーク、実践モデルとアプローチ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	ソーシャルワーカーが行う業務内容についての理論と、これを実践で活用するための方法を学習する。		
授業の内容	個人、家族、小集団・組織、地域社会といったクライアント・システムに対して、ソーシャルワーカーが対応するための理論や方法について、主として質疑応答を交えた講義形式で行う。また、必要に応じてグループワークも行う。第1回：オリエンテーション 授業方針と評価方法の説明等 第2回：相談援助技術とは(1) 第3回：相談援助技術とは(2) 第4回：相談援助の構造と機能(1) 第5回：相談援助の構造と機能(2) 第6回：人と環境の交互作用(1) 第7回：人と環境の交互作用(2) 第8回：様々な実践モデルとアプローチⅠ(1) 第9回：様々な実践モデルとアプローチⅠ(2) 第10回：様々な実践モデルとアプローチⅡ(1) 第11回：様々な実践モデルとアプローチⅡ(2) 第12回：様々な実践モデルとアプローチⅢ(1) 第13回：様々な実践モデルとアプローチⅢ(2) 第14回：様々な実践モデルとアプローチⅢ(3) 第15回：まとめ		
成績評価の方法	3分の2以上出席者のみに試験・レポートを実施し、100点満点で評価する。これを持ち点とし、受講態度悪しき者、質問への返答なき者は、1日につき5点原点、所属グループ発表時に正当な理由なく欠席した者は、1回につき10点減点し、合計60点以上の者のみに単位を認定する。なお、上記にかかわらず、受講態度の著しく問題がある場合には、単位認定しない。		
テキスト	中央法規 社会福祉士養成講座 「相談援助の理論と方法Ⅰ」「相談援助の理論と方法Ⅱ」(2冊とも使用します)		
参考文献	適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業では、基礎知識や技術とともにソーシャルワーカーとしての基本姿勢や、ソーシャルワーカー特有の視点を伝えてゆきたいと思っています。そこで、授業への参加態度は厳しく評価します。特に著しく参加態度が悪い場合には、単位認定しませんので、こころして参加してください。		

授業科目名	介護技術		
担当教員氏名(助手氏名)	國定 美香		
研究室の場所	三原キャンパス 4531研究室		
オフィスアワー	担当教員の研究室(要予約)。		
授業の形式・方式	講義と演習形式で実施		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	コミュニケーション, 自立支援, 生活援助技術		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	相談援助に必要なコミュニケーション能力を習得し、実際にできるようになる。そして、生活援助に必要な基本的知識・技術を学び、適正な援助ができることを目標とする。		
授業の内容	1. コミュニケーション技術      2. 移動・移乗・体位変換に関する生活援助技術 3. 更衣に関する生活援助技術      4. 清潔・整容に関する生活援助技術 5. 栄養・食事に関する生活援助技術      6. 排泄に関する生活援助技術		
成績評価の方法	レポート・試験で総合的に評価する。		
テキスト	介護技術全書編集委員会編「わかりやすい介護技術演習」ミネルヴァ書房, 2007年		
参考文献	日高正巳編「介護ケア・ガイド」文光堂, 2012年		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	演習は、実技ができる(動きやすい)服装を着用して下さい。またお互いに、援助対象者と援助者となり、特に援助対象者の援助される気持ちを体験します。		

授業科目名	障害者福祉論		
担当教員氏名(助手氏名)	横須賀 俊司		
研究室の場所	三原キャンパス 4522研究室		
オフィスアワー	月曜昼休み(要予約)		
授業の形式・方式	基本的には講義形式で進めていく。ビデオ鑑賞、グループディスカッションなども適宜取り入れていきたい。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	障害、当事者、非対称、社会モデル		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	障害者を支援するに当たって求められる当事者主権の概念や、障害者と支援者の関係に対する認識枠組みを理解できるようにする。		
授業の内容	まず障害者福祉論における基本的な認識枠組みについて講義をする。その後に障害者福祉論の各論について講義をする。特に最近変化が著しい障害者福祉制度・政策について批判的に検討する。その中から、障害者の支援者として、どのような役割を果たすべきなのかを考えていく。		
成績評価の方法	レポートの提出、期末試験、場合によっては小テストを実施する。それらを総合的に評価する。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献	適宜紹介、配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	社会福祉援助技術演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	永野 なおみ 松宮 透高		
研究室の場所	三原キャンパス 4524研究室(永野)、2519研究室(松宮)		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業。1学年を2グループに分け、それぞれを1人の教員が担当することを基本とする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術、ソーシャルワーク記録、社会福祉の価値と倫理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	社会福祉専門職として相談援助を行う際に必要となる知識と技術の基礎を、演習課題を通して実践的に習得することを目標とする。またこの授業で学ぶ内容は、社会福祉実習Iを行ううえで必要となる基礎的な能力であるので、実習に備えて十分な学習を行うことが求められる。		
授業の内容	厚労省シラバスに示す①自己覚知、②基本的なコミュニケーション技術の習得、③基本的な面接技術の習得に加えて、④ソーシャルワークの記録の方法、⑤社会福祉の実践の場での価値・倫理等について、毎回教員が提示する演習課題にそって、ロールプレイや小グループでの討議、プレゼンテーション等を行う。		
成績評価の方法	出席、授業への参加態度、レポートなどを総合的に評価する。		
テキスト	テキストは使用せず、毎回教員が準備する資料を用いる。		
参考文献	適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	精神保健学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	中谷 隆		
研究室の場所	三原キャンパス 4528研究室		
オフィスアワー	月曜日午前中		
授業の形式・方式	双方向の対面一斉授業である。発問に対して積極的に応答することを求める。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神疾患の分類と特徴, メンタルヘルス, 精神科医療の実際		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	精神保健福祉士として現場でクライアント及び病院・施設等利用者の心理社会的側面を理解し、それに対する対応のあり方や対応方針や対応策を自然に思いつく感性を磨くことを目指す。本授業は人間福祉学科カリキュラムの専門領域特有の科目に属し、その中の「精神保健福祉士専門科目群」に位置付いている。		
授業の内容	平成9年に、精神保健向上及び精神障害者の福祉の増進に寄与することを目的とした「精神保健福祉士法」が制定された。また平成11年に改正された「精神保健福祉法」には、国民の義務として、精神的健康の保持及び増進に努めるとともに、精神障害者などに対する理解を深め、精神障害者などがその障害を克服し、社会復帰をしようとする努力に対し、協力するように努めなければならないと規定されている。本授業ではこの精神をもとに、心の健康、すなわちメンタルヘルスの問題を臨床ケースを基礎に多角的に考察してみる。その立どころは、臨床ケースで心の病める人間を健康な人間からわずかに突出した氷山の一角としてとらえ、そのことから逆に心の健康の全体像を把握しようとするものである。心を病む人たちも含め、自分自身をも俯瞰的に把握するきっかけを与える。その上で、現場においてクライアントや利用者の行動変容を促す面接技法はどうあるべきか考えてもらう。		
成績評価の方法	試験60%, 発問に対する積極的応答30%, 課題提出10%		
テキスト	なし		
参考文献	新・精神保健福祉士養成講座 第2巻 『精神保健の課題と支援 第2版』		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	発問形式による考える授業を展開するので、授業に対する積極的姿勢と関与が求められる。		

授業科目名	精神保健福祉論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	金子 努		
研究室の場所	三原キャンパス 4423研究室		
オフィスアワー	前期：木曜日，後期：木曜日		
授業の形式・方式	対面による講義形式を基本とする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科 2 年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士，精神障害，生活のしづらさ，精神科ソーシャルワーク		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標は，次の4点について説明できるようになることである。  ①精神保健福祉士が持つべき価値，②精神障害者の社会的復権，③精神保健福祉施策の歴史と現況，④精神科ソーシャルワークの実際  当該科目は，専門領域特有の科目のなかの精神保健福祉士専門科目群に位置する。</p>		
授業の内容	①精神保健福祉施策の障害福祉施策全体における位置づけを，法・制度の変遷を学ぶことを通して理解を促す。 ②精神障害者の抱える生活のしづらさや困難の理解を促す。 ③精神保健福祉士の役割・機能，援助の実際について理解を促す。		
成績評価の方法	授業における議論、発言の積極性20%，授業期間中に行う確認テスト等提出物30%，期末テスト50%で成績を評価する。全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。		
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座第6巻 精神保健福祉に関する制度とサービス』第3版，中央法規出版，2015年，『精神保健福祉士への道』久美，2009年		
参考文献	授業のなかで逐次紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業中に私語，携帯電話，飲食はしないこと。		

授業科目名	精神保健福祉援助技術総論		
担当教員氏名(助手氏名)	金子 努		
研究室の場所	三原キャンパス 4423研究室		
オフィスアワー	水曜日		
授業の形式・方式	対面式授業を基本とし、グループワークを適宜行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科2年生(平成24年度入学生以後)		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士, 精神科ソーシャルワーク		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標は次のことを説明できるようになることである。</p> <p>①精神保健福祉士とは何か説明できる。</p> <p>②精神保健福祉士と社会福祉士との違いについて説明できる。</p> <p>③精神科ソーシャルワークの独自性等について説明できる。</p>		
授業の内容	<p>この授業では、次の点について、テキストや参考文献等を活用し、その理解を図る。</p> <p>①精神保健福祉士の役割と意義について、資格創設の経緯を踏まえ理解を図る。</p> <p>②精神保健福祉士と社会福祉士との違いについて理解を図る。</p> <p>③ソーシャルワークにおける精神科ソーシャルワークの位置づけ、独自性の理解を図る。</p>		
成績評価の方法	授業終了時の確認テストの提出30%、期末テストの結果70%で評価する。全体を通じ60%以上のポイントを取得できているものを単位認定する。		
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座 精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)』中央法規, 2013年		
参考文献	『精神保健福祉士への道』久美, 2009年, 『かかわりの途上で—こころの伴走者, PSWが綴る19のショートストーリー』へるす出版		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業中の私語, 携帯電話の使用, 飲食, 無断退出は禁止します。		

授業科目名	保健医療サービス		
担当教員氏名(助手氏名)	永野 なおみ		
研究室の場所	三原キャンパス 4524研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	講義を中心に進め、適宜小グループでの討議を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	医療保険制度、診療報酬、医療制度改革、チーム医療、多職種協働、医療ソーシャルワーカー		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	ソーシャルワーカーとして体得しておくべき保健医療の各種制度やサービスの内容について、基礎知識を身につけ、さらに近年の政策の動向について理解すること、また保健医療専門職の役割を理解し連携のあり方を知ることで、チームの一員としてのソーシャルワーカーの役割を理解することを目標とする。		
授業の内容	テキストを中心に、①医療保険制度の概要、②保健医療サービスの概要、③保健医療サービスにおける多職種協働、④医療ソーシャルワーカーの役割とその課題、⑤現代の保険医療制度の課題等について学んでゆく。また終末医療や生殖医療における倫理問題や、医療保険の財政問題など、医療をめぐる今日的な課題についても取り上げる。		
成績評価の方法	授業への参加度40%、授業期間中のレポート・小テスト10%、期末試験50%として評価する。		
テキスト	「保健医療サービス」、児島美都子他編著、学文社		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	公的扶助論		
担当教員氏名(助手氏名)	都留 民子		
研究室の場所	三原キャンパス 3503研究室		
オフィスアワー	水曜日2～3時限		
授業の形式・方式	講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象(2年次の社会保障論を履修した学生)		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	貧困、生活保護、自立支援		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	近代的貧困の性格－社会保障制度における公的扶助の役割の理解を深める		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資本制社会の仕組みと貧困・救貧制度から公的扶助制度の歴史・生活保護制度の概要</li> <li>・公的扶助の国際比較(日・英・仏)</li> </ul>		
成績評価の方法	レポート・テスト・授業への参加など総合的に判断		
テキスト	授業開講後に指定		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	権利擁護と成年後見		
担当教員氏名(助手氏名)	手島 洋		
研究室の場所	三原キャンパス 4525研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面講義。授業日程に従い、講義形式を主体とし、演習実習形式も考慮する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	権利侵害、エンパワーメント、虐待防止、成年後見制度		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	(目標) 1. 社会福祉援助における権利擁護の意義について理解させる。2. 人権の歴史と理念について理解させる。3. 権利侵害の現状を理解させる。4. 権利擁護に関する法制度について理解させる。5. 権利擁護の実践について理解させる。(カリキュラム上の位置づけ) 社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格取得における必修科目		
授業の内容	社会福祉援助の基盤となる権利擁護の概要について、事例や演習形式等を活用し理解させる。具体的には、人権の歴史と概要について理解したうえで、権利擁護の対象とする権利侵害の現状をふまえて、権利擁護を図る法制度とその実践内容を理解させる。		
成績評価の方法	出席状況、課題レポート、期末試験等の結果をもとに総合的に評価する。		
テキスト	社会福祉士養成講座19「権利擁護と成年後見制度」第2版 中央法規出版 2010年		
参考文献	随時紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	社会福祉援助技術論Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	松宮 透高		
研究室の場所	三原キャンパス 2519研究室		
オフィスアワー	月曜日・金曜日 その他の曜日でも希望者とは面談しますので事前にメールか電話で問い合わせること。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従い、講義形式を主体とし、演習実習形式も用いる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	グループワークの理論と展開、ソーシャルワークの展開過程における支援技術、ソーシャルワーク実践に関連する技術		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	ソーシャルワークについては、理論6科目(相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ、相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱに該当)と演習5科目(相談援助演習Ⅰ～Ⅴ)、実習5科目(実習指導Ⅰ～Ⅲ・現場実習Ⅰ・Ⅱ)、さらには精神保健福祉士科目につながる体系的な科目群から構成されている。本科目は、そのうちグループワーク、ソーシャルワークの展開過程における臨床技術、関連する技術について取り上げる。ソーシャルワーカーに求められる基本的な理論と技術について理解し、演習や実習とリンクしながら実践力の獲得につながるための基盤となる能力を身につけることを目標としている。		
授業の内容	この講義では、主に以下の項目について取り上げる。 ①グループワークの理論、展開過程、支援技術：テキスト「相談援助の理論と方法Ⅱ」の第3章に基づき、グループワークの基本的な理解を目指す。 ②アウトリーチの技術：アウトリーチの意義と方法について理解し、とくにACT(包括型地域生活支援プログラム)について取り上げ、ストレングス視点に基づいた支援方策を理解する。 ③相談援助の展開過程における技術：テキスト「相談援助の理論と方法Ⅰ」の第8～11章に基づいて、相談援助の展開過程において必要となる諸技術の理解を目指す。 ④相談援助に関連して共通に求められる、面接技術・記録技術・交渉技術などについての理解を目指す。 ⑤それぞれの学習課題について、国家試験問題を用いた概念整理を行う。		
成績評価の方法	学期末評価試験(60%)、中間テスト(30%)、レポート課題(10%)により評価した上で、講義への参加姿勢(欠席を含め問題がある場合は最大40点減点する)を加味して総合的に評価する。		
テキスト	『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規出版および『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版		
参考文献	岩間伸之(2008)『対人援助のための相談面接技術』中央法規 久保紘章・副田あけみ(2005)『ソーシャルワークの実践モデル』川島書店		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	ソーシャルワークは、人間生活とそれを取り巻く社会環境との交互作用によって生じた生活問題を対象とする。そのため、支援者には人間への多面的な理解と対人関係能力、社会資源の活用・開発に関する能力などが不可欠である。同時に、支援に際しては多くの変数に囲まれることによる混乱とそれに伴う無力感も生じがちである。そこで、支援の理論的フレームと基礎的な技術の修得は、工夫し続けながら柔軟に支援を展開する上で重要な指標や支えとなる。自らを機能させるために、積極的な参加を求めたい。		

授業科目名	社会調査論		
担当教員氏名(助手氏名)	都留 民子, 中谷 隆		
研究室の場所	三原キャンパス 4528研究室(中谷), 3503研究室(都留)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	統計的調査(量的調査) 質的調査 質問紙調査法 インタビュー		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	社会福祉実践において、対象者の「事実」と「意識」を学び、実践を「分析」でき「効果」を明らかにする調査方法を習得する。		
授業の内容	前半は統計的調査の方法および、そのデータ解析の方法について教授する(中谷担当) 後半は質的調査でのインタビューの方法、そのデータ解析の方法について教授する(都留担当)		
成績評価の方法	試験および出席・授業の参加などの平常点		
テキスト	開講時に指定		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	無断欠席禁止及び準備学習(予習)を怠らないこと。		

授業科目名	社会福祉援助技術演習Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	國定 美香・西村 いづみ		
研究室の場所	三原キャンパス 4531研究室(國定), 2518研究室(西村)		
オフィスアワー	國定:要予約 西村:要予約		
授業の形式・方式	対面授業。1学年を2グループ(20人ずつ)に分けて行う。		
単位数(時間数)	2単位(30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	ロールプレイ・グループワーク・事例検討		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	社会福祉専門職として相談援助を行う際に必要となる専門知識と専門技術を、演習課題を通して実践できるようになることを目標とする。当該科目は、社会福祉士専門科目群に位置する。		
授業の内容	「演習Ⅰ・Ⅱ」に引き続き、ロールプレイや小グループでの討議等のほか、事例検討を行う。		
成績評価の方法	レポート課題、演習課題の達成度を総合的に評価する。		
テキスト	必要に応じて参考文献を提示する。		
参考文献	必要に応じて参考文献を提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	理論学習を実践活動につなぐ中間に「演習」は位置している。「わかっていること」を「やれること」にしていく、すなわちソーシャルワークの実践力を身につける。演習によってかえって理論の重要性に気づくこともあろう。主体的に感じ・考え・参加する必要がある。		

授業科目名	精神保健福祉論Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	越智 あゆみ		
研究室の場所	三原キャンパス 3511研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面での講義形式。一部、グループ討議を取り入れる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士、精神障害者、生活支援、居住支援、就労支援、相談援助活動		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>&lt;授業の目標&gt; 1. 精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解し、説明できる。  2. 精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解し、説明できる。  3. 職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む）について理解し、説明できる。  4. 行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解し、説明できる。  &lt;カリキュラム上の位置づけ&gt; 精神保健福祉士国家試験受験資格取得における必修科目（指定科目名「精神障害者の生活支援システム」を、科目名を読み替えて開講）。</p>		
授業の内容	1. 授業オリエンテーション、精神障害者の自立と社会参加のための地域生活支援システム 2. 相談援助、雇用・就業以外の就労、余暇活動 3. ソーシャルサポートネットワーク、地域生活支援システムの実践 4. 居住支援制度の歴史的展開と精神保健福祉士の役割 5. 居住支援の実践と専門職の役割 6. 雇用・就業支援制度の概要と歴史的展開 7. 雇用・就業にかかわる専門職と支援の実践 8. 福祉的就労における支援の実践と近年の動向 9. 市町村・都道府県における相談支援システム 10. 行政における精神保健福祉士の役割と機能 11. 障害の概念 12. 精神障害者の法制度上の定義と特性 13. 精神障害者の生活の実践 14. 精神障害者の生活と人権 15. 授業のまとめ、重要事項の再確認		
成績評価の方法	授業への参加態度20%、授業時に提示する課題レポート40%、筆記試験40%で総合的に評価する。		
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座（7）精神障害者の生活支援システム 第2版』、中央法規出版、2014年。		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は、必ず履修すること。		

授業科目名	精神保健福祉援助演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	江本純子 大下由美		
研究室の場所	三原キャンパス 2516研究室(江本), 4529研究室(大下)		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面形式. グループワークや模擬演習, ロールプレイング等が中心となる.		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士, 精神保健福祉援助, 精神障害者, 精神保健福祉課題, 協働・連携, 相談援助過程, 精神保健福祉現場実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>&lt;授業の目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害者の生活や生活上の困難を把握することができる.</li> <li>2. 精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について, 実践的に修得する.</li> <li>3. 精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目と関連づけることができる.</li> <li>4. 専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていく能力を涵養する.</li> </ol> <p>&lt;カリキュラム上の位置づけ&gt;</p> 精神保健福祉士国家試験受験資格取得における必修科目.		
授業の内容	厚生労働省が示したシラバス内容に含まれる事項を学習する. 具体的な内容は, 随時示していく.		
成績評価の方法	出席, レポート, プレゼンテーション, 授業への参加態度を総合的に評価する.		
テキスト	日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座(8)精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』, 中央法規, 2012年.		
参考文献	授業中に随時紹介する.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は, 必ず履修すること.		

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	横須賀 俊司		
研究室の場所	三原キャンパス 4522研究室		
オフィスアワー	月曜昼休み(要予約)		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	教員ごとのシラバスを参照すること。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	教員ごとのシラバスを参照すること。		
授業の内容	<p>教員ごとのシラバスを参照すること。</p> <p>&lt;教員ごとのシラバスについて&gt; シラバス検索システムから、科目名を入れて、検索すること。</p> <p>&lt;履修登録について&gt; 専門演習 I (登録用) に登録すること。』</p>		
成績評価の方法	教員ごとのシラバスを参照すること。		
テキスト			
参考文献	教員ごとのシラバスを参照すること。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	横須賀 俊司		
研究室の場所	三原キャンパス 4522研究室		
オフィスアワー	月曜昼休み(要予約)		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	障害、障害者		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	障害者や障害者問題を通して自己を相対化し、自らがよって立つ基盤がゆらいでいくこと、また、社会の「常識」を批判的に見る力を養うことを学習の目的にしている。		
授業の内容	障害者福祉を学習する上で必読と思われる文献を輪読し、各自順番で報告をした後に、ディスカッションを行って理解を深めていく		
成績評価の方法	出席、報告内容等により総合的に行う		
テキスト	適宜紹介する		
参考文献	適宜紹介、配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	三原 博光		
研究室の場所	三原キャンパス 4526研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	障害者家族、障害者のきょうだい、地域福祉		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	まず、地域のなかで置かれている障害者家族（障害者、両親、きょうだい）の実情を認識し、どのような支援ができるかどうかを検討することを目標とする。		
授業の内容	県立広島大学重点研究事業成果報告書「障害者の父親の生活意識」を使用し、障害者の父親の思い実情を学ぶ。実際に障害者の両親から、障害者の子育ての苦労体験なども聞く。また、福祉行政参加者からも障害者家族支援についての話を聞く。その他、障害者の家族に実施した調査報告も紹介をしたい。ビデオも「障害者のきょうだい」を紹介する。		
成績評価の方法	授業の出席、レポート		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	永野 なおみ		
研究室の場所	三原キャンパス 4524研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科 3 年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	医療ソーシャルワーク、患者・家族の理解、チームアプローチ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	保健医療の領域で、医療ソーシャルワークが求められてきた社会的な背景を知ること、病が社会や個人の生活に与える影響や患者・家族が抱える思いについて理解を深めること、医療ソーシャルワーカーの役割を理解することを目的とする。卒業研究のための基礎的な演習と位置づける。		
授業の内容	医療ソーシャルワークに関する文献を読み、発表し、討議することを通して、卒業研究に必要な基礎的な能力を養う。また、本学附属診療所の見学を行い、ソーシャルワーカーの患者、家族への対応や、チームを組むコメディカルスタッフの役割を理解する。		
成績評価の方法	授業への参加度、課題発表、レポート等を総合的に評価する。		
テキスト	①「病気の社会史」立川昭二、岩波現代文庫 ②「私はあなたを見捨てない」宮内佳代子、角川書店		
参考文献	適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	手島 洋		
研究室の場所	三原キャンパス 4525研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面授業及びグループ演習		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	権利擁護、地域福祉、住民主体、地域生活支援、エンパワーメント		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	社会のなかでの権利侵害の現状を幅広く理解し、それに住民活動を中心とした地域福祉活動において権利擁護を図る意義について理解する。		
授業の内容	テキストを中心に権利擁護や地域福祉について批判的に検討していく。方法は、履修学生のレポート発表とそれに対する議論により進める。		
成績評価の方法	授業の出席50%、レポート発表30%、学期末課題レポート20%で成績を評価する。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡子		
研究室の場所	三原キャンパス 2517研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	演習形式、フィールドワーク		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	フィールドワーク、地域ケア、コミュニティケア、アセスメント、多職種協働・連携、チームケア		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>①卒業研究に向けた基礎的な力をつける。先行研究レビューの仕方や研究テーマの設定、研究目的、研究方法等を基礎を学ぶ。</p> <p>②ソーシャルワーク実践の展開をフィールドワークと理論研究の双方から実践理論として理解する。</p> <p>③事例を通じてミクロ、メゾレベルでの研究方法と地域課題との関連性を理解する。</p> <p>④保健・医療・福祉の領域における課題に不透明さを明示する方法として質的研究方法（KJ法や参与観察法等）を学ぶ。事例に潜む課題を探求し、統合化を図る手法を学ぶ。</p>		
授業の内容	<p>地域ケアの形成主体に着目し、事例の検討及び文献研究を行う</p> <p>①各自が興味のある領域から研究テーマが設定できるように研究論文を紹介し、ディスカッションする。</p> <p>②地域を基盤にしてソーシャルワーク実践の在り方について理解を深める。</p> <p>④量的、質的福祉ニーズの把握とその方法を学ぶ。</p> <p>⑤専門職とソーシャルサポートネットワークの展開について学ぶ</p> <p>⑥フィールドワーク 都市と島嶼（社会資源の違いによる住民生活の違いを学ぶ）</p>		
成績評価の方法	授業の出席状況演習における議論への積極的参加課題レポート		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	特別な理由のない限り、授業には出席するように努める。グループディスカッションには積極的に取り組む。		

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	都留 民子		
研究室の場所	三原キャンパス 3503研究室		
オフィスアワー	火曜日と金曜日のお昼休み		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	労働 生活 貧困 失業 社会保障 公的扶助		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	労働および生活への社会科学的見方を取得 社会制度の歴史と現状についての研究方法を習得 社会保障論・公的扶助論の授業で教授した内容を発展させる		
授業の内容	社会理論の専門書の輪読 ゼミ生同士の討論		
成績評価の方法	レポート+授業・討論への参加などの評価		
テキスト	適宜指定図書を提示(半期2, 3冊以上)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	無断欠席禁止		

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	住居 広士		
研究室の場所	三原キャンパス 2505研究室		
オフィスアワー	水曜日お昼休み、場所は担当研究室にて、面談は事前に要予約とする。		
授業の形式・方式	ゼミナールによる対面授業ならびに演習等の形式による。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	介護保険制度、老人福祉法、高齢者福祉、長寿総合科学、高齢者に対する支援		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	1. 高齢者の心身的特徴や生活障害について演習するとともに、高齢者福祉の社会的背景について演習する。2. 現代社会における高齢者福祉の理念と意義について演習する。3. 高齢者福祉における福祉サービスと介護サービスにおけるソーシャルワークを演習する。4. 高齢者福祉に関する社会資源と社会保障システムについて演習する。5. 長寿総合専門演習にて高齢者福祉に対する生活支援と介護保険制度に関する総合的研究演習をする。		
授業の内容	高齢者福祉に関するソーシャルワークの実際について、ゼミナールによる演習形式にて演習する。具体的な高齢者福祉に対する生活支援方法について、事例研究や専門研究等をまじえて演習をする。高齢者福祉に関する福祉サービスや介護サービスについては、近隣の市町村の地域包括支援センターや介護保険事業所を具体的に取り上げながら、より実際的な高齢者福祉に関するソーシャルワークを実践しながら専門演習をする。		
成績評価の方法	演習における出席、レポート、発表、研究などから総合的に評価する。		
テキスト	『高齢者に対する支援と介護保険制度』ミネルヴァ書房、2014年		
参考文献	『介護保険における介護サービスの標準化と専門性』大学教育出版、2007年。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	高齢者福祉の課題は、現代の少子高齢社会において、極めて国際的課題であり、演習等を通じた長寿総合研究で、高齢者福祉に関するソーシャルワークの専門性を高める。		

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	澤田 千恵		
研究室の場所	三原キャンパス 3419研究室		
オフィスアワー	特に定めない。可能な限りいつでも対応する。		
授業の形式・方式	受講生による発表と討論が中心。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	精神科医療、薬物療法、精神疾患、過剰診断、過剰投薬、薬害、病気づくり、向精神薬、ビッグ・ファーマ、自死、エビデンス・ベースド・メディスン、卒論研究		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	精神疾患の転帰研究においては、長期服用によるメリットよりもデメリットのほうが大きいことも指摘されてきたが、巨大製薬資本の力やそれらと手を組む医学界、薬物を求める患者や家族団体によってかき消されてきた。しかし近年、日本でも長期服薬による害を問題化する当事者の声も出てきている。そこで、精神疾患の治療において薬物を必要不可欠と見なす考え方が歴史的社会的にどのように形作られてきたか、服薬がもたらす被害にはいかなるものがあるのかなどを、関連文献を読みながら学んでいきたい。精神科における過剰診断や過剰処方なぜ生み出されているのかを社会経済的な視点から捉え、薬害をなくしていくために私たちが身に着けるべき疾患や薬物、医療に対する情報の受け取り方(メディア・リテラシー)を養うことを目標とする。		
授業の内容	以上の文献講読以外に、卒論制作に向けての準備も行う。卒論のテーマ、文献調査の方法や実際の調査、報告などを行う。		
成績評価の方法	授業への参加態度(50%)とレポート(50%)による評価。		
テキスト	ロバート・ウィタカー『心の病の「流行」と精神科治療薬の真実』福村出版、2012年。 嶋田和子『精神医療の現実：処方薬依存からの再生の物語』蔓書房、2014年。		
参考文献	富高辰一郎『なぜうつ病の人が増えたのか』幻冬舎ルネッサンス新書。高木俊介「抗精神病薬の神話－統合失調症に対する薬物治療への盲信から脱するために」『統合失調症のひろば』。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	金子 努		
研究室の場所	三原キャンパス 4423研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	講義および演習形式で行う。演習では、学生がレポートを報告し、その報告をもとに議論し、深める。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	生活のしづらさ、ケアマネジメント		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	卒業研究論文作成に向け、自らの問題関心を深め、研究テーマの設定に結びつけると共に、論文作成に必要な基礎的な作業、例えば先行研究のレビューの仕方やレポートのまとめ方など、を行えるようになることを目標とする。本授業は、卒業研究論文作成に向けた基礎演習の位置づけとなる。		
授業の内容	ケアマネジメントについて理解を深める。		
成績評価の方法	授業での議論などでの参加度40%、レポート60%の割合で成績を評価する。		
テキスト	ステファン・M. ローズ編、白澤政和他監訳『ケースマネジメントと社会福祉』ミネルヴァ書房、1999		
参考文献	梅野潤子『研究ってなんだろう』高菅出版、2013年 岡田進一『ケアマネジメント原論』(株)ワールドプランニング、2011年		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	若年性認知症の人と家族の抱える生活のしづらさを体験的に理解することを促進するため、(社)認知症の人を支える家族の会広島県支部が主催する若年性認知症の人と家族のつどい(陽溜りの会等、毎月1回土曜日開催)への参加を推奨しています。		

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	江本 純子		
研究室の場所	三原キャンパス 2516研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義および個人・グループ研究・発表形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	こころの健康、精神保健・福祉、メンタルヘルス、精神障害者、労働、政策、ソーシャルワーク		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>変化の激しい現代社会において、多くの人が、さまざまな生活問題やこれに伴うストレスを抱えています。そこで、ソーシャルワーカーは、生活問題を抱える人々を支援する専門職として、重要な役割を担っています。ソーシャルワーカーが実践で活躍するためには、現代を読み解く力と、確かな理論にもとづいた技術の双方が必要です。専門演習 I は、特に前者に焦点を置き、精神保健・福祉の制度・政策が現代社会に十分に対応できているかどうか、現状を把握したうえで、問題点とその所在を総合的に検証する力をつけることを目標とします。</p>		
授業の内容	<p>第1回：オリエンテーション 授業方針と評価方法の説明等第2回：研究概要（1）社会福祉の視点・切り口 第3回：研究概要（2）精神保健福祉視点・切り口 第4回：事例検討（1）問題の立て方 第5回：事例検討（2）構造的な分析方法 第6回：事例検討（3）グループダイナミクスを使って 第7回：研究方法（1）研究テーマの設定 第8回：研究方法（2）問題のカテゴリー化 第9回：研究概要のまとめかた 第10回：問題の背景分析 第11回：問題解決・対処方法の検討 第12回：発表準備 第13～14回：発表 第15回：まとめ</p>		
成績評価の方法	3分の2以上出席者のみに試験・レポートを実施し、定期試験またはレポート60%、授業への参加度（発表、授業態度等）を40%で評価する。小テスト、受講態度等を加味して評価する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	質問・討論への積極的な参加を望みます。 参加人数、参加者の興味関心に合わせて、具体的な内容を決定します。		

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	大下 由美		
研究室の場所	三原キャンパス 4529研究室		
オフィスアワー	メール等で事前に連絡してください。		
授業の形式・方式	対面形式。演習形式。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	家族再統合、変容論、家族変容技法、解決志向アプローチ、ナラティブ・アプローチ、測定、循環的質問法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	保健福祉領域で解決が求められる様々な問題に対し、システムの、社会構成主義的視点からアプローチする方法を理解する。問題解決に向けた最先端の支援技術についても学ぶ。特に、家族とその背景の力学の評定と変容技法の使用方法を、体験的に学ぶ。特に、社会福祉援助技術論Ⅱの学習内容を基礎とし、発展的学習を行う。		
授業の内容	受講生の関心領域（精神科、児童、高齢者など）を中心に、社会構成主義的な視点からの家族支援のための理論的な学習と実践的学習を行う。また、教授する実践理論及び技術に基づいた実践を行っている現場の専門家との学習会や、大学院生によるTAも実施され、臨床的な知識を修得する機会が豊富に提供される。		
成績評価の方法	課題レポートにより評価。		
テキスト	『Reconstructing Meaningful Life Worlds: A New Approach to Social Work Practice』、『ファミリーソーシャルワークの理論と技法』他		
参考文献	『ヒューマンサービス調査法を学ぶ人のために』 『支援論の現在』		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	最先端の高度な理論的、技術的学習を行う。高いコミュニケーション力を有する実践家になりたい学生さんの受講を期待する。		

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	中谷 隆		
研究室の場所	三原キャンパス 4528研究室		
オフィスアワー	特に定めない。		
授業の形式・方式	演習形式。集団討議を基本とする。事前に配布する学術論文等の資料を学習してきてもらい、授業ではそれをもとに討議しつつ内容理解をさらに深めさせる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	論理的思考力, 批判的分析力		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学術論文等の資料を検討しつつ, 論理的思考力と批判的分析力を養うことを授業の目標とする。そして事柄をさらに整理させて抽象的に物事をとらえる力を育成する。卒業研究の準備過程という位置づけである。		
授業の内容	下記の心理学分野からの学術論文等の資料等を摘出して, 調査実験計画の立て方, 方法, 結果の分析の仕方, 解釈の妥当性などを検討する。課題にする資料等は次の分野から摘出する。対人心理学, 集団・社会心理学, 社会的認知, 学習心理学, 認知心理学。		
成績評価の方法	2 / 3 以上の出席がなければ単位は認定されない。評価は, 文献内容の理解度(70%)と授業中の発言(意見)内容(30%)に基づいて総合的に判断する。		
テキスト	テキストは使用しない。参考文献は随時指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	勝見 吉彰		
研究室の場所	三原キャンパス 4530研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	受講学生による発表と討論が中心。必要に応じて教員による講義。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科 3 年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	臨床心理学的研究		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	個々の受講学生が身の回りの様々な事象を心理学的な視点からとらえることに興味を抱くようになっていくこと、そして卒業研究に取り組むための姿勢、方法の基礎を獲得することが目標である。取り上げる領域は特に制限を設けず、学生が自由に興味関心を広げられるよう配慮する。		
授業の内容	学生が卒業研究のテーマを見つけていくことができるように、教員が心理学、精神医学の様々な領域の研究論文等を紹介していく。それらの論文等を読み進めることを通して、受講学生自身が卒業論文に取り上げるテーマを探っていく。そして各自が興味あるテーマに関連した研究論文を紹介しながら、ディスカッションを進めていく。		
成績評価の方法	出席、討論への参加、プレゼンテーション等により評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。資料を配布する。授業の中で参考文献を示す。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	細羽 竜也		
研究室の場所	三原キャンパス 4527研究室		
オフィスアワー	水曜日2限目		
授業の形式・方式	対面式. この演習は以下のとおりに実施する. (1) 人間の適応問題の心理学的メカニズムや対策をグループワークを通して学ぶ. (2) 学生自身が設定したテーマについてグループワークによる研究を行う.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	ストレスとそのマネジメント, ポジティブ心理学, 適応支援		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】 以下のことを授業の目標とする。(1) 関心がある論文の内容を説明できる。(2) 論文の主張の適切性を判別できる。(3) 論文内容について討議ができる。(4) 論文にある分析方法を理解できる。(5) グループ発表に参加できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 後期に開講する演習Ⅱおよび卒業研究の遂行に必要なアカデミックスキルを理解できる。</p>		
授業の内容	<p>主な研究の対象領域は、精神保健分野や児童・障害福祉分野となる。 この演習では、具体的には、以下の内容の授業を実施する。</p> <p>(1) 人間の「適応」に関する研究テーマのガイダンス：卒業研究論文の紹介 (2) 心理学的研究法のガイダンス①：量的アプローチ (3) 心理学的研究法のガイダンス②：質的アプローチ (4) 研究テーマの設定と研究法にもとづく実践 (5) 発表と討論</p>		
成績評価の方法	プレゼンテーション資料 (30%) , レポート作成 (30%) , 演習への参加態度 (20%) , 討論への参加態度 (20%)		
テキスト	必要な資料は随時配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	積極的な授業参加を望む。		

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	松宮 透高		
研究室の場所	三原キャンパス 2519研究室		
オフィスアワー	月曜日・金曜日 希望に応じて面談するので、メールもしくは電話で随時問い合わせのこと		
授業の形式・方式	対面授業。必要に応じて個別面談形式で実施。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	対人援助・ソーシャルワーク・精神保健福祉・児童虐待とメンタルヘルス問題		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	卒業研究論文作成に向け、自らの問題関心を深め、研究テーマの設定に結びつけると共に、論文作成に必要な基礎的な作業、例えば先行研究のレビューの仕方やレポートのまとめ方などを行えるようになることを目標とする。本授業は、卒業研究論文作成に向けた基礎演習の位置づけとなる。		
授業の内容	内容は主に2つに分けられる。 (1)メンタルヘルス問題のある親による子ども養育世帯への支援 担当教員が現在研究中のテーマについて説明するとともに、研究のプロセスを開示することにより、研究プロセスについてのひとつのモデル提示を行う。虐待問題や家族問題、アルコール・薬物問題、支援者の認識とチームアプローチなどの課題を含む。 (2)各自の関心から研究テーマを模索する ディスカッションを通して参加学性の興味・関心を共有しつつ、研究の方向性ないしテーマを焦点化していく。それに応じた文献を数点入手した上でその概要を報告し、自分の研究に結び付けていく。		
成績評価の方法	レポート(80%)、演習への参加姿勢(20%)を総合的に評価する。 学期末までに指定したレポートの提出を求める(40×40×3P程度)。		
テキスト	とくに指定しないが、必要に応じて参考文献を提示する。		
参考文献	木下是雄「レポートの組み立て方」ちくま学芸文庫 ¥780 泉忠司「論文&レポートの書き方」青春出版社 ¥1300		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	研究のスキルは、社会人とりわけソーシャルワーカーにとって重要である。問題意識について根拠に基づき他者を説得する力は、ソーシャルアクションの武器となる。その際のテーマは、自分の本音や関心に近い方が楽しくやれる。自分なりの関心テーマを持ち寄って欲しい。		

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	國定 美香		
研究室の場所	三原キャンパス 4531研究室		
オフィスアワー	担当教員の研究室(要予約)。		
授業の形式・方式	演習形式で実施。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	研究課題, 研究テーマ, 研究計画書, 文献検索		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	卒業研究論文作成に向け, 今まで学んだ専門的知識を基に自らが興味と関心をもった課題について研究をという形でまとめていくことを目標としています。まず研究することの大切さを理解し, 論文作成に必要な研究テーマの設定, 研究計画書の作成, 文献検索などが行えるようにします。この専門演習 I は, 専門演習 II および卒業研究論文作成にむけた最初のステップとなります。		
授業の内容	1. オリエンテーション 2. 研究課題を考える 3. 研究テーマを考える 4. 研究計画書を作成する 5. 文献の検索方法とまとめ方		
成績評価の方法	課題レポートで総合的に評価します。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	西村 いづみ		
研究室の場所	三原キャンパス 2518研究室		
オフィスアワー	特に定めない(要予約)。		
授業の形式・方式	演習形式。事前に配布する論文等の資料をもとに受講生がレポートを作成し発表、議論を行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	障がい、子ども、養育環境(家庭、療育/保育/学校、地域)		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	主に障がい児および養育環境に関する各自の問題関心を深め、研究テーマの設定に結びつけるとともに、論文作成に必要な基礎的作業(先行研究レビューの仕方やレポートのまとめ方など)が行えるようになることを目標とする。本科目は卒業研究に向けた基礎演習の位置づけとなる。		
授業の内容	主に障がい児および養育環境に関する研究領域について、事前に配布する論文等の資料をもとに受講生がレポートを作成。そのレポートをもとに議論を行う。		
成績評価の方法	2/3以上の出席がなければ単位は認定されない。レポート発表、議論への参加度によって総合的に評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。授業の中で適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	吉田 倫子		
研究室の場所	三原キャンパス 3518研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	演習形式を基本とし、一部、現場踏査、フィールドワークを行います。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	バリアフリー、自立支援、在宅福祉、介護予防、人と道具と空間、生活空間、住まい、町、ケーススタディ、現場、主体的学習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	福祉住環境に関する知識は抽象的なものではなく、物的・空間的なものを現場で実地体験することが重要だと考え、より多くの場を提供し、様々なバリアフリーの手法を学びとっていただきます。一方、特定のテーマについて、自分で調べ、報告し、議論するスキルを養い、更に設定した課題について、研究する能力を養うことを目標とします。		
授業の内容	福祉住環境論で学んだことを基礎に、この分野における、著作・研究論文について学ぶとともに、居住ユニット(住宅、居住型福祉施設)、居住地両方について、実例のケーススタディ、またそれぞれの現場でフィールドワークを行うことによって、この研究領域の理解を深め、問題意識を育てます。		
成績評価の方法	授業への参加態度(50%)、レポート課題(50%)にて評価をします。		
テキスト	テキストは無し。		
参考文献	授業時提示します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	特になし。		

授業科目名	専門演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	越智あゆみ		
研究室の場所	三原キャンパス 3511研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	福祉アクセシビリティ、ソーシャルワーク実践、相談支援システム、地域		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>&lt;授業の目標&gt; 1. 「福祉アクセシビリティ」(相談しやすさ、利用しやすさ)の確保された相談支援システムを地域の中に構築していくソーシャルワーク実践の意義と重要性を理解し、説明できる。 2. 福祉アクセシビリティに焦点をあてた研究や実践を、各自が関心をもつ課題や領域と結びつけながら学び、各自が取り組みたいソーシャルワーク実践・研究の内容について表現できる。 3. 各自の問題関心にもとづいて卒業研究に取り組む際に必要となるスキルを演習を通して体験的に学び、各自の卒業研究計画書作成時に活用できる。</p> <p>&lt;カリキュラム上の位置づけ&gt; 卒業研究論文作成に向けた基礎演習としての位置づけとなる。</p>		
授業の内容	<p>地域の中には、様々な困難に直面していても、自ら支援を求めて行動することに難しさのある人々がいる。今日、このような人々の生活ニーズを発見し、ニーズに応じた社会資源(機関、人、制度など)に結びつけるソーシャルワーク実践が求められている。この授業では、「福祉アクセシビリティ」(相談しやすさ、利用しやすさ)の確保された相談支援システムを地域の中に構築していくソーシャルワーク実践の意義と重要性について考えていく。その際、福祉アクセシビリティに焦点をあてた研究や実践(発達障害のある子どもの養育者を対象とした研究、精神保健福祉および自殺対策にかかわる地域を基盤とした実践・研究など)を、各自が関心をもつ課題や領域と結びつけながら学び、各自が取り組みたいソーシャルワーク実践・研究の内容を検討する。あわせて、各自の問題関心にもとづいて卒業研究に取り組む際に必要となるスキル(研究テーマ設定、文献検索・収集、目的に合った研究方法の選択、論文構成など)についても、演習を通して体験的に学ぶ。</p>		
成績評価の方法	授業への参加態度50%、授業内で提示する課題50%で総合的に評価する。		
テキスト	越智あゆみ『福祉アクセシビリティーソーシャルワーク実践の課題ー』2011年、相川書房。		
参考文献	武田丈『ソーシャルワーカーのためのリサーチ・ワークブック』2004年、ミネルヴァ書房。その他、適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	地域介護実習		
担当教員氏名(助手氏名)	國定 美香		
研究室の場所	三原キャンパス 4531研究室		
オフィスアワー	担当教員の研究室(要予約)		
授業の形式・方式	講義と演習形式で実施		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	訪問介護, 通所介護, 通所リハビリテーション, 短期入所生活介護, 認知症対応型共同生活介護		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	高齢者福祉に関する制度・施策について居宅サービスを中心に学び, 高齢者やその家族を支えるための援助を理解し, 説明できるようになることを目標にする。		
授業の内容	1. 訪問介護のサービス内容と援助の実際 2. 通所介護と通所リハビリテーションのサービス内容と援助の実際 3. 短期入所生活介護のサービス内容と援助の実際 4. 認知症対応型共同生活介護のサービス内容と援助の実際 5. 小規模多機能型居宅介護のサービス内容と援助の実際 6. 在宅で生活する高齢者に対する相談援助の実際		
成績評価の方法	レポート, 試験で総合的に評価する。		
テキスト	資料を配布する		
参考文献	現代の社会福祉士養成シリーズ「高齢者に対する支援と介護保険制度」, 久美株式会社, 2009年		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	演習時は, 動きやすい服装で行ってください。またお互いに援助対象者と援助者になり演習を行うことで, 援助対象者への理解を深めます。		

授業科目名	心理アセスメント実習		
担当教員氏名(助手氏名)	勝見 吉彰		
研究室の場所	三原キャンパス 4530研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	実習形式で行う。受講学生各自が検査者、被検査者となり体験的に心理検査を学習する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	心理検査, 投影法, 質問紙法, 作業検査, テストバッテリー		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	対人援助を効果的に行なっていくためには、援助の対象となるクライアントを総合的かつ適切に評価することが欠かせない。援助の見通しを立てるための重要な手段のひとつとして、種々の心理検査があげられる。臨床心理学的援助の現場において使用されることが多い投影法を中心に、心理アセスメントの基礎理論を実際に体験しながら学んでいく。人間の内的世界を理解していくための視点と技術を獲得していくことと、実習を通じて受講者自身の自己理解を促進することを目標とする。		
授業の内容	実習を行う心理検査はロールシャッハ・テスト, バウム・テスト, 人物画等の投影法検査と, YG性格検査, TEG等の質問紙検査, そしてクレペリン作業検査他である。		
成績評価の方法	出席状況とレポートにより評価を行う。レポートは8割以上の提出が必要。		
テキスト	授業の中で参考文献等を示す。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	司法福祉論		
担当教員氏名(助手氏名)	小山 峰志[非常勤講師]		
研究室の場所			
オフィスアワー	出講日, 要予約		
授業の形式・方式	講義形式で実施。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る選択必修科目		
キーワード	更生保護, 地域生活定着支援, 司法と福祉の連携, 障害者・高齢者と犯罪		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目では, 相談援助活動において必要となる更生保護制度を理解し, 矯正施設退所者の地域生活定着支援に向け, 司法と福祉の連携をどのように図るのか考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>本科目は, 社会福祉士専門科目群に位置する。</p>		
授業の内容	<p>本授業では, 次の内容を教授する。</p> <p>①更生保護制度の概要  ②更生保護制度の担い手  ③更生保護制度における関係機関・団体との連携  ④医療観察制度の概要  ⑤更生保護における近年の動向と課題</p> <p>さらに, 矯正施設退所者の地域生活定着支援に向けた地域生活定着支援センターの取り組みを具体的に取り上げながら実態を把握し, ソーシャルワーカーの役割と機能について考える。</p>		
成績評価の方法	出席状況, 筆記試験を総合的に勘案し成績を評価する。		
テキスト	授業の中で参考文献等紹介。		
参考文献	社会福祉士養成講座編集委員会編集 「新・社会福祉士養成講座20 更生保護制度」中央法規 長崎新聞社 累犯障害者問題取材班著 「居場所を探して 累犯障害者たち」長崎新聞社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	社会福祉援助技術演習 V		
担当教員氏名(助手氏名)	横須賀 俊司, 手島 洋		
研究室の場所	三原キャンパス 4522研究室(横須賀), 4525研究室(手島)		
オフィスアワー	月曜昼休み(横須賀。要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。一学年を2つのクラスに分けて、各教員が各クラスを前半と後半で交代し担当する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科4年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	間接援助、コミュニティワーク、ソーシャルアクション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	ソーシャルワーカーとして必要な価値、知識、技術を演習課題を通して実践できるようになることを目標とする。カリキュラム上は社会福祉専門科目群に位置づけられる。		
授業の内容	ロールプレイ、小グループでの討議・発表、事例検討などを行う。		
成績評価の方法	出席状況、授業への参加態度や積極性、場合によってはレポートや試験などにより総合的に評価する。		
テキスト	特になし。		
参考文献	時になし。適宜紹介、配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	精神科リハビリテーション学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	金子 努		
研究室の場所	4423		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択必修
履修要件	人間福祉学科4年次生対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格取得において必修科目		
キーワード	精神保健福祉士 リハビリテーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	精神保健福祉士として求められる精神科リハビリテーション学の知識と技術の習得を目指す。精神保健福祉士養成課程における必修科目。		
授業の内容	精神保健福祉士が精神障害者に対するリハビリテーション実践においてどのような役割、機能を期待されているのか。その期待される役割、機能を果たすため、必要となる知識と技術には何があるのかを教授する。		
成績評価の方法	授業後の小テスト及び期末試験により評価する。 60%以上のポイントのある者を合格とする。		
テキスト	日本精神保健福祉士養成校協会『新 精神保健福祉士養成講座第4巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』中央法規出版		
参考文献	授業時に随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業中の私語は厳禁。		



授業科目名	精神保健福祉援助技術各論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	江本純子		
研究室の場所	三原キャンパス 2516研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	主として講義を行うが、グループワークも取り入れる。またレポートを課すこともある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科4年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士, 精神保健福祉援助, 精神科ソーシャルワーク, 家族支援, 地域支援, コミュニティソーシャルワーク		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>&lt;授業の目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助活動の展開について、概要を説明することができる。</li> <li>2. 家族調整・支援の実際と事例分析について、実践的に修得する。</li> <li>3. 地域移行の対象および支援体制についての知識を持ち、事例検討することができる。</li> <li>4. 地域を基盤とした相談援助の主体と対象について知識を持ち、具体的な活動の検討ができる。</li> </ol> <p>&lt;カリキュラム上の位置づけ&gt;</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格取得における必修科目。</p>		
授業の内容	厚生労働省が示したシラバス内容に含まれる事項を学習する。具体的な内容は、随時示していく。		
成績評価の方法	授業3分の②以上出席者のみに試験またはレポートを実施し、100点満点で評価する。これを持ち点として、授業態度悪しき者、質問への返答なき者は、1日につき5点減点、所属グループ発表時に正当な理由なく欠席した者は、1回につき10点減点し、合計60点以上の者にのみ単位を認定する。なお上記にかかわらず、受講態度の著しく悪しき者は、単位認定しない。		
テキスト	日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座(5)精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ, 中央法規, 最新版。』		
参考文献	授業中に随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は、必ず履修すること。		

授業科目名	精神保健福祉援助演習Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	細羽 竜也, 金子 努		
研究室の場所	三原キャンパス 4527研究室(細羽), 4423研究室(金子)		
オフィスアワー	水曜日 2限目		
授業の形式・方式	対面形式. グループワークや模擬演習, ロールプレイング等が中心となる.		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科4年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士, 精神保健福祉援助, 精神障害者, 精神保健福祉課題, 協働・連携, 相談援助過程, 精神保健福祉現場実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>&lt;授業の目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害者の生活や生活上の困難を把握することができる.</li> <li>2. 精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について, 実践的に修得する.</li> <li>3. 精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目と関連づけることができる.</li> <li>4. 専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていく能力を涵養する.</li> </ol> <p>&lt;カリキュラム上の位置づけ&gt;</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格取得における必修科目.</p>		
授業の内容	厚生労働省が示したシラバス内容に含まれる事項を学習する. 具体的な内容は, 随時示していく.		
成績評価の方法	出席, レポート, プレゼンテーション, 授業への参加態度を総合的に評価する.		
テキスト	日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座(8)精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』, 中央法規, 2012年.		
参考文献	授業中に随時紹介する.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は, 必ず履修すること.		

授業科目名	検定英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	本岡 直子		
研究室の場所	三原キャンパス 3506研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	演習形式(週1コマ(90分) x 15回)		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象【前期】		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, 聴解, 読解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>TOEIC(国際コミュニケーション英語能力テスト)において350~500点を取得することを目標とする。TOEICのスコアで自分の英語力を客観的に把握し、また具体的な目標を設定することができる。</p> <p>本科目は、全学共通教育科目の外国語科目の選択科目であり、選択した学生が目標を持って主体的に学習していくことが求められる。</p>		
授業の内容	<p>聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習を行う。速読速解, 速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行う。</p> <p>TOEIC350点以上を取得した履修生の単位を認定する。また, 習熟度や内容に応じたクラス編成を行ない, 学習者に応じた能力の向上をはかる。</p>		
成績評価の方法	<p>学期末に実施する TOEIC IP 学内試験の成績によって評価を行う。開講回数の3分の2以上出席し, TOEICで350点以上取得した履修生の単位を認定する。350点~399点はC、400点~449点はB、450点~499点はA、500点以上はA+とする。なお、学期中のTOEIC公開テストの得点で代用することもできる。</p>		
テキスト	吉塚弘ほか(2015) Best Practice for the TOEIC(R) Test (成美堂)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	開講回数の3分の2以上出席し, TOEICで350点以上取得した履修生の単位を認定する。		

授業科目名	検定英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	高島 裕臣		
研究室の場所	三原キャンパス 2515研究室		
オフィスアワー	在室時は可能な限り対応します。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、教科書各章の題材をもとに講義および語学演習を行う。毎回の授業に集中して臨み、期末試験として行われるTOEIC IPで成績判定基準に達することが求められる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象【後期】		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, 聴解, 読解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	TOEIC350~500点レベルを目標とする。英語の資格の中でTOEICを英語学習に活用し、TOEICのスコアで自分の英語力を客観的に把握し、また具体的な目標を設定することにより、聴解、読解、英語構文理解などの発展的な能力の養成を目指す。 本科目は、全学共通教育科目の外国語科目の選択科目であり、選択した学生が目標を持って主体的に学習していくことが求められる。		
授業の内容	速読速解、速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行う。TOEIC350点以上を取得した履修生の単位を認定する。また、習熟度や内容に応じたクラス編成を行ない、学習者に応じた能力の向上をはかる。		
成績評価の方法	学期末に実施する TOEIC IP 学内試験の成績によって評価を行い。350点以上400点未満はC、400点以上450点未満はB、450点以上500点未満はA、500点以上はA+とする。履修期間中に取得したTOEIC公開テストのスコアを担当教員に提出することでTOEIC IP 学内試験の成績に代えることもできる。上述の成績判定基準は出席要件(3分の2以上の出席)を満たしていることが前提であり、出席要件を満たしていない場合の成績評価はDとなる。		
テキスト	山口昌彦ほか. (2015). The TOEIC(R) TEST Trainer Target 470, Revised Edition. センゲージラーニング.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回出席しよう。TOEICの問題形式に習熟し、たくさん問題演習をしてTOEIC・TOEIC IPに備えよう。		

授業科目名	リハビリテーション医学		
担当教員氏名(助手氏名)	沖 貞明、土師 知行		
研究室の場所	三原キャンパス 3523研究室(沖), 4425研究室(土師)		
オフィスアワー	毎週水曜日昼休みに研究室(沖) 特に決めていません。あらかじめメール等で連絡をください。(土師)		
授業の形式・方式	授業日程に従って、対面授業で講義を実施します。講義の受講にあたり、事前配布資料や参考図書および文献を読んでおくことが授業の理解を深める上で有効です。必要に応じてレポート課題を課し、指定した日に提出させることがあります。学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられます。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	コミュ必修, 看護選択
履修要件	看護学科・コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	リハビリテーション医学 臨床医学 診断 評価 治療 障害		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	臨床現場に直結する医学的事項のうち、リハビリテーション医療に関する分野を教授します。この講義を通して、専門領域特有の科目を理解するための基礎となる部分を学びます。臨床実習を行うために必要な知識の修得を目標とします。		
授業の内容	【沖】まず、基礎となる学問体系を概説し、次に、対象となる脳や脊髄の損傷・障害、神経・筋疾患、発達障害、骨・関節疾患、内部障害などに対する診断やリハビリテーションの進め方を解説します。【土師】聴覚障害、音声言語障害、嚥下障害についてリハビリテーションの観点から授業を行います。各疾患について病態を概説した後、その診断、評価の方法、またそれを基にしたリハビリテーションの方法、効果、他の治療法との関連などについて学びます。各授業ごとにレポートおよび質問事項を提出してもらい、その内容を加味して授業を進めます。		
成績評価の方法	講義の最初に行う小テストと定期試験の試験結果で評価します。【沖】成績はレポートの内容と定期試験との合計で評価します。【土師】定期試験は指定された教室で、プリント、ノート、教科書等の持ち込み不可で行います。出席は、試験時の受験資格の確認に用いますが、いわゆる出席点なるものは考慮しません。		
テキスト	テキスト：わかりやすいリハビリテーション(中山書店)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	プリントを中心に授業を進めます。プリントには、自ら書き込むことで理解が深まるので、授業中にしっかり書き込む事が重要です。参考となるビデオも使用します。小テスト(沖)の試験範囲は、原則として前回までの講義の内容に関するものとしますので、毎回しっかり復習してください。		

授業科目名	福祉行財政と福祉計画		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡子		
研究室の場所	三原キャンパス 2517研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面方式及び、プレゼンテーション、グループワーク		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科4年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	地方自治 社会政策 財政 福祉システム		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	2000年の地方分権一括法の制定、市町村合併が行われ、「地域主権」「地方自治」が政策的にも重要テーマとなった。国と地方の関係、行政の仕組み、給付、交付などの国と地方の財政の仕組みや課題について学びます。福祉行財政は、総合的な福祉システムとして福祉計画と社会政策の視点が重要となった。福祉計画においては住民参画を基本にした計画の意義について学ぶ。		
授業の内容	1福祉行財政に関する国・都道府県・市町村の役割および国と地方の関係について理解を深める。 2. 国と地方の福祉の財源について理解する。 3. 福祉行財政の変遷について歴史的に理解する。 4. 福祉行政の組織、団体および専門職の役割、当事者団体の果たす役割について理解する。 5. 福祉計画の意義・目的・主体・方法・評価について理解する。 6. 先駆的な福祉計画や実情、今日的な課題について理解を深める。		
成績評価の方法	授業への参加、取り組み状況、 プレゼンテーション、期末テストによって評価する。		
テキスト	新・社会福祉士養成講座 10 福祉行財政と福祉計画 4版 中央法規出版、 社会福祉行財政計画論 神野直彦、山本隆、山本恵子編 法律文化社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回授業開始時に出席確認をします。提出物の期限厳守。遅刻、途中退出は禁止		

授業科目名	就労支援サービス		
担当教員氏名(助手氏名)	三原 博光		
研究室の場所	三原キャンパス 4526研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面講義形式		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る選択必修科目		
キーワード	就労支援、障害者、労働		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>「障害者自立支援法」が施行されて以降、障害者の就労支援が重視されてきた。また、障害者雇用促進法により、身体障害者・知的障害者に加えて、精神障害者の雇用義務化が、一般事業所に求められている。これらの法律を踏まえた障害者の就労支援について考える。</p>		
授業の内容	<p>社会福祉士養成講座編集委員会「就労支援サービス」中法法規出版のテキストを使用しながら、「障害者と就労支援」の状況を説明する。また、「三原市の障害者雇用就労支援あり方検討委員会」の障害者雇用・就労支援の取り組みを紹介する。</p>		
成績評価の方法	授業の出席、レポート		
テキスト	テキスト：社会福祉士養成講座編集委員会「就労支援サービス」中法法規出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	科学と医学		
担当教員氏名(助手氏名)	沖 貞明, 住居広士, 林 優子, 藤巻康一郎, 安武 繁, 原田俊英, 土師知行		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	沖 貞明: 水曜日の昼休み		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	理学・作業・コミュ必修, ほか選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	医学史, 小児医療, 精神医療, 感染症, 脳科学, 神経変性疾患, 福祉, 医療倫理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は, 専門領域理解の基礎となる科目で, 当該学科では必修科目として位置づけられている授業です。今後, 医学系の専門科目を学んでいく上で, その成り立ちと現代における課題を知っておくことはとても重要です。この講義では, いくつかのトピックスに焦点をあてながら, それらの事項を学んでいきます。これらの学習を通して, 医学における様々な課題に対して, 問題意識が持てる態度が持てるようにすることを目標とします。		
授業の内容	医学の歴史に加え, 現代医療の課題を, 多面的な立場で科学的側面から解説します。(沖 貞明)「医学の歴史」, 「人工関節の歴史と現状」, 「医療における安心と安全: 医療事故と医療過誤」をテーマとして講義します。(住居広士)「科学と医学のめざす理念と現代」, 「科学と医学がたどる保健医療福祉」をテーマとして講義します。(林 優子)「小児科医からみた生殖補助医療」, 「小児科に関わる臨床遺伝学」をテーマとして講義します。(藤巻康一郎)「精神医学序論I」, 「精神医学序論II」をテーマとして講義します。(安武 繁) 人類と感染症との関係について歴史的な観点から論じ, 新型インフルエンザなど新しい感染症への科学的な対応のあり方について考察します。(原田俊英)「アルツハイマー病の病態や治療に関する新知見」, 「パーキンソン病の病態や治療に関する新知見」をテーマとして講義します。(土師知行)「話すことを科学する」, 「聴こえの障害とその治療: 最近の進歩」をテーマとして講義します。		
成績評価の方法	各教員の課すレポートを総合して評価します。		
テキスト	特に指定はありませんが, 必要に応じて講義中に別途指示します。		
参考文献	特に指定はありませんが, 必要に応じて講義中に別途指示します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 正式には教学課の掲示で行いますが, レポートの課題については授業内での通知によって行います。		



授業科目名	上級英文読解		
担当教員氏名(助手氏名)	高島 裕臣		
研究室の場所	三原キャンパス2515研究室		
オフィスアワー	在室時は可能な限り対応します。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって教科書各章の題材をもとに講義および語学演習を行う。毎回の授業に集中して臨み、小テストや課題をこなし、期末試験を受験して、総合的評価において成績判定基準に達することが求められる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	語彙力増強、文法・語法・構文の理解、多読・速読		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>「Comprehensive Reading I」「Comprehensive Reading II」で獲得した技能の発展を目指す。論説文、エッセー、物語などさまざまな分野の英文を多量に読むことにより、英文を早く読んで正確に理解できる力の習得を目的とする。</p> <p>本科目は、全学共通教育科目の外国語科目に区分されており、県立広島大学の2年生として必要なリーディング能力を養う科目として位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>パラグラフの構成や展開に注意して要点を把握するなど、リーディングに必要なスキルにも触れながら、速読・多読の演習を行い、重要な情報を正確につかむ読解力を養う。速読によって得た情報をもとに議論をしたり、文章にまとめたりするなど「聞く」「話す」「書く」技能とも関連付けた読解演習を行う。</p>		
成績評価の方法	<p>期末試験60%、小テスト20%、課題20%の割合で評価する。欠席時の小テスト得点は0、提出遅れの課題得点は通常の0.8倍の得点、未提出課題得点は0とする。小テストの再試は行わない。期末試験は持ち込み不可。授業中の態度などに関し注意を受けた場合には減点の可能性もある(-5%以内)。小テスト実施時に不正が発覚した場合はその回およびそれ以前に受験した小テストの点は無効とする。期末試験における不正行為に対しては本学の定めによって対処する。</p>		
テキスト	山根繁ほか、(2015). ABC World News 17. 東京: 金星堂.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>予習・復習をしよう(第1回授業時)。遅刻をなくそう。辞書は、英和辞書の場合収録語数9万以上のものを薦める(電子辞書の場合も同等の辞書を収録したものがよいと思われる)。授業に関する連絡方法は、教学課の掲示および授業内連絡。宿題、小テスト、試験等、あらゆる局面において不正行為をしないこと。</p>		

授業科目名	食料とエコロジー		
担当教員氏名(助手氏名)	堀田 学, 前川 俊清 (非常勤講師)		
研究室の場所	庄原キャンパス 堀田: 1708研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業 (遠隔授業: 庄原C 発信) 講義形式 (オムニバス式)		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【26年度以前入学者】全学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	生命, 食物連鎖, 食料生産, 食料流通, 商品, 市場		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人間の食料の大部分が動植物に起源することとその食料が商品として市場で取引されることについて, あらためて科学的・総合的に考える。		
授業の内容	オムニバス方式で, エコロジーから見た食料とエコノミーから見た食料を結びつけて講義する。生命の維持にとって食物連鎖がどのように有効であるのか, その中に一部の生命を増産するという変化を加えることがどういう意味を構成するのか, まして, その増産された生命がどのように商品化されるのか, そのようにして, 市場の価格形成にゆだねることが誰にも不可欠な食料に関してどこまで可能なのか, などについて論ずる。		
成績評価の方法	出席点とレポート点と試験の成績を総合評価する。		
テキスト	随時提示する。		
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	健康文化論		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山浩明, 高橋渡, 谷本昌太, 嶋本文雄		
研究室の場所			
オフィスアワー	担当教員が指示する。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 1人の教員が3~4回の授業を講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科2年次生		
免許等指定科目			
キーワード	身体健康・社会的健康・精神健康、文化としての健康意識、リスク論・食の安全、生活習慣病、		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康をテーマに、諸課題に対して多角的に分析する態度が身に付けられるよう、人間文化学部教員がオムニバス形式で担当する。		
授業の内容	<p>(丸山)「健康のとらえ方」:健康の定義を確認し、身体健康のために注意すべきこと、社会生活の上での飲酒文化、そして精神健康のために考えるべきことについてとりあげる。</p> <p>(高橋)「病」や「死」は忌まわしきものとして排除しようとするが、人間が必ず直面しなければならないものでもある。また、過度に忌避しようすると、そこに差別が生じることもある。本講義では文学作品や思想書をもとに、「健康」に対する「死」と「病」の問題を考察する。</p> <p>(谷本)「食生活の安全と健康」:安全・安心かつ健康な食生活を実践するために必要な内容(食中毒のその防止、食品添加物・残留農薬とリスクコミュニケーション、遺伝子組み換え食品・健康食品と特定保健用食品)について解説する。</p> <p>(嶋本)「生活習慣病」:「生活習慣病」とは、「食運動休養喫煙飲酒」などの生活習慣が、その発症・進行に関与する病気で、国民に健康的な生活習慣の重要性を喚起し、生涯を通じた生活習慣改善のための個人の努力を促すために提唱されたことについて詳述する。</p>		
成績評価の方法	各担当教員毎に課す課題レポートによって評価する。レポートの課題提出期限分量等については、各担当教員がそれぞれ指示する。期末試験は実施しない。		
テキスト	共通のテキストは使用しない。各教員が適宜プリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	経営と現代社会		
担当教員氏名(助手氏名)	小原 久美子		
研究室の場所	広島キャンパス 1721研究室		
オフィスアワー	メールで予約してもらい、その上で実施する		
授業の形式・方式	遠隔授業により、広島キャンパスより発信する。したがって、広島キャンパスでは対面授業。庄原キャンパスと三原キャンパスでは遠隔授業となる。授業日程に従って、主に下記の教科書各章に関する内容を講義形式で実施する。1回の講義の授業時間は1時間30分である。また、教科書以外に適宜プリント資料も用いる予定である。必要によって、質問と回答の時間を設ける。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	現代企業の社会的責任 (CSR) ステイクホルダーと企業との関係 企業倫理 企業と地球環境問題 労働とCSR 人権とCSR 消費者とCSR コミュニティとCSR 金融機関とCSR CSRマネジメントとC S V (共通価値の創造) 現代経営者の役割 共に生きるとは コーポレート・ガバナンス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目の中の複合科目の1つとして位置づけられる。1. CSR (企業の社会的責任) 論の学習を通じて、現代社会及び企業の今後の課題と方向性を見極める。2. 現代社会と企業の組織経営との関わり方、つまり、企業とそれを取り巻くステイクホルダー (利害関係者および利害関係者集団) からなる社会とのよりよい相利共生関係を考え、実践的スキルを養う。3. 現代社会に生きるわれわれ人間は、企業という組織体の経営にどのように関わって生きるべきか、現代社会におけるわれわれ人間の生き方について考える。		
授業の内容	現代社会は、企業組織や企業組織やその他の組織体 (学校、政府、銀行、病院、地方自治体、NPOなど) の経営が営まれる多元的相利共生社会である。したがって、いかなる組織体といえども、自らを取り巻く各々の組織体やステイクホルダーとの関係を無視して、その事業目的を達成し存続することは不可能である。本授業では、現代社会の特質と変化・方向性を鋭く直視し、とりわけ、現代社会と企業組織との相互依存関係に着目し、現代の企業の社会的責任に関する理解を深める。さらに、現代社会に生きるわれわれ人間は、企業という組織体の経営にどのように関わり生きていくか、現代社会におけるわれわれ人間の生き方について考えてみる。		
成績評価の方法	授業参画度 (平常点) 小テスト50%, 期末試験50%の割合で総合的に評価する。試験は指定された教室内で、持ち込み可で実施する。期末試験は、指定された試験日の授業時間 (90分) 内で実施する。問題形式は、多肢選択問題および論述形式を採用する。		
テキスト	教科書 谷本寛治著『責任ある競争力ーCSRを問い直す』エヌティティ出版、2013年4月11日発行。適宜、自作のプリント教材も配布する。		
参考文献	小原久美子『経営学における組織文化論の位置づけとその理論的展開』白桃書房、2014年1月発行。その他、授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	①本授業は遠隔授業であるため、遠隔受講している学生の出席は各キャンパスごとに行い、それをもって出席とする。(学籍番号、氏名、日付を記すこと) ②本授業では、平常点も含めて総合的に評価するので、出席等も評価点となる。③質問等も積極的に応じるつもりである。メールでの質問を積極的にして欲しい。		

授業科目名	福祉と社会問題		
担当教員氏名(助手氏名)	横須賀 俊司		
研究室の場所	三原キャンパス 4522研究室		
オフィスアワー	木曜3限		
授業の形式・方式	遠隔授業(広島キャンパス発信)。授業日程に従って、講義の初回に提示する内容に関して講義形式で実施する。一つのテーマについて2~3回の講義を想定し、授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。学生は試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	看護, 理学, 作業, 人間福祉学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	福祉、平等、公正、社会問題、差別		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、社会福祉についてこれまでほとんど学習していない学生を対象にして、社会福祉の理念、価値、法律、制度といった基本的内容について講述する。この科目の目標は社会福祉というものを学習することによって、いかにして社会(的)問題を解決することができるか、どのようにして生活問題を抱えている人を支援していくか、といったことを理解していくことになるだろう。この科目は全学共通教育科目の中の複合科目として位置づけられている。		
授業の内容	社会福祉とは、生活問題がもたらされている人びとに対して支援をしていくことと言える。そこで、この科目では現代社会において、どのような生活問題が生じているかをとり上げ、検討していくことにする。社会福祉の主要な法律に基づけば、社会福祉は低所得者・児童・障害者・高齢者・女性を対象に構成されている。したがって、この5つのテーマに関して講義を進めていく予定である。この講義を通して、どのような生活問題があるかを知り、それをどのようにして解決していくことができるのかを考えられるようになり、そして、実際に問題解決に取り組めるような人材となっていけることを望む。		
成績評価の方法	期末試験で評価する予定である。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)を超えない時間で実施する。		
テキスト	教科書は指定しない。参考文献については、適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	実用英作文 I		
担当教員氏名(助手氏名)	Timothy Buthod		
研究室の場所	三原キャンパス 3414研究室		
オフィスアワー	By appointment		
授業の形式・方式	Practical language class		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	journal, stories, grammar		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. In this course, students need to get used to writing in English, so they will write a lot. This class belongs to the foreign language curriculum and is a basic course for sophomores of the Prefectural University of Hiroshima.		
授業の内容	Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write various genres of writing, including a journal, postcards, movie reviews and stories. Students will work together in pairs or groups to generate ideas and give each other feedback.		
成績評価の方法	Journal: 30% Homework and in-class assignments: 40% Test: 30%		
テキスト	The teacher will provide handouts, and students will generate their own texts.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	The journal is very important. If you take a little time and write about things that are interesting to you, it is actually fun to write in another language. If you write the same thing every week, you will hate it.		

授業科目名	実用英作文 I		
担当教員氏名(助手氏名)	Amir Feroze [非常勤講師]		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Practical language class		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科・コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write paragraphs containing basic logical sentences. The Students will begin by learning to develop well-written sentences and will end the course by learning to write well-developed paragraphs. Upon successful completion of the course, the student will:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Writing a topic sentence with a clear, precise idea to be developed.</li> <li>・Relating all sentences in a paragraph to support the topic sentence.</li> <li>・An idea development into a 50 to 100-word paragraph.</li> <li>・Revision to improve a paragraph</li> <li>・Proofreading and editing skills to prepare the final and complete paragraph.</li> <li>・Understanding paragraph development and related methods.</li> <li>・Improving grammar knowledge and vocabulary use/ application.</li> </ul> <p>This class belongs to the foreign language curriculum, and is a basic course for sophomores of the Prefectural University of Hiroshima.</p>		
授業の内容	<p>This course is designed to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・prepare the students for basic competency in written communication skills.</li> <li>・prepare for academic success in English Composition I.</li> <li>・introduce the students to sentence structure, punctuation, and English composition skills.</li> <li>・practice writing different types of paragraphs.</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Class Introductions &amp; House Rules</li> <li>2. Parts of Speech</li> <li>3. Basic Grammar</li> <li>4. Subject, Audience, and Purpose</li> <li>5. Pre-writing</li> <li>6. Writing about the 'self': 50 -75 Paragraphs</li> <li>7. Unity and Coherence</li> <li>8. Ideas' generation and sentences' relation</li> </ol>		
成績評価の方法	Grades are based on punctuality, attendance, active participation, writing tasks.)		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>Students are expected:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>to come prepared with reading materials (text books, dictionaries) and writing tools (pencils etc.)</li> <li>to review the text, reference material and/or any further readings.</li> <li>to participate actively in class.</li> </ul>		

授業科目名	実用英作文 I		
担当教員氏名(助手氏名)	Timothy Buthod		
研究室の場所	三原キャンパス 3414研究室		
オフィスアワー	By appointment		
授業の形式・方式	Practical language class		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	journal, stories, grammar		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. In this course, students need to get used to writing in English, so they will write a lot. This class belongs to the foreign language curriculum and is a basic course for sophomores of the Prefectural University of Hiroshima.		
授業の内容	Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write various genres of writing, including a journal, postcards, movie reviews and stories. Students will work together in pairs or groups to generate ideas and give each other feedback.		
成績評価の方法	Journal: 30% Homework and in-class assignments: 40% Test: 30%		
テキスト	The teacher will provide handouts, and students will generate their own texts.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	The journal is very important. If you take a little time and write about things that are interesting to you, it is actually fun to write in another language. If you write the same thing every week, you will hate it.		



授業科目名	実用英作文 I		
担当教員氏名(助手氏名)	Amir Feroze [非常勤講師]		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Practical language class		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科・コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write paragraphs containing basic logical sentences. The Students will begin by learning to develop well-written sentences and will end the course by learning to write well-developed paragraphs. Upon successful completion of the course, the student will:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Writing a topic sentence with a clear, precise idea to be developed.</li> <li>・Relating all sentences in a paragraph to support the topic sentence.</li> <li>・An idea development into a 50 to 100-word paragraph.</li> <li>・Revision to improve a paragraph</li> <li>・Proofreading and editing skills to prepare the final and complete paragraph.</li> <li>・Understanding paragraph development and related methods.</li> <li>・Improving grammar knowledge and vocabulary use/ application.</li> </ul> <p>This class belongs to the foreign language curriculum, and is a basic course for sophomores of the Prefectural University of Hiroshima.</p>		
授業の内容	<p>This course is designed to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・prepare the students for basic competency in written communication skills.</li> <li>・prepare for academic success in English Composition I.</li> <li>・introduce the students to sentence structure, punctuation, and English composition skills.</li> <li>・practice writing different types of paragraphs.</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Class Introductions &amp; House Rules</li> <li>2. Parts of Speech</li> <li>3. Basic Grammar</li> <li>4. Subject, Audience, and Purpose</li> <li>5. Pre-writing</li> <li>6. Writing about the 'self': 50 -75 Paragraphs</li> <li>7. Unity and Coherence</li> <li>8. Ideas' generation and sentences' relation</li> </ol>		
成績評価の方法	Grades are based on punctuality, attendance, active participation, writing tasks.)		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>Students are expected:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>to come prepared with reading materials (text books, dictionaries) and writing tools (pencils etc.)</li> <li>to review the text, reference material and/or any further readings.</li> <li>to participate actively in class.</li> </ul>		

授業科目名	実用英作文 I		
担当教員氏名(助手氏名)	Timothy Buthod		
研究室の場所	三原キャンパス 3414研究室		
オフィスアワー	By appointment		
授業の形式・方式	Practical language class		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科 2 年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	journal, stories, grammar		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. In this course, students need to get used to writing in English, so they will write a lot. This class belongs to the foreign language curriculum and is a basic course for sophomores of the Prefectural University of Hiroshima.		
授業の内容	Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write various genres of writing, including a journal, postcards, movie reviews and stories. Students will work together in pairs or groups to generate ideas and give each other feedback.		
成績評価の方法	Journal: 30% Homework and in-class assignments: 40% Test: 30%		
テキスト	The teacher will provide handouts, and students will generate their own texts.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	The journal is very important. If you take a little time and write about things that are interesting to you, it is actually fun to write in another language. If you write the same thing every week, you will hate it.		

授業科目名	理学療法学研究法Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡		
研究室の場所	三原キャンパス 2513研究室		
オフィスアワー	水曜の12時から13時		
授業の形式・方式	対面授業。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科4年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	理学療法学、理学療法研究		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	理学療法学研究法Ⅱでは、卒業研究に向けて研究計画の立案、スケジュールの作成を行う。最終的には各指導教員の指導のもと卒業研究計画書を作成することを目的に実施する。		
授業の内容	卒業研究に向けた全体的なオリエンテーションの後、各指導教員の指導のもと具体的な研究課題を決定し、研究計画書の作成と研究スケジュールを立案する。		
成績評価の方法	授業態度および研究計画書の内容および提出状況を勘案し評定する。		
テキスト	資料を配布する。		
参考文献	参考文献などは、適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本授業は、卒業研究の準備段階の意味合いが強いが、卒業研究に限らず、理学療法学における研究の意義を理解してほしい。		

授業科目名	資格英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	本岡 直子		
研究室の場所	三原キャンパス 3506研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	単位認定科目		
単位数(時間数)	1単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度以降入学生】保健福祉学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, TOEFL, 自学自習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	実用的なコミュニケーション能力を習得し、TOEICまたはTOEFL等でスコアを取得する。 本科目は、全学共通教育科目の外国語科目の選択科目である。		
授業の内容	単位認定科目		
成績評価の方法	TOEIC-IPまたはTOEIC公開試験で550点以上、またはそれに相当するTOEFLスコアで単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	図書館に多数関連図書あり。eラーニングも積極的に活用すること。		

授業科目名	資格英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	本岡 直子		
研究室の場所	三原キャンパス 3506研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	単位認定科目		
単位数(時間数)	1単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度以降入学生】保健福祉学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, TOEFL, 自学自習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	実用的なコミュニケーション能力を習得し、TOEICまたはTOEFL等でスコアを取得する。 本科目は、全学共通教育科目の外国語科目の選択科目である。		
授業の内容	単位認定科目		
成績評価の方法	TOEIC-IPまたはTOEIC公開試験で700点以上、またはそれに相当するTOEFLスコアで単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	図書館に多数関連図書あり。eラーニングも積極的に活用すること。		

授業科目名	英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	高島 裕臣		
研究室の場所	三原キャンパス 2515研究室		
オフィスアワー	在室時は可能な限り対応。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって教科書各章の題材をもとに講義および語学演習を行う。毎回の授業に集中して臨み、小テストや課題をこなし、期末試験を受験して、総合的評価において成績判定基準に達することが求められる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科, 人間福祉学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	語彙力増強, 文法・語法・構文の理解, リーディングストラテジー, 精読・速読		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	語彙力・文法力を駆使し, 多読・速読ができる。書き手の意図を的確にとらえることができる。英文読解を通して, 文化や社会問題等についての理解を深める。		
授業の内容	文章の構成やキーワードを把握するなどのリーディングに必要なスキルに触れながら多量の英文を読む。		
成績評価の方法	語彙や文法などの英語力, 英文の内容に対する理解度, 英語コミュニケーションに対する積極的態, 等により総合評価する。 期末試験60%、小テスト20%、課題20%の割合で評価する。欠席時の小テスト得点は0、提出遅れの課題は通常の0.8倍の得点、未提出課題得点は0とする。小テストの再試はしない。期末試験は持ち込み不可。授業中の態度などに関し注意を受けた場合には減点する場合がある(5%以内)。小テスト実施時に不正が発覚した場合はその回およびそれ以前に受験した小テストの点は無効とする。期末試験における不正行為に対しては本学の定めによって対処する。		
テキスト	角山照彦. (2015). English With Pop Hits. 東京: 成美堂.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習・復習をしよう(第1回授業時も)。遅刻をなくそう。課題、小テスト、試験等、あらゆる局面において不正行為をしないこと。		

授業科目名	英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	本岡 直子		
研究室の場所	三原キャンパス 3506研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。主に下記の教科書の各章を演習形式で実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	vocabulary, structure, paragraph, organization		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>この科目では、語彙力・文法力を駆使し、多読・速読ができる。書き手の意図を的確にとらえることができる。英文読解を通して、文化や社会問題等についての理解を深める。</p> <p>本科目は、全学共通教育科目の外国語科目に区分されており、県立広島大学の1年生として必要な基本的な語学能力を養う科目として位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>文章の構成やキーワードを把握するなどのリーディングに必要なスキルに触れながら多量の英文を読む。</p> <p>さまざまな分野の英文に触れることにより、語彙および熟語・慣用句等に関する知識の積み上げを行う。未知語の推測や背景知識の活用など、リーディングに必要なスキルを用いて、文章の概要や要点を正確に読み取る読解演習を行う。単に文字を目で追うだけでなく、音声を伴う活動への展開や、読んだ内容に基づいて意見をまとめるなど「書く」「話す」「聞く」技能とも関連付ける。</p>		
成績評価の方法	期末試験60%, 小テストおよび課題40%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。		
テキスト	テキスト Robert Juppeほか『Reading Wonders』(金星堂)2015		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習をして授業に臨むこと。		

授業科目名	英語表現Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	Timothy Buthod		
研究室の場所	三原キャンパス教学課 3414研究室		
オフィスアワー	By appointment		
授業の形式・方式	Practical language class		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	pair conversations, basic writing, stretch, presentation, interview test		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>This is a follow-up course to English Expression I. In this class, students will learn both to understand and to produce a wider range of conversation patterns in English. Students also learn to present their own opinions in discussion of various content areas.</p> <p>This class belongs to the foreign language curriculum and is an intermediate course for the freshmen of the Prefectural University of Hiroshima.</p>		
授業の内容	<p>In this class students will learn ways of conveying what they want to say exactly, and strategies for continuing the conversation. Students will practice speaking in a number of situations and on a number of topics. In every case, the emphasis will be on developing the conversation beyond the basic level, expanding vocabulary, giving extra information, asking follow-up questions, etc. There are also basic writing assignments.</p>		
成績評価の方法	Participation: 30% Presentation: 20% Written assignments 20% Test (written and oral): 30%		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	Don't just say the minimum. Always try to extend the conversation with a comment or a question. That will force you to use your English more. Your English will get better and you will get a higher grade.		



授業科目名	英語表現Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	Brian Haws [非常勤講師]		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Practical language class		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英会話, 表現力, conversation, expression		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>This is a follow-up course to Communicative Writing I. The aim of this class is to develop students' practical writing abilities. The objective of this course is to provide students with skills that will allow for expressing a variety of subject matter through written composition in the form of simple paragraphs, letters and essays.</p> <p>This class belongs to the foreign language curriculum, and is an intermediate course for sophomores of the Prefectural University of Hiroshima.</p>		
授業の内容	<p>1) Talking about self and future plans, 2) Body and health, 3) Food likes and dislikes, 4) Dining out, 5) Travel, 6) World geography, 7) Global customs, 8) Past experiences, 9) Describing places, 10) Expressing opinions, 11) Comparisons, 12) Activities/Frequency of actions, 13) Review, 14) Evaluation: Interview and listening exam, 15) Evaluation: Interview and listening exam</p>		
成績評価の方法	Class participation 30%, Interview test 40%, Listening test 30%		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>Language learning can be very challenging yet very rewarding. I encourage all students to adopt the mentality that learning English is a practical skill that will be very useful with future endeavors. I will assist with this challenge both in and out of the classroom in any way possible. Lastly, I would encourage all students to try using English without fear of making mistakes.</p>		

授業科目名	検定英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	高島 裕臣		
研究室の場所	三原キャンパス 2515研究室		
オフィスアワー	在室時は可能な限り対応。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって教科書各章の題材をもとに講義および語学演習を行う。毎回の授業に集中して臨み、小テストや課題をこなし、期末試験を受験して、総合的評価において成績判定基準に達することが求められる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, 聴解, 読解		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) においてスコアを取得し, 英語運用能力を総合的に高めるため, 聴解・読解の能力を発展させる。		
授業の内容	聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習を行う。速読速解。速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行い, TOEICに対応できる力を養う。		
成績評価の方法	TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的態、等で評価する。TOEIC受験を求める。 期末試験60%、小テスト・課題30%、TOEICスコアに応じたポイント10%により総合的に評価点を算出する。		
テキスト	山口昌彦ほか. (2015). The TOEIC(R) TEST Trainer Target 470, Revised Edition. センゲージラーニング.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回出席しよう。TOEICの問題形式に習熟し、たくさん問題演習をしてTOEIC・TOEIC IPに備えよう。		

授業科目名	検定英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	本岡 直子, 高島 裕臣		
研究室の場所	三原キャンパス 3506研究室 (本岡) , 2515研究室 (高島)		
オフィスアワー	(高島) 在室時は可能な限り対応。		
授業の形式・方式	(本岡) 演習形式 (週1コマ (90分) x 15回) (高島) 対面授業。授業日程にしたがって教科書各章の題材をもとに講義および語学演習を行う。毎回の授業に集中して臨み、小テストや課題をこなし、期末試験を受験して、総合的評価において成績判定基準に達することが求められる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, 聴解, 読解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) においてスコアを取得するため、聴解・読解の能力を発展させる。TOEICのスコアで自分の英語力を客観的に把握し、また具体的な目標を設定することができる。 本科目は、全学共通教育科目の外国語科目の選択科目であり、選択した学生が目標を持って主体的に学習していくことが求められる。		
授業の内容	聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習をTOEIC形式での演習を含めて行う。速読速解。速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行う。 習熟度や内容に応じたクラス編成を行ない、学習者に応じた能力の向上をはかる。		
成績評価の方法	(本岡) TOEIC IPまたはTOEIC公開試験の受験を求める。 期末試験 (60%), 小テスト・課題 (30%), TOEICスコアに応じたポイント (10%) (高島) TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的態、等で評価する。TOEIC受験を求める。 期末試験60%、小テスト・課題30%、TOEICスコアに応じたポイント10%により総合的に評価点を算出する。		
テキスト	(本岡) 安丸雅子ほか 『Seize the Core of the TOEIC(R) Test』 (金星堂) 2015 (高島) 山口昌彦ほか. (2015). The TOEIC(R) TEST Trainer Target 470, Revised Edition. センゲージラーニング.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	(高島) 毎回出席しよう。TOEICの問題形式に習熟し、たくさん問題演習をしてTOEIC・TOEIC IPに備えよう。		

授業科目名	中国語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	張 健[非常勤講師]		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	日本と異なるの中国の文化を知って，簡単な日常会話が話せるよう。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	中国語Ⅰで学ぶことを基本にして，初級・中級の読み物を通して中国の文化に触れるとともに，中国語での簡単な日常会話や手紙などが理解できる能力を養う。		
授業の内容	中国語の基本的な語彙・語法の習得を目指す。簡単な会話文を用いて練習を繰り返し，中国語の特徴を踏まえた初歩的な日常会話ができるよう鍛錬する。また，文の基本的な構造（文型）を，動詞述語文・形容詞述語文・複文による慣用的表現などを中心に理解し，文法面での基礎を固める。一言語としての理解に止まらず，日中文化の発想の相違に注意して日本語訳を試みたり，コミュニケーションに求められる音声表現の重要性を認識させることなどを通じて，受講者各自の関心の範囲に応じた能力の伸長を図る。		
成績評価の方法	出席，学習態度と期末試験により総合的評価する。（欠席は4回まで一回は5点。計20点；学習態度は私語や居眠り，宿題を無視するなど一回は5点。計20点；期末試験は計60点。合計100点）		
テキスト	テキストは最初の授業で指定する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	自分でこまめに辞書を引くことで，たくさんの言い回しにふれる。こうして見つけた表現を積極的に口に出し会話をしてみるという，目と耳と口とを総合させた学習方法を採る姿勢が欲しい。		

授業科目名	ドイツ語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	大草 輝政		
研究室の場所	庄原キャンパス 2408研究室		
オフィスアワー	①授業前後, 教室で ②水曜10:50-11:50 (講師控室)		
授業の形式・方式	対面演習型授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	話法の助動詞, 動詞の三基本形, 現在完了形, 受動文, 関係文, 接続法, 比較表現, zu不定詞句		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>[到達目標]</p> <p>(1) ドイツ語の文章を発音できる。</p> <p>(2) 辞書を使ってドイツ語の文章を和訳できる。</p> <p>(3) 簡単な独作文ができる。</p> <p>[位置づけ]</p> <p>全学共通教育科目(基盤)の外国語科目である。</p>		
授業の内容	ドイツ語Iに続いて, 話法の助動詞, 動詞の三基本形, 現在完了形, 受動文, 関係文, 接続法, 比較表現, zu不定詞句などを習得する。		
成績評価の方法	毎回の課題提出(45%)および学期末テスト(55%)		
テキスト	Wera und Werner, 朝日出版社(¥2400+税)		
参考文献	『アクセス独和辞典』第3版(¥4100+税)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回独和辞書を持参すること(初回に指示する)。 各回の授業につき, 1-2時間程度に相当する授業外自主学修が最低限求められる。		

授業科目名	日本語Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	中石ゆうこ		
研究室の場所	広島キャンパス 1132研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。毎週宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科 1年次		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 読む 書く		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②大学生活で必要とされる日本語力のうち主に読み、書きの活動(専門書を読む、レポートや論文を書くなど)のための日本語力を高めることである。		
授業の内容	生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要な抽象的な語彙や表現を学ぶ。教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。様々な文章を読むことで、正確に、かつ効果的に、必要な情報を見つける演習を行う。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 課題(宿題) (30%) 期末テスト(またはレポート) (50%)		
テキスト	『留学生のためのここが大切文章表現のルール』(スリーエーネットワーク) 『中・上級のための速読の日本語』(The Japan Times)の2冊を予定。 ※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	第1回目の授業に必ず出席すること。 日本語レベルによって内容を変更する。		

授業科目名	日本語Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	中石ゆうこ		
研究室の場所	広島キャンパス 1132研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。毎週宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科 1年次		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 漢字 読む 書く		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②大学生活で必要とされる日本語力のうち主に読み、書きの活動(専門書を読む、課題について情報を集める、レポートや論文を書くなど)のための日本語力を高めることである。この「日本語Ⅳ」では、「日本語Ⅲ」の日本語力より、上のレベルに対応した活動を行う。		
授業の内容	大学の学習活動に必要な抽象的で専門性の高い語彙や表現を学ぶ。レポート作成ができる作文力を身に付けることを目標にして、教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。様々な文章を読むことで、正確に、かつ効果的に、必要な情報を見つける演習を行う。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 課題(宿題) (30%) 期末テスト(またはレポート) (50%)		
テキスト	『留学生のためのここが大切文章表現のルール』(スリーエーネットワーク) 『中・上級のための速読の日本語』(The Japan Times)の2冊を予定。 ※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	第1回目の授業に必ず出席すること。 日本語レベルによって内容を変更する。		

授業科目名	海外研修 I		
担当教員氏名(助手氏名)	Timothy Buthod		
研究室の場所	三原キャンパス 3414研究室		
オフィスアワー	By appointment		
授業の形式・方式	本科目は、認定科目であり、授業は開設しない。		
単位数(時間数)	2単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度以降入学生】保健福祉学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し、その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合、この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で、語学研修やその他の活動に自主的に参加した後、所定の書類と研修や活動に関する報告(A4用紙1～2枚, 1200字以上)を提出し、所属学部の教授会で、その内容が、90時間の学修(2単位分)に相当すると判断されれば、単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については、各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。		



授業科目名	海外研修Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	Timothy Buthod		
研究室の場所	三原キャンパス 3414研究室		
オフィスアワー	By appointment		
授業の形式・方式	本科目は、認定科目であり、授業は開設しない。		
単位数(時間数)	2単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度以降入学生】保健福祉学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し、その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合、この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で、語学研修やその他の活動に自主的に参加した後、所定の書類と研修や活動に関する報告(A4用紙1～2枚、1200字以上)を提出し、所属学部の教授会で、その内容が、90時間の学修(2単位分)に相当すると判断されれば、単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については、各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。		

授業科目名	情報リテラシー演習		
担当教員氏名(助手氏名)	飯田 忠行		
研究室の場所	三原キャンパス 2520研究室		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習1時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 数値分析, データベース, 情報運用, 著作権, 個人情報, ウイルス・サイバー攻撃対策		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力 ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力		
授業の内容	情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。 コンピュータを利用した数値分析の基礎について学習する。 データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法について学習する。 インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等について学習する。		
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。 <a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a>		

授業科目名	情報リテラシー演習		
担当教員氏名(助手氏名)	川原田 淳		
研究室の場所	三原キャンパス 4424研究室 (4号館4階)		
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に時間帯を定めない。</li> <li>・可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。</li> </ul>		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業とする。</li> <li>・授業日程に従って、講義・演習併用形式で実施する。</li> <li>・毎回の授業毎にレポート課題を課す。</li> <li>・受講者は、授業への参加、課題の提出、期末試験の受験が義務付けられる。※成績評価の方法も参照してください。</li> </ul>		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科・作業療法学科・コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 数値分析, データベース, 情報運用, 著作権, 個人情報, ウイルス・サイバー攻撃対策		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は全学共通教育科目中の基盤・情報に区分される。</li> <li>・受講者は情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。</li> <li>・具体的には、数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力を身に付けることを目標とする。</li> <li>・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力を身に付けることを目標とする。</li> </ul>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教材等を活用し、授業を行う。</li> <li>・コンピュータを利用した数値分析の基礎について学習する。</li> <li>・データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法について学習する。</li> <li>・インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等について学習する。</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4回以上の欠席をした場合は成績評価の対象外とする。</li> <li>・レポート課題は各授業の終了時に提出する課題の内容により評価する。</li> <li>・課題の提出方法等については授業時間内に指示する。</li> <li>・期末試験では主に講義で教示した内容から問題を作成し試問する。</li> <li>・期末試験は指定された試験の日時に、指定された教室(試験室)内で、ノート、参考書、PC、電卓などの持ち込み不可で実施する。</li> <li>・成績評価は、授業参加(出席状況と授業への取り組み態度)およびレポート課題70%、期末試験30%の割合で判定する。</li> </ul>		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト(教科書)は特に指定しない。</li> <li>・別途資料をシラバス情報の添付ファイルまたは他の方法によって提示する。</li> </ul>		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下記の他、授業の進行に応じて適宜紹介する。</li> <li>・noa出版『考える伝える分かちあう 情報活用力 [第3版]』ワークアカデミー、2011年</li> </ul>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近のコンピュータやネットワークを中心とするICT技術の進歩には目を見張るものがありますが、その基礎と応用を知る上で、情報リテラシー演習は重要な科目です。</li> <li>・本科目ではこれらの知識を理解する上で必要となる基礎的技術だけではなく、その応用分野を中心に現代社会とコンピュータの関わりや必要性について講義するとともに、適宜の演習により各自の理解の程度を確認します。</li> </ul>		

授業科目名	情報リテラシー演習		
担当教員氏名(助手氏名)	中村 悟		
研究室の場所	2507研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	<p>対面授業。  授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。  授業1回に対し学生の自習1時間を想定した授業を行う。  学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。  学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。</p>		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度入学生】人間福祉学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 数値分析, データベース, 情報運用, 著作権, 個人情報, ウイルス・サイバー攻撃対策		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。  情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。  具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。  ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力  ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力</p>		
授業の内容	<p>情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。  コンピュータを利用した数値分析の基礎について学習する。  データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法について学習する。  インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等について学習する。</p>		
成績評価の方法	<p>3回以上の欠席は評価の対象外とする。  情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。</p>		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。  情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。  <a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a></p>		

授業科目名	ITパスポート検定		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って『ITパスポート試験』の学習カリキュラムに準拠したテキストを用いて講義を実施する。 また、自習についてはeラーニング教材を使用する。 学生は、授業への出席、期末試験の受験が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度入学生】全学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	国家試験, ITパスポート試験, ストラテジ系基礎知識, マネジメント系基礎知識, テクノロジ系基礎知識		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。ITに関する知識にとどまらず、企業活動、経営戦略、会計や法務など、ITを活用する上で前提となる幅広い知識をバランス良く習得することを目的として、国家試験である『ITパスポート試験』の学習内容を身に付ける。		
授業の内容	本講義では、『ITパスポート試験』の合格に必要なストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系基礎知識について学習する。これらの学習を通して、以下にあげることが身に付く。 ・企業活動と法務の基本について理解し、経営科学の各手法についての基礎知識を備え、企業や組織の経営に資する情報システムの戦略立案に活かすことができる。 ・情報システムの開発技術およびソフトウェア開発管理手法の基礎について理解し、プロジェクトマネジメントおよびサービスマネジメントの基礎知識を備え、情報システムの開発および運用に活かすことができる。 ・情報科学を支える基礎理論について理解し、コンピュータシステムの構成要素の仕組みについての基礎知識を備えている。さらに、データベース、ネットワーク、セキュリティに活用されている技術の要諦を踏まえ、適切なコンピュータシステムの運用ができる。		
成績評価の方法	集中講義を受講し、期末試験に合格した者については、得点に応じ、評定値C以上A未満の評定値を与える。履修期間中、LMS上のeラーニング教材で学習し、集中講義が始まる前までに『ITパスポート試験』に合格した者については、その得点に応じ、評定値を上方修正する。また、LMS上のeラーニング教材への取組状況が良好な者に対しても評定値を上方修正する。		
テキスト	FOM出版「よくわかるマスター ITパスポート試験対策テキスト 平成26-27年度版」富士通エフ・オー・エム(株)		
参考文献	LMS上のeラーニング教材については、講義の際に指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	LMS上のeラーニング教材を用いて予習と復習をしっかりと行うこと。 ITパスポート試験の受験案内も行うので、積極的に受験し取得して欲しい。		

授業科目名	保健体育理論		
担当教員氏名(助手氏名)	塩川 満久		
研究室の場所	三原キャンパス 4420研究室		
オフィスアワー	月～木曜日12:00-13:00		
授業の形式・方式	対面講義。授業日程に従い、講義形式を主体する		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	健康科学, 運動方法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	健康と運動との関係について知識を深め、実践方法について考える。		
授業の内容	日常生活において健康を阻害する要因と運動が身体に及ぼす影響・効果に焦点をあて、社会環境、日常生活、性別、年齢などに応じた健康に関する基礎理念について学習する。そして、個人に対応した運動プログラムを理論と実践のリンクを考慮し立案できるようにし、加えて、その内容に沿った指導法について教授する。特に運動強度に関しては過負荷量に比例するという神話を払拭するとともに、合目的運動計画と未然に運動障害を予防するプログラム修正について考え、生涯にわたり継続できる運動習慣の素地をつくることを目的とする。		
成績評価の方法	出席、レポート、筆記試験で評価する		
テキスト	資料を提示する		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	キャリアデベロップメント		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 淳		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業. 講義形式による解説を行い, 必要に応じて適宜, 演習を実施する.		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 能力開発, 目標設定, 情報収集, コミュニケーションスキル, 対人関係スキル, 課題発見力, 問題解決力, 感情コントロール, ストレスコントロール		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目の「キャリア科目」の中で、最初に学ぶ科目として位置づけられている。大学生生活を充実させ、社会で活躍するためには、自立的・主体的に考え行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。それには、目標設定、情報収集、効果的なコミュニケーション、対人関係スキル、課題発見力、問題解決力、感情のコントロール、ストレスへの対処、意思決定などの能力が含まれる。これらの能力は、在学中だけでなく、社会に出てからも継続的に高めていくことが重要である。本講義の目的は、受講者がこれらの能力の重要性について認識し、必要なスキルや有用な手法について理解し、能力を高める方法を知ることである。受講者が理解を深めるための演習を適宜実施し、その過程で受講者自身が自己についての理解を深めることが可能である。</p>		
授業の内容	<p>1) 社会で活躍するために必要な能力, 2) セルファイメージと目標設定, 3) 情報収集と要約のスキル, 4) コミュニケーションと対人関係のスキル, 5) 論理的に説明するスキル, 6) 問題解決・発想法, 7) 感情とストレスのコントロール</p>		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する		
テキスト	講義資料は毎回配布する.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	教育学		
担当教員氏名(助手氏名)	木本 尚美		
研究室の場所	広島キャンパス (2217)		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	講義形式で行うが、一部演習形式を当てる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	教育, 学習, 発達, 社会, 家庭, 学校, 子ども		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の教養/人文系科目。  知識・理解: 「教育学とは何か」という問いを考えるヒントとなる基礎的な知識が獲得できる。  思考・判断: 現代の教育問題に関して教育学的観点に基づき, 検証することができる。  関心・意欲: 教育や子どもの成長に興味関心を持ち, 考える態度を養うことができる。  技能・表現: レポート課題に積極的に取り組むことにより, 学習のデザインとマネジメントを修得することができる。  総合的には, 広い視野に立つものの見方と, 自ら考える力(クリティカルシンキング)を身につけることができる。</p>		
授業の内容	<p>人間は, さまざまな教育の営みを通して発達し続けるが, 教育活動全般は, 社会環境と密接な関わりを持っている。本授業は, 受講生の皆さんがこれまで経験してきた家庭教育や学校教育, 現段階の大学教育, 生涯学習を視野に入れ, 教育の基礎をどう捉えるか, 子どもと家庭, 学校, 社会等をめぐる諸問題をどのように解決するかについて, 多角的に考察する。</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題1, 3, 4, 5・・・ 10点×4回</li> <li>・レポート課題2, 6・・・ 30点×2回</li> </ul>		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>教育という社会的な活動が社会でどのような意味を持っているのか, 課題は何かを考えていきたいと思えます。受講生一人ひとりの意見や考え方は, クラス全員の貴重な教育資源となります。単に授業に出席するだけでなく, 授業時間内の学習活動に積極的に参加されることを望みます。</p>		



授業科目名	倫理学		
担当教員氏名(助手氏名)	大草 輝政		
研究室の場所	庄原キャンパス 2408研究室		
オフィスアワー	①授業前後, 教室で ②水曜10:50-11:50 (講師控室)		
授業の形式・方式	対面授業。毎回小レポートを課す。適宜ディスカッションをおこなう。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	文化相対主義, 徳, 快楽, 幸福, 善悪, 正不正, 帰結主義, 義務論, 生殖補助医療, エンハンスメント, 動物の権利, 安楽死, 脳死, 死生学, 自然, 科学技術, 環境		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>[到達目標]</p> <p>(1) 倫理学の基本問題を理解する。  (2) ひとつの問題に対して複数の視点を持ち, 分析的・論理的に考えを展開できる。  (3) 問題の解決方法はどのようなものでありうるかについて, 自分なりの考えを文章にすることができる。</p> <p>[位置づけ]</p> <p>全学共通教育科目(教養)の一つである。</p>		
授業の内容	<p>テキストを読み, 議論の構成の把握に努めながら, 倫理的問題について考える。</p> <p>第1-3回: イントロダクション(倫理学のいくつかの基本問題を紹介する)  第4-15回: 読解とディスカッション</p>		
成績評価の方法	学んだ知識や技術の習得度の評価は, 毎回の課題(小レポートや口頭発表)(45%)と期末レポート(55%)による。		
テキスト	ピーター・シンガー『実践の倫理 [新版]』, 昭和堂(¥2,850+税)		
参考文献	『現代倫理学入門』		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	各回の授業に対し, 3-4時間の授業外自主学修が最低限求められる。授業では受講者の積極的な参加(発言, 質問等)を期待しています。		

授業科目名	歴史学		
担当教員氏名(助手氏名)	秋山伸隆		
研究室の場所	広島キャンパス 1924研究室		
オフィスアワー	とくに定めないが、在室時はいつでも対応する		
授業の形式・方式	対面授業 土日祝日を利用したフィールドワークも2回実施する		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目	なし		
キーワード	考古学, 地名, 古文書, 戦国時代, 城郭		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	「暗記する」日本史から「考える」日本史へ、わずかな痕跡(史料)から過去の事実を明らかにしていく歴史学という学問の方法と面白さを学ぶことが目標である。全学共通教育・教養・人文系の科目である。		
授業の内容	まず広島県地域の考古学の研究成果を紹介し、考古学の研究方法を学ぶ。続いて「地名」から歴史を探る方法を紹介する。さらには古文書の一字一句を丹念に読み解くことによって、歴史を明らかにする方法を学ぶ。最後に地域史の研究成果を、実際に現地を歩くことによって追体験するフィールドワークを実施する。		
成績評価の方法	期末試験によって評価する。		
テキスト	教科書は使わない。 プリント資料を配布する。		
参考文献	適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	プリントを事前に配布するので、授業までに必ず読んでおくこと。		

授業科目名	日本国憲法		
担当教員氏名(助手氏名)	岡田 高嘉		
研究室の場所	広島キャンパス 2223研究室		
オフィスアワー	三原キャンパス 1号館3階「講師控室」 金曜日 12時10分～13時00分、14時40分～15時30分		
授業の形式・方式	対面授業。授業は、教科書・レジュメ・資料を用いて、講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	看護必修, ほか選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	立憲主義、基本的人権、三権分立、国民主権、精神的自由、経済的自由、法の下での平等		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【目標】</p> <p>知識・理解の観点 憲法の存在意義、基本的人権の内容について説明できる。          思考・判断の観点 現代の社会問題を憲法と関連づけて考察することができる。          関心・意欲の観点 テレビや新聞等で見聞きする社会問題に関心を持つことができる。          技能・表現の観点 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。          態度の観点 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>法律系科目の基礎科目</p>		
授業の内容	<p>ニュースや新聞等では、しばしば憲法にかかわる社会問題が取り上げられる。この授業では、憲法の核である人権保障および統治の原理の概要を習得し、現代社会が直面している憲法問題を考察する法的思考能力の一端を養うことを目指す。</p> <p>授業のおおまかな内容は、憲法を支える立憲主義の思想の歴史的展開を概観し、次いで日本国憲法が保障する基本的人権の具体的内容について解説する。</p>		
成績評価の方法	<p>成績評価は、定期試験の結果を第一次的な評価対象とし、それに授業態度、小テスト、レポート等の成果を考慮して総合的に判断する。大まかな内訳は以下のとおり。</p> <p>(1) 定期試験 (60%)          (2) 授業態度 (10%)          (3) 小テスト、レポート等 (30%)</p> <p>定期試験は論述形式であり、おおむね日本国憲法の基本的な知識を確認する問題と、それを基礎とした論理的な法的思考力を評価するための問題で構成される。</p>		
テキスト	テキストは指定しない。プリントを配布する。		
参考文献	<p>(1) 長谷部恭男『憲法と平和を問いなおす』（筑摩書房、2004年）          (2) 横藤田誠『人権入門』（法律文化社、2011年）</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	新聞やニュース・報道番組を意欲的に見聞きし、国内外で何が話題になっているのかを把握しておくことが望ましい。		

授業科目名	経済学		
担当教員氏名(助手氏名)	式部 信		
研究室の場所	広島キャンパス 1722研究室		
オフィスアワー	木・2		
授業の形式・方式	対面授業・講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	社会科学・実在性・経済構造・資本主義		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は全学共通教育科目として経済や社会の仕組みに関する教養的知識を得るための科目である。		
授業の内容	この科目では現代の経済がどのような仕組みで動いているかを知るために必要な基礎的知識を学ぶ。最初に、経済全体の仕組みをつかまえるための基本的な概念を理解する。その上で、経済の動きを把握するためにつくられた簡単なモデルによって現代経済の基本的な特徴と構造を理解する。それとともに、経済や社会を学問として学ぶためにどのような点に注意しなければならないかを考え、経済や社会について高校時代よりも一段深い知識をめざす。		
成績評価の方法	期間中に課す宿題と期末の試験期間中に実施する最終試験の得点結果に基づいて評価する。最終試験では論述形式の問題を出題する。		
テキスト	バスター 『自然主義の可能性』 晃洋書房。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講者には各回の授業内容を要約したレジュメを用意するので、授業に持参すること。宿題には上記の文献(これは必読の文献である)を読んで5000字程度の論文を書く課題が含まれるので、留意すること。論文のテーマと提出期限は授業の際に伝える。		

授業科目名	法学		
担当教員氏名(助手氏名)	岡田 高嘉		
研究室の場所	広島キャンパス 2223研究室		
オフィスアワー	三原キャンパス 1号館3階「講師控室」 金曜日 12時10分～13時00分		
授業の形式・方式	対面授業。授業は、教科書・レジュメ・資料を用いて、講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	法と裁判、民法（財産法、家族法）、刑法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p><b>【目標】</b>  知識・理解の観点 法とは何か、市民生活にかかわる法の概要について説明できる。  思考・判断の観点 現代の社会問題を法と関連づけて考察することができる。  関心・意欲の観点 テレビや新聞等で見聞きする社会問題に関心を持つことができる。  技能・表現の観点 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。  態度の観点 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</p> <p><b>【カリキュラム上の位置づけ】</b>  法律系科目の基礎科目</p>		
授業の内容	<p>まず、法とは何か、法の役割や用い方を明らかにする。これらは法を学ぶ上での基本的な知識である。次いで民法や刑法など、市民生活と密接に結びついた法の概要について解説する。具体的には、①契約や財産に関するルール、②家族制度、③犯罪と刑罰に関するルールなどを取り上げる。</p> <p>これらを通じて、市民生活と法の密接な結びつきを理解し、社会生活に付随する現代的問題を法的な思考に基づいて解決しうる能力を養うことを目指す。</p>		
成績評価の方法	<p>成績評価は、定期試験の結果を第一次的な評価対象とし、それに授業態度、小テスト等の成果を考慮して総合的に判断する。大まかな内訳は以下のとおり。</p> <p>(1) 定期試験 (60%)  (2) 授業態度 (10%)  (3) 小テスト (30%)</p> <p>定期試験は論述形式であり、おおむね法学の基本的な知識を確認する問題と、それを基礎とした論理的な法的思考力を評価するための問題で構成される。</p>		
テキスト	法学六法'16 (信山社, 2015)		
参考文献	野崎和義『福祉のための法学』(ミネルヴァ書房、2009) 宇山勝儀『社会福祉を志す人のための法学』(光生館、2011)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>新聞やニュース・報道番組を意欲的に見聞きし、国内外で何が話題になっているのかを把握しておくことが望ましい。</p> <p>本科目の履修にあたり、「日本国憲法」を履修しておくことが望ましい。</p>		

授業科目名	人権論		
担当教員氏名(助手氏名)	吉川ひろみ, 金子努, 江本純子, 横須賀俊司, 手島洋		
研究室の場所	吉川3404, 金子4423, 江本2516, 横須賀4522, 手島4525		
オフィスアワー	手島(火曜日2限), 金子(水曜日1限), 江本(木曜日2限), 吉川(月曜日4限)		
授業の形式・方式	対面授業。講義, 演習, グループディスカッション, 発表		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	差別, 社会モデル, 基本的人権, 合理的配慮, エンパワーメント, 意思決定, 福祉観, 人間の尊厳, 社会正義, 社会的包摂, ディーセントワーク, 作業的公正		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の領域で特に注目されるようになった「合理的配慮」に関する知識と技術を理解し, それに基づいた行動がとれるようになる。</li> <li>・人権を護ることは, 人間らしい暮らしにとってなぜ必要なのかを多面的に理解する。人権を尊重するために必要となる知識と技術を理解し, 行動できるようになる。</li> <li>・現代社会の中で生じている様々な問題を人権の視点でとらえ直すとともに, 背景にある問題を分析し, 解決策を考える力を培う。</li> <li>・全人間的復権としてのリハビリテーションの意味を理解する。人権と作業的公正の関係を理解する。</li> </ul>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者に対する差別の事例や, それを解決するために制定された法律などを通して, 「合理的配慮」に必要な知識や技術を考察する。</li> <li>・人権を護ることが人の暮らしにどのように必要なのか, 基本的人権を尊重するとは具体的に何をどうすることなのかを対人援助職の視点から事例研究や演習をまじえて具体的に考察する。</li> <li>・人権を尊重するために必要となる知識と技術を考察する。精神保健福祉または労働の観点から問題提起を行い, 身近な人権問題について考察を深める。</li> <li>・リハビリテーションの起源と人権との関係を概観する。人権を尊重した実践について考察する。</li> </ul>		
成績評価の方法	各担当教員が20%ずつ評定する。授業内容に応じて, 参加態度, レポート, 試験のいずれか, あるいはこれらの組み合わせで成績を評価する。		
テキスト	なし		
参考文献	八代英太編『ADAの衝撃』(学苑社, 1991) 障害者差別解消法解説編委員会『概説 障害者差別解消法』(法律文化社, 2014) 長瀬修編『障害者の権利条約と日本』(生活書院, 2012) 木原活信『社会福祉と人権』(ミネルヴァ書房, 2014) など		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	新聞やニュース・報道番組を意欲的に見聞きし, 国内外で何が話題になっているのかを把握しておくこと。授業は, そこに参加する学生, 教員全員によるコラボレーションである。主体的な参加を求める。 人権に対する問題意識を持つておくことが望ましい。		

授業科目名	統計学		
担当教員氏名(助手氏名)	飯田 忠行		
研究室の場所	三原キャンパス 2520研究室		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義・演習併用形式で実施する。授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。毎週宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	統計学, 統計処理, 表計算, 数値計算, データ処理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、看護学科2年次生を対象にし、医療統計を学ぶ上での基本的な統計処理の技術を習得することを目標としている。具体的には、表計算ソフトであるExcelを使用して平均値や標準偏差の考え方といった基本的な事柄から始めて、相関分析と回帰分析、確率分布と確率密度関数、推定と検定までを網羅する。を統計学に関連のあるExcel関数の基本を用いて、統計とは何かを学ぶ。		
授業の内容	まず、Excelの関数の基本操作について学び、基本統計とはなにか、代表値、散布図、度数分布、統計量要約グラフ、個々のデータの位置を知るなどの基本統計量を処理する方法を、続いて相関分析と回帰分析によってデータを解析する方法を学習する。確率変数と確率分布、2項分布、ポアソン分布、正規分布などの推測統計学に必要な確率分布と確率密度関数について学ぶ。さらに、母集団と標本、統計的推定、統計的検定(1標本:1集団)、統計的検定(2標本:2集団)などの本授業の目標である推定と検定を実際の例題を通して学習する。また、グループワークによって簡単な研究デザインを考え、統計解析を行う。		
成績評価の方法	5回以上の欠席は評価の対象外とする。演習課題(宿題および授業時間内の課題も含む)により評価する。演習課題(宿題)は毎回の授業の最後に提示する。各課題の提出期限は、通常、次回授業時間の開始時とする。課題の提出方法等については、授業時間内に指示する。		
テキスト			
参考文献	テキスト：菅民郎著 「Excelで学ぶ統計解析入門—Excel2007 対応版」 オーム社 2009.9発刊 2,940円		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	本授業科目は、EXCELを使った実技でもあるので、出来るだけ休まないようにしていただきたい。授業時間以外にもコンピュータに触れ、知識・技術の習得に努めてください		

授業科目名	統計学		
担当教員氏名(助手氏名)	川原田 淳		
研究室の場所	三原キャンパス 4424研究室 (4号館4階)		
オフィスアワー	・特に時間帯を定めない。 ・可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。		
授業の形式・方式	・対面授業とする。 ・授業日程に従って、講義・演習併用形式で実施する。 ・毎回の授業毎にレポート課題を課す。 ・受講者は、授業への参加、課題の提出、期末試験の受験が義務付けられる。※成績評価の方法も参照してください。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	コミュ必修, ほか選択
履修要件	理学療法学科・作業療法学科・コミュニケーション障害学科・人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	標本, 母集団, 仮説, 検定, 推定		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】</p> <p>(知識) ・基礎的な統計用語を説明できる。 ・検定, 推定の仕組みを説明できる。</p> <p>(技能) ・テキストを見ながら, 統計ソフトを使って平均, 分散, 比率の検定ができる。</p> <p>(態度) ・さまざまなデータを見て, どのような処理をすれば良いかについて自分で考えることができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】</p> <p>・本科目は, 全学共通教育科目の基幹科目・理学系の一つとして位置付けられており, 卒業研究で必要とされる複雑な検定について, その結果を理解・解釈するための準備を行う。</p>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計学の考え方と基礎的なデータ分析の方法を学ぶ。</li> <li>・データのばらつきの記述について, 統計データの特徴と分布の意味, 質的データと量的データに対する度数分布表とそのグラフの作り方と読み方を理解し, ばらつきのあるデータのまとめ方とデータの分布という視点を学ぶ。</li> <li>・データのばらつきの記述である基本統計量について, 分布の特徴を数値で表すことの意味を理解し, 代表値である平均値, 中央値, 最頻値などの特徴を学ぶ。</li> <li>・ばらつきの大きさの尺度である分散と標準偏差を理解する。</li> <li>・確率の定義と身近な確率の使われ方, 理論分布として二項分布や正規分布を理解する。</li> <li>・母集団と標本, 全数調査と標本調査, 標本調査におけるランダムサンプリングの考え方について理解する。</li> <li>・統計的仮説検定のロジックと方法を学ぶ。</li> <li>・二つの項目に関するデータにおける項目間の関係を探る分析方法について学ぶ。</li> <li>・時間に依存して取られる時系列データの分析方法について学ぶ。</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4回以上の欠席をした場合は成績評価の対象外とする。</li> <li>・期末試験では主に講義で教示した内容から問題を作成し試問する。</li> <li>・期末試験は指定された試験の日時に, 指定された教室(試験室)内で, ノート, 参考書, PC, 電卓などの持ち込み不可で実施する。</li> <li>・毎回の授業毎にレポート課題を課す。</li> <li>・課題の提出方法等については授業時間内に指示する。</li> <li>・成績評価は, 授業参加(出席状況と授業への取り組み態度)及び期末試験70%, レポート課題30%の割合で判定する。</li> </ul>		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊原啓作, 渡辺美智子『身近な統計 [改訂版]』放送大学教育振興会 (NHK出版), 2012年</li> <li>・別途資料をシラバス情報の添付ファイルまたは他の方法によって提示する。</li> </ul>		
参考文献	参考文献については授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近の統計学は統計ソフトウェアを用いることで, 以前のように高度な数学の知識がなくても, さまざまな統計手法を用いることが可能となってきました。その点で統計ソフトを使いこなせることが重要です。</li> <li>・しかし, 統計ソフトを利用して単に結果を計算することが重要ではありません。データに対する見方や目的に応じて適切な統計手法を選択できること, そしてその結果を見て, 意味や内容を解釈できることが必要です。</li> <li>・本科目ではこのような能力を育み, 容易に統計手法を活用するための方法について, しっかりとマスターしてください。</li> </ul>		



授業科目名	地球科学		
担当教員氏名(助手氏名)	山崎 博史 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	遠隔授業 (庄原キャンパス発信) 授業日程に従って、主に講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	固体地球, 物質循環, 地球と生物の共進化, 長時間スケール, 自然観		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>自然環境を考える時, ローカルからグローバルまで様々な空間スケールがあるように, 時間スケールにおいても通常の時間スケールとは異なる長い時間スケールで捉えることも重要であろう。</p> <p>本授業科目では, 現在の自然環境の成り立ちを地球史という長時間スケールの中に位置づけ, 自然と人間の関係について考えるきっかけを与える授業としたい。</p> <p>なお, 高等学校で地学を履修していない学生にも充分理解が深まるよう配慮する。</p>		
授業の内容	<p>次の項目を取り上げ, 講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎時間</li> <li>◎地球の構造</li> <li>◎地層</li> <li>◎風化・侵食・運搬</li> <li>◎プレートテクトニクスとプルームテクトニクス</li> <li>◎火山と噴火</li> <li>◎地震と断層</li> <li>◎日本列島の成立</li> </ul>		
成績評価の方法	<p>期末試験80%, 小課題20%の割合で評価する。</p> <p>期末試験は指定された試験日の授業時間 (90分) 内で実施する。</p>		
テキスト	数研出版編集部編『もういちど読む数研の高校地学』 (数研出版)		
参考文献	<p>西村祐二郎編著『基礎地球科学第2版』 (朝倉書店)</p> <p>酒井治孝著『地球学入門—惑星地球と大気・海洋のシステム—』 (東海大学出版会) 等</p> <p>なお, これらの購入を義務づけるものではない。</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>授業に関する連絡方法は, 正式には教学課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。課題, 試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則 (学則) に基づいて対応する。</p>		

授業科目名	地域の理解		
担当教員氏名(助手氏名)	オムニバス：五條 小枝子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業と遠隔授業を組み合わせ実施し、フィールドワーク（1ヶ所）への参加を課す。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、自然環境、歴史、文化、産業、地域の実態、地域の課題		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>まずは、地域の特性や課題について、様々な観点からの知見を得る。ついで、地域の実態を自分の眼で観察し、課題を発見し、その解決策を模索する。最後に、フィールドワークで得られたことをグループワークでまとめ、発表する。これら一連の流れの中で、地域に関する基礎知識を身につけるとともに物事に主体的に向き合う姿勢を培う。</p> <p>。本科目は、全学共通教育の複合科目に位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>本科目では、我々が生活する地域（広島県）に注目し、1)「広島」をいろいろな視点から見つめる、2)「広島」の現状を理解し、その実態を肌で感じ取る、3)「広島」の問題や課題を発見し、それについて考察を加える。これらにより、広島県に対する関心や理解を深め、課題を議論できる素養を身につける。プログラムは、講義・フィールドワーク・合同発表会で構成される。広島県の自然環境、地域性、歴史、文化、産業など多岐にわたる情報を得て、地域の特性を基礎知識として身につけるとともに、フィールドワークでは、地域の実態と課題を把握し、その解決策についてグループワークで討論する。その成果を学期末の合同発表会で報告し、相互評価する。</p> <p>。具体的なプログラムについては、後期開始時に掲示で通知する。 (注)シラバスは、前年度の実施内容。</p>		
成績評価の方法	①授業レポート計3回（50%）、②合同発表会における相互評価及び教員評価（40%）、③授業・フィールドワークへの取組姿勢（10%）で評価する。		
テキスト	各回の授業を通じて、担当の講師からシラバスの配付があり、併せて参考文献の推薦がある。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>単位認定の要件として、上述のとおり、レポート提出の他、フィールドワーク（指定された地域の中から1ヶ所選択）と合同発表会への参加を課す。</p> <p>受身では成果は得られない。自らが進んで地域の実態に触れ、そこにある問題に気づき、解決にはどうしたらよいか考え悩むこと。身近な問題を深く考えることによって自分自身を成長させるという能動的な取組姿勢が求められる。</p>		

授業科目名	留学生と学ぶ広島		
担当教員氏名(助手氏名)	柳川順子, 五條小枝子		
研究室の場所	広島キャンパス1713研究室(柳川), 2218研究室(五條)		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	遠隔授業・フィールドワーク・対面形式の合同発表会		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	保健福祉学部1・2年次(平成27年度入学生)		
免許等指定科目			
キーワード	異文化間コミュニケーション, 広島地域の歴史・文化・産業・自然, 「広島スタディツアー」		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	全学共通教育科目の「広島と世界」枠に位置づけられる。文化的背景の異なる留学生と日本人学生とが, 広島という地域への理解を深めながら, 異文化間コミュニケーションの基礎を体得することを目標とする。		
授業の内容	留学生と日本人学生が, 広島の歴史・文化・産業・自然をともに学ぶ「広島スタディツアー」に参加し, 多様な視点からのディスカッションを通して, このフィールドワークで得た知見を深め, その成果をレポートやグループ発表によって表現する。ディスカッションは少人数のグループで行い, 成果の発表に向けても, グループを単位とした共同作業を行っていく。合同発表会は, 広島・庄原・三原の学生が一堂に会して行う。		
成績評価の方法	レポート2本(50%), 合同発表会における相互評価及び教員評価(40%), 授業への参加度(10%)により, 総合的に評価する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	10月3日(土), 12月5日(土)に開催予定の「広島スタディツアー」には, 必ず参加すること。		

授業科目名	生化学		
担当教員氏名(助手氏名)	森 大志, 加藤 洋司		
研究室の場所	三原キャンパス 4428研究室(森), 2400研究室(加藤)		
オフィスアワー	特に定めないが, 担当教員にメール等で事前に訪室希望の連絡をすることが望ましい。		
授業の形式・方式	2名の教員で対面授業を行う。 教科書の章毎に担当教員が講義を行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	看護必修, ほか選択
履修要件	看護学科・理学療法学科・作業療法学科・コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	糖質, 脂質, タンパク質, アミノ酸, 酵素, 糖代謝, 脂質代謝, タンパク質代謝, 核酸, 体液, ホルモン, ビタミン, ホメオスターシス, 血液, 尿, 免疫		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	臨床医学系の専門科目における疾病等の理解のための基本的内容を講述する。 本科目では, 身体がどのような物質から成り立ち, それらの物質がどのように合成, 分解されるのかについての基本的な概念と基礎的内容を理解することを目標とする。これによって各学科の専門科目における専門的内容を理解するための素地を身に付けることができる。 本科目は, 看護・理学・作業及びコミュニケーション障害の各学科の「人間と社会生活の理解に関する科目」に区分されている。また, 看護師の養成施設におけるカリキュラムの専門基礎分野における教育内容の一つであり, 当該分野の主要な教科の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	生化学は化学的手段によって生命現象を理解しようとする学問である。人体は多種多様な物質によって構成されている。生命活動はこれらの物質間で生じる多彩で巧妙に制御された化学反応の流れによって維持されていることなどを章毎に2名の教員が概説する。 (森) 体液, ホルモン血液, 尿等の生理化学的な機能について講義する。毎講義終了時には講義内容の理解度を確認する小テストを実施する。7回(6回の講義+1回の試験)の講義を予定している。 (加藤) 人体を構成している物質, 特に糖質, タンパク質, 脂質, 核酸などの物理化学的性質や役割, 機能およびそれらの代謝などを臓器の機能との関わりから解説する。(8回の講義+1回の試験)9回の講義を予定している		
成績評価の方法	各担当教員の担当分が終了した時点で試験(中間及び期末)を実施する。 試験は指定された教室で行い, 持込み不可(森)または持込み可(加藤)で実施する。 能動的学習を実践していると認められる学生に対しては, 別に評価する。 森, 加藤担当講義でそれぞれ3回以上欠席した場合には, 中間試験または期末試験を受けることができない。 講義・試験を欠席する場合には, 事前にその旨連絡すること。連絡がない場合には, 1回の欠席を2回分として対処する。感染症等で欠席する場合には, 診断書を提出すること。		
テキスト	石黒伊三雄 監修『わかりやすい生化学〔第4版〕』(ヌーヴェルヒロカワ)2010。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講者はあらかじめ教科書の章を精読し, 各回の授業に臨むことが望ましい。 本科目は前期に開講した解剖学および生理学概論の基礎的知識を必要とする。 毎回の授業に関する連絡方法は, 学内ホームページ(教学ポータル)または授業内での連絡によって行う。 試験を欠席することは原則として認めないが, 感染症等でやむを得ず欠席する場合には, 診断書等を提出すること。この提出がない場合には再試験受験資格はない。試験においてカンニング等の不正行為があった場合には, その事実を大学に通知する。その際の判断は大学が決定する。		

授業科目名	人間発達学		
担当教員氏名(助手氏名)	林 優子		
研究室の場所	三原キャンパス 2502研究室		
オフィスアワー	月曜日5限		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。講義には、必要に応じて資料を配布する。また、各講義内容に関連するビデオ視聴も行う。各講義終了時、内容と関連する質問を出す。自分の体験や考えをまとめて提出することでさらに認識を高めることになる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	看護・理学・作業必修, ほか選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師・理学療法士・作業療法士 国家試験受験に係る必修科目		
キーワード	発育・発達、発達評価、発達障害、発達課題、自立、特別支援教育、発達障害者支援法、精神遅滞(知的障害)、自閉症、脳性麻痺、注意欠陥/多動性障害、学習障害、てんかん		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	1年次を対象として、まず子どもを理解するために、出生から乳幼児期、学童期、思春期をへて成人するまでの発達の過程と各年代の発達過程を学習することを目標としている。子どもの能力は個体内でも変化に富んでおり、発達の過程や状況も多様である。個性の違いを認めるとともに、各個人の力を最大限に発揮し、成人でのそれぞれにあった自立の形とは何かを、実際の子どもの成長・発達を視覚教材を活用して考えてみる。2年次の小児科学の基礎となる内容であるので、小児科を履修するためには学習しておく必要がある。		
授業の内容	人間の発達とは、遺伝的要因と環境的要因との継続的な相互作用によって起こる方向性を持った心身の構造および機能の分化・複雑化・多様化の過程である。その発達過程を踏まえながら、医療系に必要な発達や発育の臨床的評価とその障害に対する基本的なとらえ方について学習を進める。1) 基本的なヒトの成長と発達：子どもの各発達時期ごとの発達特徴と発達課題を知る。2) 子どもの障害とその対応：発達障害など発達に支援が必要な子どもたちの特徴や適切な支援のあり方を医療、リハビリテーション、教育、福祉の分野から考える。3) 障害に対する考え方：①機能や構造に困難があっても、環境(支援)により、障害や制限に対する個人の受け取り方が異なってくる。②自立・自律のためのいろいろな選択肢を認めることが重要である。4) これから社会で働く時の心構え：職業人として、広い視野で考える基礎作りの場となることを目指し、子どもの自立と幸福のための支援の目的と具体的な方法を学ぶ。		
成績評価の方法	期末試験の結果70%、授業出席時提出の出席票30%で評価する。試験は指定された教室内で、資料、ノートは持ち込み可能である。期末試験は、指定された試験日の授業時間(60分)内で実施する。		
テキスト	保健福祉学部学生のための人間発達学 林優子 (ふくろう出版)		
参考文献	『生涯人間発達論第2版』服部祥子(医学書院) 『リハビリテーション概論改定第2版』上好昭孝 土肥信之(永井書店)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	講義内容を参考にして、子ども(特に発達障害を持つ子ども)に関する書籍、新聞記事、テレビ番組などに興味を持ち、各自が知識や理解を深めていく努力をしてもらいたい。		

授業科目名	人間工学		
担当教員氏名(助手氏名)	塩川 満久		
研究室の場所	三原キャンパス 4420研究室		
オフィスアワー	水曜日12:00-13:00		
授業の形式・方式	対面講義。授業日程に従い、講義形式を主体する		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	作業必修, ほか選択
履修要件	看護学科・理学療法学科・作業療法学科・コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	エルゴノミクス, 動作解析, 環境適応		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	人間工学に関する基礎的知識を学び, 保健福祉領域における実践方法の背景について考える		
授業の内容	人間工学とは, 主体である人間が活動する際, 身体への負荷を軽減させ目的行動を合理的に行うことができるよう改善しようという科学領域である。しかし, 福祉・医療の場では道具や環境ばかりではなく, その客体が人間であることもある。すなわち, 介助・補助・指導の局面においては相手の合理性も重視しなければならない。そこで身体の生体情報から得られる活動状況と外界へ働きかける力の関連から動作を客観的に評価し, 二極間の平衡性と相互的問題解決の方法について学習する。		
成績評価の方法	授業毎のレポート, 筆記試験で評価する		
テキスト	なし 資料は提示する		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	<b>基礎運動学</b>		
担当教員氏名(助手氏名)	金井 秀作, 島谷 康司, 長谷川 正哉		
研究室の場所	三原キャンパス 4421研究室(金井), 4429研究室(島谷), 2501研究室(長谷川)		
オフィスアワー	毎週水曜日 12時から13時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面事業, 靱帯模型や配布資料等を用いて講義する。学生は授業に出席し, 課題や試験を受けることが義務づけられる		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	理学必修, ほか選択
履修要件	理学療法学科, 作業療法学科1年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	運動学, 運動力学, 運動生理, 身体動作		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	ヒトの基本的な身体の動きの仕組みを理解することを目標とする。本科目は2年次に開講される運動学と関連しており, 運動学の基盤となるものである。		
授業の内容	運動学とは, 人間の運動を科学的に分析する学問であり, 歴史的には解剖学や力学的解析(バイオメカニクス)に重点がおかれていた。しかし, 現在の運動学とくにリハビリテーション専門職を養成する課程においては運動生理学ならびに神経生理学についても重要度が増している。また, 近年では脳科学に基づいた運動学習の領域も重視されている。そこで本科目では理学療法に関係が深い解剖学・生理学の見地に基づいた運動学および運動力学, そして前述した運動生理学・神経生理学・運動学習の基礎領域について学習する。		
成績評価の方法	中間および期末試験, 出席状況を併せて評価する		
テキスト	基礎運動学		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	各講義内容ごとに随時事前課題を与える		

授業科目名	運動学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	住居 広士・塩川 満久		
研究室の場所	三原キャンパスの2505研究室(住居), 4420研究室(塩川)		
オフィスアワー	お昼休み(住居・塩川), 場所は担当教員室にて、面談は事前に要予約とする。		
授業の形式・方式	対面講義。授業日程に従い、講義形式を主体とし、演習実習形式も考慮する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	運動学, 運動器, バイオメカニクス, スポーツ科学, 人体動態等		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	運動学概論では、骨と腱・筋肉、関節靭帯を中心とする運動器の構造と機能、物理学に基づく生体力学、神経系が関与する運動発達と学習など、心身の運動の発現を構成する基本的な因子とバイオメカニクスについての知識を学習する。		
授業の内容	運動学は、人間の身体運動の機構を科学的に分析する学問である。運動学概論では、骨と腱・筋肉、関節靭帯を中心とする運動器の構造と機能、物理学に基づく生体力学、神経系が関与する運動発達と学習など、心身の運動の発現を構成する基本的な因子とバイオメカニクスについての知識を学習する。オムニバス方式(住居) 心身の運動の発現を構成する基本的な因子と臨床についての知識を教授する。(塩川) バイオメカニクスの手法を用いて解析した客観的数値を基に関節の周りに働く力を分解して合理的動作について学習する。		
成績評価の方法	出席, レポート, 口頭試問, 筆記試験, 実習演習形式等で評価する。		
テキスト	『基礎運動学―第6版』医薬出版、2003年。		
参考文献	随時、プリントを配付する。参考文献は随時、提示する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	運動学概論は、医学から保健医療福祉・介護に至るまで幅広い分野のリハビリテーション職種の基盤的な理論と実践となる。		



授業科目名	ジェンダー論		
担当教員氏名(助手氏名)	北仲 千里 [非常勤講師]		
研究室の場所	広島大学 ハラスメント相談室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面講義		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ジェンダー セクシュアリティ 性 結婚 女性学 男性学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	男女平等の現在でも、人生の始まりから最後まで、雨が降った時にさす傘の色からくしやみの大きさまで、その人の性別によって大きな違いが出てしまうことも事実です。また、男女の間の差異と平等をめぐるテーマは、今日大きな社会問題にもなっています。そしてそのことと家族、性に関するテーマは深く関係しあっています。講義では、社会的なものを見方をベースにして、こうしたテーマを取り上げて、考えていきます。		
授業の内容	ジェンダーの概念そのものから、昨今新しく社会問題になってきているテーマについてまでの理解を深めることを目指します。主なテーマ「性差の意味」「男らしさ、女らしさとは何か」「性別とは何か、性同一性障害やインターセックスなど」「労働とジェンダー」「結婚の社会学」「男性学～オヤジ研究から草食系男子まで」「セクシュアリティをめぐる社会問題(性暴力、ハラスメント、ストーカー、同性愛 など)」		
成績評価の方法	講義中に時々行うミニレポートと、期末のテストとの合計で行う。テストは持ち込み可。例) テストが60点以下だった場合でも、講義中のミニレポートを出している場合、加点してC評価になる。テスト結果が良かった場合は、それだけでもA評価となる。		
テキスト	テキストは使用せず、講義時にプリントを配布する。		
参考文献	参考文献：江原由美子・山田昌弘『ジェンダーの社会学入門』（岩波書店・岩波テキストボックスα）2008年加藤秀一ほか『ジェンダー（図解雑学）』（ナツメ社）2005年牟田和恵・伊藤公雄編『ジェンダーで学ぶ社会学（新版）』（世界思想社）2006年		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	性暴力や同性愛など、性の問題も扱いますので、それを理解した上で受講してください。		

授業科目名	家族社会学		
担当教員氏名(助手氏名)	澤田 千恵		
研究室の場所	三原キャンパス 3419研究室		
オフィスアワー	特に定めない。可能な限りいつでも対応する。		
授業の形式・方式	対面授業。講義には、教科書以外に必要なに応じて資料を配布する。また、各講義内容に関連するビデオ視聴も行う。教科書や参考資料を用いた講義形式に加えて、受講生自身に積極的に取り組んでもらうために課題図書を指定し、グループごとの発表を実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	近代家族、ジェンダー、性別役割分業、ケア、家族リスク、少子化、未婚化、個人化、家族のオルタナティブ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	私たちは「自らの家族の常識」と「社会が作る家族の常識」の両方に囚われ、それらの基準に合わない家族や関係を逸脱と見なしやすい。あるべき家族像への囚われは、他者の排除のみならず、自分自身の抑圧にもつながり、社会全体を息苦しくさせていく。グローバル化による雇用の流動化(不安定化)の中で、安定的就労と家族の形成が困難になっているにもかかわらず、むしろだからこそ、個人責任を強調する風潮が強くなっている。この授業では、望ましい個人や家族のありかた(規範)を相対化する視点に立ち、家族の多様性を擁護しつつ、個人が尊重され希望を持てる社会になるための個人・家族・社会のありかたを考えていくことが目標である。		
授業の内容	1. 家族社会学の目標、2. 客観的家族と主観的家族、3. 介護とジェンダー、4. 同性愛者が家族を形成する権利、5. 近代家族と性別役割分業、6. 未熟児の育児支援の抱える問題、7. コレクティブハウジングについて、8. ウーマン・リブがめざしたもの、9. ステップファミリー、10. グループ発表① 山田昌弘『少子社会日本—もうひとつの格差のゆくえ』岩波書店、2007年。11. グループ発表② 山田昌弘『「家族」難民—生涯未婚率25%社会の衝撃』朝日新聞社、2014年。12. グループ発表④ 水無田気流『シングルマザーの貧困』光文社新書、2014年。13. グループ発表③ 春日キスヨ『変わる家族と介護』講談社現代新書、2010年。14. グループ発表⑤ 春日キスヨ『父子家庭を生きる』勁草書房、2002年。15. グループ発表⑥ 石井クンツ 昌子『「育メン」現象の社会学—育児・子育て参加への希望を叶えるために』ミネルヴァ書房、2013年。 ※レポート提出		
成績評価の方法	成績評価は、授業への参加態度(50%)とレポート(50%)で評価する。		
テキスト	牟田和恵編『家族を超える社会学』新曜社、2009年。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	(1) 教科書は必ず読んでくること。(2) 課題図書の中から一冊を選び、読書レポートを書くこと。締め切りは最終日とする。レポートは他からのアドバイスを待てもいいが、最終的には自分で考え、自力で作成すること。(3) 授業中の私語を慎むこと。		

授業科目名	リハビリテーション概論		
担当教員氏名(助手氏名)	住居 広士		
研究室の場所	三原キャンパス 2505研究室		
オフィスアワー	面談は2505研究室にて事前の要予約とする。		
授業の形式・方式	対面講義にて、授業日程に従い、講義形式を主体とし、演習実習形式も考慮する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	理学・作業・コミュ必修, ほか選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	リハビリテーション, 障害, 日常生活活動, 生活の質, 国際生活機能分類		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	リハビリテーション概論では、リハビリテーションの歴史と理念およびその総論から各論までの概論などについて、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に基盤となる理論と実践を理解する。		
授業の内容	リハビリテーション概論では、リハビリテーションの歴史と理念および実態などについて教授する。リハビリテーションの定義・歴史から始まり、国際障害分類と国際生活機能分類、リハビリテーションチームの役割、障害の受容、トータルリハビリテーション、リハビリテーション評価と過程ならび諸段階、成長と発達および加齢と老化、疾病と障害に対するアプローチ、リハビリテーションの専門分野と専門職種、各制度上の適用などについて概説する。医学的・社会的・職業的・教育的・介護福祉的なリハビリテーションについても理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の基盤的となる理論と実践を理解する。		
成績評価の方法	出席, レポート, 口頭試問, 筆記試験, 実習演習形式等で評価する。		
テキスト	『リハビリテーション概論-改訂3版』永井書店、2014年。		
参考文献	『リハビリテーション医療入門増補版』医学書院、2007年。随時、参考プリントを配付する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	リハビリテーション概論は、医学から保健福祉・福祉・介護に至るまで幅広い分野の基礎的な理論と実践となる。		

授業科目名	地域社会と言語		
担当教員氏名(助手氏名)	友定 賢治[非常勤講師]		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって講義形式で実施する。学生は、授業に出席し、課題レポートを作成し、提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	地域共同体、生活語、つながりことば、新方言、役割語、方言の復権		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、次の3点を理解し、実例をあげて説明できるようになることを目的とする。①地域社会に暮らす人々のことばは、人々を結びつける手段であり、その地域社会の生活や文化を象徴するものであること。②現在、コミュニケーションにおける方言の役割をはどのようなことか。③現代社会における方言のすがた。		
授業の内容	地域社会の環境・人間関係などが方言で枠組みが作られ、方言は生活語そのものであることを明らかにし、方言の重要性に気づく。さらに、コミュニケーションにおいて方言がどのように機能しているかを知り、それは保健福祉学部の学生にとっては必須の認識であることを理解する。また、現代社会で方言がどのように捉えられているかを種々の資料から理解する。		
成績評価の方法	期末レポート60%、課題レポート20%、授業の取組・出席20%で評価する。課題レポートは何回か提出する。出席は毎時間確認する。		
テキスト	教科書は使わない。毎時間プリント資料を配布する。具体的な書名等は授業時に紹介する		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	生命倫理学		
担当教員氏名(助手氏名)	吉川 ひろみ, 古山 千佳子		
研究室の場所	三原キャンパス3404研究室(吉川), 3405研究室(古山)		
オフィスアワー	吉川(月曜4限), 古山(月曜10~12時)		
授業の形式・方式	対面授業と小グループでのディスカッション。授業日程に従って、ワークブックの課題を行う。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。学生は生命倫理に関連する話題について調べたり、自分の意見をまとめ、授業内で発表する。		
単位数(時間数)	1単位(30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	看護・作業必修, ほか選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師・作業療法士 国家試験受験資格にかかる必修科目		
キーワード	倫理、生命倫理、医療倫理、自律尊重、善行、危害回避、公正、インフォームド・コンセント、臓器移植、遺伝子治療、生殖操作		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	現代の保健医療福祉の分野における倫理的問題を理解するための知識を習得し、自立的に倫理的問題を分析し、とり得る行動の選択肢を考える機会を提供する。専門的実践の場で遭遇する倫理的問題を敏感に感じ取り、よりよい行動を志向する態度を育成する。		
授業の内容	生殖操作、遺伝子治療、臓器移植、終末期医療などの今日的生命倫理の問題について論じる。倫理的問題を理解するための倫理原理や理論について教授し、比較的身近な事例を通して倫理的思考を経験する。自らの価値観と他者の価値観に気づき、ディスカッションを通して自らの認識の深まりを経験する。		
成績評価の方法	参加30%, 発表30%, 試験40%の割合で評価する。		
テキスト	吉川ひろみ『保健・医療職のための生命倫理ワークブック』(三輪書店)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	新聞やテレビなど日常報道の中から生命倫理の問題に気づき、自分なりの考えを表明することを期待する。生命倫理の問題を学ぶ途上で、自分の感情と思考がどのように変化するかを意識化してほしい。		

授業科目名	チーム医療福祉演習		
担当教員氏名(助手氏名)	吉川 ひろみ ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3404研究室		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の対面授業。 講義, 小グループでの実習・ディスカッション, 発表。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	主体的学習, 討論, 学習方法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき, 学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか, 専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療のあり方を学ぶ。</p>		
授業の内容	<p>学内・現場実習終了後の学生を対象として, 学科横断的に編成するチームによって, ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め, 相互の専門性を認め, 共通の専門用語を駆使して, 患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。</p>		
成績評価の方法	出席・参加, 学習態度, 提出物を総合して評価する。		
テキスト	砂屋敷忠, 吉川ひろみ, 岡本珠代, 古山千佳子編『医療・保健専門職の倫理テキスト』(医療科学社) 2007		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>これまでの講義, 学内実験・実習, 臨床実習で学んだことを思い起こし, グループでよく議論すること。初日に手引きを配布するので, そのスケジュールに従って行動する。</p>		

授業科目名	臨床心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	木村 幸生		
研究室の場所	三原キャンパス 3410研究室 (木村)		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業、 講義形式で実施します。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	看護学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	心理学的援助 適応 認知 精神分析 心理検査 コミュニケーション カウンセリング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	臨床心理学は、人の心理的な問題をどのように対処、解決してゆけるかについて研究し、それを臨床で実践する学問です。本講義では臨床心理学的援助を体系的に学ぶための基礎となる知識を獲得し、より専門的な看護援助科目を学ぶための土台を築くことを目的としています。		
授業の内容	国家試験問題を意識した学習を通して、臨床心理学に関する基本的な考え方を、テーマに沿って紹介、解説してゆきます。また、臨床における心理学的援助の具体的内容として、発達、適応、認知、精神分析、心理検査、コミュニケーション、カウンセリング等、加工された事例を交えながらわかりやすく、患者と看護者、両者の視点から理解できるよう展開します。		
成績評価の方法	期末試験80% レポート内容10% 講義出席、参加状況10% の割合で評価します。期末試験は持ち込み不可で実施します。講義進行の妨げになる行為(私語等)に対しては、当該学生の評価に反映させるなど厳しく対応します。		
テキスト	資料を配布します。		
参考文献	参考文献は講義の中で紹介、示すこととします。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	試験においては、本学において規定された不正行為を禁止します。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応します。		

授業科目名	臨床心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	勝見 吉彰		
研究室の場所	三原キャンパス 4530研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	理学・作業・コミュ必修, ほか選択
履修要件	理学療法学科・作業療法学科・コミュニケーション障害学科・人間福祉学科1年次対象		
免許等指定科目	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	心的外傷, 思春期・青年期, 心理的援助, 精神分析, 精神力動, 心理検査		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	臨床心理学とは、心理的な問題にどのように対処するかを研究し、それを実践していく学問である。この講義では、臨床心理学的援助をより体系的に学んでいくための基礎となる知識を獲得して、より専門的な心理・対人援助科目を学ぶための土台を築いていくことを目的とする。		
授業の内容	臨床心理学に関する基本的な考え方を、様々なテーマをとりあげながら平易に解説していく。臨床心理学的援助の目標、精神発達理論、精神病理論、援助技法論等について、様々な理論的立場から検討していく。具体的には、精神力動的発達理論、心的外傷に関する理論と援助の実際、思春期・青年期の発達の様相と援助のあり方、乳児の対人世界に関する最近の知見、精神分析的な考え方を基本とする援助技法論などをとりあげていく。		
成績評価の方法	期末試験90%、講義への参加状況10%の割合で評価する。期末試験は持ち込み不可で実施する。授業進行の妨げになる行為(私語等)に対しては、当該学生の評価に反映させるなど厳しく対応する。		
テキスト	テキストは使用しない。資料を配布する。参考文献は講義中に示す。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	試験においては、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		



授業科目名	解剖学（看護特論）		
担当教員氏名(助手氏名)	津森 登志子		
研究室の場所	三原キャンパス 4523研究室		
オフィスアワー	月曜日 12:30～16:00		
授業の形式・方式	<p>対面授業で行う。使用する教科書の（必要に応じて別に準備することもある）図・写真などを提示して説明を進める。特にプリントで不十分な部分を補うことがあるので配布物に注意すること。授業中に随時質問を提示し、理解度の整理や興味を引く事柄について学生の意識を高める。短時間での説明で理解が難しい内容や、重要な事項は課題として宿題を課す。</p>		
単位数(時間数)	1単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科1年次対象		
免許等指定科目	看護師，保健師国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	肉眼解剖学、系統解剖学、組織学、発生学		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>解剖学概論で理解の不十分な項目、人体に接する上で必要となる項目、看護過程の理解と展開のためにより理解を深める必要のある項目、などについて特論的に講義する。ここで学ぶ内容は看護専門科目の理解、国家試験準備、卒業後の臨床現場などで直接要求される内容がほとんどであるので確実な理解がもとめられる。</p>		
授業の内容	<p>基本的な授業の流れは系統解剖学的内容に沿って大まかに以下のような進め方をとる。血液・心臓については血球や心臓標本の観察と関連付けて学ぶ。リンパ系は免疫の仕組みと表裏一体の考え方で捉えるように注意する。神経系を学ぶ上では中枢神経と末梢神経の相互関係を考慮し、特に感覚器・皮膚との関連に注意するとともに、自律神経系と内分泌系の学習では恒常性の維持の重要性を考える。胸腔、腹腔、骨盤臓器について学ぶ場合には、まずそれらの臓器の位置を再確認し、組織学的な知識の整理をしながら諸臓器が果たす役割について考えていく。特に生殖器系の学習とヒトの発生については相互に関連付けた理解を進める。</p>		
成績評価の方法	<p>成績評価は中間試験と期末試験の結果を基に総合的に評価する。試験は指定された教室でノート、教科書等の持ち込み不可でおこなう。</p>		
テキスト	<p>教科書：F. H. マティーン、M. J. テイモンズ、M. P. マッキンリ著、井上貴央監訳『カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで』（西村書店）2003</p>		
参考文献	<p>参考書：授業中に随時紹介する。参考となる書物やアトラスは一定程度は図書館に備えてあるので、疑問に感じた部分や更に知識を深めたいときには最適なものを自分で探索すること。</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>毎回講義の開始時に、前回の講義内容に関する小テストを行う。小テストの内容は中間試験と期末試験にも反映させる。予習と復習を必ず行ってから講義に臨むように。</p>		

授業科目名	解剖学（運動特論）		
担当教員氏名(助手氏名)	津森 登志子、加藤 洋司		
研究室の場所	三原キャンパス 4523研究室（津森） 2400研究室（加藤）		
オフィスアワー	津森：特に設けない，加藤：木曜5限		
授業の形式・方式	対面授業で行う。使用する教科書、参考書の（必要に応じて別に準備することもある）図・写真などを提示して説明を進める。模型を用いた説明をすることもあるが、講義時間中に学生が模型に触る機会は次年度の「解剖学実習」に譲る。		
単位数(時間数)	1単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科・作業療法学科1年次対象		
免許等指定科目	理学療法士、作業療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	系統解剖学、局所解剖学、外科解剖学、神経解剖学		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	解剖学概論で学ぶ知識をさらに深め発展させる。特に、体を維持し運動機能に関係が深い骨格系、筋系、神経系などについて特論的に講義する。ここで学ぶ内容を理解していることを前提にして以後の運動学、日常動作解析などの専門科目が展開されること、また国家試験準備、卒業後の臨床現場などで直接要求される事項が多いので、詳細な内容まで確実に理解を深める必要がある。		
授業の内容	講義内容は神経系（津森担当）および骨格系と筋系（加藤担当）に大きく分かれる。神経系については脳と脳神経の関係、脊髄と脊柱の関係、脊髄と脊髄神経の関係、末梢における主な脊髄神経や脳神経の走行などについて正確な理解が要求される。骨格系では個々の骨の筋肉付着部、溝や孔の意味、骨同士の連結・関節の構成と関連する可動性、主要な靭帯などについて学ぶ。筋についてはそれぞれの筋の起始部、停止部、神経支配、主な作用などについて正確な理解が求められる。また、これらのほかに内臓についても呼吸・循環系に関わる胸部臓器については神経支配や運動と関連付けて復習をする。		
成績評価の方法	成績評価は中間試験と期末試験の2回の試験結果を基本とする。試験は指定された教室でノート、教科書等の持ち込み不可でおこなう。出席は試験時の受験資格の確認に用いるが、いわゆる出席点なるものは考慮しない。		
テキスト	野村巖他著『標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第3版』，F. H. マテイーニ他著『カラー 人体解剖学 構造と機能』		
参考文献	日本人体解剖学，分担解剖学，人体解剖学，解剖学アトラスなど		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	内容的には骨、筋、神経などの名称や解剖学的な用語を覚えることが多いので、日頃から継続的に学習に取り組むことが必要である。定期試験での不正行為が発覚した場合には大学の規則に基づいた処分をおこなう。		

授業科目名	生理学（運動特論）		
担当教員氏名(助手氏名)	森 大志		
研究室の場所	三原キャンパス 4428研究室		
オフィスアワー	特に定めないが、メール等で事前に訪室希望の連絡をすることが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業。 下記授業計画に従って、関連する国家試験問題を供覧しながらテキスト（シンプル生理学と絵でみる脳と神経）を中心として中枢神経系のしくみと機能さらに障害のメカニズムについて講義する。 受講学生は講義に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科・作業療法学科1年次対象		
免許等指定科目	理学療法士・作業療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	筋肉、収縮、髄膜、脳循環、脳脊髄液循環、大脳皮質、大脳基底核、視床下部、大脳辺縁系、小脳、脊髄、脊髄反射、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、平衡感覚、筋電図、運動障害		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は前期科目「生理学概論」に引き続く科目として設定されている。特に運動に関連する中枢および末梢神経系の機能についてはより専門的な内容について概説する。受講学生は本科目を通して、人体の中枢および末梢神経系の機能の基本的な概念と基礎的内容を理解することを目標とする。これによって各学科高年次での専門科目の内容を理解するための素地を身に付けることができる。本科目は理学および作業療法学科の「専門領域の基礎となる科目」に区分されている。また理学および作業療法士の養成施設におけるカリキュラムの専門基礎分野における教育内容の一つとしての規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	本科目では、前期科目「生理学概論」で概説した中枢および末梢神経系によって発現される運動機能について、その仕組みや障害時のメカニズムをさらに深く学修する。生体は外界の変化を知覚機能によって感知し、中枢神経系で統合処理した後に運動行動を発現する。すなわち、神経系ネットワークとして機能することが外界の変化に適應するうえで重要となる。したがって、このネットワークを構築する各脳領域の機能を考察していく。脳の機能はその解剖を正確に理解するところから始まる。したがって受講生は3次元で脳をイメージできる訓練を早い時期から開始してほしい。毎回の講義最後に講義内容をどの程度理解したかを確認する小テストを実施する。		
成績評価の方法	中間・期末試験結果で評価する。 試験は指定された教室で、持ち込み不可で実施する。 中間・期末試験は指定された試験日に実施する。 授業への取り組み態度等に能動的に学修していると認められる学生に対しては、別に評価する。これらを総合して最終成績評価を行う。		
テキスト	教科書：馬場元毅 著『絵でみる 脳と神経〔第3版〕』（医学書院），木邑富久子 著『シンプル生理学（改定6版）』（南江堂）。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講者は講義テーマに関連するテキスト内容をあらかじめ精読し、各回の授業に臨むことが望ましい。本科目は前期に開講した解剖学および生理学概論の基礎的知識を必要とする。授業に関する連絡は学内ホームページ（教学ポータル）によって行う。講義を欠席する場合には、事前に連絡をすること。連絡のない欠席は最終評価に著しい影響を与える。なお試験の欠席は原則として認められないが、感染症等でやむを得ず欠席する場合でも事前連絡をし、事後に診断書などを提出すること。これらが守られない場合には、再試験を実施しないことがある。		

授業科目名	解剖生理学		
担当教員氏名(助手氏名)	森 大志, 津森 登志子, 土師 知行, 小澤 由嗣		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員に事前にメール等で訪室希望の連絡をすることが望ましい。		
授業の形式・方式	後期水曜日3限(津森, 土師)と木曜日(森, 小澤)の4限が講義時間割である。対面授業で4名の教員によるオンムニバス方式で行う。授業日程に従って, 担当教員が指定するテキスト等で講義する。受講生は授業に出席し, 試験を受けることが義務付けられる。10月15日と1月7日は月曜授業のため, 本科目講義はない。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	呼吸, 発声, 嚥下, 構音, 構語, 聴覚, 脳, 脳神経, 脊髄神経, 学習, 言語野, 発声, 発語, 言語障害, 運動障害, 聴覚, 平衡, 音声, 耳, 鼻咽腔, 喉頭, 舌, 口腔, 顎, 顔面		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は, 受講生が人体の言語や聴覚に関係する構造と機能の基本的な概念と基礎的内容を理解することである。これによって各学科の専門科目の専門的内容を理解するための素地を身に付けることができる。 本科目はコミュニケーション障害学科の「専門領域の基礎となる科目」に区分されている。また, 言語聴覚士の養成施設におけるカリキュラムの専門基礎分野における教育内容の一つであり, 本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	ヒトの高次神経活動の一つである言語聴覚機能に関わる各器官系の構造とその機能についての基本的内容を講述する。 (森)前期の生理学概論の基礎的な知識を踏まえて, 呼吸・発声・嚥下のメカニズムと中枢神経系破綻に伴う機能障害について概説する。 (津森)前期の解剖学概論の基礎的な知識を踏まえて, 更に詳細な脳および脊髄の構造と血管支配, 頭頸部に分布する脳神経および脊髄神経の走行とその支配域について学習する。 (土師)聴覚, 平衡覚, 音声, 嚥下に関与する耳鼻咽喉領域の解剖と生理機能について講義する。 (小澤)発声発語器官の成り立ちから鼻咽腔・舌口腔・顎顔面の構造とその運動制御様式について解説する。		
成績評価の方法	(森) 担当期間内に2回の試験を実施する。 (津森) 担当期間最後に試験を実施する。 (土師) 担当期間最後に試験を実施する。 (小澤) 担当期間最後に試験を実施する。 各担当教員が試験実施の詳細について説明する。 4名の担当教員の試験結果を総合して成績評価するが, 能動的に学修していると認められた学生については別に評価する。		
テキスト	馬場元毅 著『脳と神経 [第2版]』(医学書院), 木邑富久子 著『シンプル生理学 (改定6版)』(南江堂), F.Hマティニー著『カラー人体解剖学 構造と機能: ミクロからマクロまで』(西村書店)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講生は講義前に講義内容についてテキストや配布資料で確認しておくことが望ましい。講義資料の配布や諸々の連絡は学内ホームページ(教学ポータル)または授業内での連絡によって行う。講義を欠席する場合には, 事前に担当教員に連絡をすること。各担当教員の講義には3分の2以上の出席があって初めて試験を受ける資格を得る(厳守)。原則として試験の欠席は認めないが, 感染症等で欠席する場合には事前に担当教員に連絡をし, 事後に診断書を提出すること。これがない場合には再試験を実施しない場合がある。		

授業科目名	病理学		
担当教員氏名(助手氏名)	嶋本 文雄		
研究室の場所	広島キャンパス 1426研究室		
オフィスアワー	特になし。在室中はいつでも可能		
授業の形式・方式	対面授業。教科書にしたがって講義形式で実施する。必要に応じてスライド並びにプリントを用いる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科・理学療法学科・作業療法学科・コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目	看護師, 理学療法士, 作業療法士, 言語聴覚士の国家試験に関わる必修科目		
キーワード	細胞障害、変性と壊死、萎縮、代謝障害、虚血と梗塞、血栓、充血、浮腫、炎症、免疫、良性腫瘍、悪性腫瘍、増殖、転移、病理発生、病因論		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	病理総論では、細胞とその変化、循環障害、炎症、腫瘍におけるそれぞれの病理学的な概念を十分理解し、各論では、臓器特有の疾患の組織発生を知る。本科目は、専門教育科目の生体科学に区分されている。専門基礎分野の教育内容の一つとして、病態生理を学ぶ。		
授業の内容	医療における病理学のさまざまな分野の役割と、それらの分野の共通の目標である病気の成り立ちについて講義をする。特に細胞とその変化、循環障害、炎症、腫瘍について総論を学習し、循環器では動脈硬化、狭心症、心筋梗塞、心不全、ショック、呼吸器では、肺炎、肺結核症、肺性心、肺癌、消化器では、唾液腺疾患、食道炎、食道癌、慢性胃炎、胃十二指腸潰瘍、胃癌、大腸癌、肝炎、肝癌、膵炎、膵癌などの主な疾患についてその病理発生を理解し、生活習慣病の予防についても病理学的に考察する。		
成績評価の方法	成績は、期末試験で評価する。試験は、講義内容に関する論述問題を作成し試問する。		
テキスト	a. 教科書 高橋 徹 著 よくわかる病理学、金原出版 2003。		
参考文献	b. 参考書 Kumar et al 「Basic pathology」Sunders 2003.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、正常の組織、臓器の構造と生理的な働きを十分理解しておくことが病理学を理解する上で重要なことを考えて、解剖学、病理学の教科書を精読するように心がける。		

授業科目名	微生物学		
担当教員氏名(助手氏名)	加藤 洋司		
研究室の場所	三原キャンパス 2400研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	授業の形式は対面授業である。方式は授業日程に従って講義形式で行い、授業時間は90分が1回の授業となる。学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	看護必修, ほか選択
履修要件	看護学科・理学療法学科・作業療法学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	微生物, 病原微生物, 感染症, 免疫, 自然免疫、獲得(適応)免疫、体液性免疫, 細胞性免疫		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、微生物と免疫についてこれまでほとんど学習していない学生を対象にして、特に病原微生物の種類や特徴および感染症等の基本的な内容を講述する。また、近年、発展の著しい免疫学について、基本的内容を理解させることも目的とする。本科目は、保健福祉学部の専門基礎分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	私達の身のまわりには、沢山の微生物が存在している。その微生物には、ヒトに病気を起こす病原微生物とそうでない非病原微生物がある。本講義では、これら微生物を、原虫・真菌・細菌・ウイルスなどに分類した上で、生体に及ぼす影響とその対応について学習する。また、病原微生物が原因で発症する疾患(感染症)について、基礎的事項を学習する。さらに、生体防御のしくみについて、免疫学における基礎的事項にも触れる。		
成績評価の方法	中間試験、期末試験で評価する。試験は指定された教室で、自筆ノートの持ち込みの上で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。		
テキスト	教科書: 南嶋洋一・吉田真一 著『微生物学《改訂第11版》』(医学書院)2009		
参考文献	参考文献: 吉田真一・柳 雄介・吉開泰信 編集『戸田新細菌学《改訂 第33版》』(南山堂)2007中島泉・高橋忠利・吉開泰信 著『シンプル免疫学《改訂 第3版》』(南江堂)2008齋藤紀先 著『休み時間の免疫学』(講談社サイエンティフィク)2007岸本忠三・中嶋彰 著『現代免疫物語』(講談社)2009		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	微生物学の領域は広範囲にまたがっているので、1単位(30時間)で総てを学習することは困難であるが可能な限り免疫学についても紹介したい。		

授業科目名	臨床栄養学		
担当教員氏名(助手氏名)	栢下 淳, 佐野 尚美, 山縣 誉志江		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	授業の形式は対面授業である。方式は授業日程に従って講義形式で行い、授業時間は90分が1回の授業となる。宿題としてレポートを課し、次の授業時間に提出する。学生は授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	看護必修, ほか選択
履修要件	看護学科・理学療法学科・作業療法学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	栄養素, 消化, 吸収, エネルギー代謝, 基礎代謝, 栄養摂取基準, 栄養補給法, 国民栄養の現状, ライフステージの栄養, 食生活の現状, 食品添加物, 栄養評価		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	臨床栄養学はさまざまな分野を基礎にした応用科学であるが、本科目では健康と栄養の問題を考慮し、栄養素の性質、栄養素の体内での役割や働きを解明し、栄養素が生命維持や生活習慣病など疾病の発生や老化を遅らせるなどの予防にいかに関わりを持つか栄養の基礎的なことを理解することを目的とする。本科目は、当該分野の専門領域の基礎科目の一つとして位置付けられている。		
授業の内容	人間にとっての栄養の意義を理解させる。本講義では、人体の仕組み、消化、吸収、栄養素の種類、性質、食生活に応用できる栄養的意義、食事的教育、母性を基点としての乳幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期の栄養の特徴を述べ、人間の成長、健康の維持・増進、健康の破綻と栄養がどのように関連しているかを教授する。また、栄養状態の評価方法についても検討する。次いで、自己の食生活を通して現代の食生活の状況把握をするとともに、食品事情などについても概説する。		
成績評価の方法	期末試験80%、宿題レポート20%の割合で評価する。試験は指定された教室内で、持ち込み不可、授業時間(90分)内で実施する。宿題用のレポートは、A4用紙を使用し各レポートの提出期限は次回授業時間の開始時とする。		
テキスト	「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎」医歯薬出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「食は生命なり」と言われる。分かりやすく説明するので問題意識を持って受講して欲しい。試験においては、本学で規定された不正行為は禁止する。不正行為が明らかになった場合は、本学の規則に基づいて対応する。		

授業科目名	保健統計学		
担当教員氏名(助手氏名)	安武 繁		
研究室の場所	三原キャンパス 3510研究室 (安武)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面方式		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択 (保健師選択学生必修)
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	人口動態統計 疫学		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	理論だけでなく、保健医療の現場で役に立つ保健統計学の学習を目指します。		
授業の内容	人口動態統計、疫学統計		
成績評価の方法	筆記試験 (予定)		
テキスト			
参考文献	(他の科目の)「疫学」の講義で使用されているテキスト『保健統計・疫学』(南山堂)を参考文献として利用してください。講義に持参してください。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	(他の科目の)「疫学」の講義で使用されているテキスト『保健統計・疫学』(南山堂)を参考文献として利用してください。講義に持参してください。		



授業科目名	疫学		
担当教員氏名(助手氏名)	笠置 恵子, 安武 繁		
研究室の場所	三原キャンパス 3423研究室(笠置) 3510研究室(安武)		
オフィスアワー	特に指定しない(面談は要予約)		
授業の形式・方式	対面授業、演習を含む		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択(保健師選択学生必修)
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	疫学, 保健情報, データの収集・解釈 感染症の疫学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	医療現場では長年の経験の積み重ねから判断し、対応することが中心に行われてきた。しかし、現代はエビデンス・ベースド・ケアの時代といわれ、様々な情報を的確に把握、理解し、その上にとって経験則について再考し、最も的確な対処をすることが求められる。医療における様々な生の情報を自ら整理し、収集した上で、そのデータが何を意味するのかを読み下す方法論と技術が必要である。データの収集、記録、解釈など、保健分野で求められる疫学の基礎的方法について、学習する。		
授業の内容	保健学の概念, 疫学とは, 記述疫学・分析疫学・介入研究, 偏り(バイアス), 量反応関係, スクリーニング, 疫学調査資料の収集, 解釈, 疫学的研究の広がり, 感染症の疫学, 各疾患別の疫学 等		
成績評価の方法	日々の演習レポート, 中間試験, 課題レポートの達成状況, 授業への積極的参加態度等から総合的に評価する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	国試(保健師)の際, 困らないように日々の授業・演習で知識の定着を図ること。		

授業科目名	脳機能画像学		
担当教員氏名(助手氏名)	大西 英雄		
研究室の場所	三原キャンパス 3413研究室		
オフィスアワー	前期：木曜日の3限目、後期：火曜日の3限目		
授業の形式・方式	対面授業方式で行う。授業日程に従って、資料にもとに講義する。画像のフィルムリーディングなども積極的に取り入れる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	X線画像解剖学、脳血流、MR画像、fMR画像、CT画像、PET画像、SPECT画像、脳機能画像、統計的脳機能画像解析、脳血流定量、脳機能画像診断		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	人の病態における臨床所見を見る場合に、その所見の根拠となる証明をする必要がある。症状から推測するだけでなく、その症状に対する根拠を探る最も良い手段として画像所見がある。特に脳機能所見における画像所見を学ぶ。特に、放射線画像であるCT画像、MR画像、脳機能画像、SPECT及びPET画像の臨床画像での脳機能所見の知識を幅広く学び、臨床症状と画像所見との整合性を理解する。		
授業の内容	一般に用いられる脳神経領域における放射線画像の原理や特徴を講義する。特にSPECT(単光子断層画像)やPET(陽電子断層画像)などの機能画像の特徴を理解し、脳機能の画像化による神経支配領域の理解を深め、CTやMR画像による形態画像と機能画像との融合画像から解剖学的位置と機能的評価も併せて解説する。また、fMR画像(脳機能画像)と光トポグラフィを用いた脳機能画像の特徴とその有用性などを、DVDや動画などを交えて学習する		
成績評価の方法	成績評価は、およそ試験が80%、課題レポート10%、出席及び出席態度10%の割合で評価します。理解度などにより、途中の中間地点で、中間試験なるものも評価の対象とする場合もある。		
テキスト	テキストは特に指定しない。別途資料を配布する。また、参考文献等については授業の進行に応じて適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、「解剖生理学」の脳神経などを再度精読し、各回の授業に望むこと。		

授業科目名	福祉支援工学		
担当教員氏名(助手氏名)	川原田 淳		
研究室の場所	三原キャンパス 4424研究室 (4号館4階)		
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に時間帯を定めない。</li> <li>・可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。</li> </ul>		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業とする。</li> <li>・授業日程に従って講義形式で実施する。</li> <li>・毎回の授業毎にレポート課題または小テストを課す。</li> <li>・受講者は、授業への参加、小テスト・期末試験の受験が義務付けられる。※成績評価の方法も参照してください。</li> </ul>		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	作業必修, ほか選択
履修要件	理学療法学科・作業療法学科・コミュニケーション障害学科・人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	生体医工学, 福祉工学, 生体計測, 生活支援技術, ライフサポート, 健康支援技術, 人工臓器, 生体機能代行装置		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・超高齢・少子社会に突入した現在, 医学や福祉支援分野に対し積極的な工学技術の導入をはかる「ライフサポートテクノロジー」が有望視されており, 保健・医療・福祉の分野において利用されている工学技術に注目することは非常に重要である。</li> <li>・本科目の受講者は, この点を念頭におき, その現状と応用分野における理解を深めることを目標とする。</li> <li>・特に機能低下や代替が必要となった生体臓器に対する究極的な工学技術のサポートである人工臓器について, 種々の臓器に対する各種人工臓器に目を向け, 医工融合の具体例についての詳細な内容を十分に理解することを目指す。</li> <li>・なお本科目は, 理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科, 人間福祉学科を対象とした専門領域理解の基礎となる科目に区分されている。</li> </ul>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・福祉の分野において, 工学技術の果たす役割はこれまでも増して大きくなりつつあり, これを利用した数多くの生活支援技術・機器が開発されている。</li> <li>・本科目では, 医用・福祉工学の立場から, 在宅計測技術, 情報通信技術とその運用, 介助・介護支援技術, 機能回復・健康増進の支援技術, 今後期待される高度技術(特に人工臓器)などについて多角的な側面から概説を行い, 福祉支援機器やその利用技術について解説する。</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験の成績により評価を行うが, 必要に応じて授業参加(出席状況と授業への取り組み態度)の程度を評価対象に加える。</li> <li>・期末試験は, 指定された試験の日時に, 指定された教室(試験室)内で, ノート, 参考書, PC, 電卓などの持ち込み不可で実施する。</li> <li>・小テストの結果は, 期末試験の受験資格を得るための判断基準とし, 小テストの成績が一定の基準に達していない場合, 期末試験を受験するための条件として, 試験前に別途レポート課題を科すことがある。</li> <li>・なお, 小テストは毎回(第3回以降)の授業毎に実施する。</li> </ul>		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト(教科書)は特に指定しない。</li> <li>・別途資料をシラバス情報の添付ファイルまたは他の方法によって提示する。</li> </ul>		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下記の他, 授業の進行に応じて適宜紹介する。</li> <li>・嶋津秀昭, 他『医用工学概論』コロナ社, 2007年</li> <li>・山口昌樹, 他『人間科学と福祉工学』コロナ社, 2007年</li> </ul>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・福祉の分野において利用されている工学技術を理解する上で, 福祉支援工学は重要な科目です。</li> <li>・予習・復習も非常に大切ですが, 授業中に疑問を生じた場合はそのままとせず, 積極的に質問を行うなど, なるべくその場で解決するようにしてください。</li> </ul>		

授業科目名	カウンセリング論		
担当教員氏名(助手氏名)	勝見 吉彰		
研究室の場所	三原キャンパス 4530研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式で行なうが、受講者数に応じてロールプレイ等の実習を行なう場合がある。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	コミュ必修, ほか選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	カウンセリング 精神分析 遊戯療法 芸術療法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	相手の訴えに耳を傾け理解していくという対人援助に携わる者にとって欠かせない姿勢を身につけるために、カウンセリングの基本的な考え方を学習することを目標とする。カウンセリングの理論を学習する入門的な科目として位置づけられる。		
授業の内容	対人援助に従事するものに必要とされるカウンセリング的な姿勢の基本について、様々なカウンセリング理論をとりあげながら解説していく。具体的には、ロジャース派の考え方とその基本姿勢、精神分析の各学派の考え方、日本独自の心理療法である内観療法や森田療法などをとりあげる。また、子どもをその援助対象とした遊戯療法、絵画などを用いる芸術療法、自律訓練法、イメージを用いた技法などについても解説を加える。		
成績評価の方法	期末試験90%、講義への参加状況10%の割合で評価する。期末試験は持ち込み不可で実施する。授業進行の妨げになる行為(私語等)に対しては、当該学生の評価に反映させるなど厳しく対応する。		
テキスト	テキストは使用しない。資料を配布する。講義の中で参考文献を示す。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	試験においては、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	薬理学		
担当教員氏名(助手氏名)	兒玉 安史【非常勤講師】		
研究室の場所	広島国際大学薬学部		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。教科書の内容に従ってスライドを使用した講義形式で実施する。講義で使用するスライドの内容は資料として配布する。各回の講義内容についての確認問題を毎回配布する。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	看護必修, ほか選択
履修要件	看護学科・理学療法学科・作業療法学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	薬物治療、薬の作用・副作用、薬の体内動態、薬物相互作用、循環器作用薬、抗炎症薬、免疫抑制薬、抗感染症薬、抗腫瘍薬、血液作用薬、消化器作用薬、呼吸器作用薬、神経系作用薬、代謝障害治療薬		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、看護学科のカリキュラムの「専門領域理解の基礎となる科目」における主要な科目の一つとして位置付けられている。薬理学に関する基礎知識を学習した上で、実際の薬物治療に対処し得る能力を培うことを目的とし、各疾患の治療における基礎的薬物および繁用される薬物の効果発現の理論を学習し、薬物治療を科学的に理解する。		
授業の内容	<p>◆&lt;第1回～第2回：薬理学総論&gt; 総論では、「薬の効き方」、「体内での薬の運命」、「薬の有害作用」、「薬の管理」などについて概説する。</p> <p>◆&lt;第3回～第8回：薬理学各論&gt; 各論では、次に示す主要な疾患に対する薬の作用機序について図説を中心に解説する。循環器系作用薬（狭心症治療薬、心不全治療薬、高血圧治療薬など）、抗炎症薬、免疫抑制薬、抗感染症薬、抗腫瘍薬、血液作用薬（抗血栓薬、貧血治療薬など）、消化器系作用薬（消化性潰瘍治療薬、止瀉薬、下剤など）、呼吸器系作用薬（鎮咳・去痰薬、気管支ぜん息治療薬など）、抗アレルギー薬、中枢神経系作用薬（催眠薬、抗てんかん薬、抗うつ薬、中枢性鎮痛薬など）、物質代謝作用薬（糖尿病治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬、骨粗鬆症治療薬など）</p>		
成績評価の方法	成績評価は、出席状況および受講態度（10%）、期末試験（90%）の割合で評価する。		
テキスト	教科書：「中原保裕著『薬のはたらきを知る やさしい薬理のメカニズム《改訂版》』（学研メディカル秀潤社）2011」		
参考文献	参考文献：特に指定しない。随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	解剖学、生理学、微生物学、病理学など基礎医学系科目と関連があることを念頭に受講してください。薬物治療においては、医師・看護師・薬剤師の三者の連携が重要です。なかでも、看護師は患者と接する機会が最も多く、薬物治療を受けている患者の回復に果たす役割は大きいと思いますので、この講義で薬物治療への理解をしっかりと深めてください。		

授業科目名	<b>運動学実習</b>		
担当教員氏名(助手氏名)	金井 秀作, 武本 秀徳, 積山 和加子, 高宮 尚美, 金指 美帆		
研究室の場所	三原キャンパス 4421研究室(金井), 2320(武本・積山・高宮・金指)		
オフィスアワー	毎週水曜日 12時から13時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業および実習形式で行う。各実験内容によって使用する教室が異なる(運動学実習室, 運動療法実習室, 物理療法実習室, 運動療法学研究室, 人体動態研究室)ので注意すること。学生は授業および実習に出席し, レポート課題を提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	運動学, 運動力学, 運動生理学, 身体動作学, 運動分析, 動作分析		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	身体の基本動作を運動学的に分析・説明できるようになることを目標とする。また, この授業で学んだことは以後学習する理学療法の治療学・評価学の基盤となるものである。		
授業の内容	運動学で学んだ身体運動に関する基礎知識を基にして人間の運動の分析を実習する。様々な姿勢, 動作を運動学・運動力学的に分析するため, 動画解析, 表面筋電図, 代謝計測, 重心動揺計, 筋力測定などを用いて実習させる。実習はグループに分かれて行い, 仮説, 方法, 結果, 考察までの一連の研究手法に従って進めレポートにまとめる。		
成績評価の方法	実習終了後に課すレポートの内容により評価する。レポートの課題は実習内容に合わせて5つ与え, 配点は $20 \times 5 = 100$ の予定である。なお, 原則としてレポートの提出は該当する実習にすべて出席した者のみ認める。		
テキスト	教科書: 中村隆一・他著「基礎運動学 第6版」(医歯薬出版)		
参考文献	参考書: 内山靖・他著「計測法入門-計り方, 計る意味」(協同医書出版)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	解剖学・生理学・運動学に関する基礎知識が必要な科目であるため復習を心がけること。また, 使用する機器は高価なものが多いため取り扱いには十分気を付け, 指導教員の指示を必ず守ること。なお, 実習時には動き易い服装に着替えること。		

授業科目名	運動学実習		
担当教員氏名(助手氏名)	小池好久		
研究室の場所	三原キャンパス2506研究室		
オフィスアワー	水曜日5時限		
授業の形式・方式	実習形式		
単位数(時間数)	1単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科2年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	姿勢・歩行、運動学習、運動処方、動作介助、吸引、上肢・下肢・顔面・体幹の運動、筋収縮、呼吸		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	実生活における運動機能について理解する。		
授業の内容	実生活において、運動学は独立した学問としてではなく、解剖学・生理学等様々な学問の統合のもとに成り立っている。そのため運動学実習の講義の中では、様々な視点からの運動のシステムを理解できるように教授する。		
成績評価の方法	参加態度、出席率、課題の内容等を総合的に評価する。		
テキスト	講義に用いる資料は、講義前に適宜配布		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	一般臨床医学		
担当教員氏名(助手氏名)	沖 貞明		
研究室の場所	三原キャンパス 3523研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日昼休み, 場所は研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	授業日程に従って, 対面授業で講義を実施します。講義の受講にあたり, 事前配布資料や参考図書および文献を読んでおくことが授業の理解を深める上で有効です。必要に応じてレポート課題を課し, 指定した日に提出させることがあります。学生は授業に出席し, 試験を受けることが義務付けられます。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	理学・作業必修, ほか選択
履修要件	看護学科・理学療法学科・作業療法学科・コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士・作業療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	一般医療, プライマリケア, リハビリテーション, 在宅ケア		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	一般医療やプライマリケア, また障害患者と接するリハビリテーションや在宅ケアの現場でよく遭遇する疾患についての初歩的医学的知識を学習します。理学療法学科と作業療法学科の学生が, 臨床実習で困らない程度の知識を習得する事を目標とします。		
授業の内容	一般臨床医学では, 臨床医学全般を概観した上で, 臨床検査や画像診断などの診断学と薬物療法や外科的治療, 麻酔, 救急医療といった治療学の基本について教授します。また, リハビリテーションと関連の深い臨床的分野についても, 基礎的事項を教授します。		
成績評価の方法	第1～15回の講義の最初に行う小テストと定期試験の試験結果で評価します。試験は指定された教室で, プリント, ノート, 教科書等の持ち込み不可で行います。出席は, 試験時の受験資格の確認に用いますが, いわゆる出席点なるものは考慮しません。		
テキスト	テキスト: なし。プリントを配布します。		
参考文献	参考文献: 内科学, 外科学, 整形外科などの臨床医学各科の教科書を必要に応じて参照することにより理解が深まります。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	プリントを中心に授業を進めます。プリントに自ら書き込むことで理解が深まるので, 授業中にしっかり書き込む事が重要です。参考となるビデオも使用します。小テストの試験範囲は, 原則として前回までの講義の内容に関するものとしますので, 毎回しっかり復習してください。		



授業科目名	老年医学		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 俊英		
研究室の場所	三原キャンパス 3524研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日・金曜日12時から13時, 場所は教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。あらかじめ与えられた課題について発表する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	看護・理学・作業 (必修) コミュ・人間福祉 (選択)
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師, 理学療法士, 作業療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	老化, 加齢に伴う生理機能の変化, 老年病 (特徴と対応), 血管・呼吸器・消化器・脳・神経・目・耳などの感覚器・皮膚・筋肉・骨・腎・泌尿・生殖器・代謝・内分泌・免疫・造血器系の老化とその病気, 治療と予防, リハビリテーション, 老年者に対する社会的な対応		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目は, 「専門領域理解の基礎となる科目」の一つとして位置付けられている。今日, 医療や福祉を受けられる患者さんの多くは高齢者であるため, 正常高齢者や高齢患者さんに対する対応の仕方を学ぶ。高齢者を対象とした医療は単に身体面での対応に追われるだけでは不十分であり, 高齢者を取り巻く社会的環境や経済的状況も考慮に入れる必要がある。さらに, 高齢者はその時点に至るまでに, 数々の経験や物語を背負っているため, その経験や物語を配慮できる能力・態度を学習する。</p>		
授業の内容	<p>加齢に伴って人のからだは種々の変化をもたらし, 時には機能障害をきたす。老年期の生理的ならびに病態生理的な機能変化のしくみとからくりを患者さんの話から汲み取る。また, 身体に現れる症状, 血液や尿あるいは臓器の画像に現れる生体機能の変化や検査成績について学習する。さらに, 治療に伴う病態生理の変化や社会環境との相互関連について, 症例を検討しながら, 医学的知識を吸収させる。それにより, 老年期の特徴や高齢者に対する対応の仕方を系統的に教授する。</p>		
成績評価の方法	出席, 課題の発表, レポート, 授業への参加, 期末試験の結果により総合的に評価する。		
テキスト	テキスト: 中村重信・三森康世著「老年医学への招待」(南山堂)2010		
参考文献	参考文献: 小澤 勲著『痴呆を生きるということ』(岩波新書)2003、社団法人日本老年医学会編『老年医学テキスト《改訂第3版》』(Medical View 社)2008		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	学生諸君も, 現在は若さを享受しているが, 必ず老化することを肝に銘じて, 自分の将来計画を立てる上で, この講義を活用されることを望む。「少年老いや早く, 学成り難し。一寸の光陰(時間)軽んずべからず」		

授業科目名	神経内科学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 俊英		
研究室の場所	三原キャンパス 3524研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日・金曜日 12時から13時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面討論形式。あらかじめテーマとして与えられた疾患の症例を報告して討議する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科，作業療法学科の2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士・作業療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	神経症候学，神経内科疾患，症例報告		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	脳・神経・筋疾患の各論について学ぶ。脳・神経・筋の機能障害は様々な原因によるがその多様性について学び，それに対応する評価，検査，診断を基盤とする治療学についても学ぶ。		
授業の内容	脳神経機能局在についての症候学を基盤として基本的な脳・神経・筋疾患において具体的な症例をイメージすることで疾患の病態，神経症候，診断，治療を理解することを促し，症例の問題点の把握や考察法，報告形式も修得する。疾患には脳血管障害，髄膜脳炎，神経変性疾患など代表的な疾患を取り上げ病態，診断，治療，予後について症例報告形式で教授する。		
成績評価の方法	出席，症例報告の発表・討論の評価，レポート，最終試験		
テキスト	テキスト：古川哲雄、三笥博著『臨床神経内科学《第2版》』（医学評論社）2007		
参考文献	参考文献：江藤文夫、飯島節編『神経内科学テキスト《改訂第3版》』（南江堂）2011、岩田誠、岩田淳訳『簡要神経学《第4版》』（MEDSI）2006、平山恵造著『臨床神経内科学《第5版》』（南山堂）2006		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	発表，討論を通じて全員が積極的に授業に参加する。神経解剖学，神経生理学，神経症候学，内科学の基本的な知識が必要である。		

授業科目名	精神医学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	藤巻 康一郎		
研究室の場所	三原キャンパス 4427研究室		
オフィスアワー	講義時に連絡。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	授業日程に従って、主に講義形式にて実施する。課題発表時には、学生が課題について調査・検討した結果を発表して議論する形式にて実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	作業必修, 人間福祉選択必修
履修要件	作業療法学科・人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	精神疾患, 精神療法, 社会復帰活動		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、おもに精神障害患者の治療に用いられる身体療法, 精神療法, リハビリテーション, 社会復帰活動について教授する。個々の治療法の適応や具体的施行方法を理解することを目標とする。		
授業の内容	精神障害患者の治療に用いられる身体療法, 精神療法, リハビリテーション, 社会復帰活動について教授する。身体療法では、薬物療法を中心にその薬理機序や副作用について考察する。力動的療法領域では、力動精神医学の概念, 人格の発達理論, 症状や疾病の力動的理解, 集団力動, 治療病理などを教授する。その他の精神療法の領域では、行動療法や森田療法等の理論や方法を教授する。リハビリテーションや社会復帰については、方法論, 制度, 精神保健福祉法を中心とした法制度について教授する。		
成績評価の方法	筆記試験結果, 出席状況(出席時の態様も含む), 課題発表評価により総合的に評価する。		
テキスト	適宜資料を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、教学課の掲示または授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	小児科学		
担当教員氏名(助手氏名)	林 優子		
研究室の場所	三原キャンパス 2502研究室		
オフィスアワー	月曜5限		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。講義には、教科書以外に必要なに応じて資料を配布する。必要に応じて各講義内容に関連するスライドによる説明やビデオ視聴も行う。各講義終了時に関連した設問についてレポートを提出しさらに理解を深める。レポートを提出することが出席確認の条件となる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	看護・理学・作業・コミュ必修, ほか選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	障害原因(出生前、周産期、出生後)、乳幼児健診、リハビリテーション、神経疾患(脳性麻痺、発達障害、てんかん、児童虐待)、小児疾患(感染症、成長障害、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、悪性腫瘍、アレルギー疾患)		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	小児科学の目的は、小児が心身両面にわたって適切な理解と支援をうけて成長・発達するために、医療分野のスペシャリストとして基礎的な知識を学ぶことである。小児の正常な発育・発達を具体的にイメージし、小児が罹患する可能性の高い疾病を正確に理解できることが目標となる。そのために、医療・リハビリテーションで取り扱う小児の疾病の診断、予防および治療を病態から深く理解する。また、発育・発達のための栄養管理や発達促進、精神衛生などの小児保健学的な内容も加えて学習する。		
授業の内容	1年次に人間発達学を受講して、子どもの発達過程や発達課題について基本的に理解していることを前提とした講義内容である。その上で、発達障害や小児に特徴的な疾病の原因、発育・発達への影響、治療および予防を病態生理と関連させて学習する。実習や就業時において実践的に役立つ小児科の知識を身につける。具体的には、一般社会で頻度が高い感染症やアレルギーなどの代表的な小児疾患の原因、病態、診断および治療について学習する。また、入院やリハビリテーション領域で継続的な治療が必要である発達障害や慢性疾患、およびその合併症として注意が必要な疾患については、臨床的に有益で実践的に応用できるよう詳細に学習する。		
成績評価の方法	期末試験の結果(70%)と授業出席時提出の出席票(30%)で評価する。試験は指定された教室内で、教科書、資料、ノートを持ち込みは可能である。期末試験は、指定された試験日に指定時間(60分)内で実施する。		
テキスト	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 小児科学第4版 富田豊 医学書院		
参考文献	一目でわかる小児科学第2版 五十嵐隆監訳 メディカルサイエンスインターナショナル 重症心身障害療育マニュアル第2版 江草安彦監修 医歯薬出版 <+9784263234617+>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	講義内容を参考にして、子どもの発達や健康・疾患に関するテレビ番組、メディア記事、書籍などに興味を持ち、各自が知識や理解を深めていくために努力をすること。		

授業科目名	整形外科学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	沖 貞明		
研究室の場所	三原キャンパス 3523研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日昼休み、場所は研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	授業日程に従って、対面授業で講義を実施します。講義の受講にあたり、事前配布資料や参考図書および文献を読んでおくことが授業の理解を深める上で有効です。必要に応じてレポート課題を課し、指定した日に提出させることがあります。学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられます。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	理学・作業必修, 看護選択
履修要件	看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験・作業療法士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	整形外科 骨 関節 筋 診断 治療		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	臨床現場に直結する医学的事項のうち、整形外科に関する分野を教授します。この講義を通して、専門領域特有の科目を理解するための基礎となる部分を学びます。最終的には、理学療法学科と作業療法学科の学生が、臨床実習で困らない程度の知識を習得する事を目標とします。		
授業の内容	整形外科学とは、身体の運動器に関する臨床医学です。近年、その対象が拡大するとともに、各分野が細分化し、発展してきています。整形外科学IIでは、その専門分化している整形外科学の各論を、上肢、下肢、脊柱にわけて体系化してまとめていきます。		
成績評価の方法	第1～15回の講義の最初に行う小テストと定期試験の試験結果で評価します。試験は指定された教室で、プリント、ノート、教科書等の持ち込み不可で行います。出席は、試験時の受験資格の確認に用いますが、いわゆる出席点なるものは考慮しません。		
テキスト	テキスト：標準整形外科学（医学書院）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	プリントを中心に授業を進めます。プリントに自ら書き込むことで理解が深まるので、授業中にしっかり書き込む事が重要です。参考となるビデオも使用します。小テストの試験範囲は、原則として前回までの講義の内容に関するものとしますので、毎回しっかり復習してください。		

授業科目名	形成外科学		
担当教員氏名(助手氏名)	横田 和典 [非常勤講師]・宮本 純平 [非常勤講師]		
研究室の場所	広島大学病院 形成外科		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業 スライドやビデオ使用		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	コミュ必修, ほか選択
履修要件	理学療法学科・コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格にかかわる科目 (必修)		
キーワード	唇裂・口蓋裂, 口蓋裂言語, 外表先天異常, 創傷治癒, 顔面外傷, 顎顔面外科, 熱傷, 皮膚腫瘍・母斑・血管腫, 褥瘡・皮膚潰瘍, 乳房再建, 抗加齢医療, 美容外科		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>◆ 形成外科は, 専門領域理解の基礎となる臨床科目であり, 特に言語聴覚士の養成施設指定規則に定める教育内容では, 「専門基礎分野」のうち「臨床医学」の一つとして, その臨床範囲や位置付けを理解する。</p> <p>◆ 形成外科は体表外科であり, 変形や欠損, 色調異常を改善する治療により, 患者の社会参加や人間関係などコミュニケーションの回復に寄与する臨床医学の一領域であることを理解する。</p>		
授業の内容	<p>形成外科は, 形成再建外科と形成美容外科を含む外科の一分野で, “体表外科”ともいえる。体表の変形や欠損, 色調異常などを手術やレーザーにより治療を進めている。形成外科の講義では, 言語を中心としたコミュニケーション障害と関連する口蓋裂言語など, 以下の種々の治療につき概説する。</p> <p>1. 創傷治癒 2. 褥瘡・難治性潰瘍 3. 顔面外傷 4. 唇裂・口蓋裂 5. 口蓋裂言語 6. 熱傷 7. 皮膚腫瘍・母斑・血管腫 8. 抗加齢医療</p>		
成績評価の方法	筆記試験により評価する。なお, 試験については, まとめて別日程で実施する予定。		
テキスト	テキスト: 『標準形成外科学』第6版 (医学書院)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	形成外科の診療範囲, 患者心理および各論 (創傷治癒, 褥瘡・難治性潰瘍, 顔面外傷, 唇裂・口蓋裂, 口蓋裂言語, 熱傷, 皮膚腫瘍・母斑・血管腫, 抗加齢医療) で実際の診断, 治療計画, 手術などの治療手段, 補助的療法などの理解を深めてもらう。		

授業科目名	歯科口腔外科学		
担当教員氏名(助手氏名)	林堂 安貴		
研究室の場所	広島大学病院顎・口腔外科		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。 スライド、プリント等の資料を使用した講義を行う。口腔領域に発症する疾患は、直接観察できるものが多いことから、スライドを多用し、視覚的に理解することに重点を置く。また、歯科口腔外科特有の医療器具を講義に持参し、学生が器具に触れる機会を設ける。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	コミュ必修, ほか選択
履修要件	理学療法学科・作業療法学科・コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格にかかわる科目(必修)		
キーワード	口腔・顎・顔面の解剖と機能, 歯・歯周組織の異常と疾患, 口腔領域の炎症・粘膜疾患・腫瘍・先天異常・神経疾患, 顎関節疾患, 唾液腺疾患		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、「専門領域理解の基礎となる科目」として位置付けられており、特に言語聴覚士の養成施設指定規則に定める教育内容においては、「専門基礎分野」のうち、「臨床歯科医学」として位置付けられている。		
授業の内容	本講義では、言語障害との関連性に留意しつつ、歯科学と口腔外科学を教授する。具体的には、歯の構造と発生、咀嚼、嚥下、舌運動、義歯、顎補綴、発音補助装置、歯列不正と発音などについて解説する。また、口腔、顎顔面領域の先天異常、疾患について述べ、口腔内診査の実際、手術の適応、手術時期、手術技法などについての基礎的知識を教授する。		
成績評価の方法	筆記試験により、講義内容の理解度を評価する。また、必要に応じ講義に関連したテーマのレポート提出を求める。		
テキスト	テキスト：青木春恵著『系統看護学講座 専門18 成人看護学(14) 歯・口腔疾患患者の看護』(医学書院)		
参考文献	参考文献：A. R. Ten Cate 著 川崎堅三 翻訳『Ten Cate 口腔組織学 改訂第3版』(医歯薬出版) 宮崎正編『口腔外科学 改訂第2版』(医歯薬出版) 宮崎正 編『口蓋裂 その基礎と臨床』(医歯薬出版) 西山茂夫 著『口腔粘膜疾患カラーアトラス』(文光堂) 長坂信夫, 野村美保子 編『歯科看護』(ヒューマンティワイ) 夏目長門編『言語聴覚氏のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科』(医学書院) 2006		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	歯科口腔外科は、歯・顎口腔領域の疾患の診察と治療を行う医療であるため、歯学及び医学的な知識と技術を必要とする。講義では、気道の門戸であり、消化器の一部でもある口腔が持つ種々の機能を理解した上で、顎・口腔領域に発症する疾患とその治療に対する基礎知識を習得してもらいたい。		

授業科目名	医療安全学		
担当教員氏名(助手氏名)	安武 繁、沖 貞明、土師 知行		
研究室の場所	三原キャンパス 3510研究室(安武), 3523研究室(沖), 4425研究室(土師)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面方式		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	看護・理学・作業必修, コミュニ選択
履修要件	看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師、理学療法士、作業療法士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	院内感染防止、標準予防策、医療安全確保のための方策		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	院内感染防止、標準予防策、医療安全確保のための方策について理解し、実践に結びつくようにする。		
授業の内容	施設内感染予防対策、医療安全確保のための方策など		
成績評価の方法	筆記試験など(予定)		
テキスト	安武が行う講義では、テキスト『保健所研修ノート, 医歯薬出版、安武 繁 著』を使用します。このテキストは、安武が行う他の講義でも使用しています。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			



授業科目名	救急医療		
担当教員氏名(助手氏名)	植田 秀雄[非常勤講師]		
研究室の場所	医療法人仁康会 本郷中央病院		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。スライド、動画を使用する。心肺蘇生人形による心肺蘇生法実習も行う。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	看護学科・理学療法学科・作業療法学科・コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	救急医療システム, 緊急度と重症度, 救急処置, 心肺蘇生法, 災害医療とトリアージ, 外傷総論, 血液ガス分析(アストラップ)の読み方, 心肺蘇生法実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は, 「専門領域理解の基礎となる科目」として位置づけられている。		
授業の内容	実地医療での救急体制は, 社会問題としてますます重要となってきた。救急医療の知識は, 医療人として活躍するにぎり, 習得する必要がある。医療現場で患者の容体急変に遭遇した場合, 正しく対応できる事は医療人として必須である。社会において役立つ理論と実際について, そのエッセンスを教授する。		
成績評価の方法	課題レポートの達成状況を中心に評価する。		
テキスト	教科書は, 特に指定しない。		
参考文献	参考文献については, 講義中に指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	福祉住環境論		
担当教員氏名(助手氏名)	吉田 倫子		
研究室の場所	三原キャンパス 3518研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。講義資料は別途、配布あるいはパソコン等を用いて表示します。一部、ワークショップなど参加型講義も実施します。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	作業療法・人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	無し		
キーワード	バリアフリー、自立支援、在宅福祉、人と道具と空間、住まい、まちづくり		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	高齢者、こども、そして障害のある人が自立し、その人らしい活動をするために必要な住環境の課題や条件等について学び、生活者の立場に立った住環境の提案ができる能力を養います。生活者の生活空間の改善が実は重要であるということを理解し、人だけに目を向けるのではなく、周りの環境にも関心を持つ福祉の専門家を育てることを目標とします。		
授業の内容	ノーマライゼーションとバリアフリー概念に基づき、人々の福祉実現のために必要な、住居およびその周辺環境(住環境)の条件について、障害による能力低下を踏まえた、人の動作や行動と空間の関係から考察します。また、今日の住居・居住地の福祉的観点から見た現状認識、課題の把握を踏まえて、住居計画および居住地計画的観点から福祉的住環境の計画技法を習得するとともに、居住型福祉施設の「住まい」という観点から見た現状と課題について把握し、その改善方向について事例検討を通して習得します。		
成績評価の方法	授業への参加態度(40%)、試験テスト(60%)にて評価をします。		
テキスト	テキスト：使用せず、適宜資料を配布します。参考図書：授業で紹介します。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	福祉住環境コーディネーターの取得に役立つ建築的な知識を身に着けることができます。前期に開講する生活環境科学と合わせて履修することをお勧めします。		

授業科目名	医療画像学		
担当教員氏名(助手氏名)	飯田 忠行		
研究室の場所	三原キャンパス 2520研究室		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。		
授業の形式・方式	スライドとプリントを使って対面方式で授業を進める。施設見学も行う予定であるが、受講人数によっては時間外になることもある。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	理学必修, 作業選択
履修要件	理学療法学科, 作業療法学科 3年次生対象		
免許等指定科目			
キーワード	医療画像, 画像情報, 画像検査, 画像検査モダリティ, X線画像, X線CT画像, MR画像, 超音波画像, 核医学画像, アーチファクト		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】</p> <p>(知識)・医療で使われる画像を観察するときの基本的な注意事項がわかる。  ・様々な画像検査法とその画像について特徴を簡潔に説明できる。</p> <p>(技能)・いろいろなモダリティの画像について, 組織と画像信号の関係がわかる。  ・代表的な疾患について, 典型的な画像を観てどの疾患かわかる。</p> <p>(態度)・いろいろな疾患の画像を用いてグループワークを行い、人間関係を深めると同時に疾患および画像の理解を深める。</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】</p> <p>臨床実習で対象者の状態を知るために画像を観察する際の準備をする。</p>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療で使われている画像を観察するときの注意事項を学ぶ。</li> <li>・X線画像の特徴と観察の仕方を学ぶ。</li> <li>・X線CT画像の特徴と観察の仕方を学ぶ。</li> <li>・MR画像の特徴と観察の仕方を学ぶ。</li> <li>・超音波画像の特徴と観察の仕方を学ぶ。</li> <li>・核医学画像の特徴と観察の仕方を学ぶ。</li> <li>・中枢神経系疾患の画像を観察する。</li> <li>・骨・関節系疾患の画像を観察する。</li> <li>・放射線被曝について学ぶ。</li> </ul>		
成績評価の方法	試験の成績で評価する。試験は、配付資料・参考書・ノートなどの持ち込み不可とする。		
テキスト	教科書：指定しない。プリントを配付する。		
参考文献	参考書：宗近宏次監修：看護師 画像検査フルコース, メジカルビュー, 2004		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	画像を観察することに興味をもてるようになることを期待する。		

授業科目名	看護理論と実践		
担当教員氏名(助手氏名)	折山 早苗、三宅 由希子、池田 ひろみ		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時（要予約）		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義と学習したいいくつかの理論に沿った事例展開をグループワーク、個人ワークで行い、発表を組み入れる。		
単位数(時間数)	2単位（45時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科1年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	看護理論、看護過程、看護診断、ケーススタディ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	看護理論について理解し、いくつかの広範囲理論である看護理論を、看護過程/看護診断と照合し、看護実践に応用展開（ケース・スタディ）する能力を養う。		
授業の内容	1. 看護理論の構成要素、看護理論の記述、看護理論の範囲（広範囲・中範囲・小範囲）について説明できる。 2. 看護過程の2種類の考え方が説明できる。①治療的かかわり/相互作用論/ケアリング ②看護過程/看護診断3. NANDAの共通用語に基づく看護診断名と共同問題ラベルを用い、看護過程の展開（アセスメント・看護診断・計画・実施・評価）について説明できる。 4. 学習した代表的な理論（ヘンダーソン・ロイなど）を用いて事例展開できる。		
成績評価の方法	講義への出席状況、小テスト、記録		
テキスト	テキスト：1. Heather A. Andrews, Sister Callista Roy 松木光子監訳『ロイ適応看護理論入門』、医学書院 2. Lynda Juall Carpenito-Moyet 新道幸恵監訳『看護診断ハンドブック』、医学書院 3. Virginia Henderson 湯慎ます・小玉香津子訳『看護の基本となるもの』、日本看護協会出版会（【看護学概論使用テキスト】）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	講義・演習に際しては、テキストを精読して臨むこと。さらに演習においては文献等で予習し準備し、能動的にグループワークに参加すること。		

授業科目名	日常生活援助方法論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	折山 早苗, 青井 聡美, 吉田 なよこ, 池田 ひろみ, 三宅 由希子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、各单元ごとに講義と看護技術演習の形式で実施する。演習は、学生同士が患者役、看護師役を演じ、その関係性の中で看護技術の方法を実際に体得する。演習には提出期日を指定し、毎回レポート課題を課す。学生は、授業に出席し、課題レポートの作成、試験(筆記・技術)を受けることが義務づけられる。单元によって担当教員はオムニバスである。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科1年次対象(「日常生活援助方法論Ⅰ」を履修していることが望ましい。)		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	発熱時の看護、清潔、衣生活、寝衣交換、全身清拭、足浴、洗髪・整髪、陰部洗浄、口腔ケア・義歯の手入れ、感染予防、滅菌物の取り扱い方・無菌操作、内科的ガウンテクニック、臨終に係わるケア、包帯法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日常生活援助方法論Ⅰに引き続き、看護の対象を理解し、適切な看護ケアを実践するための基礎的な看護の方法を学ぶ。ここで学ぶ看護の方法は全ての看護領域の基盤となる科学的根拠にもとづく看護技術である。ここでは、健康な人間にとっての日常生活行動の意味を看護の視点から理解し、日常生活行動に関する援助技術が科学的根拠を理解した上で実践できるように学習する。		
授業の内容	本授業では、発熱時の看護、清潔・衣生活、感染予防の方法、などを学習する。演習では、学生間において看護師役と患者役を体験しながら、援助を受ける患者の気持ちを理解するとともに、援助技術の基礎的な行動が形成されることを目的に学習する。		
成績評価の方法	評価対象は、期末試験(筆記試験と実技試験)、レポートとする。評価割合は、筆記試験45%、実技試験50%、レポート5%とする。期末試験は、テキストやノートなどの持込不可。筆記試験は、90分で実施する。実質試験時間は15分で実施する。		
テキスト	・藤崎 郁他：系統看護学講座基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3, 医学書院		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	講義、演習前には、テキストの関連がある单元を精読し、授業に望むこと。演習は、実際に身体を動かして看護師役や患者役を体験して学ぶことに重点を置いているので、欠席した場合には、他の時間をもって補習をすること。また、看護技術修得のためには、一つ一つの行動の根拠を考えながら看護技術を繰り返し練習すること。		

授業科目名	成人看護学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	岡光 京子		
研究室の場所	三原キャンパス 3512研究室		
オフィスアワー	特に設定しない		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書に沿って講義・演習形式で実施する。必要に応じてレポートを課し、期限までに提出させる。学生は授業に出席し、課題のレポートを提出し、試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科1年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	成人期にある人、成人と生活、生活と健康、看護アプローチ、健康レベルに対応した看護		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、成人を対象とする看護を原理的に理解するためのものであり、成人看護学の土台であり、基盤となるものである。本科目の目標は、成人看護学に必要な基礎概念や基礎知識を理解することである。これらの成人看護学に共通する基礎概念や基礎知識を修得した上で、急性期・慢性期看護論、成人看護方法論および急性期・慢性期看護実習に発展させるよう位置づけている。		
授業の内容	既習の学習内容を成人看護学の視点で統合し、成人各期の特徴、大人の生活からとらえる健康、生活と健康を守り育むシステム、健康問題をもつ大人と看護師の関係、看護実践における倫理的判断、意思決定支援、家族支援、成人の健康レベルに対応した看護および変化する医療・生活環境に対応した看護などについて学習する。		
成績評価の方法	中間試験・期末試験90%、レポート・演習の参加度10%などを組み合わせて行う。		
テキスト	テキスト：小松浩子編『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学 [1]』 (医学書院) 2014		
参考文献	随時紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	レポート・試験等において本学で規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	ヘルスアセスメント		
担当教員氏名(助手氏名)	青井 聡美, 吉田 なよ子, 池田 ひろみ, 三宅由希子		
研究室の場所	三原キャンパス 3516研究室(青井), 3418研究室(吉田), 助手室3408(池田, 三宅)		
オフィスアワー	特に設定しない		
授業の形式・方式	対面授業。授業は主に、講義および学生同士による実技演習の2つの形式で実施する。実技演習では、患者役と看護師役を相互に体験する。看護師役は観察したことを記録し提出する。 グループワークで情報収集し看護過程を展開する。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科2年次生および編入学生対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る科目		
キーワード	健康状態の査定、問診、視診、聴診、触診、打診 ペーパーパシエントの看護過程		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>目標：・対象者の健康状態を査定し、生活への影響をアセスメントするために必要な知識を述べることができる。・対象者の健康状態を観察するための技術を演習で実施することができる。・対象者の健康状態を観察した結果およびその査定を記述することができる。・対象者の健康状態を観察する際に必要な倫理的配慮を踏まえることができる。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：専門領域理解の基礎となる科目を統合し、専門領域特有の科目へとつなげていくための科目である。</p>		
授業の内容	<p>この科目では、看護の対象となる人をアセスメントするために必要な知識と観察技術に関する講義やデモンストレーションを受けた後、学生同士でアセスメントの実技演習を行う。講義では、日常生活行動を支えている身体機能および精神機能の側面から健康についての理解を深める。具体的には、対象者の健康歴の聴取に必要なコミュニケーション技法と、身体機能に関する主観的・客観的情報を収集する技術(問診、視診、触診、聴診、打診)について学習する。さらに、人々の活動・休息を担う神経系、筋骨格系、感覚器系、生命の維持を担う呼吸器系、循環器系、栄養や防御に関連する消化器系、外皮系のアセスメントについて学習する。また、事例を用いて、対象者を総合的にアセスメントする方法について学習する。</p>		
成績評価の方法	<p>評価対象は、期末試験(筆記試験と実技試験)とする。筆記および実技のいずれにおいても60%以上得点したものに単位を認定する。総合評価の割合は、筆記試験50%、実技試験50%とする。期末試験は、テキストやノートなどの持込不可。</p>		
テキスト	稲葉佳江、大日向輝美「看護ヘルスアセスメント」(メヂカルフレンド社) 2011年		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>授業前には、単元に関連する箇所のテキストを精読し、授業に望むこと。演習は、実際に身体を動かして看護師役や患者役を体験することで学ぶことに重点を置いているので、欠席した場合には各自で補習をすること。また、技術習得のために、一つ一つの行動の根拠を考えながら繰り返し練習すること。</p>		

授業科目名	看護研究の基礎		
担当教員氏名(助手氏名)	笠置 恵子		
研究室の場所	三原キャンパス 3422研究室		
オフィスアワー	特に指定しない(面談は要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	看護研究, 研究の概観, 研究倫理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では, 現象を研究の対象とする際の特質と科学的な取り組みの可能性, 研究の種類, 理論的構築および科学的な研究を遂行するための具体的な手順について学習する。		
授業の内容	主な内容は, 研究の目的と対象, 研究倫理, 研究の種類と特徴, 文献検索の実際などについて学習する。		
成績評価の方法	課題への取り組み, 提出物, 授業への積極的な参加態度等により総合的に評価する。		
テキスト	テキスト南裕子編『看護における研究』(日本看護協会出版会) 参考文献は適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	事象や現象に関心を持つこと。 研究の概念を把握し, 看護現象に対する考え方および卒業研究を遂行するための基本を学習する。		



授業科目名	<b>基礎看護実習Ⅱ</b>		
担当教員氏名(助手氏名)	折山 早苗, 青井 聡美, 吉田 なよこ, 池田 ひろみ, 三宅 由希子, 他		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(要予約)		
授業の形式・方式	臨地実習(県立広島病院, 三原赤十字病院のいずれかで実習する)		
単位数(時間数)	2単位(90時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	看護, 看護過程, アセスメント(情報収集, 客観的情報, 主観的情報, 分析・解釈, 看護の必要性または看護上の問題), 計画立案(長期目標, 短期目標, 観察計画, 援助計画, 指導計画), 実施, 評価, 日常生活援助方法, 診療に伴う看護方法, 看護記録		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この実習は, 患者が病状や治療によりどのような日常生活を送っているのかを知り, 日常生活にかかわる援助を, 看護過程に沿って実施・評価することを学ぶことを目的としている。成人看護学, 老年看護学, 小児看護学, 母性看護学, 地域看護学, 精神看護学の全ての看護活動の基盤となる授業と位置づけられる。		
授業の内容	入院患者を1人受け持ち, 日常生活にかかわる援助を, 看護の過程に沿って実施・評価することを学ぶ。患者の日常生活にかかわる援助を実施しながら, 日常生活にかかわる情報を患者や家族の反応および診療記録などから収集する能力, その事実から科学的な根拠に基づき患者に必要な看護を明確にする能力, 患者に必要な援助を具体的に計画できる能力, 計画に基づき看護を実践する能力, 実施した援助を評価し必要時計画を修正できる能力を育てる。また, 看護師として患者の人格を尊重し責任ある行動がとれるようにする。		
成績評価の方法	目標への到達度(85%), レポート(10%), 実習態度(5%)とする。		
テキスト	「臨地実習の手引き」, 「基礎看護実習Ⅱ」の実習要綱を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	看護学概論, 日常生活援助方法論Ⅰ・Ⅱ, 診療に伴う看護方法論, ヘルスアセスメント, 看護過程, 成人看護学で学習した内容を復習して実習に臨むこと。また, 実習日数が不足した場合は記録を提出にかかわらず再履修となるので, 健康管理には十分留意すること。		

授業科目名	慢性期看護論		
担当教員氏名(助手氏名)	黒田寿美恵, 永井庸央, 船橋眞子, 中垣和子		
研究室の場所	三原キャンパス 3509 (黒田), 3409 (永井), 3410 (船橋), 3407 (中垣)		
オフィスアワー	随時 (要予約) 場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業。講義, TBL, グループワーク, ロールプレイを組み合わせて実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	成人期にある人, 慢性疾患患者, がん患者, 終末期患者, 薬物療法, 食事療法, 運動療法, がん放射線療法, がん化学療法, 病いの受容過程への援助, 生活の再構築を促す援助, 自己効力感を高める援助, 自己コントロールを促す援助, セルフケア能力を高める援助		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>[授業の目標] 生涯にわたって慢性・長期的な疾患および障がいをコントロールしなければならない成人期の患者とその家族の生活の再構築を促す看護について学習する。</p> <p>1. 慢性・長期的な疾患や障がいをもちながら生活する患者と家族の特徴を理解できる。</p> <p>2. 患者と家族が生涯にわたって慢性・長期的な疾患や障がいをコントロールするために, 自己対処能力を発揮しながら生活を再構築できるように支援する方法を理解できる。</p> <p>[カリキュラム上の位置づけ] 成人看護学概論を基盤とし, 成人看護方法論に発展させるように位置づけている。</p>		
授業の内容	<p>成人期にあり生涯にわたって慢性・長期的な疾患および障がいをコントロールしなければならない患者・家族の生活の再構築を促す看護の基本となる理論・概念と援助方法を学習するために, 総論および各論に分けて学習する。</p> <p>総論では, 慢性・長期的な疾患や障がいをもちながら生活する患者・家族の特徴, 患者・家族が病いを受容し, 自己対処能力を高めて病いと共に生活することを支えるための援助など, 患者・家族の生活の再構築を促す看護を実践するための基本的な理論や概念を学習する。</p> <p>各論では, 代表的な疾患を取り上げ, 病態と治療, 患者・家族の特徴および生活の再構築を促す看護について, 理論や概念と関連させた具体的な援助方法を学習する。</p>		
成績評価の方法	中間試験および期末試験で評価する。		
テキスト	がん看護学(医学書院), 慢性期看護論(ヌーヴェルヒロカワ), 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学: 内分泌・代謝, 腎・泌尿器, 脳・神経, 循環器, 呼吸器, 消化器(医学書院)		
参考文献	授業の中で適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	成人看護学概論が基盤となる。 また, 既修の解剖学, 病理学, 病態生理学, 日常生活援助方法論Ⅰ・Ⅱ, 診療に伴う看護方法論などを復習した上で本科目に臨むこと, および, 同時期に開講されるヘルスアセスメント, 薬理学で修得した内容と関連させて本科目の理解を深めることを期待する。		

授業科目名	小児看護学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	松森 直美, 土路生 明美, 鴨下 加代		
研究室の場所	三原キャンパス 3520 (松森), 3407 (土路生), 3409 (鴨下)		
オフィスアワー	随時、メール、電話等にて事前に日程を調整してほしい		
授業の形式・方式	対面授業、講義形式を中心に講義内容に応じてグループワーク、発表、技術演習を行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	子ども、家族、成長・発達、子どもの権利保護、小児看護の役割、小児保健の動向、子育て支援、育児環境、学習環境、基本的な生活習慣、小児看護技術、遊び		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	小児各期の特性と子どもを取りまく社会の動向を理解し、成長・発達に応じた小児看護を実践するための基本的な知識と技術を習得する。		
授業の内容	小児各期(乳児期、幼児期、学童期、思春期)における子どもの成長・発達の特徴と、それに応じて変化する家族機能について理解し、育児環境、学習環境における諸問題、小児保健の動向をふまえた小児看護の役割、子どもの成長・発達に関する諸理論、基本的な生活習慣の獲得に関わる援助技術を学習する。		
成績評価の方法	出席状況(授業への3分の2以上の出席)、授業態度(講義、演習への参加態度)、筆記試験および課題レポートを総合して評価する。 *課題を提出しない場合は認定できないことがあるので、提出できない理由や提出時期について必ず連絡をすること		
テキスト	小児看護学概論—子どもと家族に寄り添う援助、小児看護技術 改訂版 南江堂		
参考文献	小児看護過程+病態関連図(医学書院) 小児看護学1・2(医学書院)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日頃から、自己の成長・発達を振り返り、家族・親戚や近隣との交流、ボランティア活動等を通して、子どもや家族と接する機会をもつこと、人間発達学、発達心理学、小児科学、家族社会学、関係法規等の既習事項、子どもに関するニュースや情報を活用し、子どもや家族の理解を深めてほしい。特にグループワーク・演習では積極的に取り組み、全般に主体的な学習態度を評価する。 講義日程の詳細は講義内で提示する。		

授業科目名	母性看護学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	日高 陵好		
研究室の場所	三原キャンパス3521研究室 (日高)		
オフィスアワー	随時・可能な限りいつでも対応するが、事前にメールでアポをとっておくと確実です。		
授業の形式・方式	対面授業。授業シラバスに従って、講義形式を主体として、グループ討論と発表とディベートも取り入れる。レポートの課題がある。学生は授業に出席し、試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	母性、母性看護とは、母子関係、セクシュアリティ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、ヘルスプロモーション、女性のライフサイクル、性周期とホルモン、性感染症、人工妊娠中絶、健やか親子21、母子保健施策、母子保健の動向		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	専門領域の必修科目である。①母性看護の基本概念を理解できる。②リプロダクティブヘルスの概念が理解できる。③女性のライフサイクルに応じた健康問題とその看護が理解できる。④母子保健の動向と施策がわかる。⑤女性の発達課題がわかる。⑥母性看護における倫理的問題について自己の考えを述べることができる。⑦母子保健に関わる近年の問題について理解できる。⑧母性看護技術の概要が理解できる。⑨母性看護に関するトピックについて文献を読み自己の考えをレポートにまとめることができる。		
授業の内容	母性看護の基盤となっている概念、母性・母子関係・家族の発達・セクシュアリティ・リプロダクティブヘルス/ライツ・ヘルスプロモーション等を理解するとともに、母性看護のあり方を倫理的および安全的な視点をも包含させながら学習する。また、女性のライフサイクルにともなう形態的、機能的な変化および心理的、社会的な変化を学習し、ライフサイクル各期における対象者の健康問題を理解し、健康問題を解決するための看護について思考する能力を養う。加えて、20世紀後半の母子保健の課題を踏まえた21世紀の母子保健のあり方について、「健やか親子21」、母子保健施策等を学習しながら理解を深める。		
成績評価の方法	評価対象は、授業への取組み・グループ内での積極的な態度(5%)、グループワークの取組み、中間試験(小テスト10%)、レポート(5%)とする。欠席は減点する。定期試験(80%)は、テキストやノートの持込不可とし、時間は60分で実施する。		
テキスト	森恵美他：系統看護学講座専門24母性看護学概論 母性看護学〔1〕，医学書院		
参考文献	随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	講義には、テキストを精読して予習をして授業に臨むこと。オリエンテーション時に伝えた講義を受けるルールを遵守すること。グループ学習やディベートでは積極的に参加すること。試験はテキスト1冊が出題範囲となる。定期試験においては、本学において規定された不正行為を禁止する。明らかな居眠りは厳禁です。		

授業科目名	精神看護学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	宮本 奈美子, 井上 誠		
研究室の場所	三原キャンパス 3515研究室(宮本), 3501研究室(井上)		
オフィスアワー	面接希望は事前にメールでお知らせ下さい。日時を調整いたします。また、在室時は可能な限り対応いたします。		
授業の形式・方式	対面授業。指定テキストをもとに講義形式で実施し、授業内容によって演習(グループワークなど)を適宜加える。開講中に専門用語や専門的知識の習得を目的として2回程度(中間・期末)の試験を実施する。学生は授業に出席し、課題レポートの作成・発表・提出と、試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係わる必修科目		
キーワード	精神保健(メンタルヘルス)・心の健康・心のモデル・精神機能とその障害・適応と防衛機制・ストレスと対処・危機と危機介入・リエゾン精神看護・地域精神保健・精神医療の歴史と法律・精神看護の倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	看護の対象となる全ての人の精神保健をライフサイクルと生活の場の視点から説明できる。現代社会における心の健康問題として急増する不適応について説明できる。人間の心を理解するための基礎的知識について身近な体験と関連付けて説明できる。授業を通じて援助対象者の体験を分かろうとする態度を身につけるとともに、学生自身のメンタルヘルスを振り返りストレスマネジメントについて考えられる。地域精神保健の現状を身近な例を挙げて説明できる。精神医療の歴史と法律の改正経過および精神看護の倫理を関連付けて説明できる。 本科目は精神看護学の基礎であり、精神看護方法論につながる重要な科目として位置づけられる。		
授業の内容	精神看護学の位置づけとその学習内容を概観する。精神保健の概念を学び、心の健康を深く考える機会をもつ。心を理解するための諸理論やモデルを学ぶ。現代社会における精神保健の現状をライフサイクルと生活の場の視点から概観し、地域精神保健活動の現状について理解を深める。臨床における患者・家族および看護師自身の精神保健について学び、総合病院などの場において彼らを支援するリエゾン精神看護についても理解を深める。さらに精神疾患をもつ人への処遇の歴史を精神保健医療の沿革や関連法規を通じて学び、人権擁護の意識や倫理観を養うための基礎とする。		
成績評価の方法	試験(中間・期末の2回程度を予定)90%, レポート(内容と提出状況)10% 授業中の積極的な態度・グループワークへの意欲的な姿勢や貢献に関する評価は上記に追加し最終評価とする予定です。		
テキスト	川野雅資編著「精神看護学Ⅰ 精神保健学」(ヌーヴェルヒロカワ)		
参考文献	必要に応じて授業の中で提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*テキストを通読して授業に臨みましょう。</li> <li>*講義内容に関する疑問は、教員に質問し文献を調べることで解消しておきましょう。</li> <li>*グループワークでは積極的に役割をとり、討論・発表などを通して授業に参加しましょう。</li> <li>*新聞やテレビの報道など、精神医療・精神看護に関わる情報に関心を持ち、授業での学びと関連させて考えましょう。</li> <li>*出席確認を兼ねて授業の後に振り返り表を提出してもらうことがありますので、ご承知おきください。</li> <li>*レポートは提出期限を過ぎても論議を提出してください。提出されることで評価できます。</li> <li>*書籍やその他の視聴覚媒体を通して様々な文学作品や体験記などに親しみ、人間の心の動きやあり様について理解を深めましょう。</li> <li>*授業は皆さんと一緒に創るものだと考えています。皆さんにとって良い学びができるよう、積極的に意見交換いたしましょう。</li> </ul>		

授業科目名	公衆衛生看護活動論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	水馬 朋子 他		
研究室の場所	三原キャンパス 3417研究室		
オフィスアワー	随時（事前にメール等で要予約）		
授業の形式・方式	対面授業およびグループワーク・演習。講義を行ったあと、演習を行い知識と技術の統合を図る。必要に応じて、事例検討を行いグループごとの発表を実施する。学生は、講義および演習に積極的に参加することが望まれる。		
単位数(時間数)	2単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択（保健師選択課程は必修）
履修要件	看護学科2年次対象		
免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	地域診断の概念、保健師の役割、保健指導		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>地域に生活する人々の保健行動の特性を理解し、地域を単位とした集団活動・組織的取り組みを通じて、組織的に解決する能力を養う。このため、地域活動の組織化を含めた展開方法について理解する。集団とともに個別指導の重要性を理解する。つまり、対象の特性を踏まえながら専門的知識と技術を用いて地域の問題に取り組むことを目標とする。その基本となる考え方や技術(地域診断と保健計画策定・公衆衛生看護支援技術)は、公衆衛生看護活動論IIで深め、公衆衛生看護実習に発展させていくよう位置付ける。なお、地域に生活する人々の健康行動の特性を理解し、地域を単位とした集団活動・組織的取り組みを通じて、組織的に解決する方法を理解する。</p> <p>組織内での業務・事務管理から所管地域の地区管理について、体系的な公衆衛生看護管理を学び、公衆衛生看護活動の展開方法を理解する。</p>		
授業の内容	<p>公衆衛生看護活動を実施するにあたり、地域の看護職として公衆衛生看護活動のとらえ方を学ぶ。その活動方法として、個人や家族、様々な集団を含む地域全体を対象として行う地域診断の理論と方法を学ぶ。地域診断については、A市の統計資料等を基に演習を行い、実践方法を試行する。そこから得られた地域特性等をもとに地域の健康課題を分析し、それを基に地域保健計画の策定、実施、評価の過程について、理論的に学び、演習で方法・技術を学ぶ。</p> <p>知識と技術の統合を図るため保健活動の展開と理解に重点を置き、地域の健康問題の解決の具体的な公衆衛生看護活動を学習する。公衆衛生看護活動の概念と理念・保健指導の展開・歴史的変遷と現状、対象者の生活と保健指導の関連、保健福祉施策の考え方と方向性、他職種との連携を学び、地域社会で生活するための支援と戦略を理解する。</p>		
成績評価の方法	出席回数・態度、演習、レポート、定期試験などで総合的に行う		
テキスト	最新 保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 村嶋幸代 メヂカルフレンド社 2013 最新 保健学講座3 公衆衛生看護活動論① 金川克子 メヂカルフレンド社 2013 最新 保健学講座4 公衆衛生看護活動論② 金川克子 メヂカルフレンド社 2013 最新 保健学講座5 公衆衛生看護管理論 平野かよ子 メヂカルフレンド社 2013 国民衛生の動向2015/2016 厚生統計協会		
参考文献	参考文献：標美奈子『標準保健師講座1 公衆衛生看護概論 第4版』医学書院 鳩野洋子訳『ヘルスプロモーションの評価』医学書院		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>関連書籍を読み、自らの考えや意見が述べられるようにして講義に臨む。事例検討などを行った場合、レポート提出が義務付けられるが、参考にした文献は、著者名・題名・出版社名・発行年・引用ページを明記する。</p> <p>定期試験は、本学において規定された不正行為を禁止する。</p> <p>なお、インターネットや表計算ソフトを使用することが望ましい。</p>		

授業科目名	急性期看護実習		
担当教員氏名(助手氏名)	今井 多樹子, 永井 庸央, 中垣 和子		
研究室の場所	三原キャンパス 3508研究室(今井) 3409研究室(永井) 3407研究室(中垣)		
オフィスアワー	随時(要予約) 場所は担当教員の研究室		
授業の形式・方式	臨地実習		
単位数(時間数)	3単位 (135時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	成人期にある人, 周手術期にある患者とその家族, 援助的人間関係, 自己対処能力, 急性期・回復過程, 倫理観, チームアプローチ, 非常時の対応		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>[授業の目標] 周手術期にある成人期の患者およびその家族を総合的に理解し, 患者・家族が自己対処能力を最大限に発揮しながら健康状態の急激な変化からの回復を促すための看護を实践する能力および態度を養う。</p> <p>[カリキュラム上の位置付け] 主として成人看護学概論, 急性期看護論, および成人看護方法論で学習した知識と技術を, 臨床の場において統合して実践する科目として位置づけている。</p>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期にある患者・家族に対して積極的な関心を持ち, 援助的人間関係を築くことができる。</li> <li>2. 周手術期にある患者・家族が変化した健康状態を受容し, 自己対処能力を最大限に発揮しながら健康状態の急激な変化から回復を促すための看護を实践できる。</li> <li>3. 周手術期にある患者・家族に, 看護職者としての倫理観にそった行動ができる。</li> <li>4. 周手術期にある患者・家族の適応能力を高めるために, 保健・医療・福祉関係職種との連携を理解し, 相互に協働できる。</li> <li>5. 学生間におけるメンバー・リーダーの役割を担うことができる。</li> <li>6. 非常時への対応について理解できる。</li> </ol>		
成績評価の方法	<p>目標への到達度を以下の観点から総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践場面</li> <li>・実習に対する態度および意欲</li> <li>・記録物</li> <li>・レポート</li> <li>・自己評価表を用いて教員と面接した結果</li> </ul>		
テキスト	テキストは指定しない。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実習開始までに『平成27年度「急性期看護実習」実習要綱』に提示する事前学習の内容を实践すること。また, 成人看護学概論, 急性期看護論, 成人看護方法論など, 既習科目の復習を十分に行い, 実習に必要なと思われる援助技術を十分に練習すること。		

授業科目名	慢性期看護実習		
担当教員氏名(助手氏名)	黒田 寿美恵, 船橋 眞子		
研究室の場所	三原キャンパス 3509 (黒田) , 3410 (船橋)		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	臨地実習		
単位数(時間数)	3単位 (135時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	成人期にある人、慢性疾患患者とその家族、援助の人間関係、自己対処能力、生活の再構築、倫理観、チームアプローチ、非常時の対応		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>[授業の目標] 慢性・長期的な疾患や障がいをもつ成人期の患者およびその家族を総合的に理解し、患者・家族が変化した健康状態を受容して自己対処能力を最大限に発揮しながら生活を再構築するための看護を実践する能力および態度を養う。</p> <p>[カリキュラム上の位置づけ] 主として成人看護学概論および急性期看護論、慢性期看護論、成人看護方法論で学修した知識と技術を、臨床の場において統合して実践する科目として位置づけている。</p>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として、成人期にあり、生涯にわたりコントロールを必要とする慢性・長期的な疾患や障がいをもつ人を受け持つ。</li> <li>2. 受持ち患者を中心に看護実践(情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価)を行う。</li> <li>3. 実習日の朝、その日の看護目標・学習目標・看護問題および看護計画にそった1日のスケジュールを看護師に示し、指導・助言を受ける。</li> <li>4. 実習中は、担当教員または看護師の指導・助言を受ける。</li> <li>5. 看護行為は、原則として担当教員または看護師と共に行う。</li> <li>6. 看護技術能力を高めるために他の患者の援助に参加することがある。</li> <li>7. 保健・医療・福祉関係職種によるチームアプローチと看護実践に関する見学実習を行う。</li> <li>8. 経験した技術項目を看護技術チェックリストに記入して随時担当教員に提示する。</li> <li>9. 自己の学習状況および成果を確認するために、自己評価表の各項目について実習目標の達成を評価し、担当教員との面談を通して今後の課題を明確にする。</li> </ol>		
成績評価の方法	<p>目標への到達度を以下の観点から総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の実践場面</li> <li>・実習に対する態度および意欲</li> <li>・記録物</li> <li>・レポート</li> <li>・自己評価表を用いて教員と面接した結果</li> </ul>		
テキスト	テキストは指定しない。		
参考文献	中西睦子監修『TACSシリーズ3 実践成人看護学-慢性期』建帛社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>実習開始までに『平成27年度「慢性期看護実習」実習要綱』に提示する事前学習の内容を実践すること。また、成人看護学概論、急性期看護論、慢性期看護論、成人看護方法論など既修科目の復習を十分に行い、実習に必要と思われる援助技術を十分に練習すること。</p> <p>なお、実習記録用紙のうち、様式1・2・4・5については、電子データで配布するので各自ダウンロードして使用すること。</p>		



授業科目名	老年看護実習		
担当教員氏名(助手氏名)	狩谷 明美, 山中 道代, 渡辺 陽子		
研究室の場所	三原キャンパス 3505研究室(狩谷), 3412研究室(山中), 3410(渡辺)		
オフィスアワー	お昼休み		
授業の形式・方式	3週間の臨地実習(尾道市公立みつぎ総合病院, 介護老人保健施設みつぎの苑)を集中授業する。 学生5~6人を1Gとし, ティーム・テーティング方式で実施する。		
単位数(時間数)	3単位 (135時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	高齢者, ICF, 自立・自律支援, QOL, 介護保険, 高度専門職チーム医療(IPW), 認知症		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>社会の中で老いて生き, 生活する高齢者の人生の多様性を理解する。          高齢者の健康と生活を支える老年看護実践に必要な基礎的能力および態度を養う。          高齢者の生活の場(自宅・高齢者施設・病院など)の特徴を理解し, その看護について考察を深める。          保健・医療・福祉の他職種連携について学習する。          この科目で学ぶ授業内容は, 基礎看護実習・成人看護実習の学びを土台に, 老年看護学概論・老年看護学方法論を前提学習とし, 母性・小児看護実習・地域看護実習・精神看護実習を発展学習と位置づけられている。</p>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の特徴を身体的, 心理・精神的, 社会的, スピリチュアルな側面から理解する。</li> <li>2. コミュニケーション技術を用いて, 高齢者との関係性の構築ができる。</li> <li>3. 高齢者と家族, および地域社会との関連について理解する。</li> <li>4. 障害をもつ高齢者の自立・自律支援に関わる看護援助の実施および評価ができる。</li> <li>5. 高齢者と家族の主体性と尊厳を尊重した看護援助の実施および評価ができる。</li> <li>6. 高齢者と家族に関わる場の理解を深め, 保健・医療・福祉の連携について理解する。</li> <li>7. 災害時および事故防止に関する高齢者の援助について考えることができる。</li> <li>8. 高齢者に対する権利擁護について考えることができる。</li> </ol>		
成績評価の方法	評価の対象は, 事前学習, 実習記録, レポート, 実習状況を総合的に評価する。		
テキスト	臨地実習要綱, 老年看護実習要綱, 3年後期までに学習した専門領域の基礎となる科目のテキスト, 参考文献等		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>実習前には, 実習要綱をよく読んで実習に臨んでいただきたい。          高齢者の加齢変化と老年症候群の理解について, 解剖学, 生理学, 病理学, 老年医学の復習が必要です。          施設実習では, 介護保険制度とサービス内容を理解しておくことが, 理解を深める基礎となります。          臨地実習中に得られた知識は, 国家試験勉強の理解を深めますので, 積極的に実習に臨むよう期待します。          高齢者はインフルエンザやノロウイルスなどの感染症により死亡する事例があり, ワクチン接種・感染防御に関する対処に関して万全を期して実習に臨んでいただきたい。</p>		

授業科目名	小児看護方法論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	松森 直美, 土路生 明美, 鴨下 加代		
研究室の場所	三原キャンパス 3520 (松森), 3407 (土路生), 3409 (鴨下)		
オフィスアワー	随時 (メール等での質問・連絡可)		
授業の形式・方式	小児特有の疾患に関する事例を提示し、グループワークにて看護過程を展開し、発表を行う。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	小児看護、子ども、家族、成長・発達、小児期特有の疾患・症状・障害、急性期、慢性期、終末期、小児看護技術、フィジカルアセスメント、検査・処置、治療、子どもの権利保護		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	既習事項を統合しながら、小児期特有の疾患や症状など発達障害や健康問題をもつ子どもや家族に及ぼす心身への影響、それら进行评估し看護援助を行う根拠と具体的な方法を考え、小児看護実習および卒後の看護実践に応用できる基礎的能力を養う。		
授業の内容	小児期に特有な疾患をもつ小児の事例をとりあげ、グループごとに看護過程を展開する。ヘンダーソンの看護理論をもとにしたデータベースにより必要な情報を整理しながら関連図を作成し、全体像を把握した中で看護上の問題点とその解決方法を考える。看護問題に対する看護計画を立案し、具体策の中から1つを選び、ロールプレイ等でグループ発表を行うことにより、学生間での共有化を図る。		
成績評価の方法	授業態度(講義、演習への参加態度)、課題レポート(提出は必須)を総合して評価する。		
テキスト	南江堂 小児看護学概論、小児看護技術		
参考文献	小児看護過程+病態関連図(医学書院) 小児看護学Ⅰ, Ⅱ(医学書院)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	小児看護方法論Ⅰで用いた事例を活用するので、課題提出に使用した資料を持参すること。看護の対象にどう活かすかという職業意識をもって講義に臨むこと、積極的な討論や質疑応答、実践を想定したロールプレイを行うため、これまでの講義、実習を活かすよう取り組んでほしい。講義全般を通じて専門職業人としての主体的な学習態度を評価する。		

授業科目名	母性看護方法論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	日高 陵好		
研究室の場所	三原キャンパス 3521 (日高)		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	演習方式で行うので、積極的な参加を求める。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科3年次対象(母性看護学概論・母性看護方法論Ⅰの単位を取得していること。)		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験に関わる必修科目		
キーワード	看護過程・母性看護技術・アセスメント方法・事例検討		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰの学習を踏まえ、臨地実習開始前に実際の周産期看護に必要な知識・技術の総まとめを行う。 目標 ①個別性に応じた褥婦へのアセスメントが理解できる。②個別性に応じた新生児へのアセスメント方法を理解し、実践できる。③母子一体の視点でアセスメント・援助方法が理解できる。④新生児の清潔ケアが安全・安楽に実践できる。⑤臨地での学習内容を把握し実習のための事前学習・基本知識と技術試験に向けての準備ができる。		
授業の内容	①褥婦のアセスメント ②褥婦への看護援助 ③新生児のアセスメント ④新生児への看護援助 以上、①～④を中心に事例展開や技術演習を行う。		
成績評価の方法	授業への積極的な態度(30%) 演習時の取り組み(20%)、基本知識と技術の試験(口頭試験、筆記試験、沐浴技術試験)(30%)、実習前事前課題(10%) 実習初日の提出物(10%)とする。( )内の%は目安であるが、最終評価方法・配点は別途連絡する。		
テキスト	母性看護方法論Ⅰの教科書を使用する。母性看護実習要綱		
参考文献	適宜案内する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	白衣着用で行う。		

授業科目名	母性看護実習		
担当教員氏名(助手氏名)	日高 陵好		
研究室の場所	三原キャンパス 3521研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	臨地（県立広島病院等の産科病棟，産科・不妊外来，NICU）にて実習を行う。		
単位数(時間数)	2単位（90時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	周産期，妊婦，産婦，褥婦，新生児，母子関係，保健指導，生殖医療		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>専門領域特有の科目（必修）であり、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰの単位を取得していることと、母性看護方法論Ⅱの単位取得見込みであることが履修条件である。《知識》①周産期にある対象の身体的・心理的・社会的変化の基礎知識に基づいた情報収集ができる。②周産期にある対象を個別性に応じてアセスメントする内容が理解できる。③周産期にある対象者の健康維持・増進、正常からの逸脱予防のための援助が理解できる。④母子関係を促進したり、母親役割獲得への援助について理解できる。⑤周産期における看護の役割とチーム医療について説明できる。《技術》①周産期にある対象者への看護技術を安全・安楽に実施できる。②周産期にある対象者への保健指導へのフィードバックができる。《態度》①対象者の人権を尊重し擁護できる。②プライバシー・看護倫理に配慮した看護ができる。③対象者とその家族、臨床指導者や他の医療者に対して適切なコミュニケーションをとることができる。④自主的に行動して学びを深めることができる。</p>		
授業の内容	<p>①産科病棟にて褥婦・新生児の看護を行う。 ②産科外来、不妊外来、NICU、周産期の小集団指導（母親学級）、産科病棟での分娩（帝王切開も含む）等、周産期に関わる内容を学習する。</p>		
成績評価の方法	評価は単位認定規定に基づいて、母性看護実習評価【知識・技術・態度】（母性看護実習要綱を参照）により行う。		
テキスト	母性看護方法論Ⅰのテキスト、母性看護方法論Ⅰ・Ⅱの授業ノート・配布資料等		
参考文献	ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院 他提示します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	母性看護学概論，母性看護方法論Ⅰ・Ⅱの既習科目を復習し，母性看護実習要綱を熟読して実習に臨むこと。実習前の事前学習課題の提出，学内演習時の基礎知識・技術試験への合格は必須である。対象者が新生児らを含むことから，感染症予防は特に注意をすること。		

授業科目名	終末期看護論		
担当教員氏名(助手氏名)	岡光 京子, 永井 庸央, 中垣 和子, 船橋 眞子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に設定しない		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、担当教員の準備する資料に沿って講義形式および演習を実施する。学生は授業に出席し、課題レポートを提出することが義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	緩和ケア、緩和ケア政策の変遷、がん対策基本法、患者の自己決定、倫理的課題、終末期ある人・家族の特徴、さまざまな場における緩和ケア、スピリチュアルケア、尊厳ある生を支える援助		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>人生の終末期にある人およびその家族の特徴を理解し、その人の人生を有意義なものにできるよう援助するための理論と方法について学習する。</p> <p>この科目は、3年次後期の急性期・慢性期・老年看護実習を経験した頃に、集中講義として開催される。この時期は、看護を志す者として、生や死についての関心が深まっている頃と思われる。終末期看護として、マニュアルを遵守するのではなく、その人の個性にそって、また援助する看護師の個性を生かした創造的なケアや心を届けられるよう学習を進めてほしい。</p>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケアを取り巻く今日の状況として、緩和ケア政策の変遷・がん対策基本法、緩和ケアにおける倫理的課題などについて学習する。</li> <li>・終末期にある人および家族の特徴について学習する。</li> <li>・身体的苦痛の緩和、症状コントロールなどについて学習する。</li> <li>・尊厳ある生を支える援助について学習する。</li> <li>・緩和ケア・在宅緩和ケア・チームアプローチの実際などについて学習する。</li> </ul>		
成績評価の方法	出席状況・課題レポートなどから評価する。		
テキスト	テキストは特に指定しない。 資料は準備する		
参考文献	適宜紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	統合実習		
担当教員氏名(助手氏名)	岡田 麻里, 今井多樹子, 松森直美 ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時要予約		
授業の形式・方式	隣地実習（県立広島病院，三原赤十字病院，尾道市民病院）にて実習を行う		
単位数(時間数)	2単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科3年次対象		
免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	チームナースィング，リーダーシップ，メンバーシップ，多重課題，看護実践能力，病院組織，看護管理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	1～3年前期過程までに学んだ知識・技術を臨床現場における看護の実際と統合することを目的とする。患者の安全と安楽を提供する看護を実践するために、実務の状況を判断し、チームの一員としての看護師の役割を理解し、その状況に対応するための思考プロセスを学ぶことによって、多重課題に対応できる自律した看護実践能力の基盤を養う。患者中心の看護援助を提供するためのチームワーク、メンバーシップ、リーダーシップ、看護管理の実際を学ぶ。実習の学びと自己の課題を明確にし、専門領域実習にいかす。		
授業の内容	①多重課題事例展開演習。②看護部長（病院および看護部の理念、組織体制）、看護部教育担当者（新人教育、キャリアガイダンス等）による講話。③病棟師長・主任・チームリーダーについてフィールドワーク形式の実習。④実習の振り返りと学びのまとめと発表。		
成績評価の方法	目標への到達度を以下の観点から総合的に判断する。①演習・実習での態度および意欲、②レポート、③プレゼンテーション、④自己評価表		
テキスト	テキストは指定しない		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1から3年前期までの既習内容が基盤となるため、実習の前には十分な復習が必要である。積極的に取り組むために、実習先に関する事前学習を行い、自分自身の目標と疑問を明確にして臨むことが必要である。実習先までの交通費が必要となる		

授業科目名	クリティカルケア看護論		
担当教員氏名(助手氏名)	今井 多樹子, 永井 庸央, 中垣 和子		
研究室の場所	三原キャンパス 3508研究室(今井), 3409研究室(永井), 3407研究室(中垣)		
オフィスアワー	随時(要予約) 場所は担当教員の研究室		
授業の形式・方式	授業日程に従った対面授業で, 講義を基本とする。単元によっては演習とグループワークを組み入れて実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	看護学科4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	救急医療, 救急看護, クリティカルケア看護, 生体監視, 救急医療および看護における倫理的課題, 意思決定, 家族看護		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	授業の目標は, 突発的な病気や事故, 災害に遭遇した時の救急処置や施設における救命のための基礎知識, 技術を学修することである。また, 救急医療の現状や問題について, 看護の視点から総括して展望し, 考察できるように学修する。		
授業の内容	授業では, 「救急医療と看護の動向」について, 救急医療専門の医師および認定看護師による外部施設での講義を含め, 救急医療の実際を学ぶ。次に, 救急看護のアセスメントで求められる「生体監視装置による観察」について, 基本的な心電図の解読を中心に, シミュレーターを用いて学ぶ。そして, 「救急医療および看護における倫理的課題」について, 事例検討を行い, 救急患者の意思決定, 家族看護に関する考察を行う。		
成績評価の方法	授業中の積極的な態度(20%), 課題レポート(80%)を総合して評価する。		
テキスト	指定しない。資料を配布する。		
参考文献	適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	当該授業は, 病態生理学, 救急医療, 生命倫理学, 成人看護方法論など, 既習の学習内容が基盤となる。既習の学習内容と授業内容を統合させ, 知識・理解を深めることを期待する。なお, 外部施設(県立広島病院)での受講には, 交通費等の実費が必要となる(初講時のみ)。		

授業科目名	認知症看護論		
担当教員氏名(助手氏名)	渡辺陽子 他		
研究室の場所	三原キャンパス 3410研究室		
オフィスアワー	随時（事前に予約してください）		
授業の形式・方式	講義および演習、グループワーク		
単位数(時間数)	1単位（15時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	看護学科4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	認知症高齢者，看護，生活援助		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、認知症高齢者を理解し、生活を支える看護を実践するために必要な知識、技術を学修することである。さらに、学修した知識・技術を看護実践の場面で応用できる力を養う。		
授業の内容	①認知症高齢者の看護とは②認知症の人を取り巻く社会環境③認知症看護における倫理④認知症の病態、治療と看護⑤認知症高齢者とのコミュニケーション⑥認知症の人の日常生活を支える看護⑦他疾患の治療が必要な認知症高齢者への看護⑧介護家族への支援		
成績評価の方法	授業中の態度，課題レポート等を総合して評価する。		
テキスト	中島紀恵子監修：新版 認知症の人々の看護，医歯薬出版，2013		
参考文献	適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	学生の皆さんには、認知症の看護について、主体的・積極的に学んでください。 3年生の実習との関係で、授業日程が移動することがあります。		



授業科目名	理学療法学概論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	小野 武也, 高宮 尚美		
研究室の場所	三原キャンパス 4431研究室(小野), 2320研究室(高宮)		
オフィスアワー	毎週水曜日昼休み。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義と演習形式で実施します。また、4年生の症例検討会への出席も予定しています。講義の受講にあたり、事前配布資料や参考図書を読んでおくことが授業の理解を深める上で有効です。必要に応じてレポート課題を課し、指定した日に提出させます。学生は、授業に出席し、課題レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられます。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療学科1年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	リハビリテーション, 医学モデル, 障害モデル, 機能形態障害, 能力障害, 社会的不利, ICF, 廃用症候群, 臨床実習, 症例検討会		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義の目標は、理学療法の治療対象である身体障害についての学習を通して理学療法の意義を知ることです。そのために理学療法を様々な方向から講義や演習を通して眺めてみます。また、この講義を通して、将来の自分の姿をイメージし今後の自らの学習課題を明確にして欲しいと思います。本講義は厚生労働省が定める理学療法士養成のための指摘規則の基礎理学療法に位置づけられています。		
授業の内容	理学療法の治療対象である障害について模擬的な障害体験を実施しK-J法を用いて障害の多様性や障害の構造について理解します。また、臨床実習の状況、理学療法士業務の状況、海外の理学療法士の状況について学習し理学療法の意義を認識します。		
成績評価の方法	成績評価は、およそ期末試験80%、課題レポート10%、出席および出席態度10%の割合で評価します。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施します。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施します。レポートの課題および提出期限は別途指示します。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業ではグループディスカッションの時間を設けますので、積極的に参加してください。授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行います。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止します。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応します。		

授業科目名	理学療法評価学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	沖田 一彦, 梅井 凡子		
研究室の場所	三原キャンパス 2510研究室(沖田), 2504研究室(梅井)		
オフィスアワー	場所は担当教員研究室。面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。講義, 演習および実習を実施する。特に面接については, 模擬患者を用いたシミュレーション実習を行う。このシミュレーション実習には特段の理由がない限り必ず出席しなければならない(やむなく欠席する場合は教員から許可を得ること)。期末試験を受けることが義務付けられるが, シミュレーション実習に出席することが前提となる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科1年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	理学療法評価, 障害構造, 情報収集, 診療記録, 観察, 面接, バイタルサイン		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	理学療法における「評価」とは, 理学療法を実施するために必要な患者(対象者)の情報を収集し, それを統合・解釈・判断するという重要なプロセスである。本授業はその意義と重要性について理解するとともに, 理学療法の領域に関わらず実施すべき基本的な情報収集の方法について学ぶことを目標としている。また, 本授業は, 理学療法学科において最初の臨床実習となる2年次の「基礎臨床実習 I」での学習内容の基礎となる。		
授業の内容	まず理学療法における評価の位置付けとその具体的な内容について解説した後, 評価の基本となる観察と面接の重要性と方法を, 患者との言語的・非言語的コミュニケーションの観点から論ずる。特に, 面接の技法については, 模擬患者を用いたシミュレーションを実施して知識と技術の融合を図る。具体的には以下の内容で授業を進める。1) 理学療法における「評価」の意味, 2) 障害の構造と評価との関係 [その1], 3) 障害の構造と評価の関係 [その2], 4) 評価のための情報源, 5) 診療記録を読み解く [その1], 6) 診療記録を読み解く [その2], 7) 観察することの意味, 8) 方法としての観察, 9) 面接することの意味, 10) 方法としての面接 [その1], 11) 方法としての面接 [その2], 12) 面接のシミュレーション実習 [その1], 13) 面接のシミュレーション実習 [その2], 14) 面接のシミュレーション実習 [その3], 15) まとめ, 16) 期末試験。		
成績評価の方法	期末試験の成績で評価する。試験は指定された教室(試験室)内において持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。ただし, 特段の理由なく面接のシミュレーション実習を欠席したものは期末試験の受験を認めないので注意してほしい。なお, 授業の参加態度も評価の対象とする。		
テキスト	①細田多穂監修『シンプル理学療法学シリーズ理学療法評価学テキスト』南江堂, 2012 ②山口美和『PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド』医学書院, 2012		
参考文献	他の授業で教科書指定されている各種の医学辞典(医学用語辞典, 医学英和辞典, 医学略語辞典など, 電子辞書も可)を必要に応じて使用する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業は演習・実習を交えながらできるかぎり実践的に展開するので, 履修予定者は積極的に学習に参加してほしい。		

授業科目名	理学療法評価学Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	金井 秀作		
研究室の場所	三原キャンパス 4421研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日12時から13時 これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業および実習形式で行う。学生は授業および実習に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	複合的身体運動能力評価法, 高次脳機能障害, 意識障害		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	神経学的機能障害, 高次脳機能障害, 意識障害に関する評価手法を学ぶ。		
授業の内容	学生が検者, 被検者となることでの実技演習を通じて学習する。特に理学療法を実施する上で必要となる神経学的的な検査(高次脳機能障害など)と複合的身体運動能力評価法については, 検査手技の正確な実施と検査結果の信頼性を高めるため, 繰り返し実習し, 正常人の反応を把握させる。また, 疾患や症状から必要評価項目が想起できるように訓練を行う。		
成績評価の方法	筆記試験(90%)を行う。さらに小テストの平均点(10%)を加えて評価する。再試験等は一切行わない。		
テキスト	教科書: 細田多穂監修『シンプル理学療法学シリーズ: 理学療法評価学テキスト』(南江堂)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実技ができる(動きやすい)服装で望むこと。必要に応じてTシャツ短パンに着替えてもらいます。		

授業科目名	基礎運動療法学		
担当教員氏名(助手氏名)	小野 武也		
研究室の場所	三原キャンパス 4431研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日昼休み, 場所は研究室. これ以外の面談は要予約.		
授業の形式・方式	対面授業. 授業日程に従って, 講義と演習形式で実施します. 講義の受講にあたり, 事前配布資料や参考図書を読んでおくことが授業の理解を深める上で有効です. 必要に応じてレポート課題を課し, 指定した日に提出させます. 学生は, 授業に出席し, 課題レポートを作成・提出すること, 試験を受けることが義務付けられます.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	リスク管理, 関節可動域訓練, ストレッチング, 筋力増強訓練, 持久力訓練, リラクゼーション, 協調性訓練, 神経筋再教育, 全身調整訓練		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業では, 1950年代にClassical Approachとして完成した運動療法について理解することが目標です. 本講義は厚生労働省が定める理学療法士養成のための指摘規則の理学療法治療学に位置づけられています.		
授業の内容	総論では運動療法の歴史, 対象疾患, 運動療法機器, 運動の種類, リスク管理などについて教授します. 各論では, 基本的な運動療法として関節可動域訓練, ストレッチング, 筋力増強訓練, 持久力訓練, リラクゼーション, 協調性訓練, 神経筋再教育, 全身調整訓練について概説します.		
成績評価の方法	成績評価は, およそ期末試験80%, 課題レポート10%, 出席および出席態度10%の割合で評価します. 試験は指定された教室(試験室)内で, 持ち込み不可で実施します. 期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施します. レポートの課題および提出期限は別途指示します.		
テキスト	テキスト: 細田多穂「運動療法学テキスト」南江堂 野島元雄「図説四肢と脊椎の診かた」医歯薬出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 正式には教務課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行います. 試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止します. 不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応します. 実習時には実習のできる服装を着用のうえ参加してください. また大学のバスタオルを準備してください.		

授業科目名	物理療法学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡, 梅井 凡子		
研究室の場所	三原キャンパス 2513研究室 (田中) , 2504研究室 (梅井)		
オフィスアワー	田中 : 毎週水曜日12時から13時		
授業の形式・方式	主として対面授業。テキスト及び講師作成資料に基づいて講義を実施します。スライド, ビデオなどの教材も使用します。 また, 演習形式で講義を行います。5 グループに分けて実習を行います。各療法毎に実習課題を提示するのでレポートを作成し提出してください。 必要に応じてレポートを作成, 提出することが義務付けられます。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	炎症, 疼痛, 筋緊張, 末梢循環障害 温熱療法, 寒冷療法, 電気刺激		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	物理療法学は, 水, 熱, 光, 電気, 徒手などの物理的手段を用いた治療であり, 患部の疼痛や循環障害を改善をはじめ筋機能改善などを目的としています。 本講義では, まず疼痛, 炎症, 循環障害, 筋緊張異常などについて生理学に説明できることを目標にする。次に各種物理療法の治療目的, 作用機序, 適応と禁忌, 機器の特性, 治療手技について学習し理解を深める。さらには, 物理療法と運動療法などの組み合わせた治療システムの意義についても学習する。 本科目は, 厚生労働省が定める理学療法士養成のための指定規則の理学療法治療学に位置付けられています。		
授業の内容	1) オリエンテーション 2) 疼痛について, その①, その② 3) 循環障害, 筋緊張について 4) 温熱療法 および 体験・実験 5) 寒冷療法 および 体験・実験 6) 電気刺激療法 および 体験・実験 以上の各種療法について生理学的作用機序, 療法の詳細, ならびに実際の治療方法までを教授する。		
成績評価の方法	課題レポートと筆記及び実技試験の成績で評価を行う。		
テキスト	教科書 : シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト改訂第2版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	短パン, Tシャツを用意してもらい実習があります。 レポートは指定された書式で提出すること。		

授業科目名	義肢装具学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	長谷川 正哉		
研究室の場所	三原キャンパス 2501研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日12時～13時. 場所は2501研究室(長谷川)。これ以外の面談は要予約		
授業の形式・方式	授業は対面方式で展開します。本授業は理論と実際を知ることが重要になります。そこで、実際に臨床で使用されている各種の義足・義手・下肢装具・上肢装具などに触れていきます。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	切断者, 義足, 義手, 下肢装具, 上肢装具, 体幹装具,		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	義肢は切断された肢節を補填する人工的な上肢・下肢であり, 装具は四肢・体幹の機能障害部位の支持や運動の補助などを行う装置です。義肢装具学は, 理学療法の中で義肢・装具療法として位置づけられます。		
授業の内容	本講義では, 大きく義肢と装具に分, 義肢に関しては, 下肢の義肢(義足)と上肢の義肢(義手)に分類して解説します。最新の義足や電動義手に関しても触れます。 装具に関しては, 靴を含む下肢装具(理学療法場面では最も関係すると装具である)・上肢装具に分類して構造や作用などの基本的じこうを学びます。		
成績評価の方法	講義への参加態度, 筆記試験により評価します。		
テキスト	テキスト: 川村次郎編『義肢装具学』(医学書院)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	機能解剖などの基礎的な事項を復習しておいてください。歩行分析などの運動学の復習をしておいて下さい。		

授業科目名	<b>基礎臨床実習 I</b>		
担当教員氏名(助手氏名)	沖田一彦, 田中聡, 小野武也, 金井秀作, 島谷康司, 長谷川正哉, 梅井凡子, 金指美帆, 高宮尚美, 武本秀徳, 積山和加子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	面談はともに要予約。		
授業の形式・方式	実習施設の臨床実習指導者の下での臨床実習		
単位数(時間数)	2単位 (90時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科 2 年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	総合リハビリテーション, 医学的リハビリテーション, リハビリテーション医学, チーム医療, 理学療法士, 運動療法, 物理療法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	基礎臨床実習 I では, 医療現場における理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を実際の臨床場面を見学させることによって把握させる。また, 実習指導者の指導・監督の下で, 患者とのコミュニケーションを図ったり, 患者の移動を補助的に行ったりすることで医療人としての責任感の育成や動機付けの向上を目指す。		
授業の内容	実習施設にて 2 週間, 実習指導者の下で実習をする。 以下の内容を実習目標とする。 1) 実習施設の概要を理解する。2) 他の医療職の臨床を見学し, 理学療法部門を含めたチーム医療としての各部門の位置付けを理解する。3) 処方から退院までの理学療法業務の流れを理解する。4) 情報収集の実践を行い, 処方箋, カルテの読み方から問診の取り方, 関節可動域測定法などを理解する。5) 実習指導者の指導や他部門からの情報収集, 患者への問診などを通じ医療人としての適切な倫理観と態度を身に付ける。		
成績評価の方法	実習指導者の評価と出席状況, 実習後に課す実習レポートの提出と内容によって総合的に評価する。無断欠席を行うとその時点で実習が中止になることがある。正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は, 評価の対象とみなさない。		
テキスト	教科書: 鶴見隆正編『標準理学療法学 臨床実習とケーススタディ』(医学書院)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実際の臨床場面であるので, 社会人としてのマナーを守り, 緊張感を持って実習に臨んでほしい。2 年前期までの専門科目を履修していることが望ましい。患者のプライバシーには十分に配慮すること。知り得た情報などは守秘すること。		

授業科目名	理学療法管理学		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡		
研究室の場所	三原キャンパス 2513研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日12時から13時。場所は教員研究室。これ以外の面談は要予約		
授業の形式・方式	対面授業と実習を行います。講師作成資料に基づいて講義を実施します。ただし、医療事故防止に関する講義は、臨床場면을想定した実習を行います。 スライド、DVDなどの教材も使用します。必要に応じてレポートを作成、提出すること、試験を受けることが義務付けられます。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	理学療法管理, 組織運営, 医療事故, インシデント, リスクマネジメント, 急性期理学療法, 診療報酬, 診療録		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>理学療法を実践するうえで必要不可欠となる職場の管理・運営の理論と実際について理解する。まず理学療法に限らず医療従事者にとって必要な職場倫理について学習し、次いでリハビリテーション室内におけるリスク管理について演習を通して理解を深める。</p> <p>。具体的に施設基準に準拠したレイアウトなどのハード面、および代表的な疾患をあげ疾患別のリスク管理, 事故防止について学ぶ。その他, 診療報酬体系, 理学療法士に必要な法体系について学習する</p> <p>本科目は, 厚生労働省が定める理学療法士養成のための指定規則の基礎理学療法学に位置付けられています。</p>		
授業の内容	<p>理学療法管理学では, 理学療法を実践するうえで必要不可欠となる職場の管理・運営の理論と実際について教授します。</p> <p>1) オリエンテーション, 2) 理学療法現場での管理・運営の意義, 3) 理学療法現場での管理・運営の実際, 4) 医療事故とリスクマネジメントの必要性, 5) リスクマネジメントの実際, 6) 診療報酬業務管理, 7) 診療記録業務, 8) 他部門との連携について, 説明します。</p> <p>また, 実際のリスク管理については運動療法室で実習を行いグループ討議を行います。</p>		
成績評価の方法	<p>課題レポートの内容と期末試験の成績で評価します。</p> <p>期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で持ち込み不可とし実施します。</p>		
テキスト	<p>亀田メディカルセンター編集: リハビリテーションリスク管理ハンドブック改訂第2版 (メジカルビュー社)</p>		
参考文献	<p>講義内で適時紹介します。</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>理学療法現場における理学療法士の業務の中で管理・運営技術がいかに重要であることを理解することと, その具体的手法の学習できるように努力してください。</p>		



授業科目名	理学療法学研究法Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	梅井 凡子, 武本 秀徳		
研究室の場所	三原キャンパス 2504研究室(梅井), 2320研究室(武本)		
オフィスアワー	場所は担当教員研究室にて行う, 面談日時は事前に相談すること。		
授業の形式・方式	対面授業。学生によるプレゼンテーション, 質疑応答。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	原著論文, 英語読解力, 専門用語, 研究法, プレゼンテーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	理学療法学研究法Ⅱでは, 本邦における「理学療法学」, 欧米における「Physical Therapy」, 「Physiotherapy」などの学術雑誌に掲載されている理学療法関連の資料を教材として, 必要な知識を得るとともに論文読解力を養う。		
授業の内容	初回コースオリエンテーション, 2回~15回 発表と質疑応答, 検討会		
成績評価の方法	発表内容に関する期末試験, 学生による発表内容と準備状況, そして発表に使用する抄録内容にて総合的に判定する。 提出物の遅延および書式の指示に従わない場合は評価の対象外とする。		
テキスト	和文医学学術雑誌, 英文医学学術雑誌		
参考文献	必要に応じ配布		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	提出物の期限を厳守すること。講義内では積極的な質疑応答を期待します。 論文の内容は理学療法研究法Ⅰで調整するが, 各ゼミの教員から指示を受ける(指示の無い場合は講義担当教員のチェックを受ける)。 夏季休暇中に論文の抄読を行い, 必要な情報を補足し, プレゼンテーションの準備を行う。発表者および発表グループはレジュメを印刷, 講義開始前までに教員およびクラスに配布する。		

授業科目名	骨関節障害理学療法学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	小野 武也・西山 健二[非常勤講師]		
研究室の場所	三原キャンパス 4431研究室(小野)		
オフィスアワー	毎週火曜日昼休み。場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。講義では実際の症例のスライドやVTR等の情報も提示する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	筋・骨格系運動障害, 四肢, 体幹		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	運動療法は、筋・骨格系の運動障害に対し整形外科の保存療法として実施される。現在においても、整形外科領域における運動療法が理学療法において大きな比重を占めている。本授業は、その理論と実際とを具体的な疾患・障害を題材にして学習することを目標としている。		
授業の内容	<p>(西山担当) 1 概要、疫学、損傷機序 2 診断と評価 3 急性期・亜急性期の治療とリハビリテーション 4 合併症マネジメント 5 合併症マネジメント 6 対麻痺のリハビリテーション 7 四肢麻痺のリハビリテーション 8 車椅子、装具、自助具、福祉機器 9 退院指導、社会復帰、家屋改造 10 復職、復学、スポーツ、体力維持、生活習慣病 11 トピック まとめ 12 筆記試験</p> <p>(小野担当) 肩関節周囲炎に対する運動療法〔その1〕, 肩関節周囲炎に対する運動療法〔その2〕, 腰痛症に対する運動療法〔その1〕, 腰痛症に対する運動療法〔その2〕, まとめ, 期末試験</p>		
成績評価の方法	期末試験の成績で評価する。試験は指定された教室(試験室)内において持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。		
テキスト	随時紹介する		
参考文献	参考文献: 適時紹介・配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	理学療法の臨床現場で筋・骨格系に起因した運動障害を有する患者が対象となる頻度は極めて高い。		

授業科目名	神経障害理学療法学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	島谷 康司, 梅井 凡子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	毎週水曜日の昼休み, 場所は4429研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	授業日程に従い, 講義と実習形式で実施する。学生は, 授業に出席し, 課題レポートを作成・提出をすること, 試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	(島谷担当) 頭部外傷の理学療法 (梅井担当) 神経・筋疾患(パーキンソン, ALS, ギランバレー, 脊髄小脳変性症, 多発性硬化症)の理学療法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	頭部外傷, パーキンソン, ALS, ギランバレー, 脊髄小脳変性症の障害像を理解し, 障害の程度に応じた運動療法を実施できることを目標とする。		
授業の内容			
成績評価の方法	筆記試験と授業態度を勘案して評価する		
テキスト	神経理学療法学(医学書院)		
参考文献	必要に応じて紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	脳の機能解剖, 病理学, 神経内科学, 神経障害理学療法学Ⅰを復習しておくこと。 特に, 脳機能解剖, 神経内科学の復習は必須である。		

授業科目名	内部障害理学療法学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡, 積山 和加子, 千住 秀明 (非常勤講師)		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	田中, 積山: 水曜日の12時から13時		
授業の形式・方式	対面授業。オムニバス方式。一部実習を含む。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	運動療法, 呼吸器疾患, がん, 代謝系疾患		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目は, 理学療法学科「専門領域特有の科目」の障害・治療系理学療法の一つとして位置づけられている。</p> <p>(千住) 呼吸器系疾患に対する運動療法について理解することを目標とする。</p> <p>(田中) がんのリハビリテーションについて理解することを目標とする。</p> <p>(積山) 代謝系疾患に対する運動療法について理解することを目標とする。</p>		
授業の内容	<p>呼吸器疾患とリハビリテーション (聴診, 実技含む)</p> <p>がんのリハビリテーション (総論, 消化器がん, 悪性骨軟部腫瘍, 終末期・緩和ケア)</p> <p>代謝障害のリハビリテーション (糖尿病, 慢性腎臓病, 脂質異常症)</p>		
成績評価の方法	レポートおよび筆記試験の結果より評価する		
テキスト	<p>千住: 千住秀明著『呼吸リハビリテーション入門』神陵文庫</p> <p>田中, 積山: 細田多穂研修『内部障害理学療法学テキスト改訂第2版』南江堂</p>		
参考文献	講義時に紹介します		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	理学療法模擬患者演習Ⅰ		
担当教員氏名(助手氏名)	沖田 一彦, 梅井 凡子		
研究室の場所	三原キャンパス 2510研究室(沖田), 2504研究室(梅井)		
オフィスアワー	毎週水曜日の昼休み。場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。講義, 演習を実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	理学療法過程, 情報収集, 問題点抽出, 目標設定, 治療計画立案, 症例検討, 模擬患者演習		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	理学療法模擬患者演習Ⅰでは, 理学療法過程, すなわち患者に関する情報収集, 問題点抽出, 目標設定, 治療計画立案といった一連のプロセスについて講義及び演習を実施する。演習では理学療法過程の理論的背景を説明した後に, 臨床現場の理学療法士より実際に担当している症例を提示していただきグループ学習の形で症例検討を段階的に進めていく。		
授業の内容	以下の内容で授業を進める。1) 理学療法過程の構造, 2) 情報の意味と収集方法, 3) 情報の統合と解釈, 4) 問題点抽出, 5) 目標設定, 6) 治療計画立案, 7) 症例検討演習その1, 8) 症例検討演習その2, 9) 症例検討演習その3, 10) 症例検討演習その4, 11) 症例検討演習その5, 12) 演習内容の発表その1, 13) 演習内容の発表その2, 14) 演習内容の発表その3, 15) まとめ, 16) 期末試験。		
成績評価の方法	期末試験の成績で評価する。試験は指定された時間(60分)内で提示されたテーマについて2,000字程度のレポートを作成する形式で行う。指定された教室(試験室)において自作の資料のみ持ち込み可で実施する。なお, 講義の参加態度も評点の対象とする。		
テキスト	奈良勲監修:「臨床実習とケーススタディ」医学書院, 2011		
参考文献	理学療法過程に関連した文献資料を適時配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	理学療法学科3年次後期開講の「基礎臨床実習Ⅱ」における学修内容は, 本授業の内容が核となるため, 特に演習には積極的に参加してほしい。		

授業科目名	理学療法模擬患者演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	金井・沖・原田(俊)・沖田・小野・田中(聡)・飯田・梅井・島谷・長谷川(正)・助教		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	毎週水曜日12時から13時 これ以外の面談は要予約.		
授業の形式・方式	対面授業および実習形式で行う. 学生は授業および実習に出席し, 試験を受けることが義務付けられる.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	臨床実習, 模擬患者, 臨床適応能力		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学外の臨床実習では, 知識面以外の 技術面・態度面ですまなく学生が多い。そこで模擬患者演習Ⅱでは, 臨床実習を前に自分のコミュニケーション能力を含めた技術面・態度面の能力を知り, 改善が必要なところがあればそれを自覚する事を目的する.		
授業の内容	総合臨床実習を問題なく遂行するための技術面・態度面での能力を向上させるため, ビデオや事例による症例検討および模倣を演習の中で実施する. 面接技能試験としてSP演習を実施し, さらに最終試験として「関節可動域の測定」, 「筋力の測定」, 「移乗動作の介助」, 「下肢免荷歩行の訓練」, 「物理療法の施行」などの項目について客観的臨床能力試験(OSCE)を実施する.		
成績評価の方法	授業への出席状況とSPおよびOSCEによる点数を勘案し, 評価する. なお, その内訳は出席15%, SP10%, OSCE75%, 計100%=100点とする. 60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実技を行うことがあるので, 運動のできる服装を準備しておくこと		

授業科目名	日常生活活動学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	島谷 康司, 金指 美帆		
研究室の場所	三原キャンパス 4429研究室, 2320研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日の昼休み, 場所は4429もしくは2320研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	授業日程に従い, 講義と実習形式で実施する。学生は, 授業に出席し, 課題に応じたレポート発表(試験)を行なう義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	日常生活活動, 生活関連活動, quality of life		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	日常生活活動学で学んだ生活基本動作の分析・評価および, それに障害をもつ場合の支援・指導法が実施できることを目標とする。		
授業の内容	脳血管障害, 整形外科疾患, 神経難病など, 各障害の疾患別に日常生活の特徴を復習し, その支援と指導方法について実習形式で行なう。具体的には, 食事・整容・排泄・更衣・入浴・移動(移乗)や階段などの応用動作について講義に続いて実習を行う。注)授業の進展に応じて変更する場合があります。		
成績評価の方法	授業態度, レポート課題および口頭試問, 実技試験の成績で評価する。		
テキスト	日常生活活動(ADL) (神陵文庫)		
参考文献	日常生活活動のキネシオロジー(医歯薬出版) 標準理学療法「日常生活活動学・生活環境学」(医学書院)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	解剖学, 運動学, 生理学等の基本を理解しておくこと。また, 脳血管障害, 関節リウマチ, 脊髄損傷, 筋萎縮性側索硬化症などの疾患を復習しておくこと。 授業の予習と前期の日常生活活動学Ⅰの復習をしておくこと。		

授業科目名	実践理学療法学特論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	小野 武也, 宮崎純也 (非常勤)		
研究室の場所	京都橘大学 (宮崎), 三原キャンパス 4431研究室 (小野)		
オフィスアワー	最初の授業の時に連絡する		
授業の形式・方式	対面授業。前半はPCプレゼンテーション、資料などをもとに授業を進め、後半は実技を中心とする。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	理学療法学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	関節包内運動		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、理学療法学科「専門領域特有の科目」の応用・実践系理学療法学の一つとして位置付けられている。		
授業の内容	徒手療法とは、関節拘縮や疼痛に対して体表から徒手的な操作を加えることでそれらの改善を図るさまざまな手技の総称である。徒手療法論では、代表的な手技を取り上げ、その理論と実際について教授する。		
成績評価の方法	出席や授業態度および試験により評価する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	実践理学療法学特論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	沖田 一彦		
研究室の場所	三原キャンパス2510研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日の昼休み。場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。講義，演習を実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	運動機能，運動学習，認知過程，認知運動療法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	運動機能の再教育は，従来よりの機械論的な科学観に基づき，運動療法や物理療法の形でさまざまに実施されてきた。本論では，それらの問題点について論じたのち，神経心理学や認知心理学を導入した新しい視点から運動の再教育を試みる方法として「認知運動療法」を取り上げ，その理論と実際について解説する。		
授業の内容	<p>以下の内容で授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 運動機能再教育の現状と課題</li> <li>2) 認知運動療法とは何か</li> <li>3) 認知運動療法における治療の組織化 [その1]</li> <li>4) 認知運動療法における治療の組織化 [その1]</li> <li>5) 認知運動療法における治療の組織化 [その2]</li> <li>6) 認知運動療法の実際 [その1]</li> <li>7) 認知運動療法の実際 [その2]</li> <li>8) まとめとレポート課題の提示・解説</li> </ol>		
成績評価の方法	出席とレポート（各50点）によって判定する。レポートは第8回目の授業で提示する症例の病態解釈と治療計画の立案からなる。よって，第8回目の授業を特段の理由なく欠席した場合，レポートの提出は認められず，単位も認定できないので注意して欲しい。		
テキスト	教科書：Franca Pante' 『認知運動療法講義』協同医書出版，2004		
参考文献	参考文献：Carlo Perfetti, 他『認知運動療法・運動機能再教育の新しいパラダイム』協同医書出版，1998		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	理学療法，作業療法に共通した運動機能再教育に広く関わる内容となるので，できるだけ多くの学生の履修を期待する。		

授業科目名	実践理学療法学特論Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	浦辺 幸夫 [非常勤講師]		
研究室の場所	広島大学大学院医歯薬保健学研究科		
オフィスアワー	連絡有れば電話ください		
授業の形式・方式	対面授業。講義と実技を交えてより実践的なスポーツ理学療法論を教授します。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	スポーツ理学療法学, スポーツ外傷学, スポーツ医学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、理学療法学科「専門領域特有の科目」の応用・実践系理学療法学の一つとして位置付けられている。		
授業の内容	<p>スポーツ理学療法論では、スポーツによる急性外傷および慢性外傷について、その発生機序、診断、理学療法評価などについて基本的な知識を学ぶ。そして、スポーツ復帰を可能にするための理学療法手技について、実習もまじえ専門的な知識・技術を教授する。</p> <p>。</p>		
成績評価の方法	出席および期末試験の結果により評価する。		
テキスト	浦辺幸夫著『スポーツ理学療法』（医歯薬出版）		
参考文献	参考文献：浦辺幸夫著『スポーツ理学療法』（医歯薬出版）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実技を多く取り入れ、専門領域の知識・技術の修得に役立つと思います。また、将来のスポーツ理学療法士の認定やアスレティックトレーナー資格取得の参考にしてください。		

授業科目名	応用理学療法学特論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	金井 秀作		
研究室の場所	三原キャンパス 4421研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日12時から13時 これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。講義，演習を組み合わせで行う。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	動画解析，三次元運動分析，歩行分析，異常動作発見，臨床思考		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	評価・診断系理学療法学の一つとして位置付けられている。すなわち動作観察からの臨床的問題点（運動レベル）の抽出技術を体得することを目標とする。		
授業の内容	臨床動作解析学では，模擬患者（健常者）や患者様の実際の動作（主に歩行）を観察・分析し，問題点を運動レベルで発見できるようにビデオ・パソコンを用いた演習形式での授業を実施する。		
成績評価の方法	出席および演習のレポートにより判定。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実技ができる服装にいつでもなれるよう準備すること。		

授業科目名	応用理学療法学特論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡		
研究室の場所	三原キャンパス 2513研究室		
オフィスアワー	水曜日の12時から13時		
授業の形式・方式	対面授業と一部実習形式		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	リハビリテーション工学, バーチャルリアリティ, IT技術, 人間支援工学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本講義では, リハビリテーション工学, バーチャルリアリティ (仮想環境) 技術やIT技術を利用した運動機能評価ならびに運動療法の在り方とその実際を理解することを目指します。加えて, それらの技術をリハビリテーション分野に応用し人を支える技術を考えます。</p>		
授業の内容	<p>バーチャルリアリティとは? 人の感覚と錯覚, 仮想環境内で運動療法は可能か? IT技術を利用したセンサーと運動療法装置, 人間支援工学とリハビリテーション</p>		
成績評価の方法	レポートと期末試験により評価します		
テキスト	講師作成資料を配付		
参考文献	講義時に紹介します		
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実習には積極的に参加してください。		

授業科目名	<b>基礎臨床実習Ⅱ</b>		
担当教員氏名(助手氏名)	沖田一彦, 田中聡, 小野武也, 金井秀作, 島谷康司, 長谷川正哉, 梅井凡子, 金指美帆, 高宮尚美, 武本秀徳, 積山和加子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	面談はともに要予約。		
授業の形式・方式	実習施設の臨床実習指導者の下での臨床実習。		
単位数(時間数)	4単位 (180時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	総合リハビリテーション, 医学的リハビリテーション, リハビリテーション医学, チーム医療, 理学療法士, 運動療法, 物理療法。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	基礎臨床実習Ⅱでは, 臨床実習場面で実習指導者の指導・監督の下に, とくに理学療法評価に関する実習を行います。学内での講義や実技実習で学んだ各種の評価手技を対象の方(患者)に適用する場合の注意点や反応の実際について学びます。		
授業の内容	基礎臨床実習Ⅱの実習は, 同一の臨床実習施設において4週間行われます。その内容は, 各施設における実習指導者の指導・監督の下, 実際の対象の方(患者)に対して理学療法評価を行い, その結果の解釈・統合・検証, さらに治療計画の立案までを経験するものです。学内においては実習前オリエンテーションを, 実習終了後には報告会を行い, 次の総合臨床実習に繋げていきます。		
成績評価の方法	出席と実習指導者による報告書, および実習中に評価を行った症例のケース・レポート等により総合的に評定する。無断欠席を行うとその時点で実習が中止になることがある。正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は, 評価の対象とみなさない。		
テキスト	鶴見隆正編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー』(医学書院) ※(購入済み)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本実習は理学療法評価に関わる知識・技術を臨床において実践する重要な機会であるため, 事前学習や実習中の自己学習に励んで下さい。また, 実習は大学を4週間にわたり行われるために自己の健康管理にも十分に気を付けて下さい。		

授業科目名	理学療法総合演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	田中聡, 沖貞明, 原田俊英, 沖田一彦, 小野武也, 金井秀作, 飯田忠行, 梅井凡子, 島谷康司, 長谷川正哉, 武本秀徳, 積山和加子, 高宮尚美, 金指美帆		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	水曜日の12時～13時(田中)		
授業の形式・方式	対面授業。講義, 演習を実施します。		
単位数(時間数)	1単位(30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	理学療法学科4年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	理学療法士国家試験, 専門基礎分野, 専門分野		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	理学療法総合演習Ⅱでは, これまでの過程において学修した医学的基礎知識, 理学療法専門知識を整理し, 国家試験に向けた準備および対策を目的に実施します。		
授業の内容	実際の国家試験に合わせた模擬試験を数回実施します。また, 解答および解説では, 知識の再確認に加え, 出題傾向の確認や学修方法について情報を共有するためにグループ学習の形式の演習も取り入れて実施します。		
成績評価の方法	グループ演習の参加状況および模擬試験の成績を勘案し, 評価します。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	講義内で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本演習は国家試験に向けた専門基礎知識および理学療法専門知識の理解を深めることを目的としているため, 試験対策に加えて演習にも積極的に参加して欲しい。		

授業科目名	応用理学療法学特論Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	沖田 一彦		
研究室の場所	三原キャンパス2510研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日の昼休み。場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面式の講義およびグループ学習		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	理学療法学科4年次生 前期の「総合臨床実習Ⅰ」および「総合臨床実習Ⅱ」のいずれか、あるいは両方を終了していること。		
免許等指定科目	理学療法士国家試験に関わる選択科目		
キーワード	患者-医療者関係 辛さ (サファリング) 語りに基づいた医療 (ナラティブ・ベースド・メディシン)		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	理学療法士としてよりよい患者-医療者関係の構築と治療介入・指導の実施を行うために、患者・家族のもつ辛さ (サファリング) を、その「語り (ナラティブ)」から理解する。総合臨床実習で経験した事例の内容を検討することで卒後の実践につなぐ。		
授業の内容	患者の「語り」とは何かを講義したあと、総合臨床実習で経験した事例の実際の語りをグループ学習で読み解き、その対応について検討する。		
成績評価の方法	授業、特にグループ学習への参加の積極性70%、授業終了時に作成する簡易なレポート課題の提出30%で評定する。		
テキスト	文献資料を適時配布する。		
参考文献	リタ・シャロン, 斎藤清二, 他・訳『ナラティブ・メディシン—物語能力が医療を変える』医学書院, 2011年		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	作業療法学概論実習		
担当教員氏名(助手氏名)	田端 幸枝		
研究室の場所	三原キャンパス 2503研究室		
オフィスアワー	火曜日12:10-13:00 これ以外は要予約		
授業の形式・方式	授業形態は実習で、授業日程に従って実施される。授業に出席し積極的に参加することと、授業実施後の「振り返り票」の提出及び課題の作成・発表が義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療学科1年次必修科目		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	作業療法, 作業療法士, 障害, 障害児者, 人の尊厳, 優生思想, 作業, 作業の効用,		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	カリキュラム上の位置づけ: 「専門領域特有の科目」の中の「基礎作業療法学」に位置する。授業の目標: 1. 障害の模擬体験を通して、作業療法対象者の不自由さと障害を持つことにより生じるさまざまな情緒に気づく。2. 障害の模擬体験を通して、障害を持ち生活している対象者の能力や技能に気づくと共に、障害を軽減するための工夫を考える。3. 障害者及び障害者家族の体験を聞き、彼らのさまざまな情緒と作業療法士に対する期待を知ると共に、人の尊厳について考える。4. 作業体験から作業が人にもたらす影響を体験する。5. 優生思想について説明できる。6. 上記1~5を通して、本授業開始前よりも作業療法対象者と作業療法学の基礎技法や概念についての理解を深める。		
授業の内容	作業療法を行う上で必要な障害児・者の心身の障害特性と機能特性を実習を通して学ぶ。同時に、これらの特性に対処する基礎知識と技術を修得する。具体的には、障害の模擬体験、介助方法の実習、障害児・者とその家族との関係を理解するための障害児・者との交流、障害児・者との交流等を体験する。		
成績評価の方法	授業参加度及び振り返り票の提出40%, 課題20%, 期末試験40%の割合で評価される。「振り返り票」は授業毎に配布され、学生は次の授業の開始時に提出する。課題については、初回授業のオリエンテーションで提示される。		
テキスト	使用しない。必要な資料は授業時に配布される。		
参考文献	必要な参考資料は授業時に提示される。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実習が円滑に行えるように、ズボンと運動靴を着用してください。毎回の授業で「振り返り」が求められるので、学習内容を復習することが必要です。明確な目的意識と積極性が授業で評価されます。		



授業科目名	作業科学		
担当教員氏名(助手氏名)	吉川 ひろみ		
研究室の場所	三原キャンパス 3404研究室		
オフィスアワー	月曜日4時限		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義とディスカッションで実施する。1回の講義につき1・2章の講義を想定し、授業時間1時間(1回)と学生の自習2時間を想定した授業を行う。レポートの提出を義務付け、不十分な場合は再提出させる。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科1年次必修科目		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	作業, 健康, 生産的, 楽しみ, 休息, 作業バランス, モチベーション, アイデンティティ, フロー経験, 適応, 環境, 空間, 時間, アフォーダンス, 社会, 文化, 意味, 目的		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、作業に関する知識を体系的に蓄積し探求するために誕生した「作業科学」の概要について学ぶ。作業科学は、作業療法に関心をもつ学生の教養科目の一つとして位置づけられる。学生は、作業がもつ主観的側面について、自らの経験や他者の叙述を通して具体的に理解する。また、作業を行う環境の影響について考え、環境が変わることによって行われる作業遂行がどのように変化するかを学ぶ。さらに、時間的側面や、社会・文化的側面から、作業を理解する視点を学ぶ。作業科学の学術論文を読み、内容を理解し、自らの経験と照らし合わせて考察することができることを目標として授業を行う。		
授業の内容	教科書の内容を理解しようと努力し、疑問をもち、質問する。課題を通して自らの経験と照らし合わせる。小グループでのディスカッションを通して、自らの経験を説明したり、他者の経験に共感する。ディスカッションを通して、新たな問題に気づき考えを進めていく。課題提出を通して、学生は自らの理解を振り返り、教員は学生の理解を確認する。		
成績評価の方法	参加20%、課題レポートなど(宿題)40%、期末試験レポート40%の割合で評価する。課題は、作業的存在, 読書課題、文献抄録、ポートフォリオとする。レポートは、A4サイズとする。		
テキスト	吉川ひろみ:「作業」って何だろう 作業科学入門, 医歯薬出版, タウンゼント他著, 吉川ひろみ他訳:続・作業療法の視点, 大学教育出版菊池恵美子監修:英語で学ぶ作業療法, CBR		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、配布資料と教科書に沿って予習・復習をすること。授業予定の詳細は第1回の授業日に提示する。欠席する場合は直接あるいは間接的に、事前にあるいは当日連絡する。レポートは、オリジナリティのある内容になるよう心がけること。他学生と類似した内容のレポートの場合には事情聴取するかもしれない。		

授業科目名	作業科学実習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	古山 千佳子, 西村 玲子		
研究室の場所	三原キャンパス 3405研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日10時～12時 場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	実習中心の授業。		
単位数(時間数)	1単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科1年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	人ー環境ー作業、作業の意味、作業の治療的利用、目的としての作業、手段としての作業、工程分析、活動分析、作業遂行分析、課題分析、創作的作業		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人が行う様々な作業について、工程分析、活動分析、作業遂行分析、課題分析が実施できることを目標とする。また、作業遂行分析、課題分析の結果に基づき、作業を治療的に利用する方法を理解し、作業を治療手段として用いる方法を修得する。さらに、創作的作業を体験する中で、作業の基本的な技法を修得すると共に、作業の個人的・文化的意味、人と環境と作業の関係、作業が人に与える影響等についても理解することを目標とする。		
授業の内容	1. 人が行う様々な作業について、工程分析、活動分析、作業遂行分析、課題分析について学んだ後、それぞれの分析を実施する、2. 作業の治療的利用について学び、作業を治療手段として用いる方法について考える、3. 創作的作業を人に教えたり教えられたりする経験を通して、各作業に必要な道具や材料を調べ、基本的な技法を修得すると共に、社会にとって或いは自分にとっての作業の意味や影響について振り返る		
成績評価の方法	授業への参加、課題レポート、作品等から総合的に評価する。この授業は実習が中心となるため、授業態度や作成した作品も成績評価の対象とする。		
テキスト	特に指定しない。必要に応じて講義の際に指示及び配布する		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	この授業は実習が中心であり、実際に作業を体験しながら学んでもらう。学生の主体的な参加を望む。		

授業科目名	基礎臨床実習		
担当教員氏名(助手氏名)	土田 玲子、永吉 美香		
研究室の場所	三原キャンパス 2512研究室(土田), 3412研究室(永吉)		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	実習、発表		
単位数(時間数)	1単位(45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科1年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	作業療法実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	①作業療法士の様々な役割について臨床現場での見学体験を通して理解する。②作業療法士に必要とされる資質を理解し、自己啓発の具体的実践プランをたてる。		
授業の内容	①様々な臨床施設において2日間づつ3か所見学実習を行う。②実習終了後、学んだ内容をまとめ、セミナーにて発表する。		
成績評価の方法	出席40%、記録、報告30%、セミナー発表30%		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	専門職としての一般的規律を学び、実践することが重要となる。そのため、マナー、服装、態度を含め、職業倫理の実践が求められる。		

授業科目名	作業療法評価学		
担当教員氏名(助手氏名)	吉川 ひろみ		
研究室の場所	三原キャンパス 3404研究室		
オフィスアワー	月曜日4時限		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義と演習を行う。授業時間1時間(1回)と学生の自習2時間を想定した授業を行う。テキストの記載内容や面接の練習を通して生じた疑問をもとにディスカッションしながら授業を進める。学生はポートフォリオを作成する。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科2年次必修科目		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	作業療法プロセス、作業療法評価、標準化された評価法、面接、観察、記録		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	作業療法評価の目的と意義を学ぶ。基本的評価技法としての面接と観察の基礎を理解する。標準化された評価法を使用することの意義と使用に際しての考慮点を学ぶ。クライアントと共に作業療法を始める上での基本事項であり、具体的介入方法に関する他の専門科目の基礎を習得する。		
授業の内容	テキストを読み、面接と観察の練習を行う。面接者としての自分の特徴を理解し、友人や家族を対象に面接の練習を試み、対象者の作業プロフィールを理解したり、作業ニーズを知る。作業療法評価について重要事項や問題点について述べるができるように、文献的知識と面接実践による経験とを統合する。		
成績評価の方法	参加40%、レポート20%、ポートフォリオ面接試験40%。ポートフォリオ面接試験では、自らの学習プロセスについて評価する。		
テキスト	マリー・ロー他著、吉川ひろみ訳：COPMカナダ作業遂行測定 第4版吉川ひろみ：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド、医学書院、タウンゼント他著、吉川ひろみ他訳：続・作業療法の視点、大学教育出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、面接と観察の練習を行い、結果を記録する。自らの学習の証拠としてポートフォリオを作成すること。ポートフォリオ面接試験では、学生が何をどのように学んだかを伝えるための努力をすること。授業予定の詳細は第1回の授業日に提示する。欠席する場合は直接あるいは間接的に、事前にあるいは当日連絡する。		

授業科目名	身体障害治療学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	西田 征治		
研究室の場所	三原キャンパス 3420研究室		
オフィスアワー	水曜日16:20-17:50		
授業の形式・方式	対面授業で行う。授業の方法は講義、グループディスカッション、グループ発表等を組み合わせて行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科2年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	作業とクライアント中心の実践, 作業遂行, 作業の治療的活用, ADL/IADL		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	作業療法で用いられる様々な治療理論やプロセスについて理解することを目標とする。中でも、作業に焦点をあてたクライアント中心の作業療法を実践するためのプロセスを学習することに主眼を置く。本科目の内容は人-作業-環境と健康の関係を理解することつながる。		
授業の内容	作業療法の対象となりうる代表的な疾患(脳卒中、脊髄損傷など)を有する事例を提示し、クライアント中心の作業療法のプロセスを学ぶ。具体的には、事例を通してクライアントの作業上の問題(クライアントにとって重要な作業)、作業遂行分析、評価の選択と実施方法などについて学ぶ。これらの情報をもとにクライアントの目指す成果と介入計画を立案する。事例に必要な評価をグループ形式で演習する。脳卒中片麻痺のクライアントに対する介助動作の方法を実習形式にて学習する。		
成績評価の方法	授業の参加態度、レポート、期末試験を総合して評価する。特に態度面を重視して評定する。試験は指定された教室(試験室)内で実施する。レポートの課題は、授業の内容に応じて随時提示する。		
テキスト	岩崎テルコ: 身体機能作業療法学, 医学書院		
参考文献	1. 坪田貞子: 身体作業療法クイックリファレンス, 文光堂2008 2. AOTA: OT Practice Framework: AJOT 62(6), 625-690, 2008		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	精神障害治療学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	田端 幸枝		
研究室の場所	三原キャンパス 2503研究室		
オフィスアワー	火曜日12:10-13:00。これ以外は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義及び演習形式で実施される。授業に出席し積極的に参加することと課題を作成し提出すること、試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科2年次必修科目		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	精神障害, 精神科作業療法, 精神科デイ・ケア, 病院精神科医療, 地域精神科医療		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	カリキュラム上の位置付け: 「専門領域特有の科目」の中の「精神障害作業療法学」に位置する。授業の目標: 1. 精神科領域における治療概念について説明できる。2. 対象者と治療契約を結ぶための技術を実践できる。3. 主たる精神障害(統合失調症, 気分障害, アルコール使用による精神及び行動の障害, 知的障害, 心理的発達の障害, 神経症性障害, パーソナリティ障害, 症状性を含む器質性精神障害等)に対する診療報酬点数表で求められる標準的治療について説明できる。4. 治療における基本的知識(精神科作業療法, 精神科デイケア, リスク等)について説明できる。5. 治療に必要な医療倫理事項について説明できる。		
授業の内容	医療における精神障害に対する作業療法は精神科作業療法と精神科リハビリテーションに大別できる。本授業では主として診療報酬の区分で精神科専門療法とされている作業療法について学ぶ。		
成績評価の方法	中間試験40%, 期末試験40%, 授業への参加・貢献度及び課題20%の割合で評価される。中間及び期末試験はいずれも筆記試験で, 指定された試験日の授業時間内で実施される。		
テキスト	標準作業療法学 精神機能作業療法学 第2版, 医学書院, 2014. 図解作業療法技術ガイド. 文光堂, 2011.		
参考文献	標準作業療法学 精神機能作業療法学, 医学書院, 2010, 標準作業療法学 作業療法評価学 第2版, 医学書院, 2011.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	作業療法士国家試験を意識して授業を行うので, 予習・復習等の自主的学習が必要です。特に精神疾患の知識は精神医学で学んでいるはずなので, それが不十分であれば自己学習されることをお勧めします。		

授業科目名	発達障害治療学		
担当教員氏名(助手氏名)	土田 玲子		
研究室の場所	三原キャンパス 2512研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	講義および演習		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科2年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	発達障害、脳性麻痺、知的障害、学習障害、注意欠陥多動障害、広汎性発達障害		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	①発達障害領域における作業療法の役割、課題を理解する。②発達障害領域における作業療法の対象を理解する。③姿勢・運動発達、姿勢反射の発達、およびその役割を理解する。④コミュニケーション能力の発達を理解する。⑤パーソナリティ、社会性の発達を理解する。		
授業の内容	①発達障害の概念について②発達障害の歴史的変遷について③学習障害、注意欠陥多動性障害について④広汎性発達障害に対する作業療法について⑤脳性麻痺に対する作業療法について⑥知的障害に対する作業療法について⑦重症心身障害、その他神経筋疾患に対する作業療法について⑧姿勢反射(原始反射)について⑨姿勢反射(原始反射)について⑩姿勢反射(立ち直り、平衡反射)について⑪粗大運動の発達について⑫巧緻運動の発達について⑬コミュニケーション能力の発達について⑭認知の発達について⑮パーソナリティ、社会性の発達について		
成績評価の方法	参加20%、レポート20%、期末テスト60%		
テキスト	スーザン・M・スティブソン著デチタでちたできた! ウィンドファーム出版、ISBN978-4-9905596-0-1 C0077		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	資料を随時配布する。		

授業科目名	遂行分析学		
担当教員氏名(助手氏名)	古山千佳子		
研究室の場所	三原キャンパス 3405研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日10時～12時、場所は3405研究室		
授業の形式・方式	対面授業。講義または演習形式で授業を実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	作業遂行分析、運動とプロセス技能評価 (AMPS)、学校版運動とプロセス技能評価 (スクールAMPS)、社会交流技能評価 (ESI)、観察評価、運動技能、プロセス技能、社会交流技能		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人が作業する場面を観察し、作業遂行分析ができるようになることを目標とする。具体的には、運動とプロセス技能評価 (AMPS)、学校版運動とプロセス技能評価 (スクールAMPS)、社会交流技能評価 (ESI) の概要を知ると共に、運動技能、プロセス技能、社会交流技能について理解し、これらを用いて作業遂行分析ができるようになることを目指す。		
授業の内容	運動とプロセス技能評価 (AMPS)、学校版運動とプロセス技能評価 (スクールAMPS)、社会交流技能評価 (ESI) の概要と人が作業する際に用いる運動技能、プロセス技能、社会交流技能について教授する。その後、実際に人が作業する場面を観察し、作業遂行分析を実施する。		
成績評価の方法	課題レポート、参加態度を総合して評価する。		
テキスト	作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド, 医学書院, 2008 作業療法がわかるCOPM・AMPS実践ガイド, 医学書院, 2014		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	作業療法管理学		
担当教員氏名(助手氏名)	田端 幸枝		
研究室の場所	三原キャンパス 2503研究室		
オフィスアワー	火曜日12:10-13:00, これ以外は要連絡。		
授業の形式・方式	講義と演習。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次必修科目		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	医療管理, 安全管理, 情報管理, 診療報酬に関わる管理・運営, 介護保険に関わる管理・運営,		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	カリキュラム上の位置付け: 「専門領域特有の科目」の「基礎作業療法学」に位置する。授業の目標: ①医療における管理の重要性について説明できる。②臨床実践において、患者の生命と安全を守るために最低限必要な配慮事項を説明できる。③作業療法における医療事故について、代表的な物理的及び人的な要因と事故予防のために最低限必要な配慮事項を説明できる。④作業療法の診療報酬に関わる規則を説明できる。⑤介護保険報酬で作業療法に関わる規則を説明できる。⑥個人及び医療情報管理について、作業療法を実施する上で最低限必要な事項を述べるができる。		
授業の内容	講義と演習を通して、作業療法士として働く上で必要な管理的知識を習得する。具体的には、医科点数表や介護保険法の報酬などにおいて作業療法と関わる法律や規則について講義を受け、理解を深めるために演習する。また、部門の設計や設備の購入計画及び経営と安全を考える機会を持つ。		
成績評価の方法	授業への参加態度と課題の遂行40%, 中間試験30%, 期末試験30%。		
テキスト	使用しない。		
参考文献	医科点数表の解釈 平成27年度4月版。 その他は授業の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「管理」と聞くと堅苦しいイメージを抱きがちですが身近で興味深い内容ですので、そのことに気付けると楽しく学ぶことができます。		

授業科目名	作業適用学		
担当教員氏名(助手氏名)	永吉美香		
研究室の場所	三原キャンパス 3404研究室		
オフィスアワー	火曜日4時限		
授業の形式・方式	個人課題の遂行とグループによるプロジェクト学習。授業日程に従って、プロジェクト進行の確認を行う。ポートフォリオを作成する。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次必修科目		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	グループプロジェクト、コミュニケーション、成果評価、リーズニング		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	理想の作業療法を描き、その実現のための具体的な取り組みを実行する。論理的に思考し、必要な情報を収集し、情報を批判的に吟味する。前期から継続しているプロジェクトの遂行と省察(振り返り)を繰り返す。成果を報告し、今後の課題を具体的に述べる。		
授業の内容	10年後の理想のイメージと、その実現のためのアイデアを探るためのブレインストーミングを行う。理想実現のためのプロジェクトを企画し、実行する。成果を報告し、ディスカッションを行う。		
成績評価の方法	出席・参加20%、レポート10%、プロジェクト遂行20%、発表20%、ポートフォリオ面接試験30%。ポートフォリオ面接試験では、自らの学習プロセスについて評価する。		
テキスト	吉川ひろみ：「作業」って何だろう 作業科学入門，医歯薬出版カナダ作業療法士協会著，吉川ひろみ監訳：作業療法の視点ー作業ができるということ，大学教育出版Townsend著，吉川ひろみ他訳：続・作業ができるということ，大学教育出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、課題を行い、ポートフォリオを作成すること。ポートフォリオ面接試験では、学生が何をどのように学んだかを伝えるための努力をすること。授業予定の詳細は第1回の授業日に提示する。欠席する場合は直接あるいは間接的に、事前にあるいは当日連絡する。		

授業科目名	身体障害治療学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	西田 征治		
研究室の場所	三原キャンパス 3420研究室 (西田)		
オフィスアワー	毎週水曜日16:20~17:50		
授業の形式・方式	講義, 演習および実習		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	義肢・装具, 手副子 (ハンドスプリント),		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	1. 身体障害者に使用される代表的な義肢・装具を説明することができる. 2. 短対立副子と手関節背屈副子を製作しチェックアウトを行うことができる. 3. 上腕義手のチェックアウトができる. 4. 学生間での身体各部の関節の他動運動ができる. 5. 身体障害者に対して作業に基づく実践のための評価と介入計画を立案することができる		
授業の内容	代表的な義肢装具, 義手のチェックアウト, 関節の他動運動に関する講義, 実習を行う. また, 正中神経麻痺および橈骨神経麻痺に対するスプリントの製作実習を行う. あわせて, 手副子のチェックアウトを行う. 身体障害の事例に対して作業に基づく実践のための評価と介入計画を立案する演習を行う.		
成績評価の方法	課題レポート, スプリント製作, 演習態度および出席を総合して評価する.		
テキスト	1. 岩崎テル子監: 標準作業療法学専門分野・身体機能作業療法学. 医学書院 2. 吉川ひろみ: 作業療法がわかるCOPM, AMPS実践ガイド, 医学書院		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	配布資料はすべて保管 (ファイル) し, 必ず持参して授業に臨むこと		

授業科目名	精神障害治療学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	小池 好久		
研究室の場所	三原キャンパス 2506研究室		
オフィスアワー	火曜日17:00-18:00		
授業の形式・方式	講義及び討論		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	精神障害者の現状. 精神障害領域の作業療法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	精神障害者の置かれている現状を把握し, そのうえで作業療法のアプローチについて考察を深めてゆく.		
授業の内容	いまだに「精神科特例」を排除しきれていない精神障害領域の医療体制という現実を, しっかりと見つめ, 現実に沿いながらも, 精神科作業療法の持つ特性を生かし, 治療という観点から対象者のより良いアプローチについての見解を深める.		
成績評価の方法	基本的には授業参加態度・課題レポート内容を総合的にみて評価. また出席点も加味する.		
テキスト	テキストなし. 授業に必要な資料は, 適宜授業前に配布.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	精神障害治療学実習		
担当教員氏名(助手氏名)	田端 幸枝, 小池好久, 西村玲子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	田端：火曜日12：10－13：00, 小池：金曜日16：20－17：50, 西村：金曜日12：10－13：00		
授業の形式・方式	学内実習。各教員が授業日程に従い、オムニバス形式で実習を行う。授業への積極的参加と課題の遂行が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次必修科目		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	精神科作業療法, 評価・治療技法, 精神科面接, 医療情報の聴取, 精神科観察, 作業分析, レクリエーション指導法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	カリキュラム上の位置付け：「専門領域特有の科目」の中の「精神障害作業療法学」に位置する。授業の目標：田端①精神科面接における医療情報聴取と観察による評価, 医療情報から評価計画立案, 臨床観察を用いた行動評価, 治療計画立案の4点ができる。小池①身体機能を通して導かれる快刺激に焦点を当てた実践アプローチができる。②疾患別の健康な身体(感覚)機能を通して導かれる快刺激のみに焦点を当てたレクリエーションアプローチができる。③精神疾患(主に統合失調症)～スポーツを通した身体(感覚)刺激を通して, スプリッティング等の技法を用いた心理的気付きへ結び付けるアプローチができる。西村①レクリエーション計画立案・実施ができる。②作業分析を経験する。		
授業の内容	指定規則「専門領域特有の科目」中の「作業療法評価額」と「精神障害作業療法学」に該当する『精神障害評価学』『精神障害治療学Ⅰ』『精神障害治療学Ⅱ』『精神障害治療学演習』で学んだ知識と技法を体験する。具体的内容は, 上記授業目標に掲げられた精神科面接における医療情報の聴取と観察, 医療情報の評価計画立案, 観察による行動評価, 治療計画立案, 身体機能を通して導かれる快刺激に焦点を当てた実践アプローチ, スポーツを通した身体(感覚)刺激を通して, スプリッティング等の技法を用いた心理的気付きへ結び付けるアプローチ, レクリエーション指導計画立案と実施, 作業分析の実施などである。		
成績評価の方法	3名の教員が次の割合で成績評価する。 田端：実習姿勢と参加態度, 知識と技術の水準20%, レポート14% 小池：参加状況と課題遂行33% 西村：取り組み16%, 課題レポート17%		
テキスト	使用しない。		
参考文献	各教員が授業時に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	田端：技術は良い経験を積むことにより向上します。 西村：レクリエーション計画提出期限は9月29日(詳細は『精神障害治療学Ⅱ』で説明予定。)		

授業科目名	認知障害治療学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	小池 好久		
研究室の場所	三原キャンパス 2506研究室		
オフィスアワー	金曜日 14:40-16:10		
授業の形式・方式	対面授業・グループワーク		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	神経心理学的機能・認知機能・潜在機能の最大限の活用		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	認知機能障害を、認知症者の脳の機能・病態（自然科学的側面）及び、人としての心理面の機能・病態（人文科学的側面）の双方に焦点を当てる。そのうえで、総合的な人としての認知症者への残存機能の最大限の活用による治療アプローチを計画するまでの過程を習得できることを目的とする。		
授業の内容	神経心理学検査・認知機能検査・認知症の心理面の検査等の客観的評価の手技の習得。評価に伴う治療アプローチの計画立案等一連の過程を、予後も含めて統合的に行えるよう教授する。		
成績評価の方法	試験およびレポート、態度（積極的な姿勢・態度は加点対象として評価）、出席を総合して評価する。		
テキスト	テキストはなし。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	発達障害治療学実習		
担当教員氏名(助手氏名)	土田 玲子, 永吉 美香, 山西 葉子		
研究室の場所	三原キャンパス 2512研究室(土田), 3412研究室(永吉, 山西)		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	講義、演習、実習を組み合わせで行う。		
単位数(時間数)	1単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次対象(発達障害治療学、および発達障害評価学演習を履修していること)		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	発達障害、脳性麻痺、学習障害、注意欠陥多動障害、広汎性発達障害、知的障害		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	発達障害の事例を通し、目標、プログラムの立案のプロセスを理解する。		
授業の内容	①作業療法介入、家族地域支援の原理②作業療法介入の過程と実際③広汎性発達障害の理解と作業療法実践発表④学習障害、注意欠陥多動性障害の理解と作業療法実践発表⑤知的障害の理解と作業療法実践発表⑥脳性麻痺の理解と作業療法実践発表⑦神経・筋疾患の理解と作業療法実践発表		
成績評価の方法	参加20%、課題発表30%、期末テスト50%		
テキスト	なし		
参考文献	別途提示する		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	随時資料を提示する。		

授業科目名	地域作業療法学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	高木 雅之		
研究室の場所	三原キャンパス 2521研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日15時から18時		
授業の形式・方式	授業は学内・学外での演習を中心に行う。さらに、演習内容のディスカッションや成果発表の機会を設ける。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	作業ニーズ, ニーズに気づき行動する力, 地域活性化プロジェクト		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域活性化を目的としたプロジェクトや地域活動に参加する中で、地域のニーズに気づき行動する力を養うことを目標とする。		
授業の内容	地域で行なわれている地域活性化を目的としたプロジェクトや地域活動に参画する。その際、地域作業療法学(前期)で学んだ作業の可能化に関する概念に基づいて地域のニーズを理解し、ニーズを充足するために自ら行動し、その成果を分析する。最後に、プロジェクトのプロセスや成果をまとめて発表する。		
成績評価の方法	プロジェクトへの参加, ポートフォリオ, 成果発表会でのプレゼンテーションなどを総合して評価する。		
テキスト	エリザベス・タウンゼント, ヘレン・ポラタイコ著, 吉川ひろみ, 吉野英子監訳: 続・作業療法の視点ー作業を通しての健康と公正. 大学教育出版, 2011. 日本作業療法士協会: 作業療法マニュアル35ヘルスプロモーション. 2009.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	職業生活援助論		
担当教員氏名(助手氏名)	西村 玲子		
研究室の場所	三原キャンパス 3406研究室		
オフィスアワー	火曜日12:10 - 13:00		
授業の形式・方式	対面授業と体験実習。授業は、講義形式で実施する。見学実習は、広島県内の就労支援を行う事業所・施設にて行う。学生は授業に出席し、試験を受けること・実習に参加することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	職業リハビリテーション, 就労支援, ACT, IPS, ジョブコーチ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	カリキュラム上の位置付け: 「専門領域特有の科目」の中の「地域作業療法学」に位置する。 授業目標: 1. 職業リハビリテーションの概念(歴史, 業務と制度), 障害者の雇用, 就労支援事業所/施設やその機能について説明できる。 2. 就労支援のプロセスを説明できる。 3. 広島県内の就労支援を行う事業所・施設での実習を通してその機能と就労支援の実際・支援者の関わりを体験し, 理解する。 4. 就労支援において支援者に求められる態度, 社会性を理解する。 5. 職業生活におけるメンタルヘルスについて説明できる		
授業の内容	作業療法の知識を基に職業リハビリテーション, 就労支援, 職業生活におけるメンタルヘルスについて学ぶ。見学実習(1日)での経験を報告会にて共有する。詳細は第1回目の講義で説明する。		
成績評価の方法	参加態度(10%), 課題・レポート(40%), 試験(50%)の割合で評価する。		
テキスト	資料は講義の際に配布する。		
参考文献	1. 日本職業リハビリテーション学会 編集: 職業リハビリテーションの基礎と実践. 中央法規, 2012.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	配布資料はすべてファイルし, 持参すること。実習は11月~12月に実施予定であり, 詳細は第1回講義の際に説明する。この科目に関する連絡は教学課掲示板, 作業療法学科掲示板(3号館2階)に掲示することがあるので, 各自で確認すること。		

授業科目名	福祉機器論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	西田 征治		
研究室の場所	三原キャンパス 3420研究室		
オフィスアワー	水曜日 5限目		
授業の形式・方式	対面授業。講義及び演習形式で行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	代償モデル、環境、福祉機器、住宅改修、介護保険、障害者自立支援法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉用具の貸与、給付および住宅改修費の助成に関する制度を理解する。</li> <li>2. 住宅改修に関する基礎知識（家屋構造、建築用語、改修方法、図面の見方など）を身につける。</li> <li>3. 事例（障害者または高齢者）の住環境整備案を立案することができる。</li> <li>4. 高齢者に対する車椅子シーティングのポイントを説明することができる。</li> </ol>		
授業の内容	<p>介護保険および障害者総合支援法における福祉用具の貸与、給付および住宅改修費の助成について教授する。また、住宅改修に関する基礎知識を身につけるために基礎的な家屋構造、建築用語、改修方法、図面の見方や書き方について教授する。それらの基礎知識をもとに仮想事例を通して福祉機器適用および住宅改修のプランニング演習を行う。更に、高齢者に対する車いすシーティングを理解するために、実際に調節機構付きモジュール型車いすを使用し、調整や適合判定の演習を行う。</p>		
成績評価の方法	課題レポート、住環境整備事例の発表、出席および演習態度を総合して評価する。		
テキスト	東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト第2版。東京商工会議所		
参考文献	日本作業療法士協会監修：作業療法全書（改定第3版）第10巻作業療法技術学2福祉用具の使い方・住環境整備。協同医書出版，2009		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、グループ課題に積極的に取り組み、各自が課題に貢献すること。		

授業科目名	作業療法特論		
担当教員氏名(助手氏名)	高木 雅之		
研究室の場所	三原キャンパス 2521研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日15時から18時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	理想、作業的公正、作業剥奪、予防と健康増進、世界における作業療法、作業、職域		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法の可能性と職域拡大について考えることができる</li> <li>2. 世界や地域で起こっている出来事を作業的視点でとらえることができる</li> <li>3. 作業的公正の実現のために行動することができる</li> </ol>		
授業の内容	国内における作業療法の現状・職域を知り、今後の作業療法の可能性と職域拡大について考える。また世界や地域で起こっている出来事を、作業科学の知識を応用し捉え、作業的な視点で問題を理解し、解決方法を探る。作業的にちょうどよい社会の実現のためにできることを考え、行動する。		
成績評価の方法	課題、プレゼンテーション		
テキスト	資料を配付する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	高次脳機能障害特論 I (小児)		
担当教員氏名(助手氏名)	玉井 ふみ		
研究室の場所	三原キャンパス 3504研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面授業を主に講義形式で行う。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	作業療法学科3年次、コミュニケーション障害学科4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	小児、高次脳機能障害、小児失語症、聴覚失認、脳外傷		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	脳外傷、脳炎などによる後天性の高次脳機能障害に伴う小児のコミュニケーション障害の理解と支援の考え方、実際について学ぶ。		
授業の内容	小児の脳・神経系の発達と機能について概観し、小児期に発症し、高次脳機能障害、コミュニケーション障害を呈した脳損傷例の臨床像、評価・診断、指導・支援などについて理解を深める。		
成績評価の方法	授業への参加状況、レポートにより評価する。		
テキスト	講義時に資料を配布する。		
参考文献	笹沼澄子編『リハビリテーション医学全書11 言語障害 第2版』(医歯薬出版)2001、栗原まな『小児の高次脳機能障害』(診断と治療社)2008、石田暉編著『ケアスタッフと患者・家族のための頭部外傷』(医歯薬出版)2005、栗原まな『わかりやすい小児の高次脳機能障害対応マニュアル』(診断と治療社)2009		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	コミュニケーション障害に焦点をあてて講義するため、本障害に関心をもつ学生の受講を希望する。		

授業科目名	高次脳機能障害特論Ⅱ（成人）		
担当教員氏名(助手氏名)	渡辺 眞澄		
研究室の場所	三原キャンパス 3507研究室		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって、講義と演習形式で実施する。1回のレポートを課す。学生は授業に出席し、レポートを作成・提出することが義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位（15時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	失語症		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	失語症を対象とした研究の詳細を理解し、今後の研究の方向を考える。		
授業の内容	主に講義形式で行う。言語情報の統語、形態・音韻情報の処理、および失語症による各処理過程の障害メカニズムと訓練に関する内外の研究を紹介する。日本語話者における分レベルの障害について考える。		
成績評価の方法	授業への出席・参加の態度20％、レポート80％の割合で評価する。レポート課題および提出期限は、授業時間中に提示する。出席が3分の2未満の場合およびレポートの提出がない場合には、単位を取得できない。		
テキスト	講義時に資料を配布する。		
参考文献	熊倉・種村（編）『やさしく学べる言語聴覚障害入門』（永井書店、2011）、鹿島・大東・種村（編）『よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション』（永井書店、2008）、『よくわかる失語症と高次脳機能障害』（永井書店、2003）、重野純（編）『言語とところ』（新曜社、2010）、辰巳格（著）『ことばのエイジング』（大修館、2012）他。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	失語症に関する基礎知識（定義、症状、評価法など）があることが望ましい。英語論文読んでレポートを提出してもらいます。		

授業科目名	地域臨床実習		
担当教員氏名(助手氏名)	古山 千佳子		
研究室の場所	三原キャンパス 3405研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日10時～12時		
授業の形式・方式	学外に配置された実習地にて10日間の実習を行う		
単位数(時間数)	2単位 (90時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科3年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	地域作業療法の実践, カナダ作業遂行測定 (COPM), 作業遂行分析, コミュニケーション技術, 多職種連携, 協働, ヘルスサポーターマインド, プレイバックシアター		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この実習では, クライアントとの協働および多職種との連携を経験しながら, クライアントにとって重要な作業ができるようになるために共に取り組むという作業療法の役割と, 保健・医療従事者としての基本的なルールを体得する. 到達目標は, 「クライアントにインタビューし作業療法について説明ができること, クライアントと共に作業遂行上の問題を特定し, 作業遂行を観察評価できること, そして作業療法計画の立案ができること」である。		
授業の内容	次の1～10の課題を実施する。1. ガイダンス, 2. 臨床実習指導者の指導・監督のもとに, カナダ作業遂行測定COPMを用いてクライアントにインタビューを行い, 作業療法の説明を行う, 3. クライアントにとって意味のある作業や生活に関連のある作業を観察評価する, 4. 必要に応じてADL/IADLや作業遂行要素の検査, 環境評価等を行う, 5. 作業療法計画を立案する, 6. 指導者の補助, 集団療法, クライアントの送迎等を体験する, 7. 体験したことを実習日誌等に記録する, 8. 実習日誌や課題等をまとめて実習記録(ポートフォリオ等)を作成する, 9. 事例報告(1事例)を作成し, 実習セミナーで発表する, 10. プレイバックシアターに参加し, 実習での経験を振り返る		
成績評価の方法	参加, 提出物(実習記録(ポートフォリオ等), 事例報告), 実習終了後セミナーでの発表, 実習指導者からの報告などを総合して判断する		
テキスト	Law M., Baptiste S., Carswell A. et al著, 吉川ひろみ訳『COPMカナダ作業遂行測定第4版』(大学教育出版), 1998.		
参考文献	エリザベス・タウンゼント, ヘレン・ポラタイコ著, 吉川ひろみ・吉野英子監訳『続・作業療法の視点ー作業を通しての健康と公正』(大学教育出版), 2011.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実習開始前にガイダンスを行い, 実習終了後にセミナーを実施する。クライアントに対して面接(COPM)及び作業療法の説明ができるよう練習しておくこと。		

授業科目名	音声・聴覚情報処理		
担当教員氏名(助手氏名)	伊集院 睦雄		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	毎週木曜日18:00-19:00		
授業の形式・方式	講義と演習		
単位数(時間数)	3単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	音、音声、聴覚、音声情報処理機能、コミュニケーション機能、音響学、音響音声学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>音声を介した人間の情報処理機能とコミュニケーション機能を理解し、音声科学と聴覚科学の基礎を修得する。1) 音の特性：音声を伝搬する「音」の物理的特性。2) 音声生成過程：音声生成機構とその理論的解析法。3) 音声の音響分析：音声信号の基礎と音響分析の実習。4) 聴覚機構：音声の分析装置としての聴覚機構。5) 聴覚科学：音や音声の知覚と認知。6) 聴覚による環境理解の解説。</p>		
授業の内容	<p>1) 音の物理：音の生成と伝搬、音の3要素。2) 音の波形：純音と複合音、部分音、実効値とデシベル。3) スペクトル：線スペクトル、連続スペクトル、フーリエ変換。4) 音声生成の音響学：音源と共鳴、放射の考え方、伝達関数。5) 母音：フォルマントの成り立ち、極と零。6) 子音：有声・無声、構音点、構音様式と音、調音結合。7) プロソディ：アクセントとイントネーションの音響学。8) 音声分析：デジタル信号処理の基本原則。9) 音声分析実習：音のスペクトル、母音の音響特性、母音と子音の示差的特徴。10) 音声分析実習：プロソディの音響的特徴、話し言葉の解析。11) 聴覚機構：音を知覚する仕組み。12) 音の心理的属性：音の高さ、大きさ、聴覚フィルタ、マスキング。13) 聴覚中枢機構：音の知覚と体制化に関する中枢機構。14) 聴覚における情報処理：言語音声の知覚と認知の諸特性。15) 音声・聴覚医科学への発展：オージオグラムと補聴器の基礎</p>		
成績評価の方法	小テスト、中間試験、期末試験、演習レポートと出席で総合評価する。		
テキスト	今泉敏著：言語聴覚士のための音響学（医歯薬出版）、2012（改訂）、必要に応じて追加資料を配布する。		
参考文献	今泉敏編集：言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学（医学書院）、2009 吉田友敬著：言語聴覚士の音響学入門（海文堂）、2005		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	自分や仲間の音声を対象にして、音声の構音、聞こえとその物理的性質との相互関係を具体的に解析・解説できるようにする。使える知識の獲得を目指すので、実験的なアプローチに慣れることが重要である。		

授業科目名	言語発達		
担当教員氏名(助手氏名)	玉井 ふみ		
研究室の場所	三原キャンパス 3504研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	主に講義形式で対面授業を実施する。また、通常の授業時間以外の日程（1日）で保育所見学を実施し、見学レポートを課す。		
単位数(時間数)	1単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	言語・コミュニケーションの発達、認知発達、社会性の発達、前言語期、幼児期、学童期		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、言語発達について初めて学ぶ学生が、典型的な言語発達の様相および言語獲得過程について基礎知識を習得することを目標とする。2年次に履修する「発達系障害学概論Ⅰ」で学ぶ言語発達障害の言語発達および評価診断・支援の基礎になる科目である。		
授業の内容	言語発達に遅れのある子どもの臨床を行うためには、言語・コミュニケーションの典型発達に関する基礎知識を身につけることが必要である。前言語期、幼児期、学童期の各発達段階における語彙・構文・談話・読み書き能力を含む言語発達の様相について学ぶ。また、言語発達を規定する生得的要因と環境的要因の相互作用による言語獲得過程、認知機能の発達や社会性の発達と言語発達との関連性について理解を深める。		
成績評価の方法	授業への参加状況、レポート、期末試験により評価する。		
テキスト	講義時に資料を配布する。		
参考文献	秦野悦子編『ことばの発達入門』大修館書店2001、岩立志津夫・小椋たみ子編『よくわかる言語発達』ミネルヴァ書房2005、内田伸子著『発達心理学 ことばの獲得と教育』岩波書店1999、岡本夏木著『子どもとことば』岩波書店1982、今泉敏編『言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学』医学書院2009		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本科目はことばやコミュニケーションに障害のある子どもについて理解を深め、臨床を行っていくうえで基礎になる科目である。関連する文献を読んだり、実際に子どもとかわる機会を持つなど関心を持って取り組んでほしい。		



授業科目名	対人コミュニケーション論		
担当教員氏名(助手氏名)	辻村 徳治[非常勤講師]		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	大学構内の、教室でできる構造化された体験学習で、参加型の学習を実施する。2年次に開講するグループダイナミクスへの橋渡しの時間も設ける。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	言語的・非言語的コミュニケーション, アサーション・トレーニング, 体験学習習		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の授業目標は、対人場面で適切なコミュニケーションが図れるようになることである。カリキュラム上は、コミュニケーション障害学科「専門領域特有の科目」の専門選択科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	本講義では、対人コミュニケーションの実践的な理解を目的に、言語的コミュニケーション及び非言語的コミュニケーションについて、社会心理学的見地から教授する。また、自己開示、説得、共感など、コミュニケーションの進展に関わる諸概念を、構造化された体験学習を用いて実践的に体得できるよう指導する。さらに、適切なコミュニケーションの方法として、アサーション・トレーニングの実習を導入して、実生活に役立つ対人コミュニケーション能力の修得を目指す。		
成績評価の方法	レポートを中心に、授業中の学習態度を含め総合的に評価する。ポイントは授業への参加度と理解度である。またどれだけ自分自身のこととしてリアルに授業に参加しているかも重視する。出席することが必須の条件で、遅刻に対して厳しく減点する。		
テキスト			
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング～さわやかな〈自己表現〉のために』(金子書房)2009</li> <li>・津村俊充・山口真人編『人間関係トレーニング(第2版)』(ナカニシヤ出版)2005</li> </ul>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	主体的な授業への参加が求められる。2年次のグループダイナミクスで実施する部分と関連があるので、「グループダイナミクス」(2年次開講)を履修するには、本科目を履修していることが前提となる。		

授業科目名	心理測定法		
担当教員氏名(助手氏名)	古屋 泉		
研究室の場所	三原キャンパス 4418研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業. 講義形式と実習の組み合わせ		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	推計統計学, 検定法, 心理尺度構成法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人間の感覚・知覚, 認知過程などの測定の基礎を獲得する. 併せてデータ解析の基本である推計統計学による検定法の考え方を学習する. 統計検定を実際にどのように使用するかを, 実際の測定とそのデータを解析を実習しながら学び, 自力でデータの解析, グラフ化して解釈する能力を獲得する. 統計的な考え方はあらゆるデータの科学的な見かたの基礎である. この能力は以後の実習, 研究に必須のものである.		
授業の内容	人間の心的な機能の測定とはいかなるものであるか, 知覚・認知, 発達, 社会行動などの研究領域の事例をとりあげ, 心理測定の基本的な方法についての講義と実習を行う. また, 臨床で用いられる心理テストによる測定・評価法について, 背景となる理論と, 具体的な方法についても講義する.		
成績評価の方法	試験70%, レポート課題と授業への積極的な参加30%.		
テキスト	教科書: 山内光哉, 心理・教育のための統計法<第三版>, サイエンス社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	高校程度の数学, 前期の統計学の内容は既知のものとして授業を進める. 知識が不足している者は自ら補っておくこと. また関数電卓を使用する.		

授業科目名	コミュニケーション障害診断法		
担当教員氏名(助手氏名)	吐師道子 城本修 渡辺真澄 細川 淳嗣 堀江真由美 中村 文 津田 哲也		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
授業の形式・方式	授業日程に従って、演習及びセミナー形式で実施する。学生は授業に出席し、レポートを作成・提出すること。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	成人のコミュニケーション障害、小児のコミュニケーション障害、情報収集、検査、診断		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>コミュニケーション障害における診断とは、各種検査および評価法により患者・クライアントの行動を総合的に記述し、健常者のデータとの比較を行い、それらを患者・クライアントの背景情報と統合することによって、障害発生メカニズムについての仮説形式にいたるプロセスである。本授業では、コミュニケーション障害の診断に関わる基本的な考え方を中心に、情報収集の方法、臨床手続きの流れについて学び、鑑別診断の手がかりを掴むスキルの獲得を目指す。具体的目標は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 未だ診断のついていない患者さんに対して鑑別診断に必要な情報収集のためのインテーク面接を行えるようになる。</li> <li>2) (成人) 主要なコミュニケーション障害間の鑑別診断を行うための質問が出来るようになる。</li> <li>3) (小児) 子ども自身の(自由遊び場面からの)行動観察から障害の診断に必要な情報を得ることができる。</li> <li>4) (小児) 親との面接から障害の診断に必要な情報を得ることができる。</li> </ol>		
授業の内容	演習を通し、コミュニケーション症状の特徴及び背景情報の収集、情報の分析と解釈について学ぶ。小児については正常発達の各種データ、成人に関しては健常者データに基づく鑑別診断の流れについて学び、考え方について演習を行う。		
成績評価の方法	小児部分40%、成人部分60%、 成人：発表(10%)、出席&授業中の課題(10%)、インテークフォーム(20%)、教員が患者となつての診断テスト(20%)、 小児：レポート①～④(各10%)		
テキスト	指定のテキストはない。適宜資料を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	出席及び演習への積極的参加を重視する。		

授業科目名	発声発語・嚥下系障害学概論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	小澤 由嗣		
研究室の場所	三原キャンパス 4432研究室		
オフィスアワー	特になし（できるだけメール，来室等により予約をしてください）．		
授業の形式・方式	講義形式（対面授業）で基本的知識の学習を行いつつ，症状等の理解を深め，基礎的臨床技能を習得する目的で，障害音声の聴き取り等の実習を行う．そのため，受講者は授業に出席し，課題を実施し提出する必要がある．		
単位数(時間数)	2単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	発声発語器官（呼吸・発声・口腔構音器官）の構造と機能，構音障害（機能的，器質性，神経・筋原性（dysarthria：運動障害性構音障害）），評価，訓練		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この講義の目標は，（1）発声発語の正常メカニズムと障害の発現機序について学ぶこと，（2）障害の有無を鑑別し，症状を把握する力をつけることと，（3）言語聴覚士による支援の基本的方法を身につけることである．カリキュラム上，特に，1年次に履修した解剖生理学，音声学，音声情報処理，2年次の神経内科学，耳鼻咽喉科学，形成外科学，歯科口腔外科学の学習内容と密接な関連を持つ．		
授業の内容	本講義で学ぶ話し言葉（speech）の障害は，小児から高齢者まで幅広い年齢層で，高頻度にみられる。これらは，発声発語器官の各レベルにおける様々な問題が原因となって生じる。 専門的な支援を行うにあたっては，まず，どのレベルで，どのような問題が生じているかを把握し，原因疾患・重症度に応じたアプローチを立案していく。 本講義では，発話産生のプロセスを発達的，分析的，統合的な視点から捉える方法と言語聴覚士による支援方法の基本的な考え方を学ぶ。		
成績評価の方法	単元毎等の試験80%，演習課題，受講姿勢等20%の割合で判定する。		
テキスト	発声発語障害学（熊倉勇美ほか編，医学書院，2010），構音障害の臨床（阿部雅子，金原出版，2008）		
参考文献	口蓋裂の言語臨床第3版（岡崎恵子ほか著，医学書院，2011），口腔・中咽頭がんのリハビリテーション（溝尻ほか編著，医歯薬出版，2003），運動性構音障害（Duffy, JR著，医歯薬出版，2004），運動性発話障害の臨床（Yorkston, KMほか編，インテルナ出版，2007），運動性構音障害（日本聴能言語士協会講習会実行委員会編，協同医書，2002）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡事項は，授業係，メール等を通じて行う。		

授業科目名	発達系障害学演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	細川 淳嗣, 堀江 真由美, 玉井 ふみ		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
授業の形式・方式	対面授業、授業日程にしたがって、講義および演習形式で行う。毎回授業に出席し、レポートを提出する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	言語発達障害、評価・診断、指導・支援		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	「発達系障害学概論Ⅰ・Ⅱ」、「発達系障害学演習Ⅰ」で学んだ言語発達障害に関する基礎知識を臨床場面で応用する能力を養うために、情報収集および検査の手続きと方法、検査結果の解釈に基づく評価報告の作成、指導計画の立案の方法について演習を通して習得することを目標とする。		
授業の内容	知的障害、広汎性発達障害(自閉症スペクトラム)、特異的言語発達障害、学習障害などに伴う言語発達障害の評価・診断および指導・支援の実際について理解を深めるため、検査結果を総合して評価報告書の作成や指導計画の立案を行う。また、学生同士の模擬演習を通して、検査の手続きおよび結果の解釈や指導・支援の実際について学ぶ。本科目で取り上げる検査は、田中ビネー知能検査Ⅴ、DN-CAS認知評価システム、質問-応答関係検査、L-Cスケール、フロスティック視知覚発達検査等である。		
成績評価の方法	演習への参加状況、グループでの課題発表、個人作成のレポートにより評価する。		
テキスト	講義時に資料を配布する。		
参考文献	その都度必要な文献を紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	発達系障害学概論Ⅰ・Ⅱで学習した基礎知識を言語発達障害児にどのように関連づけて適用するか自分で考える習慣を身につけてほしい。 後半で行う、事例に基づいた報告書作成、方針立案、訓練計画立案では、事前に個人個人が課外学習を行うことを前提として、授業時間内でのグループ作業や発表を行う。そのため、授業時間内にグループに貢献するためには、事前の個人での準備が重要であると認識して臨むことを期待する。		

授業科目名	発声発語・嚥下系障害学演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	矢守 麻奈, 栢下 淳, 中村 文, 城本 修		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	演習形式および学生による課題提出を併用して実施する。適宜、レポート課題を課す。学生は、演習に出席し、課題に取り組みレポートを作成し提出することが義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	発声発語器官, 音声障害, 発声機能検査, 聴覚心理的評価, 空気力学的評価, 音響学的評価, 吃音, 流暢性の評価, 摂食嚥下障害		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	発声発語系障害学概論Ⅰを履修した学生を対象にして、発声発語機能の聴覚心理的および音声言語医学的評価, 吃音の評価, 摂食嚥下障害の評価と診断の進め方を学び、発声発語系障害に対する臨床的対応を学習する。本科目は、コミュニケーション障害学科の専門領域特有の科目として位置づけられている。		
授業の内容	発声発語系に起因する障害のうち、音声障害, 吃音および摂食嚥下障害について、臨床的対応の実際を学ぶ。すなわち、発声発語と摂食嚥下にかかわる諸器官の構造と機能の障害を、医学的, 聴覚心理的, 空気力学的, 音響学的, 放射線学的などの諸評価手段を用いて行う鑑別と診断の流れを、実際の検査法の適用や検査機器の操作実習を通して学び、治療や指導方針の立案を試み、発声発語系障害の総合的な臨床の流れを学習する。		
成績評価の方法	課題のレポート, 演習成績, 受講態度を総合的に評価する。演習形式の講義のため出席を重視する。		
テキスト	・資料や教材は、随時配布する。		
参考文献	・参考文献 随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	専門基礎科目および発声発語系障害学概論の既習項目をよく復習し理解して本演習に臨むこと。対象児・者に対する基本的態度を修得する観点から、自己都合による遅刻, 無断欠席, 集中力に欠ける授業態度は厳に慎まれない。		

授業科目名	コミュニケーション科学研究法		
担当教員氏名(助手氏名)	吐師 道子 ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	アポイントメント形式		
授業の形式・方式	講義と演習, 及び研究発表		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	コミュニケーション科学、研究法、臨床研究、基礎研究、研究デザイン、論文の書き方、研究発表		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	コミュニケーション科学の領域における研究法の種類、エビデンスの考え方、実験研究の方法、質的研究の意義と方法、臨床場面における研究の進め方などについて解説し、研究テーマの選定、文献検索から研究計画立案とその実施、結果の分析と発表までを実習する。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニケーション科学における研究法の概略</li> <li>2) 質的研究の意義と方法</li> <li>3) 科学レポートの書き方</li> <li>4) 研究の妥当性</li> <li>5) 根拠に立脚した研究計画の立て方</li> <li>6) コミュニケーション障害の臨床と研究の関係</li> <li>7) ～12) 演習(伊集院、吐師、矢守、古屋、佐藤) 13)～15) 研究発表会(伊集院、吐師、矢守、城本、古屋、佐藤)</li> </ol>		
成績評価の方法	出席30点(欠席1回について5点減点)、第1回レポート10点、研究演習60点 研究演習60点内訳:発表15点、参加態度15点、peer assessment 15点(発表終了後、無記名で各自が自分を含むグループメンバーの演習貢献度を5段階評価)、最終レポート15点 演習参加条件:講義部分(6回)のうち4回以上の欠席、または第1回レポートが締切日に未提出の場合演習参加不可。		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1) グループで演習を行うので、協調性、創造性を発揮すること 2) 「熱意ある研究、明確な発表、品格ある質疑応答」の会得をめざす		

授業科目名	心理測定法特論		
担当教員氏名(助手氏名)	古屋 泉		
研究室の場所	三原キャンパス 4418研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業. 講義形式と実習形式		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	推計統計学, 尺度構成法, 科学レポート		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	調査, 実験のデータを解析を通して, データの科学的な見かた, 具体的な統計の使用法を身につける. この能力は卒業研究や, 臨床データを検討する上でも必須のものである. 具体的には実験によって測定されたデータを解析, グラフ化し, 科学レポートとして記述できる能力を獲得する.		
授業の内容	実験的な測定を実施し, 測定のセンスを獲得するとともに, 結果の評価や解釈の方法について講義・実習する. 心理学も多くの科学分野と同様にデータを収集し, それを科学的に解析し, 仮説を検証, 理論の構築していく科学である. 授業の中で, 実際のデータ収集から記述・推計統計処理, そして結果からの考察, レポートへのまとめ方の実際について, 実習形式で学習する.		
成績評価の方法	レポート90%, 授業への積極的な参加10%.		
テキスト			
参考文献	森, 吉田編著, 心理学のためのデータ解析テクニカルブック, 北大路書房		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	2年次の心理測定法の内容は既知のものとして授業を進める. 履修にあたって知識が不足している者は自ら補っておくこと. また, 統計解析ソフトウェアを使用するため, パソコンの基本操作が習得済みであることが前提となる.		



授業科目名	失語症特論		
担当教員氏名(助手氏名)	渡辺 眞澄		
研究室の場所	三原キャンパス 3507研究室		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって、講義と演習形式で実施する。1回のレポートを課す。学生は授業に出席し、レポートを作成・提出することが義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	コミュニケーション障害学科4年次生対象		
免許等指定科目			
キーワード	失語症		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	失語症を対象とした研究の詳細を理解し、今後の研究の方向を考える。		
授業の内容	主に講義形式で行う。言語情報の統語、形態・音韻情報の処理、および失語症による各処理過程の障害メカニズムと訓練に関する内外の研究を紹介する。日本語話者における分レベルの障害について考える。		
成績評価の方法	授業への出席・参加の態度20%、レポート80%の割合で評価する。レポート課題および提出期限は、授業時間中に提示する。出席が3分の2未満の場合およびレポートの提出がない場合には、単位を取得できない。		
テキスト	講義時に資料を配布する。		
参考文献	熊倉・種村(編)『やさしく学べる言語聴覚障害入門』(永井書店, 2011), 鹿島・大東・種村(編)『よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション』(永井書店, 2008), 『よくわかる失語症と高次脳機能障害』(永井書店, 2003), 重野純(編)『言語とところ』(新曜社, 2010), 辰巳格(著)『ことばのエイジング』(大修館, 2012) 他。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	失語症に関する基礎知識(定義、症状、評価法など)があることを前提として講義を進めます。英語論文を読んでレポートを提出してもらいます。		

授業科目名	社会福祉原論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	手島 洋		
研究室の場所	三原キャンパス 4525研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面講義。授業日程に従い、講義形式を主体とし、演習実習形式も考慮する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科1年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、社会福祉の基礎		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>(目標) 1. 現代社会における社会福祉の理念と意義について理解させる。2. 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解させる。3. 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解させる。4. 社会福祉の専門性について理解させる。5. 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。6. 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。(カリキュラム上の位置づけ) 社会福祉士受験資格取得における必修科目</p>		
授業の内容	<p>現代社会における社会福祉の理念と意義、対象と援助の形態及び方法について、事例や演習形式等を活用し理解させる。社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要、そして社会福祉サービスの体系と利用者保護制度の仕組みの概要を理解させると共に、社会福祉の専門性について理解させる。社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。</p>		
成績評価の方法	出席状況、課題レポート、期末試験等の結果をもとに総合的に評価する		
テキスト	<p>*社会福祉小六法 平成27年版 *講義ごとにプリントを配付する</p>		
参考文献	*随時、授業で紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	特になし		

授業科目名	適応の心理		
担当教員氏名(助手氏名)	細羽 竜也		
研究室の場所	三原キャンパス 4527研究室		
オフィスアワー	講義日随時 場所は教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業. 授業日程に従って, 適宜, 資料配布による講義を行っていく.		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科1年次対象(心理学を受講していることが望ましい)		
免許等指定科目	なし		
キーワード	ストレス・マネジメント, 精神疾患, 社会病理, ポジティブ心理学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】 以下のことを授業の目標に設定する。(1) 主に精神保健福祉分野における適応に関する社会的課題をストレスの問題として関連付けることができる。(2) 疾病や障害, 援助へのエビデンスにもとづく心理社会的援助の方法を説明できる。(3) 生活上の適応問題に関し, 生物・心理・社会モデルに基づき, 説明できるようになる。(4) 得られた知識を活用し, 問題解決に活用することができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 応用関連科目群に位置づけられている</p>		
授業の内容	<p>ストレスに関する心理学的アプローチについて, 以下の3つの視点で講義を行なう。(1) ストレスに関する理論と社会病理への解釈(学校不適応やひきこもりなど) (2) ストレスと精神疾患(不安障害, 気分障害, 発達障害など) (3) ストレス管理や人のポジティブな心理面に注目する取り組み</p>		
成績評価の方法	毎回の小テストやレポートなど授業への参加態度(50%), および試験(50%)にもとづき総合的に評価する		
テキスト	テキストは使用しない。資料は適宜配布する。参考文献は講義中に示す。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	松宮 透高		
研究室の場所	三原キャンパス 2519研究室		
オフィスアワー	月曜日・金曜日 希望者とは面談するので、事前にメールもしくは電話で問い合わせること		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従い、講義形式を主体とし、演習実習形式も用いる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科1年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	対人援助の構造・ソーシャルワークの歴史的沿革・医療/福祉の関連資格・職業倫理・ソーシャルワーク記録		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	ソーシャルワークについては、理論6科目(相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ、相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱに該当)と演習5科目(相談援助演習Ⅰ～Ⅴ)、実習5科目(実習指導Ⅰ～Ⅲ・現場実習Ⅰ・Ⅱ)、さらには精神保健福祉士科目につながる体系的な科目群から構成されている。本科目は、そのうち社会福祉士等の社会福祉専門職の役割や専門性を理解すること、相談援助の概念や意義、その歴史的発展過程を学び、さらに社会福祉専門職の基盤となる価値や倫理を理解することを目標とする。		
授業の内容	本科目では、ソーシャルワークの沿革・理念・理論・資格制度などに関する基本的な理解を目指す。基礎的な内容から国家試験で要求される水準の知識までを取り上げるため、難しく感じたり不安に思ったりするかも知れないが、関連科目群の中で今後も繰り返す形を変えて学ぶため、まずは言葉や考え方に馴染みを持つことが大切である。人の暮らしや人生は社会的な側面に影響を受けており、学生時代は新たな環境の中で自分を育てるという課題にも直面する時期でもある。自分の自立、自分自身との直面、社会との直面といった課題との関連性の中でソーシャルワークを実感的に理解するために、基礎的な学習とともに支援実践や自己理解といったテーマにも取り組む。		
成績評価の方法	学期末評価試験(60%)、中間テスト(30%)、レポート課題(10%)により評価した上で、講義への参加姿勢(欠席を含め問題がある場合は最大40点減点する)を加味して総合的に評価する。		
テキスト	社会福祉士養成講座6「相談援助の基盤と専門職」中央法規		
参考文献	講義内で適宜提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	卒業必修であり2つの国家資格受験の要件ともなる科目である。ソーシャルワーカーとしての基本的姿勢を学ぶ科目でもある。主体的・積極的に受講して欲しい。		

授業科目名	高齢者福祉論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	國定 美香		
研究室の場所	三原キャンパス 4531研究室		
オフィスアワー	担当教員の研究室(要予約)。		
授業の形式・方式	講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科1年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	介護保険法, 老人福祉法, 認知症高齢者, 終末期ケア		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、次の6点を学び説明できるようになることを目標とする。1. 高齢者の実態と福祉・介護需要について理解する。2. 介護保険サービスの体系とその内容について理解する。3. 生活援助の基本的考え方について介護過程から理解する。4. 認知症高齢者の生活支援について理解する。5. 終末期ケアの在り方について理解する。6. 高齢者に対する相談援助活動の実際について理解する。		
授業の内容	1. 高齢者における福祉・介護の実態 2. 高齢者とその家族を支援する専門職種とチームアプローチ 3. 社会福祉士と介護の概念・対象 4. 認知症高齢者とその家族への相談援助・認知症高齢者に対するケアの実際と福祉・介護サービス 5. 住宅改修と福祉用具の貸与 6. 介護サービス計画(ケアプラン)と介護過程 7. 終末期ケア		
成績評価の方法	レポート, 試験で総合的に評価する。		
テキスト	笠原幸子, 高齢者に対する支援と介護保険制度, ミネルヴァ書房		
参考文献	現代の社会福祉士養成シリーズ「高齢者に対する支援と介護保険制度」, 久美株式会社, 2009年。 「介護福祉用語辞典」, ミネルヴァ書房, 2009年。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	児童・家庭福祉論		
担当教員氏名(助手氏名)	西村 いづみ		
研究室の場所	三原キャンパス 2518研究室		
オフィスアワー	要予約。		
授業の形式・方式	講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科1年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	児童・家庭の福祉制度、ソーシャルワーク		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は社会福祉士指定専門科目の1つとして位置づけられている。授業到達目標は、①児童・家庭福祉の実際と課題を指摘できる、②児童・家庭福祉分野における事例に対し、支援に必要な具体的法制度および関係機関・専門職・団体を説明できる、の2点である。		
授業の内容	以下のテーマについて、統計資料や視聴覚教材、事例等を活用し講義を行う。○児童・家庭の生活実態と取り巻く社会情勢、福祉需要と実際○児童の権利、権利擁護と自立支援○児童・家庭福祉制度の発展過程○児童・家庭福祉制度を担う専門職の役割と実際(関係分野の専門職含む)○児童・家庭福祉の法体系と実施体制○児童・家庭福祉制度における多職種連携、ネットワークと実際○各児童・家庭福祉施策の現状と課題(児童虐待、少年非行、社会的養護、スクールソーシャルワーク、保育制度問題、子育て支援等)		
成績評価の方法	期末テスト(60%)、レポート課題(1回予定;20%)、授業への積極的参加(20%)。		
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 第15巻 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第5版』中央法規出版, 2015.		
参考文献	適宜、紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	社会福祉実習指導 I		
担当教員氏名(助手氏名)	手島 洋 ほか		
研究室の場所	4525研究室		
オフィスアワー	最初の授業時に提示		
授業の形式・方式	対面授業及び演習形式による。授業日程に従い、講義形式で実施するとともに、実践的な技術等を指導する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科1年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、実習指導、社会福祉実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	1. 社会福祉現場実習の意義について理解させる。2. 学校で学んだ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるよう指導する。3. 実践的な技術等を習得できるよう指導する。4. 福祉に関する相談援助の専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得できるように指導する。5. 具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てる能力を養う。		
授業の内容	社会福祉実習の目的と内容、社会福祉の対象者とその課題のとらえ方、社会福祉施設・機関の種類と内容、社会福祉専門職の種類と業務内容、実習場面での利用者とのかかわり、観察方法、記録方法、援助の視点などを学ぶ。講義とともに演習、視聴覚機材、施設見学、現場職員による講演などによって社会福祉実習についての理解を求める。1. オリエンテーション 2. 社会福祉実習の目的・課題、3 社会福祉の取り組む課題、4. 社会福祉制度・施策の体系、5. 社会福祉施設・機関の実際(老人福祉分野) 6. 社会福祉施設・機関の実際(児童福祉分野)、7. 社会福祉施設・機関の実際(身体障害者福祉分野)、8. 社会福祉施設・機関の実際(知的障害者福祉分野)、9. 社会福祉施設・機関(母子・寡婦福祉分野他ほか) 10. 学外講師による講演、社会福祉問題の事例研究、グループ別体験及び見学実習、社会実習における記録など		
成績評価の方法	授業態度、出席、レポート		
テキスト	*宮田和明・加藤幸雄他「五訂社会福祉実習」中央法規 *県立広島大学 社会福祉実習 I・II の手引き		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	地域福祉論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡子		
研究室の場所	三原キャンパス 2517研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面式授業を主にしながらグループディスカッションを取り入れる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	地域福祉計画、ソーシャルインクルージョン、権利擁護、社会関係資本(ソーシャルキャピタル)		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>地域福祉を推進するための方法論を学ぶとともに、社会福祉法に位置づけられた地域福祉についても理解を深めます。また地方分権の推進や福祉改革の動向についても整理していきます。コミュニティソーシャルワークを体系的に学ぶことによって地域包括ケアシステム構築のためのマネジメントやコーディネートの力を養うことを目指します。授業の目標①コミュニティソーシャルワークの概念を理解し、具体的事例に活用できる。②地域ケアの現状を捉え、地域包括ケアシステム構築への課題を考えることができる。③基礎自治体における地域福祉の推進と地域福祉計画について理解することができる。④社会関係資本の概念や資本の開拓、蓄積の実践例を学ぶことによって、地域の福祉力の診断、分析をすることができる。</p>		
授業の内容	<p>自分の生活する地域に目を向け、社会資源や地域福祉計画を調べます。また、住み慣れた地域で生活するための制度や機関を調べて理解します。事例検討を取り入れていきます。</p> <p>①福祉サービスの情報提供、公開、説明責任とアドボガシー機能について ②ソーシャルインクルージョンの考え方について ③三原市や広島県における地域福祉の現状と課題 ④児童福祉、在日外国人問題、ホームレス問題と地域福祉 ⑤地域福祉の財源問題 - 地方福祉財政と民間財源 ⑥社会的企業と委託事業⑦社会関係資本について ⑧地域福祉における参加と協働 - 住民主体の活動から ⑨外部講師による講演 ⑩事例研究やグループディスカッション</p>		
成績評価の方法	授業の積極的参加、課題への取り組み状況、小レポートの提出、期末試験によって総合的に評価します。		
テキスト	テキスト 『地域福祉の理論と方法』坪井真、木下聖 2014 (株)みらい		
参考文献	参考文献 及川和男著(2008)『村長ありき 沢内村深沢晟雄の生涯』れんが書房新社 大田祖田・増田進・田中トシ・上坪陽(2010)『沢内村奮戦記』あけび書房 井岡勉監修『住民主体の地域福祉論』(2008)法律文化社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	レポートの提出期限を厳守する。特別な理由のない限り、授業には出席するように努めます。グループディスカッションには積極的に取り組む。毎回授業開始時に出席確認をする。		



授業科目名	社会保障論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	都留 民子		
研究室の場所	三原キャンパス 3503研究室		
オフィスアワー	月曜日 10時から14時半		
授業の形式・方式	講義		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	年金保険 医療保険 失業保険 公的扶助		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日本の社会保障制度を理解させる		
授業の内容	日本の年金保険・医療保険・雇用保険・公的扶助制度の特徴と内容		
成績評価の方法	レポートおよび試験		
テキスト	授業において、各論毎に指示		
参考文献	授業において、各論毎に指示		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	大下 由美		
研究室の場所	三原キャンパス 4529研究室		
オフィスアワー	事前にメール等でご連絡ください		
授業の形式・方式	対面での講義形式。一部演習形式を取り入れる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	システム論、支援関係システム、変容技法、リフレクション、ナラティブ、解決志向、援助モデル、効果測定		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>&lt;授業の目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. クライアントの問題を、システム論的視点(人と環境の相互生成過程)から説明できる。</li> <li>2. システム論から派生した実践モデルについて理解し、他のモデルとの理論的差異を説明できる。</li> <li>3. クライアントの潜在的な問題解決力を引き出す支援者の面接技術について理解し、説明できる。</li> <li>4. 実践過程の効果測定法について理解できる。</li> </ol> <p>&lt;カリキュラム上の位置づけ&gt; 社会福祉士国家試験受験資格取得における必修科目</p>		
授業の内容	<p>ソーシャルワークの基礎理論の1つであるシステム論(一般システム論、ベイトソンの情報還元理論、CMMの重層的現実生成論、人と環境の相互生成論)とそれに基づく実践モデル(解決志向、ナラティブ、エンパワーメント、ストレングスモデル、生活モデルなど)について概説する。またこの基礎理論に基づく支援技法(解決志向の技法群、ナラティブアプローチの技法群、家族療法の技法群)についても講義し、面接過程と連動する技法使用法について、具体的な事例を踏まえ提示する。支援過程の効果測定論についても例示する。</p>		
成績評価の方法	筆記試験80%(60%期末、20%中間)、出席10%、レポート提出10%で総合的に評価する。		
テキスト	『ファミリーソーシャルワークの理論と技法』2014 九州大学出版会		
参考文献	『新・社会福祉士養成講座(7)相談援助の理論と方法Ⅰ 第2版』・『新・社会福祉士養成講座(8)相談援助の理論と方法Ⅱ 第2版』、中央法規出版、2010年。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	学習認知心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	中谷 隆		
研究室の場所	三原キャンパス 4528研究室		
オフィスアワー	特に指定しない。		
授業の形式・方式	対面授業。主に、事前配布する学習資料に基づいて講義形式で実施する。双方向の質疑応答を主体に、場合によっては、課題として、関連文献を熟読し、発表することを義務づけることもある。授業時間 2 時間(1 回) と学生の自習 4 時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科 2 年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	条件づけ, 行動分析, 注意, 記憶, 意識, 思考, 知識構造, 情報処理, 高齢者の認知		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業のねらいは、精神的不健康や逸脱行動につながる心理的側面を把握するために必要な学習・認知過程に関する基礎メカニズムを理解させることにある。		
授業の内容	人間の適応の基盤となっている学習・認知的側面に関して、無意図的学習による部分と意図的学習による部分とに分け、無意図的学習のメカニズムとしてパヴロフ型条件づけとオペラント型条件づけのメカニズムを解説する。広く日常生活における具体的な行動や現象例を引き合いに出しながら、洞察力と分析力を身につけさせる。その後、意図的学習のメカニズムを、認知心理学の知見や実験・調査例を引きながら具体的に解説する。同時に、実験・調査計画の立案や結果の解釈の仕方など調査研究に必要な客観的センスをも磨くことを目指す。なお、関連する学習心理学や認知心理学、認知行動療法の基本事項については、事前に配布する学習資料をもとに予め自学自習してくることを求める。		
成績評価の方法	2 / 3 以上の出席がなければ単位は認定されない。評価は、事前学習の遂行度(10%)、課題遂行度(10%)、授業中の質問に対する返答(意見)等の内容(10%)、最終試験の成績(70%)に基づいて総合的に判断する。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	参考文献は授業中に指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	私語厳禁。講義内容を丹念にノートすることを心がけること。		

授業科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	永野 なおみ 松宮 透高		
研究室の場所	三原キャンパス 4524研究室(永野), 2519研究室(松宮)		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業。1学年を2グループに分け、それぞれを1人の教員が担当することを基本とする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	事例検討、面接技術、記録技法、グループワーク、チームアプローチ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	社会福祉専門職として相談援助を行う際に必要となる知識と技術の基礎を、演習課題を通して実践的に習得することを目標とする。またこの授業で学ぶ内容は、社会福祉実習Ⅰを行った後でその体験を振り返り、実践的な知識・技術として習得するために必要なものであるため、十分な学習を行うことが求められる。		
授業の内容	厚労省シラバスの示す①自己覚知、②基本的なコミュニケーション技術の習得、③基本的な面接技術の習得に加えて、④グループワーク、⑤チームワークについて、毎回教員が提示する演習課題にそって、ロールプレイや小グループでの討議、プレゼンテーション等を行う。また社会福祉実習Ⅰで学んだ内容について、グループで振り返りを行って、各自の体験の意味を考え、共有する。		
成績評価の方法	出席、授業への参加度、レポートなどを総合的に評価する。		
テキスト	テキストは使用せず、毎回教員が用意する資料を用いて授業を行う。		
参考文献	適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	社会福祉実習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	三原 博光 ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員に要予約		
授業の形式・方式	集中実習		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科 2 年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、配属実習、相談援助		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	①相談援助に係る知識と技術について具体的・实际的に理解し、実践的な技術等を体得すること、②社会福祉士として求められる資質・技能・倫理や、自己に求められる課題把握等を総合的に対応できる能力を習得すること、③関連分野の専門職との連携について実践的に理解すること、の以上3点を目標とする。		
授業の内容	社会福祉実習を通して、実習日誌(記録)を作成、実習課題の達成度を測る自己評価を行なう。また、実習指導者および実習指導担当教員から個別指導を受ける。具体的個別指導を以下に記す：①利用者や関係者等とのコミュニケーション等円滑な人間関係の形成、さらに援助関係の形成②利用者理解とその需要の把握及び支援計画作成について、③利用者や関係者への権利擁護及び支援とその評価、④支援におけるチームアプローチの実際、⑤社会福祉士としての職業倫理、組織の一員としての役割と責任への理解、⑤施設・事業者・団体等の経営やサービスの管理		
成績評価の方法	実習指導者による評価、学生の自己評価、実習担当教員による評価に基づき、総合的に判断		
テキスト	「県立広島大学 社会福祉実習の手引」 その他、適宜紹介する		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	精神保健学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	勝見 吉彰		
研究室の場所	三原キャンパス 4530研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神の健康, 精神疾患, 精神保健福祉士, 地域精神保健		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は人間福祉学科の専門領域特有の科目のうち, 精神保健福祉士科目群における主要科目のひとつである。精神保健福祉法を中心に, 保健・医療・福祉の関連法令を理解し, 各精神疾患における個別対策やライフサイクルに沿った保健対策および地域精神保健施策などについて知見を得ることを目標とする。		
授業の内容	精神保健の概要ならびに意義と課題についての基本知識を理解したうえで, 精神保健における個別課題への取り組みと実際についてライフサイクルを踏まえて理解する。また, 地域精神保健と地域保健について概要や施策を中心に理解を深め, さらにその関係法規や関連施策についても理解する。		
成績評価の方法	出席状況, 受講態度, 期末試験などにより総合的に評価する。期末試験は持ち込み不可で実施する。		
テキスト	使用しない。資料を配布する。		
参考文献	新・精神保健福祉士養成講座「第2巻 精神保健の課題と支援」第2版 中央法規 2015年		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	精神保健福祉論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	金子 努		
研究室の場所	三原キャンパス 4423研究室		
オフィスアワー	木曜日実施		
授業の形式・方式	対面式授業を基本とする。課題テーマについて議論する際はグループワーク。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	社会的復権, 地域移行・地域定着支援, 多職種連携		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標は、次のことについて説明できるようになること。</p> <p>①精神障害者の社会的復権における精神保健福祉士の役割について説明できる。</p> <p>②精神障害者の地域移行・地域定着支援における精神保健福祉士の役割について説明できる。</p> <p>③多職種連携の必要性和精神保健福祉士の役割について説明できる。</p>		
授業の内容	<p>この授業では、精神保健福祉士が精神障害者の社会的復権を目標に掲げるようになった経緯とその内容の理解を図る。そして、精神障害者の社会的入院を人権侵害と位置づけ、行政責任で退院促進支援事業を始めた経緯とこれまでの展開について理解を図る。精神障害者の地域移行・地域定着支援の最近の動向と多職種連携の実際について理解を図る。</p>		
成績評価の方法	授業後の確認テスト等の提出30%、期末テスト70%で評価する。全体で60%以上のポイントを取得できたことをもって単位認定する。		
テキスト	『新精神保健福祉士養成講座 第6巻 精神保健福祉に関する制度とサービス』第3版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業中の私語、携帯電話使用、飲食、無断退席を禁止します。		

授業科目名	精神保健福祉現場実習指導Ⅰ		
担当教員氏名(助手氏名)	澤田 千恵, 江本 純子, 越智 あゆみ ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	履修学生を2つのグループに分け(1クラス20人以下)、対面授業およびグループ討議。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士、精神障害者、精神科病院、地域移行支援、地域生活支援		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>&lt;授業の目標&gt; 1. 精神保健福祉援助実習の意義について理解し、説明できる。  2. 精神障害者の置かれている現状と、その生活の実態や生活上の困難について理解し、精神保健福祉士の役割と関連づけて説明できる。  3. 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、表現できる。</p> <p>&lt;カリキュラム上の位置づけ&gt;精神保健福祉士国家試験受験資格取得においての必修科目。3・4年次配当の精神保健福祉現場実習Ⅰ・Ⅱおよび精神保健福祉現場実習指導Ⅱ・Ⅲを履修するためには、精神保健福祉現場実習指導Ⅰを履修しなければならない。</p>		
授業の内容	1. 精神保健福祉現場実習で学ぶこと、精神保健福祉士とは 2. 精神保健福祉士はなぜ必要か(精神保健医療福祉の現状:制度変革とPSW) 3. 精神保健福祉士はなぜ必要か(利用者の置かれている状況) 4. 患者・利用者の理解の深め方、「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法 5. 精実習指導者や他職種の援助者との円滑な実践的態度(学ぶ姿勢) 6. 精神科医療機関の機能、各病棟の機能 7. 自己覚知はなぜ必要か 8. 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解(事例学習)、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(個人情報保護法の理解を含む) 9. お礼状の書き方、メールの送り方 10. 電話のかけ方 11. 現場実習オリエンテーション、見学実習・グループ発表に関する説明と準備 12. 利用者の視点やニーズについて学ぶ、三者協議の目的と内容 13. 精神科医療機関におけるPSWの役割 14・15. 学生によるグループ学習、現場実習履修学生の個別面談		
成績評価の方法	授業への参加態度20%、授業時に提示する課題レポート40%、筆記試験40%で総合的に評価する。		
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座(9)精神保健福祉援助実習指導・実習第2版』中央法規出版、2015年。『患者接遇マナー基本テキスト』日本能率協会マネジメントセンター。		
参考文献	『県立広島大学 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ・Ⅲの手引き』、その他、授業中に適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は、必ず履修すること。		



授業科目名	社会福祉援助技術論Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡子		
研究室の場所	三原キャンパス 2517研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面講義、内容によってはグループディスカッションを取り入れる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	ケアマネジメント、ネットワーキング、アドボガシー、カンファレンス、スーパービジョン		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	ソーシャルワークにおけるミクロからメゾ、マクロまでの循環過程を包括的に捉える。授業の目標①保健・医療・福祉の連携による地域包括ケアの担い手としてケアマネジメントの手法を習得することができる。②チームアプローチを実践するためのコーディネーションの能力を高めることができる		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ケアマネジメントの意義、目的、過程</li> <li>2 アセスメントの意味と目的、アセスメントの技法</li> <li>3 ケアプランの作成</li> <li>4 アウトリーチの目的と技術</li> <li>5 ケースカンファレンスの運営の技法</li> <li>6 コーディネーションとネットワーキング</li> <li>7 地域ケアシステムの機能</li> <li>8 相談援助における社会資源の活用・調整・開発</li> <li>9 ソーシャルアクションの展開過程</li> <li>10 「主体化」と「価値」に基づいたアドボガシー機能</li> <li>11 スーパービジョンの意義と目的</li> </ol>		
成績評価の方法	授業への出席授業への参加状況課題への取り組み小レポートの提出期末試験によって総合的に評価します。		
テキスト	テキスト新・社会福祉士養成講座『8相談援助の理論と方法Ⅱ』第2版 中央法規		
参考文献	参考文献：岩間伸之（2008）『支援困難事例へのアプローチ』メディカルレビュー社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	特別な理由のない限り、授業には出席するように努める。毎回授業開始時に主席確認。講義ですが、アセスメントシートを作成したり、エコマップを作成しますので取り組み状況は評価の対象となります。期末試験を実施します。		

授業科目名	居住政策論		
担当教員氏名(助手氏名)	吉田 倫子		
研究室の場所	三原キャンパス 3518研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業。講義資料は別途、配布あるいはパソコン等を用いて表示する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	福祉系住宅, 施設居住, 居住保障, 居住政策, 災害		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>施設福祉から在宅福祉に福祉政策が移行した結果、居住状況が福祉に深く関係することとなりました。そして、居住は衣食住という生活の最も基礎となる条件であり、かつその中心となる住宅は、街を形作る要素でもあり、社会的資産としての性格が強いものです。そこから居住政策が生まれます。従って、居住状況を捉えるためには居住政策を知ることが必要となります。そこで本授業では在宅福祉の背景としての居住政策の基礎知識を持った福祉専門家を育てることを目的とします。</p>		
授業の内容	<p>国民が健康で文化的な生活を営むために必要な居住空間を如何にして確保するかについて、住宅・居住地、更には居住型福祉施設も含めて対象として、我が国の居住を巡る現状と課題を、人間福祉の観点から把握します。また、居住政策の歴史、現在の居住政策とそれに基づく関連法規・諸制度の内容を、諸外国の居住政策との比較もまじえて習得します。その上で、高齢者・障害者のノーマライゼーションと生活空間のバリアフリー化を推進するために必要な居住政策を、建築・福祉の両側面から習得します。</p>		
成績評価の方法	授業への参加態度(40%)、レポート課題(60%)にて評価をします。		
テキスト	使用せず、適宜資料を配布します。		
参考文献	授業で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	医療ソーシャルワーク		
担当教員氏名(助手氏名)	永野 なおみ		
研究室の場所	三原キャンパス 4524研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	講義及び演習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	医療ソーシャルワーク、医療制度、医療制度改革、先進医療、終末医療、臓器移植、生命倫理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>我が国の保健医療は、財源難やサービスの担い手不足等の問題に加えて、個人の尊厳を守る医療のあり方や医療技術の進歩に対応した法制度の整備等、多くの問題が山積している状況にある。これらの問題について基本を理解し、問題意識を高めること、またそこで医療ソーシャルワーカーが果たすべき役割や可能性について考察することを目標とする。</p> <p>専門領域特有の科目（応用・関連科目群）</p>		
授業の内容	<p>我が国の保健医療が抱える問題の中から、学生にとって身近なものをテーマとして取り上げ、講義、DVD視聴、小グループでのプレゼンテーション等を通して学習する。医療保険システムの問題や、終末期医療・移植医療における倫理的な問題、難病患者やハンセン氏病の元患者の人権保障などのテーマを予定しているが、学生の希望に対応して選定する。また、現任の医療ソーシャルワーカーの講義により、実際の相談事例や専門職としてのジレンマについて知る機会を設ける。その他、附属診療センターの見学を行って、医療機関の施設・設備や患者への対応を学ぶ予定である。</p>		
成績評価の方法	授業への参加度、レポート等を総合的に評価する。		
テキスト	教員が準備する資料を基に進める。		
参考文献	適宜紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	社会福祉運営管理論		
担当教員氏名(助手氏名)	横須賀 俊司		
研究室の場所	三原キャンパス 4522研究室		
オフィスアワー	月曜昼休み		
授業の形式・方式	基本的には講義形式で進めていく。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	福祉サービス、組織、運営、経営		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	社会福祉サービスに関する基本的概念を理解し、組織論や経営論の基礎的理解を促し、組織の運営や経営について理解できるようにする。		
授業の内容	福祉サービスの基本的理解を進めるため、社会政策に関する基本的事項について講義する。次に組織論や経営論について説明し、最後に組織の運営や経営に関する講義する。		
成績評価の方法	レポート提出、期末試験、場合によっては小テストを行うなど総合的な評価を行う予定であるが、詳細は初回オリエンテーションの際に説明する。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	社会福祉援助技術演習Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	國定 美香・西村 いづみ		
研究室の場所	三原キャンパス 4531研究室(國定), 2518研究室(西村)		
オフィスアワー	國定:要予約 西村:要予約		
授業の形式・方式	対面授業。1学年を2グループ(20人ずつ)に分けて行う。		
単位数(時間数)	2単位(30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	ロールプレイ・グループワーク・事例検討		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	社会福祉専門職として相談援助を行う際に必要となる専門知識と専門技術を、演習課題を通して実践できるようになることを目標とする。当該科目は、社会福祉士専門科目群に位置する。		
授業の内容	「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」に引き続き、ロールプレイや小グループでの討議等のほか、事例検討を行う。		
成績評価の方法	レポート課題、演習課題の達成度を総合的に評価する。		
テキスト	必要に応じて、参考文献を提示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	理論学習を実践活動につなぐ中間に「演習」は位置している。「わかっていること」を「やれること」にしていく、すなわちソーシャルワークの実践力を身につける。演習によってかえって理論の重要性に気づくこともあろう。主体的に感じ・考え・参加する必要がある。		

授業科目名	社会福祉実習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	永野なおみ 國定美香 住居広士 田中聡子 手島洋 西村いずみ 松宮透高 三原博光 横須賀俊司 吉田倫子 湯川順子		
研究室の場所	三原キャンパス 4524研究室		
オフィスアワー	各担当教員に確認のこと		
授業の形式・方式	集中実習		
単位数(時間数)	4単位 (120時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象 原則として、社会福祉実習Ⅰを履修済みの者とする。		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、相談援助、配属実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	①相談援助に係る知識と技術について具体的・实际的に理解し、実践的な技術等を体得すること②社会福祉士として求められる資質・技能・倫理や、自己に求められる課題把握等に総合的に対応できる能力を習得すること③関連分野の専門職との連携について実践的に理解すること以上の3点を目標とする。		
授業の内容	社会福祉実習を通して、実習日誌(記録)を作成、実習課題の達成度を測る自己評価を行う。また、実習指導者及び実習指導担当教員から個別指導を受ける。具体的個別指導を以下に記す。①利用者や関係者等とのコミュニケーション等円滑な人間関係の形成、さらに援助関係の形成 ②利用者理解とその需要の把握及び支援計画作成について ③利用者や関係者への権利擁護及び支援とその評価 ④支援におけるチームアプローチの実際 ⑤社会福祉士としての職業倫理、組織の一員としての役割と責任への理解 ⑥施設・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 ⑦当該実習先が地域社会の中の施設であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけの方法、社会資源の活用・調整・開発に関する理解		
成績評価の方法	実習指導者による評価、学生の自己評価、実習担当教員による評価に基づき、総合的に判断する。		
テキスト	「相談援助実習」加藤幸雄他編、中央法規、2010 「県立広島大学 社会福祉実習の手引き」		
参考文献	適宜紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	精神保健福祉援助演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	江本純子 大下由美		
研究室の場所	三原キャンパス 2516研究室(江本), 4529研究室(大下)		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面形式. グループワークや模擬演習, ロールプレイング等が中心となる.		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士, 精神保健福祉援助, 精神障害者, 精神保健福祉課題, 協働・連携, 相談援助過程, 精神保健福祉現場実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>&lt;授業の目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害者の生活や生活上の困難を把握することができる.</li> <li>2. 精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について, 実践的に修得する.</li> <li>3. 精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目と関連づけることができる.</li> <li>4. 専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていく能力を涵養する.</li> </ol> <p>&lt;カリキュラム上の位置づけ&gt;</p> 精神保健福祉士国家試験受験資格取得における必修科目.		
授業の内容	厚生労働省が示したシラバス内容に含まれる事項を学習する. 具体的な内容は, 随時示していく.		
成績評価の方法	出席, レポート, プレゼンテーション, 授業への参加態度を総合的に評価する.		
テキスト	日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座(8)精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』, 中央法規, 2012年.		
参考文献	授業中に随時紹介する.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は, 必ず履修すること.		

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	横須賀 俊司		
研究室の場所	三原キャンパス 4522研究室		
オフィスアワー	月曜昼休み(要予約)		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	教員ごとのシラバスを参照すること。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	教員ごとのシラバスを参照すること。		
授業の内容	<p>教員ごとのシラバスを参照すること。</p> <p>&lt;教員ごとのシラバスについて&gt; シラバス検索システムから、科目名を入れて、検索すること。</p> <p>&lt;履修登録について&gt; 専門演習Ⅱ（登録用）に登録すること。』</p>		
成績評価の方法	教員ごとのシラバスを参照すること。		
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	横須賀 俊司		
研究室の場所	三原キャンパス 4522研究室		
オフィスアワー	月曜昼休み(要予約)		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	障害、障害者		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	専門演習Ⅰを踏まえて、卒業論文作成に向けた準備ができるようにしていく。		
授業の内容	障害者福祉を学習する上で必読と思われる文献を輪読し、各自順番で報告をした後に、ディスカッションを行って理解を深めていく。		
成績評価の方法	出席、報告内容等により総合的に行う		
テキスト	適宜紹介する		
参考文献	適宜紹介、配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	三原 博光		
研究室の場所	三原キャンパス 4526研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	障害者家族、障害者の就労支援、調査（個別・アンケート調査）		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	障害者の家族の問題や障害者の就労支援問題を通して、障害者家族の現実や社会における障害者の自立問題について考察する		
授業の内容	「障害者家族・障害者就労支援」の問題を文献、事例、調査結果から考察する。		
成績評価の方法	レポート		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	永野 なおみ		
研究室の場所	三原キャンパス 4524研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	保健医療、病気、医療ソーシャルワーク、患者・家族の理解、チームアプローチ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	専門演習Ⅰで学習したことを基に、各自が保健医療の問題や医療ソーシャルワークについての理解を深め、問題意識を育てること、そのうえで卒業研究のテーマを設定することを目標とする。卒業研究のための基礎的な演習と位置づける。		
授業の内容	教員が紹介する保健医療、医療ソーシャルワーク等に関する研究論文等を全員で読み、学生による報告と討議を行う。後半は、学生がそれぞれの関心にそって文献レビュー等を行い、卒業研究につながるレポートをまとめることを通して、研究の基礎を学ぶ。		
成績評価の方法	授業への参加度、課題発表、レポート等を総合的に評価する。		
テキスト	教員が用意する資料を基本とする。		
参考文献	適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	手島 洋		
研究室の場所	三原キャンパス 4525研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面授業及びグループ演習		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	権利擁護、地域福祉、住民主体、地域生活支援、エンパワーメント		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	社会のなかでの権利侵害の現状を幅広く理解し、それに住民活動を中心とした地域福祉活動において権利擁護を図る意義について理解する。		
授業の内容	テキストを中心に権利擁護や地域福祉について批判的に検討していく。方法は、履修学生のレポート発表とそれに対する議論により進める。		
成績評価の方法	授業の出席70%、レポート発表30%で成績を評価する。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡子		
研究室の場所	三原キャンパス 2517研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	演習形式、フィールドワーク		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	地域ケアシステム、コミュニティケア、フィールドワーク、医療と福祉の連携 多職種協働・連携、貧困と孤立		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>ソーシャルワークリサーチの目的は地域の状況を把握し、ニーズを発見し、明確化すること、その上で社会福祉専門職が実践したソーシャルワークの効果を確認し、一般的な知見を構築していくことである。また、ソーシャルワークリサーチは人々の問題を解決し一般に適用できる新しい知識を創り出すためのものである。</p> <p>①卒業論文作成のためのソーシャルワークリサーチを学ぶ。 (フィールドワークによって取材したデータをKJ法を中心にした質的研究方法によって統合し理論化する方法を学ぶ。)</p> <p>②各自のテーマに沿った研究計画の立案と方法について学ぶ。</p>		
授業の内容	<p>①定性的データの取り扱いについてKJ法とその他の手法について学ぶ。</p> <p>②インタビューの方法について学ぶ(アクティブインタビューとライフヒストリー研究について理解する。)得られたデータについてKJ法を中心にした質的研究方法によるまとめ方について学ぶ。</p> <p>③卒業研究を視野に入れ、テーマ設定や関連領域について学ぶ。</p> <p>④地域生活支援を中心に医療と福祉の連携、多職種協働のアプローチ等についての理解を深める。</p> <p>④フィールドワーク(医療と福祉の連携、多職種協働の実践へのヒアリングや研究会への参加)</p>		
成績評価の方法	授業の出席状況、演習における議論への積極的参加等		
テキスト	テキスト受講者の要望に沿って選定参考文献		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	特別な理由のない限り、授業には出席するように努める。グループディスカッションには積極的に取り組む。		

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	都留 民子		
研究室の場所	三原キャンパス 3505研究室		
オフィスアワー	火曜日と金曜日のお昼休み。		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	労働 生活 貧困 失業 社会保障 公的扶助		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	労働および生活への社会科学的見方を取 得 社会制度の歴史と現状についての研究 方法を習得 卒業論文の執筆に向けた準備		
授業の内容	社会理論の専門書の輪読 ゼミ生同士の討論		
成績評価の方法	レポート+授業・討論への参加などの評価		
テキスト	適宜指定図書を提示(半期2, 3冊以上)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	無断欠席禁止		

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	住居 広士		
研究室の場所	三原キャンパス 2505研究室		
オフィスアワー	水曜日お昼休み、場所は担当研究室で、面談は事前に要予約とする。		
授業の形式・方式	ゼミナールによる対面ならびに演習等の形式と専門研究にて演習する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	介護保険制度、老人福祉法、高齢者福祉、長寿総合科学、高齢者に対する支援、少子高齢社会		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	1. 高齢者の心身的特徴や生活障害について専門的演習するとともに、老人福祉の社会的背景について専門的演習する。2. 現代社会における高齢者福祉の理念と意義について専門的演習する。3. 高齢者の福祉サービスと介護サービスにおけるソーシャルワークを専門的演習する。4. 高齢者福祉に関する社会資源と社会システムについて専門的演習する。5. 専門演習Ⅱにてさらに高度な高齢者に対する支援と介護保険制度に関する総合研究的演習をする。6. 卒業研究に向けて高齢者福祉に関する専門的研究演習を展開する。		
授業の内容	高齢者福祉に関するソーシャルワークの実際について、ゼミナールによる専門的演習形式にてさらに高等に専門的演習する。具体的な高齢者福祉に対する生活支援方法について、事例研究や専門研究等をまじえてさらに高等に専門的演習をする。高齢者福祉に関する福祉サービスや介護サービスについては、近隣から全国にかけて市町村の地域包括支援センターや介護保険事業を具体的に上げながら、より実際的なソーシャルワークを実践しながらより高等な専門研究演習をする。		
成績評価の方法	演習における出席、レポート、発表、グループ研究、個人研究などから総合的に評価する。		
テキスト	基礎からの社会福祉『老人福祉論』ミネルヴァ書房、2007年。		
参考文献	『介護保険における介護サービスの標準化と専門性』大学教育出版、2007年。『介護福祉用語辞典』ミネルヴァ書房、2009年。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	高齢者福祉の課題は、現代の少子高齢社会において、極めて国際的課題であり、専門演習Ⅰと専門研究を通じた長寿総合研究で、高齢者福祉に関する専門演習Ⅱによりさらに高等な研究と演習により専門性を高める。		

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	澤田 千恵		
研究室の場所	三原キャンパス 3419研究室		
オフィスアワー	特に定めない。可能な限りいつでも対応する。		
授業の形式・方式	講義および演習形式で行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修。		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	1. 卒業研究論文作成に向けて、論文作成のための基礎力を養う。2. 専門演習Ⅰを踏まえ、各自の問題関心に基づいた卒業研究のテーマ設定に向けて文献調査を行い、文献をレポートして問題認識を深める。		
授業の内容	1. 研究テーマの選び方、2. 研究計画の立て方・進め方、3. 文献レビューの方法、4. 問題関心に基づいた文献レビューの実施、5. 量的研究の方法、6. 質的調査研究法、7. 論文の執筆作法		
成績評価の方法	授業への参加態度(50%)とレポート(50%)による評価。		
テキスト			
参考文献	久田則夫編『社会福祉の研究入門—計画立案から論文執筆まで』中央法規、2003年。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	金子 努		
研究室の場所	三原キャンパス 4423研究室		
オフィスアワー	要予約。		
授業の形式・方式	講義および演習形式で行う。演習では、学生がレポートを報告し、その報告をもとに議論し、深める。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	ケアマネジメント、ソーシャルワーク		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	卒業研究論文作成に向け、自らの問題関心を深め、研究テーマの設定に結びつけると共に、論文作成に必要な基礎的な作業、例えば先行研究のレビューの仕方やレポートのまとめ方など、を行えるようになることを目標とする。本授業は、卒業研究論文作成に向けた基礎演習の位置づけとなる。		
授業の内容	専門演習Ⅰを踏まえ、卒業研究のテーマの設定に向け、受講生各自の問題関心に焦点をあて、深める方法や先行研究のレビュー法などを学習する。専門演習Ⅰ同様、受講生がレポートし、それをもとに議論を行う。		
成績評価の方法	授業での参加度50%、レポート50%の割合で成績を評価する。		
テキスト	梅野潤子『研究って何だろう』高菅出版、2013年		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	江本 純子		
研究室の場所	三原キャンパス 2516研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	演習形式(講義および個人・グループ研究・発表形式)		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	こころの健康、精神保健・福祉、精神障害者、政策、ソーシャルワーク事例検討、カンファレンス		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>変化の激しい現代社会において、多くの人が、さまざまな生活問題やこれに伴うストレスを抱えています。そこで、ソーシャルワーカーは、生活問題を抱える人々を支援する専門職として、重要な役割を担っています。ソーシャルワーカーが実践で活躍するためには、2つの力が必要です。それは、これまで学習した理論を現場で応用する力と、現場で生じている問題を理論化し、整理し直す力です。専門演習Ⅱは、個々の実習体験をもとにして、この実践力を身につけることを目標とします。具体的には、現場で何か生じているのか、その背景にどんなことがあるか、ソーシャルワーカーとしてどう対応すればよいかをについて、みんなで話し合いながら検討します。</p>		
授業の内容	<p>第1回：オリエンテーション 授業方針と評価方法の説明等 第2回～13回：事例検討 第14回：まとめ 第15回：テスト</p>		
成績評価の方法	3分の2以上出席者のみに試験・レポートを実施し、定期試験またはレポート60%、授業への参加度(発表、授業態度等)を40%で評価する。小テスト、受講態度等を加味して評価する。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	質問・討論への積極的な参加を望みます。 参加人数、参加者の問題関心に合わせて内容は変更します。		

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	大下 由美		
研究室の場所	三原キャンパス 4529研究室		
オフィスアワー	メール等で事前にご連絡ください		
授業の形式・方式	対面形式。演習形式。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰ(大下)を履修していることが望ましい		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	家族の力動性、家族変容技法、解決志向アプローチ、ナラティブ・アプローチ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	保健福祉領域で解決が求められる様々な生活場面での問題を、社会構成主義的視点から理解し、その問題解決に向けた最先端の支援論を学ぶ。特に、家族とその背景の力学の評定と変容技法およびその測定法を学ぶ。		
授業の内容	前期専門演習Ⅰで学習した内容を深めるため、社会構成主義的視点に基づく支援モデルとそれとは異なる支援モデルについて、考察する機会を提供する。受講学生は、著作を1冊選び、レポート発表を行う。さらに、評定理論に基づく介入論、および介入技法論についての体験的学習を行う。モニタールームを使用し、実際の面接技術の実技演習も行う。また、教授する実践理論及び技術に基づいた実践を行っている現場の専門家との学習の機会、大学院生によるTAの機会も提供する。		
成績評価の方法	レポート発表および実技演習点で評価する。		
テキスト	『ファミリーソーシャルワークの理論と技法』、Reconstructing Meaningful Life Worlds 他		
参考文献	『ヒューマンサービス調査法を学ぶ人のために』『サポート・ネットワークの臨床論』、		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	最先端の高度な理論的、技術的学習を行うため、支援論およびコミュニケーションスキルの向上に高い関心のある学生さんの受講を期待する。		

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	中谷 隆		
研究室の場所	三原キャンパス 4528研究室		
オフィスアワー	特に定めない。		
授業の形式・方式	演習形式。集団討議を基本とする。事前に配布する学術論文等の資料を学習してもらい、授業ではそれをもとに討議しつつ内容理解をさらに深めさせる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	論理的思考力, 批判的分析力		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学術論文等の資料を検討しつつ、論理的思考力と批判的分析力を養うことを授業の目標とする。そして事柄をさらに整理させて抽象的に物事をとらえる力を育成する。卒業研究の準備過程という位置づけである。		
授業の内容	下記の心理学分野からの学術論文等の資料等を摘出して、調査実験計画の立て方、方法、結果の分析の仕方、解釈の妥当性などを検討する。課題にする資料等は次の分野から摘出する。対人心理学、人格、適応、臨床心理学、ストレスと感情、学習心理学、認知心理学。		
成績評価の方法	2 / 3 以上の出席がなければ単位は認定されない。評価は、文献内容の理解度(70%)と授業中の発言(意見)内容(30%)に基づいて総合的に判断する。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	参考文献は随時指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講に際しては自らの興味をベースにした研究テーマを設定して、それに関する文献を探し、読んで内容を紹介する作業が必要となる。またそのテーマも心理系に限られるので、心理学関連に興味があって、自ら進んで主体的に学ぼうとする学生に向いている。		

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	勝見 吉彰		
研究室の場所	三原キャンパス 4530研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	演習形式。受講学生による発表と討論。必要に応じて教員による講義。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	臨床心理学的研究 調査		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	個々の受講学生が身の回りの様々な事象を心理学的な視点からとらえることに興味を抱くようになっていくこと、そして卒業研究に取り組むための姿勢、方法の基礎を獲得することが目標である。		
授業の内容	学生が卒業研究のテーマを見つけていくことができるように、教員が心理学、精神医学の様々な領域の研究論文等を紹介していく。それらの論文等を読み進めることを通して、受講学生自身が卒業論文に取り上げるテーマを探っていく。そして各自が興味あるテーマに関連した研究論文を紹介しながら、ディスカッションを進めていく。		
成績評価の方法	出席、討論への参加、プレゼンテーション等により評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。資料を配布する。授業の中で参考文献を示す。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	細羽 竜也		
研究室の場所	三原キャンパス 4527研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	演習・対面形式.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	卒業研究の準備, 文献調査, 卒業研究の計画立案		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】 以下のことを授業の目標に設定する。(1) 関心のあるトピックスの絞込み, (2) 先行研究の文献調査, (3) 卒業研究のテーマ設定, (4) 研究計画の立案</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 卒業要件に関わる専門演習に位置づけられている。</p>		
授業の内容	<p>この演習では以下の内容について取り組むことになる。</p> <p>(1) 関心のあるトピックスの絞込み (2) 先行研究の文献調査 (3) 卒業研究のテーマ設定 (4) 研究計画の立案</p>		
成績評価の方法	演習への参加態度 (50%) , レポート課題 (50%)		
テキスト	特になし		
参考文献	特になし		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	積極的な授業参加を望む		

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	松宮 透高		
研究室の場所	三原キャンパス 2519研究室		
オフィスアワー	月曜日・金曜日		
授業の形式・方式	対面授業。必要に応じて個別面談形式で実施。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	対人援助・ソーシャルワーク・精神保健福祉・児童虐待とメンタルヘルス問題		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	卒業研究論文作成に向け、自らの問題関心を深め、研究テーマの設定に結びつけると共に、論文作成に必要な基礎的な作業、例えば先行研究のレビューの仕方やレポートのまとめ方など、を行えるようになることを目標とする。本授業は、卒業研究論文作成に向けた基礎演習の位置づけとなる。		
授業の内容	研究展開のスキルについて学ぶとともに、各自の関心領域を報告し合いながら、関連する論文のレビューや見学などを通してテーマの焦点化していく。最終的に研究計画書と文献リストの作成に取り組み、卒業研究の基盤固めを目指す。		
成績評価の方法	レポート(80%)、演習への主体的な参加姿勢(20%)を総合的に評価する。学期末(冬休み明け)には、任意のテーマに関する先行研究に基づくレポートの提出を求める(40×40×5P程度)。		
テキスト	とくに指定しないが、必要に応じて参考文献を提示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	研究のスキルは、社会人とりわけソーシャルワーカーにとって重要である。問題意識について根拠に基づき他者を説得する力は、ソーシャルアクションの武器となる。その際のテーマは、自分の本音や関心に近い方が楽しくやれる。自分なりの関心テーマを持ち寄って欲しい。		

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	國定 美香		
研究室の場所	三原キャンパス 4531研究室		
オフィスアワー	担当教員の研究室(要予約)。		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	研究方法, データ収集・分析, 研究論文		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	専門演習Ⅱは、卒業研究論文作成に向けた準備を行います。専門演習Ⅰに基づき、研究方法の選択, データ収集・分析, 研究論文のまとめ方を学ぶことを目標にしています。		
授業の内容	1. 各研究方法の特徴 2. 研究方法の選択 3. 研究における倫理的配慮 4. データ収集方法 5. データ分析方法 6. 研究論文のまとめ方		
成績評価の方法	課題レポートで評価します。		
テキスト	必要に応じて資料を配布します。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	西村 いづみ		
研究室の場所	三原キャンパス 2518研究室		
オフィスアワー	特に定めない。		
授業の形式・方式	演習形式を基本とする。また、発達支援・家族支援の実践の場への視察等を行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	障がい、子ども、養育環境（家庭、療育/保育/学校、地域）		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	主に障がい児と養育環境に関する各自の問題関心を深め、研究テーマの設定に結びつけるとともに、論文作成に必要な基礎的作業（先行研究レビューの仕方やレポートのまとめ方など）が行えるようになることを目標とする。本科目は卒業研究に向けた基礎演習の位置づけとなる。		
授業の内容	専門演習Ⅰを踏まえ、障がい児と養育環境に関する研究領域について、各自の卒業研究のテーマに関連する論文等のレビューを行う。		
成績評価の方法	2/3以上の出席がなければ単位は認定されない。レポート発表、議論への参加度、研究計画書によって総合的に評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。授業の中で適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	吉田 倫子		
研究室の場所	三原キャンパス 3518研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	演習形式を基本とし、必要に応じて現場踏査、フィールドワークを行います。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	福祉住環境、バリアフリー、在宅福祉、施設居住、住宅改造		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	次年度卒業研究に取り組むための準備期間とします。 卒業論文の書き方、研究の方法の選択、データ収集や分析の方法等を学びます。さらに 関心のある分野の絞り込み、研究の文献調査、卒業研究のテーマ設定までを本演習の目 標とします。		
授業の内容	授業内容は、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文の書き方について文献を通して学ぶ。</li> <li>・関心のある分野を絞り込む。</li> <li>・先行研究の文献を読む、整理する。</li> <li>・卒業研究のテーマを検討する。</li> </ul> 以上を、グループおよび個人で作業を進め、作成したレポートに基づいて、参加者で議 論を行います。		
成績評価の方法	授業への参加態度(50%)、レポート課題(50%)にて評価をします。		
テキスト	テキストは無し。参考文献は授業時提示する。		
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	特になし。		

授業科目名	専門演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	越智 あゆみ		
研究室の場所	三原キャンパス 3511研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年生、専門演習Ⅰを履修		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	卒業研究、ソーシャルワーク研究、先行研究、研究計画		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>&lt;授業の目標&gt; 1. 各自の問題関心にもとづいて設定した研究テーマについて、文献検索システムを用いて先行研究を収集できる。 2. 先行研究の整理を通して各自の研究テーマについて理解を深め、論理的に説明できる。 3. 各自の研究テーマに取り組む研究計画を立て、その計画に沿って研究を進めることができる。 4. 先行研究の知見を踏まえて、各自の研究テーマに最も適した研究方法を選択できる。</p> <p>&lt;カリキュラム上の位置づけ&gt; 卒業研究論文作成に向けた基礎演習としての位置づけとなる。</p>		
授業の内容	この授業では、各自の問題関心にもとづいて設定した研究テーマについて、文献検索システムを用いて先行研究を収集し、その結果をグループで報告する。先行研究を整理して報告する経験を通して、各自の研究テーマについて理解を深め、論理的に説明できる力を培う。その上で、各自の研究テーマに取り組む研究計画を立て、その計画に沿って研究を進める。研究方法は、先行研究の知見を踏まえて、各自の研究テーマに最も適したものを選択する。		
成績評価の方法	授業への参加態度50%、授業内で提示する課題50%で総合的に評価する。		
テキスト	特に定めない。		
参考文献	各自の研究テーマに即して、適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	精神科リハビリテーション学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	細羽竜也		
研究室の場所	三原キャンパス 4527研究室 (細羽)		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面式授業及びグループ討議		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科4年次対象(精神保健福祉士国家試験受験資格取得をめざすもの)		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験の受験資格に係る必修		
キーワード	精神科リハビリテーション、リカバリー、エンパワメント、退院促進、地域移行支援、職業リハビリテーション、地域生活支援、精神科作業療法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】 以下のことを授業の目標に設定する。(1) 精神科リハビリテーションに関する基本的知識を理解する。(2) 精神障害者や精神科医療・福祉の状況をふまえた援助のあり方を理解する。(3) 援助における価値・知識・技術の結びつきを理解できるようになる。(4) 得られた知識を活用し、当事者の問題解決に活用することができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 精神保健福祉士国家試験の受験資格に係わる必修</p>		
授業の内容	精神科リハビリテーションのテキストを基本に、精神科リハビリテーションの概念、構成、プロセス、リハビリテーション技術等について講義する。後期では、精神保健福祉分野における施策についても、リハビリテーション技術と対応させながら講義する。		
成績評価の方法	定期試験にもとづき、授業態度やレポート提出など総合的に評価する		
テキスト	新・精神保健福祉士養成講座『第4巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』中央法規出版、2012年2月		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	金子 努		
研究室の場所	4 4 2 3		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科4年次生対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格取得上の必修科目		
キーワード	精神保健福祉士、精神障害、ソーシャルワーク		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	精神障害者の援助技術論の基礎を踏まえたうえで、各種モデル、アプローチを対象に応じて使い分けられるようになる。 当該科目は、専門領域特有の科目のなかの精神保健福祉士専門科目群に位置する。		
授業の内容	精神障害者とその家族に対するソーシャルワークの援助方法の理論と技法を教授する。さらに、精神障害者に対するケアマネジメント理論とその意義を教授する。また、多職種協働の意義や求められる知識や技術を教授する。		
成績評価の方法	毎回の授業終了時の小テスト及び期末試験で評価する。 全体で60%以上のポイント取得で単位認定する。		
テキスト	日本精神保健福祉士協会編『新 精神保健福祉士養成講座第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』中央法規出版		
参考文献	ルイーゼ・C. ジョンソン/ステファン・J. ヤンカ著、山辺朗子・岩間伸之訳『ジェネラリスト・ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業中の私語厳禁。		

授業科目名	精神保健福祉援助演習Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	細羽 竜也, 金子 努		
研究室の場所	三原キャンパス 4527研究室(細羽), 4423研究室(金子)		
オフィスアワー	水曜日 2限目		
授業の形式・方式	対面形式. グループワークや模擬演習, ロールプレイング等が中心となる.		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科4年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士, 精神保健福祉援助, 精神障害者, 精神保健福祉課題, 協働・連携, 相談援助過程, 精神保健福祉現場実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>&lt;授業の目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害者の生活や生活上の困難を把握することができる.</li> <li>2. 精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について, 実践的に修得する.</li> <li>3. 精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目と関連づけることができる.</li> <li>4. 専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていく能力を涵養する.</li> </ol> <p>&lt;カリキュラム上の位置づけ&gt;</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格取得における必修科目.</p>		
授業の内容	厚生労働省が示したシラバス内容に含まれる事項を学習する. 具体的な内容は, 随時示していく.		
成績評価の方法	出席, レポート, プレゼンテーション, 授業への参加態度を総合的に評価する.		
テキスト	日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座(8)精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』, 中央法規, 2012年.		
参考文献	授業中に随時紹介する.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は, 必ず履修すること.		

授業科目名	専門英語講読		
担当教員氏名(助手氏名)	本岡 直子		
研究室の場所	三原キャンパス 3506研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。主に下記の教科書の各章を演習形式で実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	health, medical terms,		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>この科目では、「Comprehensive Reading I」「Comprehensive Reading II」「Extensive Reading」で獲得した技能をさらに発展させ、各分野の基礎的な専門用語を含む英文を読んで正確に理解できる力の習得を目標とする。文章のジャンル(記事、ビジネス文書、論文など)に応じた構成を理解できる。専門用語の基礎的な知識を得ることができる。</p> <p>本科目は、全学共通教育科目の外国語科目に区分されており、県立広島大学の2年生として必要な基礎的なリーディング能力を養う科目として位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>学部に応じた内容とレベルの教材(ビジネス英語、科学英語、医療英語など)を扱い、基本的な専門用語やその分野特有の表現に関する読解演習を行う。</p> <p>保健福祉学部においては、医療に関する単語を習得しながら、医療に関する英文を読み、各種の練習問題に取り組んでいくことにより、医療系の英文を読む力を身につける。</p>		
成績評価の方法	期末試験60%、小テストおよび課題40%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。		
テキスト	テキスト 樋口晶彦著『First Aid!』(金星堂)2013		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習をして授業に臨むこと。		

授業科目名	バイオと環境		
担当教員氏名(助手氏名)	入船 浩平, 五味 正志		
研究室の場所	庄原キャンパス 入船: 5501研究室 五味: 3403研究室		
オフィスアワー	随時(入船・五味)		
授業の形式・方式	【入船・五味 共通】対面授業(遠隔授業: 庄原C発信)。授業日程に従って、講義形式で実施する。学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。【五味】視覚機器を用いて講義中に配付するプリントに基づいて授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	【入船】微生物, 動物, 植物, ヒト, クローン, 遺伝子操作, 遺伝子診断, 再生医療, 組織培養, 細胞融合 【五味】生態系, 物質循環, 生物多様性, 内分泌攪乱化学物質(環境ホルモン), 温暖化, 温室効果ガス, オゾンホール		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	【入船】バイオテクノロジーは、日進月歩で急速に進展し、ともすれば社会の受け入れが追いつかないという状況にある。現代人は、バイオテクノロジーの恩恵を受け、かつ、一方でそのリスクと隣り合わせでもある。現代に生きる我々にとり避けては通れないほどその技術が浸透している。その一端を知り、現代社会を生きていくための一助となるよう講義する。【五味】近年、地球環境問題がクローズアップされており、その内容を十分に理解し、解決策を探ることが全人類に対して求められている。本講義では、地球環境問題の中の主要な課題を取り上げ、その原因、メカニズム、影響などについて基本的な内容を講義する。本講義の目的は、地球環境問題が地球上の全ての人間に関わる問題であり、現在および将来に重大な影響を及ぼす問題であることを理解させることにある。カリキュラム上では、全学生に必要とされる教養科目として、また理系学生の基礎科目として位置付けられる。		
授業の内容	【入船】バイオテクノロジーを広く定義し、ヒトの社会生活の営みとの関わりから始まって、近代・現代の先端的话题まで講義する。また、対象生物も微生物、植物、動物(ヒト)に至まで幅広く講義する。1. バイオの歴史 2. 微生物と環境 3. 微生物と食品 4. 植物と栽培・培養 5. 遺伝子組み換え作物 6. 受精卵操作とクローン動物 7. 再生医療近辺 【五味】環境科学に関して、生物と環境との関係から解説する。本講義では、まず生態系の持つ重要な機能であるエネルギーおよび物質の循環について理解させる。次に、さまざまな内分泌攪乱化学物質や温室効果ガスの増加に伴う温暖化などによって、どのような環境破壊が進行しているのか、またその環境破壊によって生物がどのような影響を受けているのかを概説する。環境破壊の原因と現状の理解を通して、地球環境保護の重要性を認識し、人間活動が環境に与える影響を軽減させるための対策とその実効性について理解を深める。		
成績評価の方法	前半担当教員【五味】については第8回講義に試験を実施し、試験90%と授業態度10%の割合で評価する。試験は指定された講義室(試験室)内において指定された講義時間(90分)内で、プリントやノート類の持ち込み不可で実施する。場合によってはレポートを課すこともある。レポートの記述量は、随時指示する。後半担当教員【入船】については期末試験期間中に試験を実施し、試験90%と出席10%の割合で評価する。試験は指定された講義室(試験室)内において指定された講義時間(90分)内で、プリントやノート類の持ち込み不可で実施する。場合によってはレポートを課すこともある。レポートの記述量は、随時指示する。		
テキスト	【入船・五味】 教科書は使用しない。		
参考文献	【入船】参考文献は、講義中適宜指示する。 【五味】参考文献 佐藤淳 著『環境ホルモンのしくみ』日本実業出版社 1999年、遺伝別冊 No. 17 『地球温暖化』裳華房 2003年		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修者は十分に予習・復習をして講義に臨むこと。授業に関する連絡方法は、教学課の掲示板に掲示するか、講義中に口頭や文書で指示する。講義中の私語は、他の受講者の迷惑となるので厳禁とする。講義の妨げとなる行為を注意され、その指示に従わない時は講義室から退室を命じる場合もある。レポート、試験等で本学規定の不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学規則(学則)に基づき対応する。		



授業科目名	人間科学論		
担当教員氏名(助手氏名)	江島洋介, 猪木省三, 菅原芳明, 福場良之		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員が授業の中で提示する。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 各教員が授業を講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	生体分子, 遺伝, sanguine (快活な), phlegmatic (無気力な), melancholic (憂うつな), bilious (気むずかしい), 心の働き, 表と裏, 科学研究		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>目標: 人間の心と体及び健康と発達にかかわる科学研究の成果と方法についての知識を得るとともに氾濫する疑似科学に騙されない, 科学的・批判的態度を身につける。  位置づけ: この科目は, 人間文化学部の学部共通科目である。国際文化学科と健康科学科という学科の専門分野を超えて共有すべき視点と知識を教授し, 諸課題に対して多角的に分析する態度が身に付けられるよう, 学部教員4人が, オムニバス形式で担当する。</p>		
授業の内容	<p>(菅原)「身体」- 自然や人体について, 人はどのように捉えて来たのか? 科学的側面と共に, 文化(学)的側面にも光を当てつつ, 「人」と「科学」, また「文化」について考える。  (福場)「科学研究論」- 人間の健康に関する科学情報はどのようにして生み出されているのかを概説し, その判断の基礎となる考え方を具体的に説明する。  (江島)「人体の化学」- 物質的, 化学的な視点から人体というものを考える。遺伝子と遺伝現象についても解説する。  (猪木)「心の働き」- 人間の心の働きには, 日常生活を快適なものにするのに役立つ正の側面と, 逆にさまざまな問題を生む負の側面があることを理解させ, 人間理解の基礎となる視点を身につけさせる。</p>		
成績評価の方法	各担当教員が25点満点でレポートを採点し, 合計点で評価する。レポートの課題・分量・形式等は, 各担当教員が授業の中で提示する。レポートの締切は, 各担当教員の最終週の授業の2週間後の16時。提出先は教学課の提出箱。		
テキスト	共通のテキストは使用しない。各担当教員が適宜プリントを配布する。		
参考文献	各担当教員が授業の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	国際文化学科の学生は, 人間科学論, 共生社会論及び健康文化論から, 4単位以上履修すること。		

授業科目名	共生社会論		
担当教員氏名(助手氏名)	酒川 茂, 三浦朗, 吉本和弘, 原理		
研究室の場所	広島キャンパス 1811, 1515, 1824, 1916		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従い, 基本的に1人の教員が3回の授業を主に講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	地域文化, 食文化, 継承, 組織, 健康, 自立, 運動不足, スポーツ, 休養, 植民地主義, 言語支配, 自由, 民主主義, 法治主義, 移民, 多文化主義, 民族主義		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は, 全学共通教育の複合科目に位置付けられる。国際文化学科と健康科学科という学科の専門分野を超えて共有すべき視点と知識を教授し, 諸問題に対して多角的に分析する態度が身に付けられるよう, 人間文化学部教員4人がオムニバス形式で担当する(担当者の順番の変更が生ずる場合があります)。		
授業の内容	国際社会と地域社会において必要とされる共生社会を目指すために以下の多面的な角度からアプローチする。(酒川)地域の文化が継承され, 発展していく過程で, 人々はともに活動する場や組織を創り出す。さらには地域を越えてつながる機能的関係について, 主に「食文化」の面から考察する。(三浦)健康であることは, 他者と共に生きていく上で重要なことのひとつである。まず, 現代社会における健康阻害要因を理解する。その上で, 生涯を見据えた健康づくりのプランを「運動・スポーツ」と「休養」という観点から学ぶ。(吉本)英語圏の主要な冒険物語に描かれた文明と野蛮の衝突を検証しながら, 支配と被支配について考察する。また現代における英語帝国主義とは何かを考える。(原)自由や平等は一般的に人類普遍の価値観だといわれている。そして政治体制としては民主主義が最善かつ最終的形態だと考えられている。これらの観点から共生社会を考える。		
成績評価の方法	各担当教員毎に課す課題レポートによって評価する。レポートの課題, 提出期限, 分量等については, 各担当教員がそれぞれ指示する。期末試験は実施しない。		
テキスト	共通のテキストは使用しない。各教員が適宜プリントを配布する。		
参考文献	参考文献については, 開講時に教員が指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	国際文化学科の学生は, 共生社会論, 人間科学論及び健康文化論から, 4単位以上履修すること。		

授業科目名	実用英作文Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	Amir Feroze [非常勤講師]		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Practical language class		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科A・理学療法学科・作業療法学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>This is a follow-up course to Communicative Writing I. The aim of this class is to develop students' practical writing abilities. The students will be able to write in a variety of styles and purposes for a variety of audiences. Upon successful completion of the course, the students will be confident of their ability to write effectively. Specifically, they should be able to Gather ideas; define and narrow the topic; evaluate, select, and order material to write an organized paragraph, essay, and business or personal letter or email message. Adjust the content and style of your writing to your purpose, audience, and situation. Develop letter-writing strategies and produce business writing (including memos, e-mails, and letters) with minimum preparation time. Write, revise, and edit work to improve content organization, word choice, phrasing, sentence and paragraph structure, spelling, and punctuation.</p> <p>This class belongs to the foreign language curriculum, and is an intermediate course for sophomores of the Prefectural University of Hiroshima.</p>		
授業の内容	<p>This course introduces the students to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>·practices in brainstorming, free writing, outlining.</li> <li>·explore writing: thinking, analyzing and discussion.</li> <li>·develop and include enough details and examples</li> <li>·organize the identified purpose and suit the audience.</li> </ul> <p>The students will be engaged in writing-centered activities and will experience writing &amp; reading.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Class Introductions &amp; House Rules</li> <li>2. What is good written communication (Parts of speech, Basic Grammar, vocabulary)</li> <li>3. The writing process</li> <li>4. Direct messages/ Indirect Messages - strategies</li> <li>5. Writing effective essays as a multi-step process.</li> </ol>		
成績評価の方法	Grades are based on punctuality, attendance, active participation, writing tasks.		
テキスト	None.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>Students are expected:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>to come prepared with reading materials (text books, dictionaries) and writing tools (pencils etc.)</li> <li>to review the text, reference material and/or any further readings.</li> <li>to participate actively in class</li> </ul>		

授業科目名	実用英作文Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	Brian Haws [非常勤講師]		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Practical language class		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学科B, 人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英会話, 表現力, conversation, expression		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>Students will learn to both understand and produce a wider range of conversation patterns in English. Students will also learn to present their own opinions in discussion of various content areas. This course will build on skills acquired from the previous course to allow students to further develop their English ability in a variety of settings.</p> <p>This class belongs to the foreign language curriculum, and is a basic course for the freshmen of the Prefectural University of Hiroshima.</p>		
授業の内容	<p>1) Paragraph development-Extended Self Introduction, 2) Paragraph development-Introducing another person, 3) Paragraph development- Daily activities, 4) Paragraph development- Past event, 5) Paragraph development- Describing hometown, 6) Paragraph development- Expressing future aspirations, 7) Paragraph development- Describing country or region, 8) Paragraph development- Expressing opinions, 9) Paragraph development- Summarizing current event, 10) Paragraph development-Summarizing aspect of Japanese culture, 11) Paragraph development-Providing summary of field of study, 12) Letter Composition, 13) Letter Composition, 14) Essay Composition, 15) Essay Composition</p>		
成績評価の方法	Class participation 40%, Composition content 60%		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>Language learning can be very challenging yet very rewarding. I encourage all students to adopt the mentality that learning English is a practical skill that will be very useful with future endeavors. I will assist with this challenge both in and out of the classroom in any way possible. Lastly, I would encourage all students to try using English without fear of making mistakes.</p>		

授業科目名	実用英作文Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	Timothy Buthod		
研究室の場所	三原キャンパス 3414研究室		
オフィスアワー	By appointment		
授業の形式・方式	Practical language class		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	paragraph, essay, style, academic writing		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	The aim of this class is to develop students' writing skills. Students will learn basic English paragraph and essay structure, including writing about their academic specialties. They will also learn several rules for clear and effective writing in English. This class belongs to the foreign language curriculum, and is a basic course for sophomores of the Prefectural University of Hiroshima.		
授業の内容	Students will examine the structures of several types of English paragraph. They will write paragraphs of their own, first about simple topics and then about more abstract issues. They will also study English texts to identify ways of writing more clearly in English. Finally, students will write an essay on their area of academic study. Throughout the course, students will work together in pairs or groups to generate ideas and give each other feedback.		
成績評価の方法	Journal: 40% Homework and in-class assignments: 40% Test: 20%		
テキスト	The teacher will provide handouts, and students will generate their own texts.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	The process of writing involves several steps. For every assignment, there will be several drafts. Do not expect to write a paragraph once and then turn it in. You are expected to polish it using feedback from your instructor and your classmates.		

授業科目名	福祉と社会問題		
担当教員氏名(助手氏名)	坊岡峰子, 金子 努, 玉井ふみ		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	坊岡(予約制), 金子(予約制), 玉井(予約制)		
授業の形式・方式	対面形式を基本とし, 必要に応じてグループワークも実施.		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係わる必須科目		
キーワード	社会福祉関係法, 社会保障制度, 高齢者・児童・障害(児)者福祉, 医療制度, 社会福祉援助技術, 言語聴覚士と他職種との連携		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>まず, 国内外の社会福祉の歴史の変遷, 社会福祉関連法規など基礎的な内容を学ぶ. 次に, 特に言語聴覚士が関わる障害児・者, 高齢者本人やその家族などを支援するために必要となる, 社会福祉制度・サービスについて理解し, 他職種との連携の基盤となる知識を習得する. さらに, 社会情勢, 政治・経済とも連動した, 社会福祉関係の動向を, 自分たちの身近な問題であることを理解し, 日頃から関心をもつ必要性を理解する. また, 相談援助技術を演習を通して学び, 患者さんやその家族とのコミュニケーションにも役立てる.</p>		
授業の内容	<p>社会福祉の基本的な考え方や歴史, 社会福祉関係法および社会保障制度, また社会福祉専門職の内容について講義する. また, 刻々と変化する福祉サービスや制度の内容などを, 新聞記事などに注目することで, 日頃からの関心を高める必要性を示す. さらに, 相談援助技術, 対人援助技法など, 言語聴覚療法の現場で役立つ技法を習得できるように, 演習も実施する.</p>		
成績評価の方法	授業後のまとめ・感想・取り組み姿勢30%, 課題レポートや発表10%, 期末試験60%で評価する.		
テキスト	資料を適宜配布.		
参考文献	「社会福祉原論」新・社会福祉士養成テキストブック, 「高齢者援助における相談面接の理論と実際 第2版」渡部律子 医歯薬出版, 厚生労働白書, 社会福祉の動向.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>遅刻厳禁. 基本的には対話式で講義をすすめることが多いため, 積極的な参加・発言を期待し, 授業態度としても評価します. 障害児・者, 認知症者などの当事者, またはその家族の手記を1冊読み, STの視点でのレポート作成および発表を課題としますので, 早めに準備をしておいて下さい. また, 社会福祉に関する新しい情報について日頃から関心をもち, 現状や変化を把握しておいて下さい. ○提出期限厳守!: 期限以降は原則受け付けません. 日時, 提出内容を十分確認して下さい.</p>		

授業科目名	検定英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	本岡 直子		
研究室の場所	三原キャンパス 3506研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	演習形式(週1コマ(90分) x 15回)		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象【前期】		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, 聴解, 読解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>TOEIC(国際コミュニケーション英語能力テスト)において350~500点を取得することを目標とする。TOEICのスコアで自分の英語力を客観的に把握し、また具体的な目標を設定することができる。</p> <p>本科目は、全学共通教育科目の外国語科目の選択科目であり、選択した学生が目標を持って主体的に学習していくことが求められる。</p>		
授業の内容	<p>聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習を行う。速読速解, 速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行う。</p> <p>TOEIC500点以上を取得した履修生の単位を認定する。また, 習熟度や内容に応じたクラス編成を行ない, 学習者に応じた能力の向上をはかる。</p>		
成績評価の方法	<p>学期末に実施する TOEIC IP 学内試験の成績によって評価を行う。開講回数の3分の2以上出席し, TOEICで500点以上取得した履修生の単位を認定する。500点~545点はC、550点~595点はB、600点~645点はA、650点以上はA+とする。なお、学期中のTOEIC公開テストの得点で代用することもできる。</p>		
テキスト	吉塚弘ほか(2015) Best Practice for the TOEIC(R) Test (成美堂)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	開講回数の3分の2以上出席し, TOEICで500点以上取得した履修生の単位を認定する。		

授業科目名	検定英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	高島 裕臣		
研究室の場所	三原キャンパス 2515研究室		
オフィスアワー	在室時は可能な限り対応します。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、教科書各章の題材をもとに講義および語学演習を行う。毎回の授業に集中して臨み、期末試験として行われるTOEIC IPで成績判定基準に達することが求められる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1・2年次対象【後期】		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, 聴解, 読解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	TOEIC500~750点レベルを目標とする。英語の資格の中でTOEICを英語学習に活用し、TOEICのスコアで自分の英語力を客観的に把握し、また具体的な目標を設定することにより、聴解、読解、英語構文理解などの発展的な能力の養成を目指す。 本科目は、全学共通教育科目の外国語科目の選択科目であり、選択した学生が目標を持って主体的に学習していくことが求められる。		
授業の内容	速読速解、速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行う。TOEIC500点以上を取得した履修生の単位を認定する。また、習熟度や内容に応じたクラス編成を行ない、学習者に応じた能力の向上をはかる。		
成績評価の方法	検定英語Ⅱ：学期末に実施する TOEIC IP 学内試験の成績によって評価を行う。500点以上550点未満はC、550点以上600点未満はB、600点以上650点未満はA、650点以上はA+とする。履修期間中に取得したTOEIC公開テストのスコアを担当教員に提出することでTOEIC IP 学内試験の成績に代えることもできる。上述の成績判定基準は出席要件(3分の2以上の出席)を満たしていることが前提であり、出席要件を満たしていない場合の成績評価はDとなる。		
テキスト	山口昌彦ほか. (2015). The TOEIC(R) TEST Trainer Target 470, Revised Edition. センゲージラーニング.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回出席しよう。TOEICの問題形式に習熟し、たくさん問題演習をしてTOEIC・TOEIC IPに備えよう。		



授業科目名	総合臨床実習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	田端 幸枝, 西村 玲子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	田端：火曜日12：10－13：00, 西村：金曜日12：10 - 13：00		
授業の形式・方式	精神科医療において診療報酬を算定している臨床実習施設における臨床実習。作業療法士の実習指導者の下で9週間臨床実習を行う。		
単位数(時間数)	9単位 (405時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科4年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	臨床実習, プロフェッショナリズム, 精神科作業療法, 精神科デイ・ケア, 重度認知症患者デイ・ケア, 認知症治療病棟, 作業療法評価, 作業療法治療計画立案, 作業療法実施経験		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	カリキュラム上の位置づけ：「専門領域特有の科目」の「臨床実習」に位置する。 授業の目標：大学で学んだ精神障害作業療法関連領域の作業療法知識と技術を臨床の場において適用すると共に作業療法士としての基本的態度及び臨床的知識と技術を体得する。 ① 作業療法士として適切な態度がとれる。 ② 担当患者とそれを取り巻く医療的環境及び背景にある生活環境を理解できる。 ③ 基本的な作業療法過程を経験する。 ④ 保健・医療・福祉チームの役割と機能を理解し、チームの一員としての責任と役割を経験する。		
授業の内容	臨床実習指導者の指導のもとに作業療法評価, 作業療法治療計画立案, 作業療法実施, 再評価を経験する。また, 臨床で作業療法士として実際の医療の場で専門職としてどのようにふるまうのか, 患者に対してどのように対応するのか, 作業療法を対象者に合わせて実施するのか, チームメイトとどのように典型・協力するのかを体験する。		
成績評価の方法	臨床実習指導者の評価, 実習前後のオリエンテーションやセミナーへの参加状態, 提出物課題のプレゼンテーション等の内容から総合的に評定する。		
テキスト	臨床実習の手引きを配布する。		
参考文献	日本作業療法士協会：①「作業療法 臨床実習の手引き」第4版, ②「養成教育および臨床実習での学生に対するハラスメント予防」, 必要な参考文献は随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実習施設では職員の一員という心構えで臨むことと社会人としての対応に逸脱がないよう真摯に実習に取り組むことが必要です。また, 守秘義務を遵守してください。さらに, 自己の健康管理にも十分に配慮することも必要となります。		

授業科目名	総合臨床実習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	西田征治, 土田玲子, 吉川ひろみ, 古山千佳子, 高木雅之, 山西葉子, 永吉美香		
研究室の場所	三原キャンパス 3420研究室		
オフィスアワー	水曜日 16:20-17:50		
授業の形式・方式	学外実習。病院及び施設等に9週間滞在し臨床実習指導者の個別指導を受ける。		
単位数(時間数)	9単位 (405時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科4年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	作業療法評価, 介入計画立案, 介入実施, 成果検討		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学内で学んだ知識および技術を臨床実習指導者のもと実際に実習の場で適用し作業療法の実践能力を養うことを目標とする。		
授業の内容	身体障害, 発達障害および老年期障害を有する人々と家族や地域に対して、学内で学んだ様々な作業療法に関する知識・技術を用いるために実習が行われる。実習は一般病院、リハビリテーション専門病院、療育園児童デイサービスなどで行われ、作業療法を実施する上で必要な評価、計画立案、実施、成果検討、記録・報告、接遇を学習する。実習終了後は実習で学んだ知識や経験を共有できるよう学内にてセミナーが行われる。臨地での実習は1期9週間, 2期9週間の計18週間行われる。		
成績評価の方法	実習指導者からの報告、セミナーでの発表、提出物などを総合して評価する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	特別臨床実習		
担当教員氏名(助手氏名)	高木 雅之 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 2521号室		
オフィスアワー	毎週水曜日15時～18時		
授業の形式・方式	学外にて5日間の実習を行う		
単位数(時間数)	1単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	作業療法学科4年次対象		
免許等指定科目	作業療法国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	地域、職域拡大、可能性、ニーズ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今後、作業療法士の活躍が期待される領域や作業療法士にとって新たな職域となりうる分野における作業療法実践の可能性を検討する</li> <li>2. 作業療法の魅力や可能性を広く発信する</li> </ol>		
授業の内容	実習指導者の下で、2～3名の学生が業務の見学・補助を行う。実習地における事業やクライアントに貢献できそうなことを自ら考え、実習指導者と相談しながら可能な範囲で実施する。		
成績評価の方法	ポートフォリオ、学内におけるプレゼンテーションなどを総合して、評価する		
テキスト	エリザベス・タウンゼント，ヘレン・ポラタイコ著，吉川ひろみ，吉野英子監訳：続・作業療法の視点－作業を通しての健康と公正．大学教育出版，2011．		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	言語理論と言語心理		
担当教員氏名(助手氏名)	林 良子 [非常勤講師] , 松見 法男 [非常勤講師]		
研究室の場所	神戸大学大学院国際文化学研究科 (林) , 広島大学大学院教育学研究科 (松見)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	(林) 私たちが日常使うことばを教材に、パワーポイントを使用して、授業を進める。まとめの資料を配布する。必要に応じてビデオを見たり、課題を与える。 (松見) ノート資料 (書き込み式) を配布し、パワーポイント画面を提示しながら授業を進める。内容に応じてビデオを見たり、心理学の実験を行ったりする。毎回少しずつ手話を覚える。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	(林) 音声と音韻, 語形成, 文法, 意味, 語用, 談話, 社会言語学, 対照言語学 (松見) 認知と情動, コミュニケーションの心理, 言語発達, 言語と思考, 言語とイメージ, 情報の記憶と処理, 音声言語と手話		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	(林) この授業では, 将来的に言語聴覚士として言語臨床現場に携わる者に必要な, 言語学の基礎的な用語, 考え方を理解する。言語学の諸領域を概観するとともに, 自分の母語 (主に日本語) や諸外国語を客観的に分析する能力を身につける。 (松見) 学習・発達・認知心理学の視点から, 言語学習にともなう心理メカニズム (認知面と情動面) を理解し, 言語的・非言語的コミュニケーションの様相や, 言語の発達・記憶・処理過程にかかわる諸問題を探究するための基礎的知識を学ぶ。		
授業の内容	(概要) 言語学の理論について概説し, 音韻論, 形態論, 統語論, 意味論の各々について詳述する。さらに, 言語学習における心的過程について, 心理学的アプローチによる 研究を紹介しながら教授する。 [オムニバス方式] (林) 言語コミュニケーションにおいて, 基本的な概念となる言語学の諸分野を概観し, その基本的な考え方を解説する。私たちが使う「ことば」の性質, そのことばを使うために私たちにはどの様なしくみが備わっているのかを考える。日本語の特徴についても他の外国語と比べながらその特質を解説する。 (松見) 特に子どもの言語発達, 言語と認知・思考との関わり, 単語や文の記憶・処理過程, 言語とイメージなどについて, 言語学習における心理過程を解説する。		
成績評価の方法	(林) 授業への取り組み (10%) と試験の成績 (小テストまたは課題提出30%, 期末試験60%) で評価する。試験は最後の授業時間に実施する。 (松見) 平常の出席状況 (10%), 授業への取り組み (20%), 期末試験の結果 (70%) に基づいて, 総合的に評価する。		
テキスト	(林) 今泉敏編『音声学・言語学—言語聴覚士のための基礎知識』 (医学書院) 2009 (松見) 「特になし」		
参考文献	(林) 風間喜代三, 松村一登, 町田健著『言語学 第2版』 (東京大学出版会) 2004 関啓子著『失語症を解く—言語聴覚士が語ることばと脳の不思議—』 (人文書院) 2003 (松見) 森敏昭編著『認知心理学を語る 2 おもしろ言語のラボラトリー』 (北大路書房) 2002		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	(林) 自分のしゃべっている日本語を外から見て, その面白さ・不思議さを味わってください。授業資料は配布しないので, 講義をよく聞いて, 各自きちんとノートをとってください。 (松見) 心理学について少しでも知識があると内容が理解しやすいと思います。授業を通じて, 「ことば」と「こころ」の関係を考え, 自分なりの言語観を形成してください。		

授業科目名	音声学		
担当教員氏名(助手氏名)	吐師 道子		
研究室の場所	三原キャンパス 3513研究室		
オフィスアワー	アポイントメント		
授業の形式・方式	講義形式で行うが、演習の時間も設ける。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	発声発語器官, 音声, 音素, 母音, 子音, 国際音声記号 (IPA), 音節とモーラ, プロソディー, アクセント, イントネーション, 調音音声学, 実験音声学, 音響音声学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>コミュニケーション障害の臨床と研究に必要な不可欠な音声学の基礎概念と基本スキルを身に付ける。具体的な学習目標は次のとおり。</p> <p>呼吸器系、喉頭、声道が発話にどのように関わっているのか記述できる。</p> <p>IPAシンボル体系での母音、子音の分類方法を理解し日本語の主な母音、子音の調音方法を記述できる。</p> <p>健常日本語発話、及び単純な音の置換のある発話が簡略音声表記でき、使用するIPAシンボルの意味が説明できる。</p> <p>音素とは何か、及び音声表記と音素表記の違いが説明できる。</p> <p>音節とモーラの意味と違いが説明できる。</p> <p>発話の超分節的特徴を分節的特徴と対比させて説明でき、超分節的特徴が伝える情報を列挙できる。</p> <p>日本語アクセント、イントネーションの制御メカニズムが記述できる。</p> <p>摩擦音及び摩擦音の音響的特徴をサウンドスペクトログラムを用いて簡単に説明できる。</p> <p>アクセント、イントネーションの物理的関連要因である基本周波数の計測ができる。</p>		
授業の内容	<p>音声学とは何か</p> <p>発声発語器官の解剖と生理</p> <p>母音の調音</p> <p>子音の調音</p> <p>音素表記と音声表記</p> <p>日本語の子音</p> <p>調音結合、副次調音、母音の無声化、及びそれらに関わる補助記号</p> <p>音節とモーラ</p> <p>超分節的特徴</p> <p>実験音声学の方法</p> <p>母音、子音、超分節的特徴を含む日本語音声の音響特徴</p>		
成績評価の方法	<p>期末試験60点 (前期後期各30点), 小テスト (3回) 計30点, 課題10点 (欠席1回につき全体評価から2点減点)</p>		
テキスト	<p>斉藤純雄著『音声学入門・改訂版』 (三省堂) 2008</p>		
参考文献	<p>言語聴覚士のための基礎知識音声学・言語学 (今泉敏、医学書院)、言語聴覚学の解剖生理 原著第4版 (Willard R. Zemlin, 舘村卓 監訳/浮田弘美・山田弘幸 訳、医歯薬出版)</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>音声学は言語聴覚士としての基礎知識ですが、高等学校までのどの科目とも似ていない、新しい学習体験となると思います。楽しんで下さい。 出席は必須です。</p>		

授業科目名	学習・認知の心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	古屋 泉		
研究室の場所	三原キャンパス 4418研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業. 講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	認知科学, 行動分析, 条件付け		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	心理学を応用(臨床)場面で使用するには, その基礎となる法則・原理の理解が必須である。心理学は, 高校まではほとんど学習していない分野であるため, その用語や方法論がわかりにくいと思われる。本講義では現在の基礎心理学の中心である認知科学と, 学習心理学の主流である行動分析について概説を行い, 以後の心理学関係講義・実習の基礎的な概念と用語を使用できるようにする。		
授業の内容	学習の心理学では, 条件付け学習について概説し, 学習理論の基礎, 学習の神経生理学的な基盤などについて講義する。さらに臨床技能に必須な行動修正の技法や原理を紹介し, 学習理論の応用についても講義を行う。認知心理学は人間の心的過程を情報処理のシステムとして科学的にモデル化し, 理解・予測・制御する科学である。記憶, 言語, 問題解決などの認知心理学の実験トピックの紹介と, その応用について講義を行う。		
成績評価の方法	試験(2回)90%, 授業への積極的な参加10%.		
テキスト			
参考文献	1) 森ら, グラフィック認知心理学, サイエンス社。 2) 実森・中島, 学習の心理学, サイエンス社。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業への積極的な参加を求める。また, 参考書で自習することも必要である。		

授業科目名	コミュニケーション障害学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	城本 修 ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
授業の形式・方式	対面授業。下記の授業内容に沿って、担当教員が講義形式で実施する。また、学内附属診療センター見学や患者の会等への参加を通して、言語聴覚士の業務や実際のコミュニケーション障害をもつ患者や家族との関わりを学ぶ。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科1年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	コミュニケーション、コミュニケーション障害、言語聴覚士		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、コミュニケーション障害や言語聴覚士についてほとんど学習していない学生を対象に、言語聴覚士の職務に関して概説し、コミュニケーションの仕組みやコミュニケーション障害の成因と病態について基本的な内容を解説する。本科目の目標は、2年次のコミュニケーション障害の専門科目への導入でもあり、言語聴覚士を目指す学生の必須科目である。		
授業の内容	人間行動の中でもっとも複雑なコミュニケーション行動とその障害について系統的に学習する。認知、言語、聴覚、発話機能などコミュニケーションの基礎となる過程についての科学的理解を深めるとともに、コミュニケーションが障害されるとはどのようなことなのか、について理解する。さらに種々のコミュニケーション障害の原因、症状について学び、臨床の基本的な考え方を身につける。また、コミュニケーション障害学の歴史、現状、展望についても概説し、コミュニケーション障害の専門職としての言語聴覚士の資質、職務内容、職業倫理などについて理解を深める。		
成績評価の方法	前期・後期の試験の平均点と見学や患者の会等への出席状況およびレポートをあわせて評価する。		
テキスト	標準言語聴覚障害学「言語聴覚障害学概論」医学書院, 2010 適宜資料を配布。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	見学や患者の会等の参加は、講義の一環として行うので、出席を義務付ける。		

授業科目名	発達系障害学概論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	玉井ふみ, 堀江真由美, 細川淳嗣		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
授業の形式・方式	対面授業、主に講義形式で実施するが、内容に応じて演習形式を取り入れる。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	言語発達障害、知的障害、自閉症スペクトラム障害、特異的言語発達障害、学習障害、注意欠如・多動性障害、評価、支援		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	ことばやコミュニケーションの発達の遅れはさまざまな原因から生じ、それぞれの子どもを取り巻く環境や条件により、その様相も多様である。本科目では、言語発達を阻害する要因について知り、それぞれの要因がどのような症状と結びつく可能性があるかを理解すること、子どもの状態をとらえる基本的な視点を身につけることを目標とする。		
授業の内容	まず、小児の言語発達障害を引き起こすさまざまな原因と症状について概観する。その上で、特に、知的障害、自閉症スペクトラム障害、特異的言語発達障害、学習障害に伴う言語発達障害に焦点をあて、臨床像、情報収集および評価の手続き、指導・支援の考え方と方法について基礎知識を学ぶ。		
成績評価の方法	授業への参加状況、期末試験(2回)、レポートにより評価する。		
テキスト	玉井ふみ、深浦順一編『標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版』(医学書院)2015		
参考文献	石田宏代、大石敬子編『言語聴覚士のための言語発達障害学』(医歯薬出版)2008、西村辨作編『ことばの障害入門』(大修館書店)2001、大石敬子編『ことばの障害の評価と指導』(大修館書店)2001、小野次朗ほか編『よくわかる発達障害』(ミネルヴァ書房)2007、宮尾益知編『言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学 第2版』(医学書院)2009		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1年次に学習した言語発達の基礎について復習しておくこと。		



授業科目名	認知系障害学概論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	渡辺 眞澄・坊岡 峰子・中村 文・津田 哲也		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって、主に講義形式で実施する。講義の内容に応じて、ビデオを視聴し、レポート作成を行う。学生は毎回授業に出席し、ノートをとること、小テストを受けること、レポートを提出すること、試験（2回）を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	失語症、言語症状、失語症候群、スクリーニング、失語症検査、失語症者のコミュニケーション、失語症のリハビリテーション、高次脳機能障害の概要		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>脳の損傷によっておこる言語障害のうち、主に失語症について、その神経学的な背景、メカニズム、症状とその捉え方、評価とリハビリテーションの方法に関する基本的知識を習得することを目標とする。</p> <p>また、その他の高次脳機能障害の概要についても理解する。</p> <p>この科目は、「臨床実習」、3年次以降に履修する「認知系障害学概論Ⅱ」「認知系障害学演習Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる。</p>		
授業の内容	<p>「失語症とはどのような障害か」「言語聴覚士として失語症をどのようにとらえるか」「言語聴覚士として失語症をもつ方をどのように理解し、支援するか」「高次脳機能障害の主な症状」など、基本的かつ重要な内容を学ぶ。</p> <p>まず前期では、失語症の原因疾患と病巣、言語症状、失語症候群、発語失行、流暢性などの基本となる概念を知る。後期には、失語症臨床で使用する検査等について基本的な技法を習得し、事例を通して失語症状の捉え方、リハビリテーションの考え方を理解する。さらに、高次脳機能障害の主な症状について学習する。</p>		
成績評価の方法	<p>前期（授業への参加態度、小テスト、ノート作成、中間試験）50%、後期（授業への参加態度、レポート、期末試験）50%の割合で評価する。</p> <p>試験は、指定された教室（試験室）内で、持ち込み不可で実施する。中間・期末試験は指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。</p> <p>ノート・レポート課題、および提出期限は、授業時間中に提示する。</p>		
テキスト	竹内愛子他編著『脳卒中後のコミュニケーション障害 改訂第2版』（協同医書出版）2012、伊藤元信他編『新編 言語治療マニュアル』（医歯薬出版）2002、藤田郁代他編『失語症学』（医学書院）2009、種村編『失語症Q & A』（新興医学出版）2013、他、適宜、資料を配布する。		
参考文献	紺野加奈江著『失語症言語治療の基礎』（診断と治療社）2001、藤田郁代他編『高次脳機能障害学』（医学書院）2009、笹沼澄子編『リハビリテーション医学全書11言語障害』（医歯薬出版）2001、鹿島晴雄他編『よくわかる失語症と高次脳機能障害』（永井書店）2003。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>遅刻厳禁。提出物期限内提出必須。</p> <p>認知系講義の専門知識の基礎となる内容です。</p> <p>脳における言語の処理やリハビリテーションについて積極的に学び、ノートもしっかりまとめていって下さい。</p> <p>また、障害について学ぶだけでなく、失語症友の会などの機会を利用し、失語症をもつ方と接することを通じてコミュニケーションに障害をもつ“人”について理解を深めてください。</p>		

授業科目名	聴覚系障害学概論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	長谷川 純, 佐藤 紀代子, 古屋 泉		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	アポイントメント方式		
授業の形式・方式	講義形式。聴覚検査については、聴覚系障害学演習 I での演習と連動して授業を進める。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科 2 年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	聴覚障害, 聴覚検査, 補聴器, 人工内耳		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	聴覚の仕組み・機能とその障害, 聴覚検査とその結果の解釈, 補聴器・人工内耳の仕組みと使用方法について基礎知識を習得し, 聴覚障害の(リ)ハビリテーションを学ぶための基盤を形成する。聴覚検査については, 講義で理論的な知識を習得したうえで, 演習で実践的な技能を身につけることを目標とする。		
授業の内容	聴覚の仕組み・機能とその障害について概観したうえで, 障害を評価するための, 気導・骨導純音聴力検査, 語音聴力検査, 選別検査, インピーダンスオーディオメトリーなど, 聴覚諸検査の理論的根拠, 正確な結果を得るための実施方法, 結果の解釈方法について学習する。また, 補聴器・人工内耳の仕組みと使用方法について, 基礎的な知識を身につける。さらに, 聴覚障害をもつ方たちと交流することで, 聴覚障害者についての理解を深め, 有効なコミュニケーション方法を学ぶ。		
成績評価の方法	期末試験 (50%), 小テスト (50%), 授業への取り組み状況を総合して評価する。具体的な評価方法は, 授業で説明する。		
テキスト	中村公枝「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」 日本聴覚医学会「聴覚検査の実際 改訂 3 版」 立木 孝「よくわかるオーディオグラム」		
参考文献	小川 郁「よくわかる聴覚障害」 切替一郎「新耳鼻咽喉科学 (改訂11版)」 ほか (授業で紹介する)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	臨床実習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	小澤 由嗣 ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
授業の形式・方式	集中実習		
単位数(時間数)	1単位 (40時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科2年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	言語聴覚療法、言語聴覚士の役割、臨床体験		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	3年次、4年次で行なわれる学内・学外での長期間の臨床実習への導入的段階の実習と位置づけられる。臨床の場における言語聴覚士の仕事や役割を見聞し、言語聴覚士像を具体化する。既に学習した知識を整理し臨床に繋げる端緒とする。		
授業の内容	多様なコミュニケーション障害についての理解を深め、コミュニケーション障害のある人に対する基本的な臨床技術を身につけるために、学内の附属診療センター、学外の実習施設において臨床実習を行う。学外の施設見学を通して言語聴覚士の働く場を把握し、仕事の実際を知る。また学生同士のシミュレーションなどを通して評価の基本的技法と視点を身につける。		
成績評価の方法	課題発表、レポートにより評価する。		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	3年次の臨床実習Ⅱを念頭に置き、能動的に学習してほしい。出席日数が不足した場合は単位認定ができないため、健康管理に注意してほしい。		

授業科目名	生涯発達心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	古屋 泉		
研究室の場所	三原キャンパス 4418研究室		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業.		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	認知発達, 知覚発達, 領域固有, 発達段階		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人間の心的な発達をライフスパンを通して学習する。発達心理学のについて、ピアジェの発達段階説とともに、近年隆盛な領域固有の発達理論について概説する。2つの理論の違いの対比から、現代の発達心理学の基本的な考え方を理解する。具体的には各年齢でどのような認知機能を持つようになるのかを、理論的に説明できるようになることが目標となる。		
授業の内容	生涯発達のいくつかの基本原則と、その過程で生じる障害について講義する。また、近年主流となった領域固有の発達についても、その考え方や研究事例を紹介する。必要に応じて研究論文を読み、それをレポートとして提出する課題を予定している。		
成績評価の方法	試験とレポート（2回）70%，授業への積極的な参加30%。		
テキスト	特になし		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	単位取得には授業への積極的な授業参加が必要		

授業科目名	発達系障害学概論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	玉井ふみ, 高橋ヒロ子[非常勤講師], 細川淳嗣, 堀江真由美, 坊岡峰子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
授業の形式・方式	授業日程に従って、講義および演習形式で対面授業を実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	言語発達障害、脳性麻痺、重複障害、摂食・嚥下障害、評価・診断、指導・支援、拡大・代替コミュニケーション(AAC)		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	脳性麻痺・重複障害に伴う言語発達障害を理解するための基礎知識として、運動発達、摂食・嚥下機能の定型発達を知り、言語発達障害、構音障害、認知障害、摂食・嚥下障害の評価および指導法に関する基本的知識の習得を目標とする。		
授業の内容	脳性麻痺などの運動障害や重複障害に伴う言語発達障害を中心に、小児のコミュニケーション障害の発生機序、症状、評価・診断の手続きおよび指導・支援の考え方と方法について学ぶ。		
成績評価の方法	授業への参加状況、レポート、期末試験(2回)により評価する。。		
テキスト	講義時に資料を配布する。		
参考文献	日本聴能言語士協会講習会実行委員会編：『アドバンスシリーズ コミュニケーション障害の臨床 脳性麻痺』（協同医書出版社）2002、ナンシー・フィニー著『脳性まひ児の家庭療育 原著第4版』（医歯薬出版）1999、ベルタ・ボバース著『脳性麻痺の類型別運動発達』（医歯薬出版）1978、田角勝、向井美恵編著『小児の摂食・嚥下リハビリテーション』（医歯薬出版）2006、北住映二ほか編著『子どもの摂食・嚥下障害 その理解と援助の実際』（永井書店）2007		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	自主的に療育施設の見学などを行って、実際に子どもとかかわることを通して理解を深めてほしい。		

授業科目名	認知系障害学概論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	坊岡 峰子, 渡辺 眞澄, 中村 あや, 津田 哲也		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
授業の形式・方式	対面授業。内容に応じて演習形式の授業を取り入れる。 ビデオを視聴してのレポート作成などを随時行う。 認知系障害学演習Ⅰと連動した内容ですすめる。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	失語症, 認知症, 評価, 検査, 言語治療		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>「認知系障害学概論Ⅰ」から引き続き、失語症に関する検査、評価に基づき、診断、さらに根拠のある訓練を立案できるようになる。</p> <p>また、認知症についての検査・評価・支援方法を検討する力をつける。</p> <p>本科目は「認知系障害学演習Ⅰ」と連動して進め、主に検査結果の読みとり、評価のまとめ、評価に基づく訓練、リハビリテーション内容について考え、報告書作成やレポートにまとめる力をつける。学内・学外での臨床実習に不可欠な知識・技術を習得する。</p>		
授業の内容	<p>失語症検査、言語の掘り下げ検査、認知機能検査のうち言語臨床で頻繁に使われるものについて演習Ⅰの内容と連動して学び、事例を通して評価から訓練立案までのプロセスを理論的に考させる。</p> <p>さらに、評価報告や訓練計画を作成・発表させ、他者の考え方を知り、フィードバックを繰り返すことで、実践的な力をつけるようにする。</p> <p>また、病院など臨床現場での実践内容などについても紹介する。</p>		
成績評価の方法	<p>期末試験50%、課題レポートなど提出物35%、毎時間後のまとめ・感想内容15%で評価する。期末試験は、持ち込み不可で、期末試験までに学習した認知系障害学すべての範囲を対象に実施する。</p>		
テキスト	<p>テキスト： 認知系障害学概論Ⅰから引き続き 『脳卒中後のコミュニケーション障害』『失語症学』『新編 言語治療マニュアル』【購入済】。藤田郁代他編『高次脳機能障害学』 ほか</p>		
参考文献	<p>参考文献： 鈴木勉編著『失語症訓練の考え方と実際』（三輪書店）。鹿島晴雄他編『よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション』（永井書店）。</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>遅刻厳禁。 レポートなど提出期限厳守：期限以降は原則受け付けない。 2年生での「認知系障害学概論Ⅰ」の内容をしっかり復習して臨むこと。 また、「認知系障害学演習Ⅰ」と連動して行い、演習の内容をふまえてデータの分析・評価などレポートや報告書作成を課題とすることが多い。そのため、両講義を欠席しないよう体調およびスケジュール管理を行うこと。欠席した場合、症例ビデオの貸し出しなどは行わない。</p>		

授業科目名	聴覚系障害学概論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	長谷川 純, 佐藤 紀代子, 吐師 道子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	アポイントメント方式		
授業の形式・方式	講義形式を中心に, 聴覚検査・補聴器・情報保障など, 実技をとまなう内容については, 演習形式で行なう部分もある。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	乳幼児期の聴覚障害のハビリテーション, 成人期・老年期聴覚障害のリハビリテーション, 視覚聴覚二重障害(盲ろう)		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	2年次までに学習してきた, 聴覚の仕組み, 機能, およびその評価を基礎に, 本講義ではその障害と聴覚障害が及ぼす影響についてライフステージ毎に理解すること, さらに各時期における, ハビリテーション, リハビリテーションを実施するために必要な知識を獲得し, 対象者の実態に応じたプログラムが立案できるようになることが目標となる。		
授業の内容	乳児期から老年期までの各ライフステージ毎の聴覚障害の特徴と, その評価方法について学習する。ハビリテーション, リハビリテーションの基礎となる補聴方法について, 演習を交えながら理解を深める。乳幼児期のハビリテーションでは言語獲得および母子コミュニケーションへの支援のあり方, 成人期・老年期のリハビリテーションでは, コミュニケーション支援, 情報保障について学ぶ。		
成績評価の方法	前期: 期末試験に授業への積極的参加状況も考慮して評価する。 後期: 成人聴覚障害とそのリハビリテーションについて, 自分でテーマを設定して, レポートを作成する(詳細については, 授業で説明する)。授業への積極的参加状況も考慮して評価する。 成績は, 前期・後期をあわせて採点する。		
テキスト	中村公枝「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」 日本聴覚医学会「聴覚検査の実際 改訂3版」 【いずれも2年次に購入済】		
参考文献	授業で紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	発声発語・嚥下系障害学概論Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	矢守 麻奈		
研究室の場所	三原キャンパス 3423研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	講義、質疑応答、実技演習、動画解析、小テスト 等		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	摂食嚥下機能、摂食嚥下障害、摂食嚥下機能評価、摂食嚥下リハビリテーション、音声構音機能、認知機能、精神機能、呼吸、栄養		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1, 2年次で学修した関連科目(解剖生理学、病理学、音声学、耳鼻咽喉科学、歯科口腔外科学、内科学、神経内科学、老年医学、精神医学、小児科学、脳外科学、外科学、リハビリテーション医学、発声発語・嚥下系障害学概論Ⅰ・Ⅱ、認知系障害学概論Ⅰ、チーム医療福祉論等)の知識・技能を復習・統合する。</li> <li>・上記知識・技能を摂食嚥下障害の検出・評価・訓練に応用できる。</li> <li>・摂食嚥下機能の年齢変化・病態について、多面的に理解する。</li> <li>・原疾患の特性や当事者の背景・環境・病態に即したリハビリテーションを施行できる。</li> </ul>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 摂食嚥下に関する器官の解剖・生理、性差、年齢変化について理解する。</li> <li>2. 摂食嚥下障害の原因疾患、病態、影響について多面的に理解する。</li> <li>3. 摂食嚥下障害に影響する高次脳(認知)機能障害について理解する。</li> <li>4. 種々の摂食嚥下機能検査について、それぞれの特性、適応、技法、解析方法を修得する。</li> <li>5. 種々の基礎的嚥下訓練(間接訓練)・摂食訓練(直接訓練)法についてそれぞれの適応、技法、リスクを修得する。</li> <li>6. 加齢、治療・服薬内容、高次脳機能障害、気管切開・人工呼吸器管理、口腔衛生、味覚・嗜好変化、誤嚥・窒息時の対応等、訓練実施時の留意点について理解・修得する。</li> <li>7. 摂食嚥下リハビリテーションにおける職種間連携、施設間連携について理解する。</li> </ol>		
成績評価の方法	授業態度、予習・復習状況を反映する授業中の応答内容、小テスト・レポートの内容、試験結果を総合して評価する。 集中力に欠ける授業態度、応答・小テスト・レポート内容の乏しさは試験結果から減点する。		
テキスト	言語聴覚療法臨床マニュアル 改訂第3版 協同医書出版社 都度配布資料		
参考文献	清水充子編：言語聴覚療法シリーズ15 改訂 摂食・嚥下障害 建帛社 図解言語聴覚療法技術ガイド 文光堂		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	対象児・者に対する基本的態度を修得する観点から、無断欠席、正当な理由のない遅刻、集中力に欠ける授業態度は減点の対象となります。摂食嚥下リハビリテーションにおける言語聴覚士の社会的責任を熟考し、真摯な態度で授業に臨んでください。 やむなく遅刻・欠席するときは、必ず事前にメール等で連絡してください。		



授業科目名	臨床実習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	小澤 由嗣 ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
授業の形式・方式	集中実習		
単位数(時間数)	10単位 (400時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科3年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	言語聴覚療法、言語聴覚士の役割、臨床体験、チームアプローチ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	臨床実習Ⅰで学んだコミュニケーション障害の臨床に関する基本的知識を実際のコミュニケーション障害児・者に合わせて応用することを目標とする。コミュニケーション障害の臨床の実際を体験することによって、コミュニケーション障害の多様性や、コミュニケーション障害をもつ人たちの抱える様々な問題について理解を深め、関係職種の人たちとの情報交換などを通じてチームアプローチの実際を学ぶ。		
授業の内容	学内実習では、指導教員のもとで学内の附属診療センターに通所中の実習協力患者を一定期間担当し、評価・訓練・指導の過程を学ぶ。特に臨床マナーや患者・家族とのコミュニケーション能力の涵養を目指す。学外実習では、実習施設の指導者のもとでコミュニケーション障害の臨床を体験することにより、多様なコミュニケーション障害をもつ人たちの問題を理解する。		
成績評価の方法	実習指導者の報告、実習レポート、実習報告会の発表等により総合的に評価する。		
テキスト	実習指導者の指示に従う。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	4年次の臨床実習Ⅲを念頭に置き、能動的に学習してほしい。出席日数が不足した場合は単位認定ができないため、健康管理に注意して欲しい。		

授業科目名	臨床実習Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	小澤 由嗣 ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
授業の形式・方式	集中実習		
単位数(時間数)	4単位 (160時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科4年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	言語聴覚療法、言語聴覚士の役割、臨床体験、チームアプローチ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	臨床実習Ⅰ・Ⅱで学んだコミュニケーション障害の臨床に関する知識や技能を臨床のなかで実践し、応用するための総合的な能力を身につけることを目標とする。コミュニケーション障害をもつ人を、一人の人として全人的にとらえ対応する能力を身につける。コミュニケーション障害の臨床や関連する領域の臨床業務を理解し、保健・福祉・医療を担う一員としての言語聴覚士の機能や役割を認識し、コミュニケーション障害の臨床を行う能力を身につける。		
授業の内容	本学学内の附属診療センターおよび学外の種類の異なる医療施設や福祉施設において、実習指導者の指導監督のもとに、コミュニケーション障害に対する臨床の実際の流れを学ぶ。すなわち、特定の実習協力患者を一定期間担当し、そのコミュニケーション障害の評価・診断、指導目標の設定、訓練計画の立案と日々の指導プログラムの実施と改良、指導記録の作成といった一連の作業、さらに関連職種との連携やチーム・アプローチの実際を通して、言語聴覚士としての具体的な臨床業務を学ぶ。		
成績評価の方法	実習指導者の報告、実習レポート、実習報告会の発表等により総合的に評価する。		
テキスト	実習指導者の指示に従う。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	臨床実習の総まとめとして、能動的に学習してほしい。出席日数が不足した場合は単位認定ができないため、健康管理に注意してほしい。		

授業科目名	聴覚系障害学演習Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	長谷川 純, 佐藤 紀代子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	アポイントメント形式		
授業の形式・方式	演習形式で行なう。5～6名の学生で1つのテーマを担当し、発表資料の作成、クラスでのプレゼンテーション、演習の企画・運営を行なう。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	コミュニケーション障害学科4年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	音場聴力検査, 人工内耳, 補聴器, 補聴支援機器, 読話		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	小児および成人聴覚障害の各種評価法, および治療・訓練・指導法に関する発展的な内容に習熟することを目標とする。また, 発表課題を通して, 資料作成やプレゼンテーションの能力を身につける。		
授業の内容	聴覚検査法, 聴覚障害への介入, 支援の実際を, 主として学生同士のプレゼンテーション, 演習を通して学習する。テーマごとにレポートを作成し, 検査結果の解釈や報告書の作成に習熟する。 発表課題は, 5～6名の学生で1つのテーマを担当し, 1) 発表内容と演習内容の企画, 2) 発表資料の作成, 3) クラスでのプレゼンテーション, 4) 演習の運営を行なう。		
成績評価の方法	発表資料・プレゼンテーション (40%), レポート (40%), 授業への積極的参加状況 (20%) により評価する。		
テキスト	中村公枝「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」 日本聴覚医学会「聴覚検査の実際 改訂3版」 【2年次に購入済】		
参考文献	授業で紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	発表課題の準備は, 各テーマの担当教員とよく相談しながら, 時間的な余裕をもって行なうこと。		

授業科目名	社会福祉実習指導Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡子 ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがい、講義形式で実施するとともに、実践的な技術等を指導する。 グループに分かれ、少人数にて実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、実習指導、社会福祉実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	1 相談援助実習の意義について理解するために、資料や文献、講義を通して実習目標を主体的に立てることができる。2 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して実践的な技術等を体得することができる。3 相談援助実習の計画を目標に沿って主体的に立てることができる。4 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理を体得することができる。5 記録を整理し自己評価をする力をつけることができる。6 課題を分析して総合的に判断する力をつけることができる。7 実習報告会の資料を作成することによって、自分の今後の学習課題や行動課題を明確		
授業の内容	①社会福祉実習の目的と内容②社会福祉の対象者とその課題のとらえ方③社会福祉施設・機関の種類と内容、④社会福祉専門職の種類と業務内容、⑤実習場面での利用者との関わり、観察方法・記録方法、援助の視点について⑥社会福祉専門職の倫理について⑦相談援助実習において、社会人としてのマナーと利用者に対する接遇⑧実習報告書を作成する。⑨実習報告会でプレゼンテーションを行う。講義とともに演習、視覚教材、施設見学、現場職員による講演などによって社会福祉実習についての理解を深める。		
成績評価の方法	講義への積極的参加、レポート、報告会資料、実習関係帳票の作成状況により総合的に評価する。		
テキスト	加藤幸雄・小椋喜一郎・柿本誠・菅木俊一・牧洋子編『相談援助実習 ソーシャルワークを学ぶ人のための実習テキスト』(2010) 中央法規県立広島大学『社会福祉実習Ⅰ・Ⅱの手引き』		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	社会福祉実習指導Ⅱを履修していることが望ましい。毎回授業の開始に出席確認をする。講義には参加をして、実習について理解を深めること。実習計画書、課題、事前訪問報告書、実習レポートなどの提出物は期限を厳守すること。 事前訪問後に実習計画書を 担当教員に提出して実習開始となる。 実習報告会に必ず参加する。		

授業科目名	社会福祉実習指導Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	西村 いづみ ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	要予約。		
授業の形式・方式	授業日程に従い、全体講義、小グループ、個別にて行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、実習指導、社会福祉実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目は「社会福祉実習Ⅱ」の事前・事後学習に相当する。目標として3点を挙げる。  ①配属先実習施設・機関の役割と機能、現状と課題を上げることができる、②各配属先実習施設・機関における相談援助業務を説明できる。③各配属先実習施設・機関が対象とする事例について、援助技術および関連知識を用いて分析し支援計画を立てることができる。</p>		
授業の内容	<p>【前期】1. 実習オリエンテーション(全体) 2. 個人情報保護・倫理的配慮について(全体) (以下は個別・小グループ形式) 各学生が配属される実習先施設・機関について2. 当該分野の現状と課題3. 配属先施設・機関の役割と機能4. 配属先施設・機関にて行われる相談援助の実際5. (1-3を踏まえ) 各自実習目標・計画を設定設定。6. 実習事前学習報告会(全体)  【後期】1. 実習内容の確認とスーパービジョン2. 自己評価・報告書作成3. 実習報告会(学年全体)</p>		
成績評価の方法	課題(実習事前課題、計画書、事後報告書、実習報告会資料等)および本科目に対する積極的態から総合的に評価する。		
テキスト	県立広島大学「社会福祉実習の手引」		
参考文献	*実習配属先ごとに適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本科目は「社会福祉実習Ⅱ」の他、「社会福祉実習Ⅰ」「社会福祉実習指導Ⅰ・Ⅱ」に連動するものである。社会福祉実習・実習指導の最終段階に位置することを十分に認識しておくこと。 無断欠席禁止。また、課題の提出期限厳守。		

授業科目名	精神保健福祉現場実習指導Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	越智 あゆみ ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	履修学生を2つのグループに分け(1クラス20人以下)、対面授業およびグループ討議。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科3年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士、精神科医療機関、現場実習、事前学習、事後学習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>&lt;授業の目標&gt; 1. 精神保健福祉現場実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、表現できる。  2. 精神障害者の置かれている現状と、その生活の実態や生活上の困難について現場実習を通して理解し、精神保健福祉士の役割と関連づけて説明できる。  3. 実習前から実習後までの一連の学習を通して、現場実習で得た体験を振り返り、次の学習目標に結び付けて表現できる。</p> <p>&lt;カリキュラム上の位置づけ&gt;精神保健福祉士国家試験受験資格取得における必修科目。3・4年次配当の精神保健福祉現場実習Ⅰ・Ⅱおよび精神保健福祉現場実習指導Ⅲを履修するためには、精神保健福祉現場実習指導Ⅱを履修しなければならない。</p>		
授業の内容	1. 授業オリエンテーション 2. 実習施設の根拠法、根拠法の対象者・サービス、費用の負担などの理解 3. 実習施設で働く専門職の根拠法、役割などの理解 4. 実習施設のある地域の社会資源、市町村の提供するサービス内容、地域特性などの理解 5. 精神保健福祉の現場におけるPSWの役割(卒業生による講義) 6. 先輩の実習経験の共有と実習に向けてのガイダンス 7. 三者協議にもとづく実習計画書作成 8. 実習に必要な知識の確認と補足説明 9. 各学生の実習期間中に実習巡回訪問指導実施 10. 現場実習および後期実習指導についてのオリエンテーション 11. 事後学習グループワーク①(実習体験の共有) 12. 事後学習グループワーク②(実習報告会用資料作成) 13. 実習報告会 14・15. 2回目の現場実習に向けての準備		
成績評価の方法	授業への参加態度20%、授業時に提示する課題レポート40%、筆記試験40%で総合的に評価する。		
テキスト	日本医療ソーシャルワーク研究会編『医療福祉総合ガイドブック 2015年度版』、医学書院、2015年。		
参考文献	『県立広島大学 精神保健福祉現場実習の手引き』、その他、授業中に適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は、必ず履修すること。		

授業科目名	精神保健福祉現場実習Ⅰ		
担当教員氏名(助手氏名)	越智あゆみ・金子努・江本純子・大下由美・澤田千恵・中谷隆・細羽竜也・勝見吉彰		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	夏季もしくは春季に集中(実日数12日、90時間以上)で、配属実習施設にて実施		
単位数(時間数)	3単位(90時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科・3年生・通年科目		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士、精神障害者、精神科医療機関、現場実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>&lt;授業の目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術を体得する。</li> <li>2. 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。</li> <li>3. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</li> <li>4. 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</li> </ol> <p>&lt;カリキュラム上の位置づけ&gt;</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格取得における必修科目(指定科目名称「精神保健福祉援助実習」を読み替え)。精神保健福祉現場実習Ⅰの事前・事後学習は精神保健福祉現場実習指導Ⅱで行うので、必ず履修すること。また、4年次の精神保健福祉現場実習Ⅱを履修するためには、精神保健福祉現場実習Ⅰおよび精神保健福祉現場実習指導Ⅱ・Ⅲを履修しなければならない。</p>		
授業の内容	<p>精神保健福祉士法施行規則に規定された施設のうち、医療機関(必須)において、実日数12日間(90時間以上)の配属実習を行う。配属実習の内容は、実習施設の特徴等に応じ、次のとおりとする。</p> <p>(1) 精神科病院等の病院において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <p>ア 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 イ 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ウ 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助</p> <p>(2) 精神科診療所において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <p>ア 治療中の患者及びその家族への相談援助 イ 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ウ 地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助</p>		
成績評価の方法	実習先の実習指導者による評価、実習生本人の自己評価、実習担当教員の評価をもとに、総合的に評価する。		
テキスト	テキストなし。		
参考文献	現場実習オリエンテーション時に参考文献紹介。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は、必ず履修すること		

授業科目名	精神保健福祉現場実習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	越智あゆみ・金子努・江本純子・大下由美・澤田千恵・中谷隆・細羽竜也・勝見吉彰		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	春季から夏季までの間に集中（実日数8日、60時間以上）で、配属実習施設にて実施		
単位数(時間数)	2単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科・4年通年		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士、精神障害者、現場実習、精神科医療機関、障害福祉サービス事業所、行政機関		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>&lt;授業の目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。</li> <li>2. 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。</li> <li>3. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</li> <li>4. 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</li> </ol> <p>&lt;カリキュラム上の位置づけ&gt;</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格取得における必修科目（指定科目名称「精神保健福祉援助実習」を読み替え）。精神保健福祉現場実習Ⅱの事前・事後学習は精神保健福祉現場実習指導Ⅲで行うので、必ず履修すること。また、4年次の精神保健福祉現場実習Ⅱを履修するためには、精神保健福祉現場実習Ⅰおよび精神保健福祉現場実習指導Ⅰ・Ⅱの履修を終えておかなければならない。</p>		
授業の内容	精神保健福祉士法施行規則に規定された施設のうち、精神保健福祉現場実習Ⅰとは機能の異なる実習施設において、実日数8日間(60時間以上)の配属実習を行う。		
成績評価の方法	実習先の実習指導者による評価、実習生本人の自己評価、実習担当教員の評価をもとに、総合的に評価する。		
テキスト	実習オリエンテーション時に参考文献紹介。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は、必ず履修すること。		



授業科目名	精神保健福祉現場実習指導Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	越智あゆみ・金子努・江本純子・大下由美・澤田千恵・中谷隆・細羽竜也・勝見吉彰		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	履修学生を2つのグループに分け(1クラス20人以下)、対面授業およびグループ討議。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間福祉学科・4年通年		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士、現場実習、事前学習、事後学習、精神科医療機関、障害福祉サービス事業所、行政機関		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>&lt;授業の目標&gt;</p> <p>1. 精神保健福祉現場実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、表現できる。</p> <p>2. 精神障害者の置かれている現状と、その生活の実態や生活上の困難について現場実習を通して理解し、精神保健福祉士の役割と関連づけて説明できる。</p> <p>3. 実習前から実習後までの一連の学習を通して、現場実習で得た体験を振り返り、学習成果を表現できる。</p> <p>&lt;カリキュラム上の位置づけ&gt;</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格取得における必修科目。4年次配当の精神保健福祉現場実習Ⅱを履修するためには、精神保健福祉現場実習指導Ⅲを履修しなければならない。</p>		
授業の内容	<p>1. 授業オリエンテーション 2. 実習に必要な知識の確認①(基本となる法制度など)</p> <p>3. 実習に必要な知識の確認②(障害福祉サービスなど) 4. 実習に必要な知識の確認③(地域の社会資源など) 5. 後輩への実習経験の伝達・共有 6. 実習に向けてのガイダンス 7・8・9. 三者協議にもとづく実習計画書作成 10. 実習に必要な知識の確認と補足説明 11. 各学生の実習期間中に実習巡回訪問指導実施 12. 後期実習指導についてのオリエンテーション 13. 事後学習グループワーク①(実習体験の共有) 14. 事後学習グループワーク②(実習報告会用資料作成) 15. 実習報告会</p>		
成績評価の方法	授業への参加態度20%、授業時に提示する課題レポート40%、筆記試験40%で総合的に評価する。		
テキスト			
参考文献	『県立広島大学 精神保健福祉現場実習の手引き』、その他、授業中に適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は、必ず履修すること。		

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名(助手氏名)	川原田 淳, 西村 いづみ		
研究室の場所	【川原田】三原キャンパス 4424研究室, 【西村】三原キャンパス 2518研究室		
オフィスアワー	【川原田・西村】特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業とする。</li> <li>・事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。</li> <li>・実習は原則として夏期休業中に2週間行う。</li> <li>・受講者は、事前学習、実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認められない。</li> <li>・すべての授業への参加と2週間の実習が義務付けられる。</li> </ul>		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目では、受講者が、将来職業に就く準備として、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるための就業体験を行う。</li> <li>・本科目の目標は、履修者が多様な職場や職業に対して関心を持つとともに、これらの職場や職業について体験を通じて深く考えることであり、これを通して自己の進路について考えるための契機とすることができる。</li> <li>・本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置付けられている。</li> <li>・本科目は加えて、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担っている。</li> </ul>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業、行政機関、福祉施設、各種団体などにおいて行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力などについて深く考えるための契機とする。</li> <li>・事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、PCスキル研修、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。</li> <li>・実習は原則として夏期休業期間中の2週間とする。</li> <li>・事後学習では、就業体験の発表を学内外に公開する全体報告会として実施し、グループ別発表・討論を行うとともに、その内容をまとめた実習報告書を作成・提出する。</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書などを総合して評価する。</li> <li>・課題等については第1回の授業において提示する。</li> <li>・課題、報告書などの提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。</li> </ul>		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献等を第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身や自分の進路について深く考えてきた人を履修者として望みます。</li> <li>・履修希望者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容をよく理解した上で、履修するかどうかを決定してください。</li> <li>・正当な理由もなく、履修の途中で放棄、事前学習、実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認めません。</li> <li>・授業に関する連絡方法は、正式には教学課による掲示、受講者に対する授業内での連絡によって行います。</li> <li>・受講のルールについては、第1回の授業において提示します。</li> </ul> <p>【重要】第1回の授業の日程については、改めて別途掲示しますので、新学年ガイダンスや授業開始時期の掲示板等の案内に十分注意してください。</p>		